

講義科目名称： 日本国憲法

授業コード：

英文科目名称： The Constitution of Japan

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	1 年	2 単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
松井志菜子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：なし	
添付ファイル			
ループリック 日本国憲法.pdf			
カルキュラムマップ 日本国憲法.pdf			

講義概要	憲法は国家の基本法であり、自由の基礎法である。憲法の基本理念や内容を理解し、憲法を基礎から学ぶ。人間の尊厳、個人の尊重とは何か。生命（いのち）の大切さ、戦争と平和、生命倫理など、自分の頭で考え、発言する。身近な社会事象や新たな課題を取り上げ、立場の違いによる多様な思考を理解する法的思考を学ぶ。生きるとは何かを深く考え、共に議論する。少子高齢化社会、環境問題、地方創生、安全保障など現代社会の課題を、学生が自分の言葉で議論できるようにする。未来を担う人材を育成する。		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回	はじめに 自由とは何か。憲法には何かが書いてあるか。六法とは何か。法学の基礎知識を学ぶ。 レポート課題「自由」を提出する（1000字以上。約2時間）。 毎回、学生のレポートの一部を読み、内容や書き方、意見、反論などを考える。 B：中 F：あり	
	第2回	国家とは何か 国家とは何か。国家とは何か。国籍とは何かを学ぶ。 レポート課題「国家」を提出する（1000字以上。約2時間）。 毎回、学生のレポートの一部を読み、内容や書き方、意見、反論などを考える。 B：中 F：あり	
	第3回	法の支配、立憲主義 法の支配と法治国家。憲法と他の法との違いを学ぶ。 レポート課題「法の支配」を提出する（1000字以上。約2時間）。 毎回、学生のレポートの一部を読み、内容や書き方、意見、反論などを考える。 B：中 F：あり	
	第4回	立憲主義の歴史的展開 中世の自然権思想、自然法の理論、啓蒙思想から現代憲法に至るまでの歴史的展開を学ぶ。 レポート課題「立憲主義」を提出する（1000字以上。約2時間）。 B：中 F：あり	
	第5回	人権① 国家からの自由（自由権、人身の自由）を憲法の条文を紐解きながら習得する。 レポート課題「人身の自由」を提出する（1000字以上。約2時間）。 毎回、学生のレポートの一部を読み、内容や書き方、意見、反論などを考える。 B：中 F：あり	
	第6回	人権② 国家からの自由（精神的自由権、経済的自由権）を憲法の条文を紐解きながら習得する。 レポート課題「精神的自由権」を提出する（1000字以上。約2時間）。 毎回、学生のレポートの一部を読み、内容や書き方、意見、反論などを考える。 B：中 F：あり	
	第7回	人権③ 国家への自由（参政権）、国家による自由（社会権）を憲法の条文を紐解きながら習得する。 レポート課題「参政権」、あるいは「社会権」を提出する（1000字以上。約2時間）。 毎回、学生のレポートの一部を読み、内容や書き方、意見、反論などを考える。 B：中 F：あり	
	第8回	人権④ 人権の享有主体（国民・天皇・外国人・未成年者・法人）について考察する。人権と公共の福祉について具体的な事例で理解する。レポート課題「人権の享有主体」を提出する（1000字以上。約2時間）。 毎回、学生のレポートの一部を読み、内容や書き方、意見、反論などを考える。 B：中 F：あり	
	第9回	法の下での平等 平等とは何かを考察する。 レポート課題「平等」を提出する（1000字以上。約2時間）。 毎回、学生のレポートの一部を読み、内容や書き方、意見、反論などを考える。 B：中 F：あり	
	第10回	平和主義① 平和主義を学ぶ。9条をめぐる学説、政府見解を分析する。 レポート課題「平和主義」を提出する（1000字以上。約2時間）。 毎回、学生のレポートの一部を読み、内容や書き方、意見、反論などを考える。 B：中 F：あり	
	第11回	平和主義② 自衛隊の歴史や日米安全保障体制、集団的自衛権を理解する。判例を読み解く。 レポート課題「世界平和」「日米安全保障体制」「戦争」いずれか一つを提出する（1000字以上。約2時間）。 毎回、学生のレポートの一部を読み、内容や書き方、意見、反論などを考える。 B：中 F：あり	

	第12回 国民主権 日本国憲法前文を読み解く。国民主権、基本的人権、平和主義を地球的視点、歴史的視点から理解する。 レポート課題「国民主権」を提出する（1000字以上。約2時間）。 毎回、学生のレポートの一部を読み、内容や書き方、意見、反論などを考える。 B：中 F：あり 第13回 統治機構 国会、内閣、裁判所の役割と何を行うところか学ぶ。裁判員制度を学ぶ。 レポート課題「統治機構」を提出する（1000字以上。約2時間）。 毎回、学生のレポートの一部を読み、内容や書き方、意見、反論などを考える。 B：中 F：あり 第14回 三権分立 イギリス、アメリカ、フランス、ドイツ、日本の三権分立の歴史と三権のバランスを知る。 レポート課題「三権分立」を提出する（1000字以上。約2時間）。 毎回、学生のレポートの一部を読み、内容や書き方、意見、反論などを考える。 B：中 F：あり 第15回 討論会 議題は学生の話し合いの事を取りあげる。 グループに分かれディスカッションをし、発表し、全体で討論会を行う。 ディスカッションで話し合った事や他のグループの議論についての意見をレポートにして提出する。 A：中 B：中 D：中 F：あり
教育目標との関連	思想・良心の自由、表現の自由などの精神的自由、人身の自由、職業選択の自由、居住移転の自由などの経済的自由などの国家からの自由、国の政治に参加する参政権、経済的、社会的弱者を国家が保障する社会権など人権とは何かを学ぶ。立憲主義の歴史を紐解く。法の支配、自然権、自然法の理論、平和主義への歩みを理解する。国家とは何か。戦争とは何か。地球全体の大きな視野に立ち、国際的な平和共存の実現に向け、次世代を担い、周囲の状況や他者の気持ちを理解し、適切な判断ができる者を育成する。
到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	1. わが国の国家の基本法である日本国憲法とは何か。わが国における法秩序・法体制の中で、日本国憲法の位置づけを理解する。日本国憲法の内容は何かを理解し、説明できる。社会への関心を持ち、書く、考える、調べることができるようになる。 3. わが国の国家の基本法である日本国憲法とは何か。わが国における法秩序・法体制の中で、日本国憲法の位置づけを理解し、日本国憲法の内容は何かを理解し、基本的人権について、自らの考えを持ち、論理的な思考に基づき、的確に議論・討論ができる。 5. 日本国憲法に謳う基本的人権を、広い視野を持ち、異なる価値観や多様性を受け入れ、人間の尊厳や個人の尊重の真の意味を理解し、実践できる。 到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること。
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	提出課題 60% 受講態度 40% 評価方法は添付資料のルーブリックを参照すること。
教科書	「模範小六法」平成31年度版 三省堂 3080円
参考書	参考書は適宜紹介する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	授業のテーマの事前の予習を行う。図書館にある専門書などの著作物や新聞、辞典などを駆使し、調べる。憲法判例百選（Ⅰ）（Ⅱ）の該当課題に目を通す。視野の広い考え方、味方ができるように日々、研鑽すること。必要な時間は一時間以上。
履修上の注意、条件等	身近な問題や社会で起きている事象に関心を持ち、疑問があれば自分で調べる。友達、学友、家族、教員など多くの人々との意見交換を行い、自分の意見や考えを持ち、発信することを心掛けること。
オフィスアワー	授業前後に教室で質問を受け付ける。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 幼児教育と情報機器演習Ⅰ

授業コード：

英文科目名称： Computer Training for Early Childhood EducationⅠ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	1年	1単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
福田尚子			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	
添付ファイル			
rubrick_1.pdf			
curriculum map_1.pdf			

講義概要	「幼児教育と情報機器演習Ⅰ」（1年生前学期）、「幼児教育と情報機器演習Ⅱ」（2年生後学期）を通して保育者にふさわしい情報リテラシーを獲得するために、情報モラルや必要な情報を探索する方法、収集した情報を分析、評価する方法、そしてそれらを効果的に表現する技法を主に演習を通して学んでいく。特に「幼児教育と情報機器演習Ⅰ」においては、まずは一般的な情報リテラシーの獲得と文書作成能力を培うことを目標とする。 他教科でも学習の基盤として使用するGmail、Google Classroom、Google ドキュメント、Google スプレッドシート、Google スライドの効果的な使い方を演習を通して学び、それらを活用した双方向型授業を実施する。担当講師は、中学校・高等学校の英語教員免許を取得後、ICT企業においてシステムエンジニア、技術営業職を経てWeb制作会社にてプロジェクトマネージャーとして勤務した実務経験を有する。その経験を活かし、教育的視点と実践的なICT技術を組み合わせた授業を行う。		
授業計画および学習形態	第1回	はじめに 情報機器が幼児教育にどのような影響をもたらすか（メリットデメリット）、本授業の目的、学習のねらいなどについて解説する。 現時点での実力を確認するため実力テストを行う（タイピングテストと簡単なクイズ・アンケート） 予習：「幼児教育と情報機器演習Ⅰ」（本授業）のシラバス全体をよく読み、科目の全体像を把握しておくこと（約1時間）	
各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A: グループワーク B: ディスカッション C: フィールドワーク D: プレゼンテーション E: 振り返り F: 宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第2回	Google Classroom（授業環境）とは何か 授業環境（Google Classroom）と今後の授業の進め方について説明する。 予習、復習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。タイピング練習。（約1時間）	
	第3回	メールの使い方（情報のアウトプット） 情報のアウトプットの手段として、メールを用い、必要な情報を効果的にまとめ相手に伝える手法を学ぶ。 宛先の設定（To: Cc: Bcc）、文章の書き出し方、などメールのルール全般について学ぶ。 事前準備：学校から配布されたGmailアドレスとパスワードを準備する。 予習、復習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。タイピング練習。（約1時間）	
	第4回	情報モラル1 学校で生活する上で必要な情報モラル（LINEやインスタグラムなどのSNSの利用やインターネット利用時の著作権、肖像権、個人情報の保護など）について学ぶ。 また、本授業の内容をもとに、指示されたテーマについて考えをまとめフィードバックする。（形式は自由） 予習、復習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。タイピング練習。（約1時間） A: 少 E: あり	
	第5回	レポート作成の基礎1（情報の探索、分析、評価、整理） ある課題解決をするために情報探索し、分析・評価・整理したものをレポートとしてアウトプットする際の注意事項（引用、著作権など）、Google ドキュメントを用いたレポート作成方法について学ぶ。また、第4回で提出された課題の内容についてフィードバックする。 予習、復習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。タイピング練習。（約1時間）	
	第6回	レポート作成の基礎2（情報のアウトプット） 本学共通のレポートフォーマットを学ぶ。 F: あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） 予習、復習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。タイピング練習。（約1時間）	
	第7回	文書作成の基礎1（情報のアウトプット） Google ドキュメントを用い、簡単な文書を作成する。 予習、復習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。タイピング練習。（約1時間） F: あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出）	
	第8回	文書作成の基礎2（情報のアウトプット） Google ドキュメントを用い、簡単な文書（画像を含む）を作成する。 予習、復習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。タイピング練習。（約1時間） F: あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出）	
	第9回	文書作成の基礎3（情報のアウトプット） 幼稚園・保育園の「お便り」を題材に、これまで学んできた機能を使い必要な情報を効果的にアウトプットする方法を学ぶ。 予習、復習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。タイピング練習。（約1時間）	

	第10回 F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） 情報モラル② 幼稚園や保育園など職場に必要な情報モラル（インターネットやSNSの利用や著作権、肖像権、個人情報保護など）について学ぶ。 また、本授業の内容をもとに、指示されたテーマについて考えをまとめ提出する。（形式は自由） 予習、復習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。タイピング練習。（約1時間） A: 少 E: あり 第11回 プレゼンテーションの基礎 1（情報のアウトプット） Google スライドを用い、プレゼンテーションの基礎を学ぶ。また、第10回で提出された課題の内容についてフィードバックする。 予習、復習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。タイピング練習。（約1時間） 第12回 F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） プレゼンテーションの基礎 2（情報のアウトプット） Google スライドを用い、前回作成した資料をブラッシュアップする。 予習、復習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。タイピング練習。（約1時間） 第13回 F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） プレゼンテーションの基礎 3（情報のアウトプット） 前回作成したプレゼンテーションを元に、ペアでさらに資料をブラッシュアップする。 予習、復習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。タイピング練習。（約1時間） A:多 第14回 総括と学習到達度の確認テスト 1回目から13回目の授業についての総括を行い、この回の中で学習到達度の確認テストを実施する。 第15回 学びの振り返り 14回目で実施した確認テスト結果を元に、これまでの授業の総括を行う。
教育目標との関連	本授業では、保育者として、また一社会人として必要な教養、基礎的な専門知識を身につけ、学習した知識・技術を活用して、保育や子育て支援に必要な実践・表現ができる。
到達目標 カリキュラムマップ	1. 一般的な情報機器の特性(メリット・デメリット)について理解し、説明することができる 3. 大学生として、学内・学外に通用する文書・資料作成を行うことができる 添付資料のカリキュラムマップ（到達目標）を参照
評価方法および評価基準	1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準 提出課題 40%：各授業で作成する成果物を提出課題として評価します。 振り返り 20%：15回の授業時間内に数回小テストを実施し、理解度の確認を行います。 平常点評価 20%：グループワークの貢献度、各人の課題に取り組む姿勢を評価します。 試験 20%：期末試験を実施します。授業の内容全般についての理解度を評価します。 成績評価は添付資料のルーブリックを参照
教科書	特になし
参考書	必要に応じてプリントを配布する
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	授業時に必要に応じて指示する。
履修上の注意、条件等	教育職を志す学生として自覚を持ち、授業に積極的に取り組むこと。
オフィスアワー	授業の前後に教室で質問を受け付ける。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 幼児教育と情報機器演習Ⅱ

授業コード：

英文科目名称： Computer Training for Early Childhood Education Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	2年	1単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
福田尚子			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	
添付ファイル			
rubrick_2.pdf			
curriculum map_2.pdf			

講義概要	この授業では「幼児教育と情報機器演習Ⅰ」で得たことをベースに、より実践的なスキルの獲得を目指す。保育現場で事務作業（書類作成、データ管理、情報共有など）を円滑に行うスキルや子供達の興味・関心を高めたり表現力を引き出すための情報機器を利用した技法を演習を通して学んでいく。 なお、この授業においても「幼児と情報機器演習Ⅰ」と同様に、Google Classroom等を活用した、双方向型授業を実施する。 担当講師は、中学校・高等学校の英語教員免許を取得後、ICT企業においてシステムエンジニア、技術営業職を経てWeb制作会社にてプロジェクトマネージャーとして勤務した実務経験を有する。その経験を活かし、教育的視点と実践的なICT技術を組み合わせた授業を行う。		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回	はじめに 本授業の目的、学習のねらいなどについて解説する。 現時点での実力を確認するため実力テストを行う（タイピングテストと簡単なクイズ・アンケート） 予習：「幼児教育と情報機器演習Ⅱ」（本授業）のシラバス全体をよく読み、科目の全体像を把握しておくこと（約1時間）	
	第2回	文書作成の復習（情報のアウトプット） Googleドキュメントを用い、簡単な文書を作成する。 予習、復習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。タイピング練習。（約1時間） F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出）	
	第3回	文書作成の応用1（情報のアウトプット） Googleドキュメントを用い、カレンダー（表）を作成する。 予習、復習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。タイピング練習。（約1時間） F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出）	
	第4回	文書作成の応用2（情報のアウトプット） Microsoft Wordを用い、幼稚園のお便りを作成する。 予習、復習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。タイピング練習。（約1時間） F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出）	
	第5回	表計算ソフトの基礎1（情報の整理） Google スプレッドシートを用い、簡単な表を作成する。 予習、復習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。タイピング練習。（約1時間） F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出）	
	第6回	表計算ソフトの基礎2（情報の整理、集計、分析） Google スプレッドシートを用い、簡単なデータの分析をする。 予習、復習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。タイピング練習。（約1時間） F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出）	
	第7回	表計算ソフトの基礎3（情報の整理、集計、分析） Google スプレッドシートを用い、アンケートを題材に集計、分析の演習を行う。 予習、復習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。タイピング練習。（約1時間） F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出）	
	第8回	プレゼンテーションの復習（情報のアウトプット） Google スライドを用い、テーマに合った内容のプレゼンテーションを作成する。 予習、復習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。タイピング練習。（約1時間） F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出）	
	第9回	プレゼンテーションの応用1（情報のアウトプット） Google スライドを用い、「幼児教育現場で情報機器を用いることに対する考察」をテーマに、情報収集、情報整理したもの、考察した内容をプレゼンテーション資料としてまとめる。 予習、復習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。タイピング練習。（約1時間） F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出）	
	第10回	プレゼンテーションの応用2（情報のアウトプット） グループ作業（2人ひと組）：Google スライドを用い、第8回授業で作成した資料を意見交換、作業分担しながら一つのものにまとめる。 予習、復習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。タイピング練習。（約1時間） A:あり F:あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出）	
	第11回	プレゼンテーションの応用3（情報のアウトプット）	

	グループ作業（４人ひと組）：Google スライドを用い、第9回で作成した資料を意見交換、作業分担しながら一つのものにまとめる。 予習、復習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。タイピング練習。（約1時間） A: あり F: あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） プレゼンテーションの応用 4（情報のアウトプット） 第10回で作成したプレゼンテーション資料を発表し、お互いに評価しあう。 予習、復習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。タイピング練習。（約1時間） A: あり B: あり D: あり 文書作成の応用 3（情報のアウトプット） Google ドキュメントかMicrosoft wordを用い、保育園・幼稚園のお便りを作成して印刷する。 予習、復習：前回学んだ内容について内容をまとめ疑問点をまとめておく。タイピング練習。（約1時間） F: あり（授業内に課題が終わらない場合は、残りを仕上げて次の授業までに提出） 第14回 総括と学習到達度の確認テスト 1回目から13回目の授業についての総括を行い、この回の中で学習到達度の確認テストを実施する。 第15回 学びの振り返り 14回目で実施した確認テスト結果を元に、これまでの授業の総括を行う。
教育目標との関連	本授業では、保育者として、また一社会人として必要な教養、基礎的な専門知識を身につけ、学習した知識・技術を活用して、保育や子育て支援に必要な実践・表現ができる。
到達目標 カリキュラムマップ	1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性 1. 保育者として、情報機器の特性（メリットデメリット）について理解し、説明することができる 3. 保育者として、保育現場で有効な文書・資料や教材の開発・作成を行うことができる 4. 保育者として、情報機器を有効に使うことに関心を持ち、活用方法を検討することができる 添付資料のカリキュラムマップ（到達目標）を参照
評価方法および評価基準	1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準 提出課題 40%：各授業で作成する成果物を提出課題として評価します。 振り返り 20%：15回の授業時間内に数回小テストを実施し、理解度の確認を行います。 平常点評価 20%：グループワークの貢献度、各人の課題に取り組む姿勢を評価します。 試験 20%：期末試験を実施します。授業の内容全般についての理解度を評価します。 成績評価は添付資料のルーブリックを参照
教科書	特になし
参考書	必要に応じてプリントを配布する
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	授業時に必要に応じて指示する。
履修上の注意、条件等	教育職を志す学生として自覚を持ち、授業に積極的に取り組むこと。
オフィスアワー	授業の前後に教室で質問を受け付ける。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 文章表現法

授業コード：

英文科目名称： Japanese Writing Skills

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	1年	1単位	卒業必修 保育士必修
担当教員			
相澤京子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：なし	
添付ファイル			
文章表現法2020.pdf			

講義概要	自分の意思を言葉によつて的確に表現することは、学生としても保育者としてもあらゆる活動の基礎となる。しかし、普段から話したり書いたりしている日本語を改めて振り返る機会はほとんどないであろう。そこで本講義では、自身の用いている日本語を見直すことからはじめ、自身の考えを適切な文章で書き表すための基本的なルールを具体的な演習課題を通して習得し、各自の日本語力の向上を図ることを目的とする。 他の科目との関連：自分の思いを文章で書き表す行為は、本学で開講されているすべての講義の基盤となる。特に、「キャンパスライフデザイン」では、本講義での学びを生かし、実際にレポートを作成する。		
授業計画および学習形態	第1回	オリエンテーションー保育者に必要な文章力とはー シラバスを用いて、本講義のねらいと内容、及び受講上の注意と約束を説明する。 保育者に必要な文章力とは何か、また日本語力を向上させるためにはどのようにしたら良いかについて学ぶ。 予習：シラバスをよく読み、科目の全体像を把握しておく。（約30分） 復習：自身の言葉への関心度・言語環境を振り返り、改善できるところはないか考える。（約30分） E:あり	
各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第2回	日本語を豊かにするためのツール 日本語を豊かにするためのツールとして、辞書と新聞の使い方を学ぶ。 復習：配布したプリントを見直しておく。（約30分） A:中 D:中	
	第3回	日本語の特徴と表記 諸外国語と比較した際の日本語の特徴を理解するとともに、正しい字形・表記で書くための留意点を学ぶ。 予習：入学前課題『ことば 基礎編』を見直しておく。（約30分） 復習：配布したプリントを見直しておく。（約30分） B:中 D:中	
	第4回	文章表現の基本① 主語と述語の見分け方を学ぶ。 予習：入学前課題『ことば 基礎編』を見直しておく。（約30分） 復習：配布したプリントを見直しておく。（約30分）	
	第5回	文章表現の基本② 主語と述語が呼応したねじれない文章を書くための留意点を学ぶ。 予習：入学前課題『ことば 基礎編』を見直しておく。（約30分） 復習：配布したプリントを見直しておく。（約30分）	
	第6回	文章表現の基本③ 話し言葉と書き言葉の違いについて学ぶ。 予習：入学前課題『ことば 基礎編』を見直しておく。（約30分） 復習：配布したプリントを見直しておく。（約30分）	
	第7回	文章表現の基本④ 文体の種類とその統一について学ぶ。 予習：入学前課題『ことば 基礎編』を見直しておく。（約30分） 復習：配布したプリントを見直しておく。（約30分）	
	第8回	文章表現の基本⑤ 副詞の呼応について学ぶ。 予習：入学前課題『ことば 基礎編』を見直しておく。（約30分） 復習：配布したプリントを見直しておく。（約30分）	
	第9回	文章表現の基本⑥ あいまいな文章を書かないための留意点を学ぶ。 予習：入学前課題『ことば 基礎編』を見直しておく。（約30分） 復習：配布したプリントを見直しておく。（約30分）	
	第10回	文章表現の基本⑦ 効果的な接続詞の使い方を学ぶ。 予習：入学前課題『ことば 基礎編』を見直しておく。（約30分） 復習：配布したプリントを見直しておく。（約30分）	
	第11回	文章表現の基本⑧ 事実と意見の書き分けについて学ぶ。 予習：入学前課題『ことば 基礎編』を見直しておく。（約30分） 復習：配布したプリントを見直しておく。（約30分）	
	第12回	敬語の基礎① 敬語の種類について学ぶ。 予習：入学前課題『ことば 基礎編』を見直しておく。（約30分） 復習：配布したプリントを見直しておく。（約30分）	
	第13回	敬語の基礎②	

	敬語の使い方をシーン別に学ぶ。 予習：入学前課題『ことば 基礎編』を見直しておく。（約30分） 復習：配布したプリントを見直しておく。（約30分） 第14回 敬語の基礎③ 誤りやすい敬語について学ぶ。 予習：入学前課題『ことば 基礎編』を見直しておく。（約30分） 復習：配布したプリントを見直しておく。（約30分） 第15回 学習到達度の確認テストと学びの振り返り 学習到達度の確認テストを実施することで各自の到達度について振り返りを行うとともに、今後の学習課題を明確にする。 予習：入学前課題『ことば 基礎編』と今まで配布したプリントを見直しておく。（約1時間） 復習：これまでの授業の内容を振り返っておくこと。（約1時間） E:あり
教育目標との関連	各自の日本語力の向上を図ることにより、学習した知識を適切に相手に伝達することができる。また、読まれることを意識しながら文章を作成することは、自らを客観的に見る視点と他者に配慮する姿勢を養うことにつながる。
到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	DP3. 日本語の表記・文法などの基本的なルールを理解した上で表現できる DP5. 文章を作成する際に、読み手の立場を尊重できる 到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること。
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	試験 40% ・講義で取り上げた日本語の基礎が身についているかを評価する 提出課題 60% ・授業内で行う課題に対する取り組みを評価する 成績評価は添付資料のルーブリックを参照すること。
教科書	必要に応じて、資料をGoogle Classroomに掲載する。
参考書	
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の準備学習は上記の通りである。本講義の受講前に、入学前課題として『ことば 基礎編』に取り組み、自己採点をしておくこと。
履修上の注意、条件等	特になし。
オフィスアワー	103研究室で受け付ける。時間は研究室に掲示する。遠隔授業においてはGoogle Classroomの限定コメントで受け付ける。
備考・メッセージ	日本語の能力を高めるためには、日々の積み重ねが肝要である。従って、授業に休まず出席し、演習課題をこなすことが何よりも求められる。また、日常生活においても活字に触れる機会を増やすとともに、自身や他者の用いる日本語に意識的になってもらいたい。 第1回～第14回は遠隔授業（配信）、第15回は対面授業で行う。

講義科目名称： キャンパスライフデザイン

授業コード：

英文科目名称： Campus Life Design

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年	1単位	卒業必修 保育士必修
担当教員			
百瀬志麻 相澤京子 入江和夫 横溝一浩 山下晶子 中村麻衣子 松田こずえ			
授業形態：演習	担当形態：共同	実務経験：あり（全員）	
添付ファイル			
キャンパスライフデザイン2020. pdf			

講義概要	本科目は、建学の精神、教育理念を体現した初年次教育という位置づけである。自らの人生において、どのようなプロセスを描き、何を実現したいかを明確にするのがキャリアデザインである。本科目である「キャンパスライフデザイン」と2年次の「キャリアデザイン」は、キャンパスライフスタートアップ、キャリア・プランニング、社会人基礎力アップ、就職活動の4つのシリーズで編成されている。その中でも、1年生対象の本科目は、初年次教育としてキャンパスライフスタートアップ講座が主であり、高校生から短大生活へのスムーズな移行を促すことと、自身がどのような人生設計を描くのか、キャリアイメージをふくらませていくことを目的とする。そして、本科目で学んだことは各自のポートフォリオとしてまとめ、オリジナルの1冊を作りあげていく。本科目の担当教員は、それぞれの就業経験を生かし、学生の卒業後のキャリアを見通した上で指導・助言を行う。 他の教科との関連：本学で開講されているすべての科目の基礎となるのが本科目である。特に、「キャリアデザイン」は本科目をもとに、社会人への橋渡しを行う。		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回 建学の精神に学ぶ① キリスト教の精神と「愛の教育」 ・国際こども教育への学びへの誘い ●概要… ・愛の根源：生命の尊重・尊厳 ・短期大学で学ぶ意味と意義 ・国際こども教育とは何か（本学で学ぶ意義） ●予習…入学前課題で購入している「新・保育者の常識」を読む。（約30分） ●アクティブラーニング…B 少 第2回 キャンパスライフ・スタート講座① 文章で表すこと（レポートの書き方）（1） ●概要…レポートの書き方の手順を説明する。また、辞書をひき、課題文を読み、感想を書くことにより、レポート作成の下準備を行う。 ●予習…一般的なレポートの書き方について図書館やインターネット等で調べ、どのようなものか知っておくこと。（約30分） ●アクティブラーニング…E あり F あり 第3回 キャンパスライフ・スタート講座② 文章で表すこと（レポートの書き方）（2） ●概要…文献の引用の仕方と参考文献の書き方を説明する。 ●予習…一般的なレポートの書き方について図書館やインターネット等で調べ、どのようなものか知っておくこと。（約30分） ●アクティブラーニング…E あり F あり 第4回 建学の精神に学ぶ② 聖書贈呈式／キャンパスライフ・スタート講座③ 図書館との出会いと味わい ●概要…聖書贈呈式とともに、学びの源である本学の豊かな図書館をどのように活用できるかを紹介する。 ●予習…事前に図書館を訪れ、どのような活用ができそうか調べておくこと。（約30分） ●アクティブラーニング…C 多 第5回 キャンパスライフ・スタート講座④ 文章で表すこと（レポートの書き方）（3） ●概要…第2回、第3回の内容を受けて、レポートの課題の提示を行う。 ●予習…一般的なレポートの書き方について図書館やインターネット等で調べ、どのようなものか知っておくこと。（約30分） ●アクティブラーニング…E あり F あり 第6回 キャンパスライフ・スタート講座⑤ 社会人基礎力の確認テスト／建学の精神に学ぶ③ 国際こども教育の学び ●概要…本学での学びにおいて総合的な力が育まれているか、コミュニケーション能力という視点の外部テストで確認をおこなう。読解力、判断力、傾聴力など基本的なコミュニケーション能力をみる。また、海外フィールドワークに参加した先輩の報告を聞くことにより、国際こども教育への学びを深める。 ●復習…これまでの提出課題で返却されたものの復習をする。（約30分） ●アクティブラーニング…B 少 第7回 キャリア・プランニング講座① 保育者として働くということ ～保育所・幼稚園・施設で活躍する卒業生の講演～ ●概要…保育者としての現在のしごとについて卒業生の話を聴き、対話する。 ●予習…学生支援スペースで、就職先のファイルや卒業生の残した資料を見ておく（約1時間） ●アクティブラーニング…B 少 第8回 キャンパスライフ・スタート講座⑥ 防犯講習 ●概要…町田警察署の協力により、防犯講習をおこなう ●予習…大学生が巻き込まれやすい犯罪について図書館やインターネット等で調べ、どのようなものか知っておくこと。（約30分） ●アクティブラーニング…E あり 第9回 キャリア・プランニング講座② データサイエンス入門 ●概要…社会人として保育者として、実際の保育業界の法人のデータを使いながら、データサイエンスについて最低限必要な知識について学ぶ。 ●復習…参考図書を読む（約1時間）		

	第10回	●アクティブラーニング…B 少 社会人基礎力アップ講座① 社会人としての立ち居振る舞いとマナー ●概要…マナーについてのDVDを視聴した上で、社会人としての立ち居振る舞いとビジネスマナーについて学ぶ。 ●予習…ビジネスマナーについての本を読んでみる（約1時間） ●アクティブラーニング…A 中
	第11回	社会人基礎力アップ講座② 様々な手紙の作法 ●概要…日常生活やビジネスで使われる様々な手紙の種類とその作法を知る。また、保育のしごとcaféの説明を行う。 ●予習…改まった手紙についての本を読んでみる（約1時間） ●アクティブラーニング…A 中 保育のしごとcafé ●概要…保育事業者とのプレ就職相談会に参加する。 ●予習…自分が参加する保育事業者について事前に調べておく（約1時間） ●アクティブラーニング…A 多
	第12回	社会人基礎力アップ講座③ 改まった手紙を書く ●概要…改まった手紙を実際に書いてみる。 ●予習…改まった手紙についての本を読んでみる（約1時間） ●アクティブラーニング…A 中
	第13回	キャンパスライフ・スタート講座⑦ 家庭の機能と食事の役割 ●概要…ビデオを視聴し、現代の家族に求められる機能を食事という視点から考える。 ●予習…自身の食生活について振り返っておくこと（約30分） ●アクティブラーニング…B 少
	第14回	キャリア・プランニング講座③ 卒業後の自分の姿をイメージする ●概要…プレキャリアデザイン講座として、就職活動に向けて1年次の春休みにやっておくべきことを説明する。また、各種アンケートを実施する。 ●予習…自身の希望する就職先について調べておく（約30分） ●アクティブラーニング…B 少
	第15回	社会人基礎力アップ講座④ 救命救急講習 ●概要…約4時間の普通救命講習を受講する。修了者には、3年間有効な「救命技能認定証」が後日交付される。内容は、AEDの実技講習を含む。クラスごとに、6日間に分かれて実施する。 ●復習…身近な施設のどこにAEDが設置されているのか調べておくこと。（約1時間） ●アクティブラーニング…A 多
教育目標との関連	本学の建学の精神の根幹をなすのは「愛の教育」であり、創立以来の本学の教育理念の2つの柱の一つには、「社会でも家庭でも自分らしく生きられる女性の育成」とある。幸せに生きるためには力が必要である。その力を獲得するためには、自分らしく生きるとはどのようなことかを深く考え、自らの置かれた環境はどのようなものかを的確に認識し、自ら切り開くことのできる人生の選択肢は何かを見定め、社会の変化を受容しながら努力をすることが必要となる。本科目では、幅広い観点から、子どもと関わる自身の生き方について考える機会を提供する。	
到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	DP1. 保育者として国内外で活躍するため、あるいは自ら子育てに関わるために必要な教養を身につけている DP2. 社会の変化や自身に求められている役割をもとに、自らの生き方について判断ができる DP3. 学んだ教養を活用して、大学生活や社会生活に必要な実践・表現ができる DP4. 現代の社会情勢に関心をいだき、自ら主体的に関わりようとする意欲をもっている DP5. 多様性を持った他者に対し、愛情をもって協力・協働を図ることができる 到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること。	
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	提出課題（出席票） 提出課題（レポート等） 平常点	60% ・授業の理解度とともに、自身が感じたこと、考えたことを真摯にまとめて いるかを評価する。 20% ・授業の内容の理解度と表現力を評価する。 （レポートの評価基準については、ルーブリックを配布して説明する） 20% ・学校行事やグループワークに主体的に参加しているかを評価する。 評価基準は添付資料のルーブリックを参照すること。
教科書	必要に応じて、プリントを配布、またはGoogle Classroomに掲載する。	
参考書		
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	各回の授業テーマや外部講師について、予習として図書館などで調べておくこと。復習として、授業で配布した資料を必ずファイルに整理し、自身の成果物とともにポートフォリオとしてまとめていくこと。毎回、30分～1時間の事前事後学習の時間をとること。	
履修上の注意、条件等	外部講師の授業は、スーツを着用すること。	
オフィスアワー	担当教員の各研究室にて質問・相談を受け付ける。時間は掲示板および研究室前に掲示するが、それ以外の時間でも在室時は可能な限り対応する。遠隔授業においてはGoogle Classroomの限定コメントで受け付ける。	
備考・メッセージ	自らのキャリアについて主体的に考えるのは自分自身である。自分自身と向き合うことは時として難しいが、感性を豊かにすることにより、周囲との関係性からヒントが得られることも多い。本科目では、自分自身の生き方について前向きに考えるきっかけを多く提供していきたいと考えている。 対面授業と遠隔授業（配信・Zoom同時双方向）を併用して実施する。	

講義科目名称： キャリアデザイン

授業コード：

英文科目名称： Career Design

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年	1単位	卒業必修 保育士必修
担当教員			
百瀬志麻 富金原光秀 高島扶貴 尾近千鶴 大見由香			
授業形態：演習	授業形態：共同		実務経験：あり（全員）
添付ファイル			
カリキュラムマップ キャリアデザイン.pdf			

講義概要	本科目は「キャンパスライフデザイン」に続き、建学の精神、教育理念を体現した教養科目という位置づけである。「キャリア」とは、単なる職歴・経歴だけではなく、仕事を通じて実現できる生活やライフイベントなどを含んだ、生涯にわたるライフスタイルのプロセスを指す。自らの人生において、どのようなプロセスを描き、何を実現したいかを明確にするのがキャリアデザインである。本科目である「キャリアデザイン」は、1年次の「キャンパスライフデザイン」に引き続き、キャリア・プランニング、社会人基礎力アップ、就職活動の3つのシリーズで編成されている。その中でも、2年生対象の本科目は社会人基礎力アップと就職活動シリーズが中心となる。そして、これらの科目で学んだことは、ポートフォリオとしてまとめ、オリジナルの1冊を作りあげていく。 本科目の担当教員は、それぞれの就業経験を生かし、学生の卒業後のキャリアを見通した上で指導・助言を行う。 他の教科との関連：本学で開講されているすべての科目を踏まえた上で、社会人への橋渡しをするのが本科目である。特に、「キャンパスライフデザイン」は本科目の土台となるものである。		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回	キャリア・プランニング① 進路決定の流れと進路希望調査（担任面談） ●概要…様々な進路の概要と進路決定のスケジュールを確認した後、卒業後の進路（進学・就職）についての各自の考えを担任と共有する。面談中以外は、ブレ自己分析などを行う。 ●予習…学生支援スペースを訪れ、自らの勤務希望地域にある園や施設の昨年度の求人内容について知っておくこと。（約30分） ●アクティブラーニング…B 少 就職活動シリーズ① 自己分析・他己分析のためのグループワーク ●概要…履歴書を作成しはじめるには、まず自己分析が大切である。自己分析の際には、自分を客観的に見つめるために、友人から自己についてのコメントをもらうことで、お互いに自己理解を深める。また、海外フィールドワークⅡの報告を聞き、多文化における保育について視野を広げる。 ●予習…学生支援スペースを訪れ、自らの勤務希望地域にある園や施設の昨年度の求人内容について知っておくこと。（約30分） ●アクティブラーニング…B 少 就職活動シリーズ② 履歴書・エントリーシート作成のポイント ●概要…志望動機や自己PR、保育観など、履歴書・エントリーシートに必要な要素を考える。校内就職説明会の希望調査を行う。 ●予習…学生支援スペースを訪れ、自らの勤務希望地域にある園や施設の昨年度の求人内容について知っておくこと。（約30分） ●アクティブラーニング…B 少 キャリア・プランニング② 1年後をイメージする ～2年生の就職活動の流れまたは専攻科の過ごし方～ ●概要…学生支援室や2年生担任とどのように就職活動を進めていくか、全体の流れを説明する。実習先も実習生がそこに就職することを意識している。園選び・見学、就職試験、内定から新人研修までの流れを説明。履歴書を書いてみて、どこが書けないのか学生自身が把握する。また、国際こども教育コースは専攻科の説明と入試日程の告知を行う。 ●予習…学生支援スペースを訪れ、自らの勤務希望地域にある園や施設の昨年度の求人内容について知っておくこと。（約30分） ●アクティブラーニング…B 少 キャリア・プランニング③ 自分に合う職場の見つけ方 ●概要…本格的な就職活動の開始にあたり自己分析にもう一度じっくり取り組むための外部講師によるセミナー。次回の校内就職説明会についても案内をする。 ●予習…履歴書の下書きを完成させておくこと。（約30分） ●アクティブラーニング…A 少 キャリア・プランニング④ 校内就職説明会 ●概要…プレ就職説明会を学内でおこなう。秋からの本格的な就活に向けて、この時期には、質問、挨拶、言葉遣い、身だしなみ等を意識できるようになってほしい。協力園や施設のブースの複数を学生は練習としてまわり、話をうかがう。 ●予習…履歴書の下書きを完成させておくこと。（約30分） ●アクティブラーニング…B 少 キャリア・プランニング⑤ 保育者として働くということ ～保育所・幼稚園・施設で活躍する卒業生の講演～ ●概要…就職活動や就職後の現在のしごとについて卒業生の話を聴き、対話する。 ●復習…夏休み中の就職活動について確認する。 ●予習…なし ●アクティブラーニング…B 少 就職活動シリーズ③ 社会人としてのマナー、担任面談 ●概要…担任と個人面談をしながら、同時に就職活動における社会人としてのマナー（面接の受け方）について学ぶ。また、志望動機や自己PRなどを中心に、履歴書を完成に近づける。2年生の担任は授業終了後に履歴書を回収し、チェックして、次回返却する。 ●予習…担任との面談に備え、卒業後の進路について家族とも話をしておくこと。（約1時間）	

	第9回 ●アクティブラーニング…B 少 F あり 就職活動シリーズ④ 履歴書完成、内定後の対応方法 ●概要…担任より履歴書の添削が返却されるので、各自その修正と清書を行う。内定後のお礼状の書き方などについても学ぶ。 ●復習…受験予定の園にあわせて志望動機等を変え、履歴書を清書する。(約1時間) 第10回 ●アクティブラーニング…B 少 F あり 就職活動シリーズ⑤ 面接シミュレーション ●概要…受験で最も大切な面接にむけて、園長先生に来ていただき、学内で面接練習をおこなう。履歴書を完成させ、9月、10月、12月のいずれかの回に参加することが必須となる。 ●復習…受験予定の園にあわせて志望動機等を変え、履歴書を清書する。(約1時間) 第11回 ●アクティブラーニング…B 少 F あり 建学の精神に学ぶ キリスト教の精神と「愛の教育」福音コンサート ●概要…森祐理さんによる福音コンサート ●予習…森祐理さんについて調べておく (約30分) 第12回 ●アクティブラーニング…B 少 社会人基礎力アップ① 文化祭におけるクラス企画の紹介と文化祭への参加 ●概要…文化祭でおこなう企画の内容について、各クラスの代表者がプレゼンテーションを行う。また、当日のクラス企画に参加し、非日常の行事から学んだ内容を振り返る。 ●予習…プレゼンテーションの基本的確認。(約30分) 第13回 ●アクティブラーニング…D 多 社会人基礎力アップ② コミュニケーション力テスト(第2回) 税金の基礎知識 ●概要…前半は町田税務署による納税についての講演から責任ある市民としての行動を考える。2回目のコミュニケーション力テストを行い、2年間弱の短大生活での成長を測る。 ●予習…税金や企画に関する本を図書館で探し、読んでおくこと。(約1時間) 第14回 ●アクティブラーニング…A 少 社会人基礎力アップ③ 労働法についての理解 23の能力調査 ●概要…外部講師を招き、働く人として知っておくべき労働法や、責任ある市民としての知識を学ぶ。 ●予習…労働に関する本を図書館で探し、読んでおくこと。(約1時間) 第15回 ●アクティブラーニング…B 少 社会人基礎力アップ④ 新入社員としての心構え (良好な職場環境・人間関係の構築) ●概要…念願の職場に就職できても、3年以内での早期離職者は多い。就職活動の段階では見えてこなかった、職場に入ってから大切な視点となる、職場内での良好な人間関係の構築の仕方を知っておくことによって、相談できる相手を職場内に作り、困難にぶつかっても周囲からの支援を得て乗り越えられる。 ●予習…働く意味や働き方に関する本を図書館で探し、読んでおくこと。(約1時間) 第16回 ●アクティブラーニング…B 少 社会人基礎力アップ⑤ 企画力アップのためワークと発表 ●概要…ホームカミングデーを企画するグループワーク。企画の発表、クラスメイトからコメントをもらい、修正までおこなう。その後、23の能力調査をはじめとしたアンケートや卒業関連の連絡、コミュニケーション力テストのフィードバックをおこなう。 ●予習…ホームカミングデーでやりたいことを考えておく。(約1時間)
教育目標との関連	本学の建学の精神の根幹をなすのは「愛の教育」であり、創立以来の本学の教育理念の2つの柱の一つには、「社会でも家庭でも自分らしく生きられる女性の育成」とある。幸せに生きるためには力が必要である。その力を獲得するためには、自分らしく生きるとはどのようなことかを深く考え、自らの置かれた環境はどのようなものかを的確に認識し、自ら切り開くことのできる人生の選択肢は何かを見定め、社会の変化を受容しながら努力をすることが必要となる。本科目では、幅広い観点から、子どもと関わる自身の生き方について考える機会を提供する。
到達目標 カリキュラムマップ	1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性 DP1. 国内外での専門職としての保育者としての生き方や自ら子育てに関わることについて実感をもって理解する。 DP2. 社会の変化や求められている役割について考え、自らの生き方を思考する。 DP3. 他者に傾聴し、自らの意志(特にキャリアについて)を表現する。 DP4. 子どもを取り巻く広い世界に関心をもち、自ら積極的に関わろうという意欲をもつ。 DP5. 自分が受けた愛情の深さを振り返り、愛情をもって他者に奉仕できるようになる。 到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること。
評価方法および評価基準	1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準 提出課題 70% ・毎回、出席票の中に課題を提示し、講義内容を理解しながら自分が何を感じたか、考えたか、という点がまとめられているかを評価します。 受講態度 30% ・授業内での積極的な質問やグループワーク、ペアワーク、個人ワークなどへの取り組み・貢献を評価します。
教科書	必要に応じて、資料を配布する。
参考書	
準備学習(予習・復習等)の具体的な内容および必要な時間	各回の授業テーマや外部講師について、予習として図書館などで調べておくこと。復習として、授業で配布した資料を必ずファイルに整理し、自身の成果物とともにポートフォリオとしてまとめていくこと。毎回、30分～1時間の事前事後学習の時間をとること。
履修上の注意、条件等	「キャンパスライフデザイン」を履修していること。 外部講師の講演や面接練習などの授業は、スーツを着用すること。
オフィスアワー	担当教員の各研究室にて質問・相談を受け付ける。時間は掲示板および研究室前に掲示するが、それ以外の時間でも在室時は可能な限り対応する。
備考・メッセージ	自らのキャリアについて主体的に考えるのは自分自身である。自分自身と向き合うことは時として難しいが、感性を豊かにすることにより、周囲との関係性からヒントが得られることも多い。本科目では、自分自身の生き方について前向きに考えるきっかけを多く提供していきたいと考えている。

講義科目名称： 教職概論

授業コード：

英文科目名称： Approach to Teacher's Competency in kindergarten

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	1年	2単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
森下匡子、福地昭輝			
授業形態：講義	担当形態：複数・オムニバス	実務経験：あり	
添付ファイル			
カリキュラムマップ 教職概論.pdf			
ループリック 教職概論 .pdf			

講義概要	「教職概論」では、教職の意義、教員の役割及び教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む）について学ぶ。保育に携わる者として社会が求める教職のありかたについては、各時代の教育法規に規定され、教育制度や教育目標達成に向けて専門職としての保育者の専門性、カリキュラム全体を通して履修科目の振り返りを行い、保育者としてあるべき姿について考えを深める。幼稚園教諭としてふさわしい資質・能力の向上をめざす。 他の科目との関連：「教育原理」で学ぶ教職の意義、教職の歴史、教員養成の変遷などの項目をさらに掘り下げて学び、幼児教育者としての資質、求められる役割について習得する。また、教育実践能力に関しては実習関連科目に深くかかわる。 森下講師は私立幼稚園での担任、公立小学校での特別支援アドバイザー、親子教育研究所における子育て支援活動など18年にわたり現場での仕事を続けている。その実務経験を活かし、保育現場での保育者として求められている姿を、より分かりやすく実践を踏まえながら授業に取り入れている。		
授業計画および学習形態	第1回	教職とは何か 教員の職務の意義や特質について学び、理解を深める。さらに自分自身がなぜ教職を目指したのか、その動機について振り返る。また、各回の学習を確実にするための学習ポートフォリオによる履歴を残す。 予習：教職概論のシラバス全体をよく読み、科目の全体像を把握しておくこと（約1時間） F：あり	
各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第2回	保育者の資質・能力と求められる役割① 保育現場の様子を記録した映像教材を用いて、保育者の資質と役割について考える。（3歳児前半） 予習：前回学んだ内容について読み直しまとめておくこと。（約1時間） 復習：3歳児の発達について保育所保育指針第2章および心理学の授業を復習しておくこと（約1時間） ワークシート E：あり	
	第3回	保育者の資質・能力と求められる役割② 保育現場の様子を記録した映像教材を用いて、保育者の資質と役割について考える。（3歳児後半） 予習：前回学んだ内容について読み直しまとめておくこと。（約1時間） 復習：3歳児の発達について保育所保育指針第2章および心理学の授業を復習しておくこと（約1時間） ワークシート E：あり	
	第4回	保育者の資質と求められる役割③ 保育現場の様子を記録した映像教材を用いて、保育者の資質と役割について考える。3歳児と比べ、その成長を読み取る4歳児の特徴と保育者との関わりを考える（4歳児） 予習：前回学んだ内容について読み直しまとめておくこと。（1時間） 復習：4歳児の発達について保育所保育指針第2章および心理学の授業を復習しておくこと（約1時間） ワークシート E：あり	
	第5回	保育者の資質と求められる役割④ 保育現場の様子を記録した映像教材を用いて、保育者の資質と役割について考える。5歳児の特徴と保育者との関わり方を学ぶ（5歳児前半） 予習：前回学んだ内容について読み直しまとめておくこと。（約1時間） ワークシート E：あり	
	第6回	保育者の資質と求められる役割⑤ 保育現場の様子を記録した映像教材を用いて、保育者の資質と役割について考える。（5歳児後半） 予習：前回学んだ内容について読み直しまとめておくこと。（1時間） 復習：5歳児の発達について保育所保育指針第2章および心理学の授業を復習しておくこと（約1時間） ワークシート E：あり	
	第7回	保育者の資質と求められる役割⑥ 保育現場の様子を記録した映像教材を用いて、保育者の資質と役割について考える。3年間の記録の中で、あそびの種類や方法、ものづくり、保育者の関わり方、友人関係などを要素におきまとめる。 予習：前回学んだ内容について読み直しまとめておくこと。（約1時間） ワークシート E：あり 復習：2～7回のワークシートをまとめる（約1時間）	
	第8回	保育者の資質と求められる役割⑦ 前回の授業でまとめたものを基に各自で保育の資質能力について考える。 予習：前回の授業内容から視聴覚資料映像の年齢による特徴的なシーンをまとめておく（約1時間） 復習：新たな視点をまとめておく（約1時間） F：あり	

	第9回 中間振り返り（テスト相当） 第2回～第8回の振り返り小テスト。幼児の発達理解と保育者のかかわり方からの二つの視点から気づきと関心度や課題を持って、さらに深めたいことについて、ルーブリックを設定し、自己評価をする。 予習：2～8回の授業内容をまとめておく（約2時間） 第10回 保育現場に生かせる教材・表現方法の習得につなげる 「特別講座 紙芝居の出来るまで」 児童画家 夏目尚吾氏による特別講座 紙芝居の制作過程を知る。保育現場における紙芝居の効果、読み聞かせの方法、紙芝居の選び方を学ぶ 予習：紙芝居について、[保育内容 言葉]の授業で学んだ内容をまとめておく（約30分） 復習：専門家の仕事について、気づいたこと保育現場での、紙芝居の重要性をまとめる（約30分） 第11回 得意分野を保育に生かす実践① 学生自身の保育の質の向上に向け、自身の得意分野を活用することを学ぶ。幼少期の経験をまとめ、自己分析につなげる 予習：自身の得意分野、小さい頃の好きだった遊びについてまとめておく（約30分） 復習：ワークシートの内容をまとめる（約30分） F：あり E：あり 第12回 得意分野を保育に生かす実践② 前回でまとめた自身の得意分野を保育現場で活かす手立てを考える。具体的な内容を挙げ、保育指導案につなげる。 予習：自身の得意分野がどのように保育現場で取り入れられているか、まとめておく（約30分） 復習：ワークシートの内容をまとめる（約30分） F：あり E：あり 第13回 信頼される保育者を目指して 12回の授業をまとめ、信頼される保育者とはどのような保育者、考えを深める。そのうえで、“私の理想の保育者像”をワークシートに記入。 予習：授業全体を通して、理想となる保育者像についてまとめておく（約1時間） 復習：今までのワークシートの内容をまとめる（約1時間） F：あり 第14回 まとめ① 振り返りシート、履修カルテ②実践能力の到達度評価を記入。その内容から自己の到達目標を達成するための課題についてまとめる。特に保育園実習での課題について、その達成計画を立てる。 予習：授業全体をまとめる（2時間） 復習：試験内容から復習すべき点をまとめる F：あり 第15回 まとめ② 教育者として自己課題について これまでの授業内容のまとめとして、求められる保育者の姿を明確に、保育実習における自己課題についてまとめる。 F：あり
教育目標との関連	幼児にとって、初めての集団生活の場となる幼稚園は、友だちや保育者と一緒に楽しく伸びやかに園生活を送れるように環境を整え、教育的愛情を持ち心をこめて関わることを求められる。子どもの個性を見つめながら、その発達を細やかに支援することができるようになるために、学生は本学の教育目標でもある、知識と教養、豊かな感性を身につけ、さらに保育者としての実践的な技能を習得しなければならない。何よりも教員として幼児の成長を支えていくために、健全な心と体に支えられた強い意志の力が必要なのである。このように、本学の教育目標の達成と本科目により示される教員の資質及び能力は密接に関わっているのである。
到達目標 カリキュラムマップ	1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性 1. 教員の職務の意義や内容について幼稚園教諭としてふさわしい資質・能力として関連づけ、身につける基礎を学び、向上しようとする態度と意識を説明できる。 2. 教員の職務の意義や内容について、幼児の理解と保育の方法の実際について映像などの情報をもとに、自分なりに判断類別し考察することができる。 3. 映像教材を通して、保育技術の実践を学び、自分の得意分野などの技能を自覚し、保育現場での表現方法として活かすことができる。 4. 保育現場での話題および事例を通して教育に対してより身近な関心を持ち、教職に対する意欲を高めることができる。 5. 保育現場で教員として常に責任感を持ち、深い愛情と共感性を備えて、チーム保育者として行動できる。 到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること。
評価方法および評価基準	1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準 振り返り小テスト評価 40% 2～8回の講義内容を理解できているか評価する 筆記試験 40% 講義全般を理解しているか評価する 提出課題 20% 毎回の授業の中でワークシート記入を実施し、授業の理解度や授業の感想を評価する。 評価基準は添付資料のルーブリックを参照すること。
教科書	文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 2018年3月23日発行 240円(税別)
参考書	授業内で紹介
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	各回の予習、復習は上記のとおりである。
履修上の注意、条件等	教育職を志す学生として自覚を持ち授業に取り組むこと。
オフィスアワー	研究室・講師室にて受け付ける（研究室→Google Classroomの限定コメント等）日時時間帯等について研究室に掲示する。
備考・メッセージ	どのような保育者を目指すのか、自分自身で確立するために、常に学ぶ姿勢を大切にすること。 ①遠隔授業（配信）②遠隔授業（Zoom同時双方向）③対面授業（例）「遠隔授業（配信）で行う。」「第1、

8、11～15回は遠隔授業（配信）第2～第7回 第9～10回は対面授業。 2020年度のアクティブラーニングは、遠隔授業のため記載通りではない。

講義科目名称： 保育の心理学

授業コード：

英文科目名称： Psychology of childcare

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	1年	2単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
中村麻衣子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	
添付ファイル			
保育の心理学. pdf			

講義概要	乳幼児期から青年期に至る心身の発達および学習の過程について、基礎的な知識を身につける。各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導や教育、人との相互的にかかわりや体験、環境の意義など基礎的な考え方を理解する。スクールカウンセラーや発達相談の実務経験を有する教員による具体的な体験事例を通して、発達に応じた子どもへの働きかけや、調和のとれた子どもの育ちを支えるための視点を養う。 他の科目との関連：発達の心理学に関する基礎知識を身につけた上で、「子ども家庭支援の心理学」でより具体的かつ実践的に子どもの発達、家庭への支援、保育者の役割について理解を深める。		
授業計画および学習形態	第1回	発達を理解することの意義 人間の発達は生涯続くものであるが、どの時期も同じ重さを持つわけではない。初期の発達と後期の発達とは意味や課題が異なることを理解する。 予習：「保育の心理学」のシラバス全体をよく読んで、科目の全体像を把握しておくこと（約1時間） 復習：教科書第1章を読み、授業の内容を振り返ること（約1時間） A：少 B：少 E：あり F：あり	
各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A：グループワーク B：ディスカッション C：フィールドワーク D：プレゼンテーション E：振り返り F：宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第2回	発達と環境 人間は環境の中でさまざまなことを体験して学ぶ。環境に主体的にかかわることにより、心身の発達が促進されることを映像を視聴しながら学ぶ。 復習：教科書第2章と第3章を読み、授業の内容を振り返ること（約2.5時間） A：中 B：中 E：あり F：あり	
	第3回	発達理論と子ども観 発達に関する代表的理論を踏まえ、グループワークを通して自分なりの子ども観・保育観を持てるようにする。 復習：教科書第4章を読んで、授業の内容を振り返ること（約2時間） A：中 B：中 D：少 E：あり F：あり	
	第4回	知覚、認知の発達 かつて新生児は何も見えないと考えられていたが、最近になって赤ちゃんは驚くべき能力を備えて生まれてくることがわかってきた。乳幼児期の認知の発達について、映像を見ながら学ぶ。 復習：教科書第5章と第11章を読み、授業の内容を振り返ること（約2時間） B：中 D：少 E：あり F：あり	
	第5回	身体的機能と運動機能の発達 身体機能と運動機能の発達の過程と特徴について理解する。 復習：教科書第6章を読み、授業の内容を振り返ること（約2時間） B：中 D：少 E：あり F：あり	
	第6回	愛着の形成と発達 愛着の形成がその後の発達に及ぼす影響について理解する。 復習：教科書第7章を読み、授業内容を振り返ること（約2時間） B：少 E：あり F：あり	
	第7回	社会情動的発達 情動とは、極めて主観的な複雑な心の動きである。人間の基本的な情動の発達や機能、情動表出について、映画視聴を通して楽しく学ぶ。 予習：自分の中にどのような情動があるか、その情動は日常生活でどのような役割を果たしているかを考えること（約1時間） 復習：教科書第8章を読み、授業の内容を振り返ること（約2時間） A：中 B：中 D：少 E：あり F：あり	
	第8回	社会性の発達 社会性は社会的相互作用の中で発達していく。特に仲間関係によって身に付く力は、幼児期以降、児童期・青年期の対人関係、コミュニケーションスキルの発達につながっていくことを理解する。 復習：教科書第9章を読み、授業の内容を振り返ること（約2時間） A：中 B：中 D：少 E：あり F：あり	
	第9回	言語の発達 産まれてすぐのまだ言葉を話せない赤ちゃんも、全身を用いて豊かな能動的コミュニケーションを実現している。そうしたコミュニケーション能力を備えて誕生してくる赤ちゃんは、言葉によらないやり取りを活発にするうちに、やがて言葉を獲得していく。このプロセスを映像を見ながら理解する。 復習：教科書第10章を読み、授業の内容を振り返ること（約2時間） B：少 E：あり F：あり	
	第10回	学習に関する理論 さまざまな学習の形態や概念、およびその過程を説明する国内外の代表的理論の基礎を理解する。 復習：教科書第12章を読み、授業の内容を振り返ること（約1時間） A：少 B：少 D：少 E：あり F：あり	
	第11回	主体的な学習を支える指導	

	主体的な学習を支える動機づけや集団作り、学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解する。 復習：教科書第12章を読み、授業の内容を振り返ること（約2時間） A：中 B：中 E：あり F：あり 第12回 乳幼児の学びの過程と特性 乳幼児の学びに関わる基礎理論を理解した上で、それを支える保育について考える。 復習：教科書第14章を読み、授業の内容を振り返ること（約2時間） A：中 B：中 E：あり F：あり 第13回 乳幼児期の学びを支える保育 子どもの発達をめぐる課題、発達課題に応じた保育、生活における学びについて考える。 復習：教科書第15章を読み、授業の内容を振り返っておくこと（約2時間） A：中 B：中 E：あり F：あり 第14回 まとめと学習成果の振り返り これまでの授業の総まとめを行い、シラバスに書かれている到達目標を達成できたか各自振り返る。 予習：これまでの授業全体を通して質問などを考えて授業に臨むこと。（約2時間） E：あり
教育目標との関連	保育者には、どんな時も愛情深く子どもの傍らに寄り添う温かさや、伸びゆく子どもの可能性を信じる強さが求められる。それを裏打ちする心理発達の道筋についての的確な理解や正しい知識を習得する。また、これらの知識の習得が学生自身の発達について改めて考える機会となり、自らの発達を自覚的に捉え直し、人生を主体的に自分らしく生きる意志の力を身に付ける。
到達目標 カリキュラムマップ	1. 子どもの発達や保育実践にかかわる心理学の基礎について説明することができる。 2. 子どもの心理を理解し、保育場面に応じた適切な判断ができる。 *添付資料のカリキュラムマップを参照 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性
評価方法および評価基準	提出課題：100% 毎回のミニレポートや課題の内容で評価する。 *評価基準は添付資料のルーブリックを参照 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準
教科書	『保育士を育てる 保育の心理学』 瀧口綾・福田真奈（編著） 一藝社、2020年3月 2,100円
参考書	授業内で適宜紹介する。
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の予習、復習は上記のとおり。
履修上の注意、条件等	子どもの心理発達に関する社会情勢に関心を持ち、自分なりの意見・考えを持つよう心掛けること。
オフィスアワー	研究室に掲示する。遠隔授業においては限定コメントで受け付ける。
備考・メッセージ	遠隔授業（配信）で行う。

講義科目名称： 特別支援教育（障害児保育） I

授業コード：

英文科目名称： Education for Children with Special Needs I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	1年	1単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
金田利子			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	
添付ファイル			
特別支援教育 I .pdf			

講義概要	この科目は、Ⅰ・Ⅱで構成される障害児保育のⅠにあたる。Ⅰでは特に、障害児の問題を通して、人間観・子ども観・発達観とかかわらせた障害児保育の発達保障の思想について学び、障害自体についても事実を学び、障害児保育の基礎を元に個別支援計画作成の力をつける。さらに親と子、家族の生活の実態に即して障害児保育を理解する。授業者は発達相談を25年間行い、胎児性水俣病の縦断的な研究をしてきたので、その事例提示から学ぶ。		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回	担当者の障害児保育観、および障害概念の変遷 担当者（金田）の障害児保育観を材料に、障害概念の変遷について学ぶ B：少 E：あり 予習復習合わせて2時間 予習：テキストの目次と最初の部分を読む 復習：授業での学びを振り返り、記録する	
	第2回	障害児教育・保育体制の歴史—不就学から義務制へ 特別支援教育とは何か。その意義と制度、ノーマライゼーションの理念などについて学ぶ B：少 E：あり 予習復習合わせて2時間 予習：テキストの目次と最初の部分を読む 復習：授業での学びを振り返り、記録する	
	第3回	特殊教育から特別支援教育へ、統合から包含（インクルーシブ）へ インクルーシブ教育の理論と実践について学ぶ B：少 E：あり F：あり 予習復習合わせて2時間 予習：テキストの目次と最初の部分を読む 復習：授業での学びを振り返り、記録する	
	第4回	障害児理解の視点—親と子の生活と発達と障害の関連からの理解 障害児の実態把握と相談支援について学ぶ B：少 E：あり 予習復習合わせて2時間 予習：テキストの目次と最初の部分を読む 復習：授業での学びを振り返り、記録する	
	第5回	保育の中での障害理解の視点—問題行動を発達要求として— 個別の指導計画と個別の教育支援計画について学ぶ B：少 E：あり 予習復習合わせて2時間 予習：テキストの目次と最初の部分を読む 復習：授業での学びを振り返り、記録する	
	第6回	障害に関する基礎知識1 知的障害一般、ダウン症 障害の概念と特別な教育ニーズについて、特に知的障害一般、ダウン症について学ぶ B：少 E：あり F：あり 予習復習合わせて2時間 予習：テキストの目次と最初の部分を読む 復習：授業での学びを振り返り、記録する	
	第7回	障害に関する基礎知識2—自閉症スペクトラム① 自閉症 障害の概念と特別な教育ニーズについて、特に自閉症について学ぶ B：少 E：あり	
	第8回	障害に関する基礎知識3—高機能自閉症② アスペルガー障害 障害の概念と特別な教育ニーズについて、特にアスペルガー障害について学ぶ B：少 E：あり 予習復習合わせて2時間 予習：テキストの目次と最初の部分を読む 復習：授業での学びを振り返り、記録する	
	第9回	障害児に関する基礎知識4—発達障害①学習障害（LD） 障害の概念と特別な教育ニーズについて、特に学習障害（LD）について学ぶ B：少 E：あり F：あり 予習復習合わせて2時間 予習：テキストの目次と最初の部分を読む 復習：授業での学びを振り返り、記録する	
	第10回	障害児に関する基礎知識5—発達障害②注意欠陥多動性障害（ADHD） 障害の概念と特別な教育ニーズについて、特に注意欠陥多動性障害（ADHD）について学ぶ B：少	

	E：あり 予習復習合わせて2時間 予習：テキストの目次と最初の部分を読む 復習：授業での学びを振り返り、記録する 第11回 障害児に関する基礎知識6―身体運動障害・肢体不自由 障害の概念と特別な教育ニーズについて、特に身体運動障害・肢体不自由について学ぶ B：少 E：あり 予習復習合わせて2時間 予習：テキストの目次と最初の部分を読む 復習：授業での学びを振り返り、記録する 第12回 障害児に関する基礎知識7―視聴覚障害 障害の概念と特別な教育ニーズについて、特に視聴覚障害について学ぶ B：少 E：あり F：あり 予習復習合わせて2時間 予習：テキストの目次と最初の部分を読む 復習：授業での学びを振り返り、記録する 第13回 早期発見・早期治療・早期保育へ アセスメント、医療的ケア、支援について学ぶ B：少 E：あり 予習復習合わせて2時間 予習：テキストの目次と最初の部分を読む 復習：授業での学びを振り返り、記録する 第14回 総括と学習到達度の確認テスト これまでの授業についての総括を行い、この回の中で学習到達度の確認テストを実施する。 予習復習合わせて2時間 予習：これまでの授業の資料とテキストを読み返す 復習：テストに出た問題を振り返り、関連箇所を資料などで確認する。 第15回 学びの振り返り 当該科目の到達目標と各自の到達度チェック E：あり 予習復習合わせて2時間 予習：テストに出た問題を振り返り、関連箇所を資料などで確認する。 復習：授業での学びを振り返り、記録する。
教育目標との関連	障害児保育をめぐる基礎的な知識を身に付け、深く考え、対話することにより、保育者としての確かな知識を身に付ける。
到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	乳幼児の発達保障の担い手としての保育士に必要な知識と方法の基礎を理解し、説明できる 障害児保育を単に統合ではなく、インクルーシブな保育として理解し、説明できる 子ども理解の視点として親子の生活と発達と障害の関連について理解し、説明できる 障害児保育の現状・課題を把握し、説明できる 福祉と人権の思想を理解し、説明できる (添付資料のカリキュラムマップを参照すること)
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	振り返り（毎回、授業の振り返りシートを記入する）40% 試験60% (添付資料のルーブリックを参照すること)

教科書	『障害児保育』 公益財団法人児童育成会監修 西村重稀・水田敏郎編集 中央法規 2015年 2200円
参考書	『保育者のためのテキスト 障害児保育』 近藤直子・白石正・中村尚子 全障研出版部 2013年 2000円
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	授業終了後に教室で
備考・メッセージ	授業計画については順序が変わることもある。

講義科目名称： 教育課程総論（保育の計画と評価）

授業コード：

英文科目名称： Curriculum in the Kindergarten, Nursery Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	1年	2単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
高畠扶貴			
授業形態：講義	担当形態：単独		実務経験：あり
添付ファイル			
教育課程総論（保育の計画と評価）.pdf			

講義概要	幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園における保育や教育課程・全体的な計画の意義や編成について学び、こどもたちの主体性を活かした教育課程及び全体的な計画の在り方について考える。教育課程及び全体的な計画の編成とそれを踏まえた指導計画の作成を実際に行うことにより、具体的に理解する。 他科目との関連：保育内容5領域において学んだねらい及び内容は、園生活の全体を通して総合的に展開されなければならない。教育課程総論(保育の計画と評価)では、5領域を総合的に捉え、指導計画を作成していくことを学ぶ。 授業担当者は、公立保育所及び都内私立小学校において学級担任として18年間の実務経験がある。「接続期」という視点からこどもの発達を捉え、幼保小連携の新たな可能性について考える授業を行う。		
授業計画および学習形態	第1回	オリエンテーション 保育の質の向上に向けた計画・実践・省察・評価	講義概要を理解する。 こどもたちの学びは、こども自らが環境に主体的に関わって生み出される遊びの中にある。保育の質の向上を目的とした計画・実践・省察・評価のプロセスを学ぶ。 予習：教育課程総論（保育の計画と評価）のシラバス全体を読み、講義概要を理解する。（約1時間） B：中 F：あり
各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A：グループワーク B：ディスカッション C：フィールドワーク D：プレゼンテーション E：振り返り F：宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第2回	全体的な計画及び教育課程の意義	全体的な計画及び教育課程が持つ役割・機能・意義について理解する。 予習・復習：教科書P.20～26を読み、自分の考えをまとめ全体的な計画・教育課程の考え方についての理解を深める（約1時間） B：少 E：あり F：あり
	第3回	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂に見る社会背景	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂の要点から、こどもたちの育ちの変化や社会の変化を考察し、保育における今日的課題を理解する。 予習・復習：保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の解説から改訂の要点について理解する。（約1時間） B：多 E：あり F：あり
	第4回	全体的な計画・教育課程の編成	保育所及び幼稚園における全体的な計画と教育課程の在り方を理解する。 カリキュラム評価を踏まえ、全体的な計画及び教育課程編成の仕方について学ぶ。 予習・復習：教科書p.46～98及び、授業時に配布したプリントを読み、教育課程の編成の仕方を理解する。（約1時間） B：少 E：あり F：あり
	第5回	長期・短期指導計画の考え方	長期指導計画と短期指導計画の関係性について学ぶ。さらに長期指導計画と短期指導計画の作成にあたり、保育における評価の必要性について理解する。 予習・復習：教科書p.27～31を読み、指導計画作成の実際について理解する。（約1時間） B：少 E：あり F：あり
	第6回	保育所における計画と評価	乳幼児の発達と生活の特徴を踏まえた計画と評価について考える。また児童一人ひとりに合わせた計画の実践について考える。 予習・復習：教科書p.136～142及び授業中に配布したプリントを読み、乳児の保育計画について理解する。（約2時間） B：少 E：あり F：あり
	第7回	3歳児の指導計画作成1	3歳児の発達の特徴を踏まえた指導計画について学ぶ。実際のエピソードに基づき、こども理解をし、実態を捉え、長期指導計画と照らし合わせながら次週のねらいと内容を考える。 予習・復習：教科書p.144～145を読み、3歳児の発達の特徴を理解する。（約2時間） A：多 B：多 E：あり F：あり
	第8回	3歳児の指導計画作成2	3歳児の指導計画(週案)を作成する。作成した指導計画についてのオンラインでプレゼンテーションを行う。課題の指導計画(週案)は、添削をした上で返却をする。 予習・復習：指導計画(週案)のプレゼンテーションで指摘を受けた部分を修正する。（約2時間） A：多 D：中 E：あり F：あり
	第9回	4歳児の指導計画の作成1	4歳児の発達の特徴を踏まえた指導計画について学ぶ。実際のエピソードに基づき、こども理解をし、実態を捉え、長期指導計画と照らし合わせながら次週のねらいと内容を考える。 予習・復習：教科書p.146～147を読み、4歳児の発達の特徴を理解する。（約2時間） A：多 B：多 E：あり F：あり
	第10回	4歳児の指導計画の作成2	

	4歳児の指導計画(週案)を作成する。作成した指導計画についてのオンラインでプレゼンテーションを行う。課題の指導計画(週案)は、添削をした上で返却をする。 予習・復習：指導計画(週案)のプレゼンテーションで指摘を受けた部分を修正する。(約2時間) A：多 D：中 E：あり F：あり 第11回 発達連続性を踏まえた接続期のアプローチカリキュラム 接続期における発達の連続性について理解する。幼保小連携の実際を踏まえ、新たな幼小連携の可能性について考える。 予習・復習：配布資料を読み、アプローチカリキュラムについての理解をし提案ができるようにする。(約2時間) A：多 B：多 D：中 E：あり F：あり 第12回 5歳児の指導計画の作成1 5歳児の発達の特徴を踏まえた指導計画を接続期という視点から作成する。実際のエピソードに基づき、こどもを理解し、実態を捉え、アプローチカリキュラムと照らし合わせながら次週のねらいと内容を考える。 予習・復習：教科書p.148～150を読み、5歳児の発達の特徴を理解する。(約2時間) A：多 B：多 E：あり F：あり 第13回 5歳児の指導計画の作成2 5歳児の指導計画(週案・部分指導案)を作成する。作成した指導計画についてオンラインでプレゼンテーションを行う。課題の指導計画(週案)は、添削をした上で返却をする。 予習・復習：指導計画(週案)のプレゼンテーションで指摘を受けた部分を修正する。作成した週案に基づき、日案の作成を行う。(約6時間) A：多 D：中 E：あり F：あり 第14回 小学校との連携・テスト こどもの育ちを小学校につなぐ資料「保育所児童保育要録」及び「幼稚園幼児指導要録」の記載の留意点について学ぶ。 予習・復習：教科書p.158～159、配布資料を読み「保育所児童保育要録」及び「幼稚園幼児指導要録」の記載の仕方について理解する。 A：中 E：あり F：あり 第15回 まとめ カリキュラムマネジメントの意義 授業の評価を行う。また自己研究課題を設定する。 講義内容全体を振り返り、カリキュラム・マネジメントの意義について理解する。 B：少 E：あり
教育目標との関連	教育課程(保育の計画と評価)の基礎基本を理解し、将来保育者になるために必要な知識を獲得しなければならない。 全体的な計画・教育課程の編成及び指導計画の作成においては、こどもの発達の連続性を理論的に理解することが求められる。
到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	1. 教育課程・全体的な計画の在り方と意義について説明できる。 2. 保育の目標を達成するために必要な方法を判断できる。 3. 乳幼児の発達の特徴を理解した指導計画の作成ができる。 到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること。
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	試験50%：定期試験を実施する。授業の内容全般についての理解度を評価する。 提出課題45%：8回、10回、13回の授業内と冬季課題で指導計画の提出がある。 授業で学んだことを踏まえて立案できているか評価する。 平常点評価5%：提出課題の直し、ディスカッション及びプレゼンテーションにおける発表内容及び積極性を評価する。 評価基準は添付資料のルーブリックを参照すること。
教科書	『教育課程・保育の計画と評価 - 書いて学べる指導計画』岩崎淳子 及川留美 粕谷亘正 萌文書林 定価1900円(税別) 2018年
参考書	『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』
準備学習(予習・復習等)の具体的な内容および必要な時間	各回の予習、復習は上記の通り。
履修上の注意、条件等	保育者としてこどもの発達を踏まえた指導計画の作成が求められる。授業内で各年齢の週案・日案(活動案)の提出がある。
オフィスアワー	限定コメントで受け付ける。 研究室にて受け付ける。時間は研究室掲示板で確認すること。
備考・メッセージ	遠隔授業(配信)及び対面授業を行う。

講義科目名称： 社会福祉

授業コード：

英文科目名称： Social Welfare

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	1 年	2単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
横溝一浩			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	
添付ファイル			
社会福祉r. pdf	ループリック		
社会福祉map. pdf	カリキュラムマップ		

講義概要	社会福祉は、児童福祉分野の専門職である保育士必須の基礎知識である。この授業では以下の1～5の順で学びを深めていく。 1. 社会福祉の歴史と理念 社会福祉の制度化に至るまでのプロセスとして歴史や経緯を学びながら、ノーマライゼーションやインクルージョンに対する理解を深める。 2. 社会福祉の制度と実施体制 我が国の現代における社会福祉を理解するために、制度・実施体制さらに社会福祉の専門職について学び、全体像を把握する。 3. 社会福祉の技術と方法 社会福祉の実践的方法として相談援助が位置付けられるが、ディスカッションなどを通して実践方法の基本を修得する。 4. 社会福祉と人権 社会福祉の共通理念として、「人権擁護」があるが、人権とは何かディスカッションを通して学び、擁護に関する実践的態度について考察する。 5. 社会福祉の動向と課題 社会福祉の課題を把握し、地域連携の必要性をが社会資源マップを作成しながら理解する。 【他科目との関連】 児童家庭福祉、社会的養護Ⅰを学修するにあたっての基本を学ぶ 【担当教員の実務経験】 社会福祉法人やNPO法人における相談援助活動を活かし、実践的な教育を行いたい。		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回	社会福祉の理念と概念 社会福祉とは何かをテーマに先ず各自でイメージした上で、社会福祉の考え方を解説し、今後の学習の進め方について解説する。 予習：シラバスを読んで、社会福祉論の全体像を把握し社会福祉のイメージを持つておくこと。 (約1時間) B少 E有 F有 社会福祉の歴史1 社会福祉が制度化される以前（明治期）の生活から福祉の制度化の必要性について学び理解する。 予習：スモーキーマウンテンの事例を読み、福祉制度が未発展の国では、人々がどのように生活しているかイメージしながらワークシートを作成する。(約2時間) B少 E有 F有 社会福祉の歴史2 日本国憲法が成立し、社会福祉の法制度が整備されていく過程について学び理解する。 予習：最低限どの生活とは何か、ワークシートを作成しながらイメージする。(約2時間) B少 E有 F有 社会福祉と児童家庭福祉 児童家庭福祉は社会福祉の一分野として位置付けられていることを理解した上で、何故、児童が福祉の対象であるか考え理解する。 予習：映画「火垂るの墓」の冒頭のシーンから児童が何故社会で保護されなければならないかワークシートを作成する。(約2時間) B少 E有 F有 社会福祉の制度と法体系 社会福祉の法体系を理解した上で、それぞれの法律の目的や対象が何かを理解する。 予習：ワークシート上の法律について、その目的や理念、対象を整理する、(約2時間) B少 E有 F有 社会福祉の行財政と実施機関 社会福祉行政の体制とその財源について理解した上で、どのようなサービスがあるかを理解する。 予習：ワークシートを使って、市役所の役割、専門機関である児童相談所の役割について整理する。(約2時間) B少 E有 F有 社会福祉施設 社会福祉サービスの利用方法と費用の負担方法などについて理解を深めながら待機児童問題についても考える。 予習：インターネットなどを活用して自分の身の回りにどのような福祉サービスがあるか整理する。(約2時間) B少 E有 F有 社会福祉の専門職・実施者 専門職とは何かを解説して上で、社会福祉の現場における専門職の種類とその役割について理解する。さらに保育現場において、保育士と他の専門職との連携をイメージしながら、保育士の役割について再認識をする。	

	予習：ワークシートに示された福祉専門職について整理する。（約2時間） B少 E有 F有 第9回 社会保障および関連制度の概要 リスク分散としての社会保険の役割や生活保護制度について正しい認識を持つ為に学習を進める。 予習：生活保護受給者の事例を読みながらワークシートを作成する。（約2時間） B少 E有 F有 第10回 相談援助の意義と原則 相談援助の基礎理論を解説しながら、専門職としての相談の前提となるものは何か学ぶ。 予習：価値の多様性を認知するためにワークシートを作成し自分自身の価値観の中心がどこにあるかを理解する。（約2時間） A多 E有 F有 第11回 相談援助の原則と実践 相談援助の原則であるバイスディックの原則を理解して上で、簡単な事例について検討し、実践的な態度の基礎を身につける。 予習：事例シートの事例を熟読して、単なる相談と専門職の相談の違いをイメージしておくこと。（約2時間） A多 E有 F有 第12回 相談援助の方法と技術 相談援助の方法としてケースワーク、グループワーク、コミュニティワークなどの方法があることを理解し、それぞれの実践方法の基本を演習を通して学ぶ。 予習：コミュニティワークに基本として、自分が住んでいる身の周りに活用できる資源が何があるかワークシートで整理する。（約2時間） A多 E有 F有 第13回 社会福祉における利用者保護の仕組み 経済的な市場においては、消費者保護の仕組みはあるが、社会福祉において、どのようにして利用者を保護するのか、その意義と仕組みを理解する。 予習：食品偽装など消費者が被害を受けた事件について1つ取り上げワークシートに記入する。（約2時間） B少 E有 F有 第14回 総括と学習到達度の確認テスト 1回目～14回目の授業についての総括を行い、この回の中で学習到達度の確認テストを実施する。 第15回 学びの振り返り 各自の到達度チェック（自己評価及び学修成果の確認）
教育目標との関連	社会福祉における教育目標は以下の通りである。 1. 社会福祉の基礎理念を理解し、福祉の視点をもって地域および家庭において幼児・児童の育成に貢献できる。 2. 積極的な傾聴、共感する態度をもって周囲の状況や他者の気持ちを理解し、適切な判断ができる。 3. 相談援助の理論と技術を理解し、他者と円滑なコミュニケーションなどに基づいた考え方や判断ができる。 4. 相手の気持ちを受容する態度と周囲の状況を把握する基礎的判断力を養う。 5. 社会や福祉に広く関心を持ち、積極的に貢献しようとする意欲を養う。 6. 児童福祉の専門職として常に愛情をもって他者を尊重することができる
到達目標 カリキュラムマップ	社会福祉における到達目標は以下の通りである。 1. 社会福祉の制度・実施機関について理解し説明できる。 2. 社会福祉の理念（ノーマライゼーション、インクルージョンなど）に基づいた考え方や判断ができる。 3. 相談援助の基礎理論を理解した上で、その実践ができる。 4. 地域や社会の課題に関心を持ち、その課題に対して専門職として積極的に関わることができる。 5. 児童福祉の専門職として、積極的に傾聴し多様性を受け入れ個人を尊重する事ができる。 到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること
評価方法および評価基準	＜評価方法＞ 定期試験：60％ 定期試験を実施します。授業全般の理解度を評価します。 課題シート・振り返りシート：20％ 授業に臨む前の予習の態度（授業参加への積極性）、授業で何が修得できたか、授業内容について深く考察できたかを評価します。 受講態度：20％ 授業への集中、グループワーク等の貢献度、説明に対しての積極的傾聴態度、授業内容の記録、教員の質問・問いかけに対し真剣に考えているか等を評価します。 ＜評価基準＞ 添付資料のループリックを参照すること
教科書	新基本保育シリーズ4「社会福祉」、松原康夫他編著、中央法規、2019年発行 2,000円
参考書	授業中に適宜指示する
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	予習復習の詳細は上述の通りです。社会福祉に関する日々の記事については各自情報収集について努めてください。 地域の社会資源（福祉サービスや機関、NP0・ボランティア活動など）はどのようなものがあり、どのような活動をしているか、日頃から関心を持ってください。
履修上の注意、条件等	保育士は児童福祉分野の専門職です。専門職として福祉の理念・基本的な実践方法を理解したうえで、実習で必要な子どもへの受容的態度を修得してください。
オフィスアワー	研究室で受け付ける。時間は、研究室に掲示する。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 自然遊びと生活環境保全Ⅰ

授業コード：

英文科目名称： Play in Nature and Healthy Living ExperienceⅠ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	1年	1単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
入江和夫、入江三津子、Won Jongbin			
授業形態：演習	担当形態：複数	実務経験：なし	
添付ファイル			
カリキュラムマップ自然遊びと生活環境保全Ⅰ最終版.pdf			

講義概要	乳幼児の成長にとって「自然遊び」活動は非常に重要である。保育者になる学生自身が「自然遊び」の意義を理解し、保育のあり方の観点から考えていく。子どもの生活環境の安全に向けた内容を取り上げ、保育者として現場で生かせるように理解する。 他の科目との関連：1年前期「幼児と環境」の内容を春から秋の季節感を味わいながら体験的に学習する内容になっている。さらに2年後期の「自然遊びと生活環境保全Ⅱ」では秋から冬の季節の活動であり、1年の季節を通した内容になっている。また、これら科目を土台にしながら専攻科「保育内容特論」では保育者の視点から環境構成や活動計画を立案できるようにしている。		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの割合を明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回	自然遊びによる自然の美しさ、不思議さ 野草図鑑をつくることで植物に親しみを感ずる。 予習：Google Classroom課題の調べ学習 復習：提出課題に関する教師からの限定コメント (約2時間) D:多 E:あり F:あり 自然遊びによる安全 栽培活動でかぶれ、収穫物の食中毒予防 予習：Google Classroom課題の調べ学習 復習：提出課題に関する教師からの限定コメント (約2時間) D:多 E:あり F:あり 自然遊びによる幼児理解 幼児の自然の美しさに出会った表情を想像し、4コマ絵を描く 予習：Google Classroom課題の調べ学習 復習：提出課題に関する教師からの限定コメント (約2時間) D:多 E:あり F:あり 自然遊びによる数量・図形の関心 自然の景色を切り抜いた動物絵やファッションに当てはめ、創造する 予習：Google Classroom課題の調べ学習 復習：提出課題に関する教師からの限定コメント (約2時間) D:多 E:あり F:あり 植物のからだによる数量・図形の関心 植物の発芽、葉脈、茎の形から数量・図形の理解をはかる 予習：Google Classroom課題の調べ学習 復習：提出課題に関する教師からの限定コメント (約2時間) D:多 E:あり F:あり 自然災害から子どもを守る① 「急な大雨・雷・竜巻」の実態及び天気予報情報の理解する。 予習：Google Classroom課題の調べ学習 復習：提出課題に関する教師からの限定コメント (約2時間) D:多 E:あり F:あり 自然災害から子どもを守る② 具体的な災害映像などから「急な大雨・雷・竜巻」の対処法を理解する。 予習：Google Classroom課題の調べ学習 復習：提出課題に関する教師からの限定コメント (約2時間) D:多 E:あり F:あり 遊具の安全性 公園・幼稚園・保育園などにある遊具のペンキ中に含まれる鉛汚染の実態を理解する。 予習：Google Classroom課題の調べ学習 復習：提出課題に関する教師からの限定コメント (約2時間) D:多 E:あり F:あり 公園の放射性物質 シンチレーションカウンターで公園のどこが放射線量率が高いのかを理解する。 予習：Google Classroom課題の調べ学習 復習：提出課題に関する教師からの限定コメント (約2時間) D:多 E:あり F:あり 身近なバッタの成長 バッタの育成過程を理解する。 予習：Google Classroom課題の調べ学習 復習：提出課題に関する教師からの限定コメント (約2時間) D:多 E:あり F:あり 園外保育、散歩の事故防止 園外保育活動中に考えられる犬との遭遇及び噛まれた場合の応急処置事故防止を理解する。 予習：Google Classroom課題の調べ学習 復習：提出課題に関する教師からの限定コメント (約2時間) D:多 E:あり F:あり 七夕行事に親しむ① 幼児に七夕行事とは何かを説明できるように解説する。 予習：Google Classroom課題の調べ学習 復習：提出課題に関する教師からの限定コメント (約2時間) D:多 E:あり F:あり 七夕行事に親しむ② 子どもがどのような願いをもって短冊を書くのか、飾り付けする様子を想像して描く。 予習：Google Classroom課題の調べ学習 復習：提出課題に関する教師からの限定コメント (約2時間) D:多 E:あり F:あり 「総括と学習到達度の確認テスト」	

	この授業のまとめを行い、到達度テストを行う。 予習：Google Classroom課題 復習：教師からの限定コメントフィードバック (約2時間) D:多 E:あり
教育目標との関連	子どもの生活環境に安全性を求めたライフスタイル及び「自然遊び」に関する教材活用としての知識・理解並びに作品づくりを通して表現力を修得する。
到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	1. 子どもの生活環境保全について事故例などから安全性を理解し、説明できる。 2. class room課題を通して、環境構成の方法や教材活用の視点から考え、工夫できる。 3. 子どもの春から夏の自然の美しさや面白さの表情を想像し、表現できる。 到達目標は添付ファイルのカリキュラムマップを参照すること。
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	①期末試験では授業の内容全般についての理解度を評価する (74%) ②classroom等による課題の解答及び振り返りとしての「感想及びわかったこと」 (200字以上) の提出 (26%) 評価基準は添付したルーブリックを参照すること。
教科書	保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説
参考書	classroomnの課題を説明した動画をyoutubeで配信する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	各回の予習、復習は上記の通り
履修上の注意、条件等	課題及び「感想及びわかったこと」を毎回、classroomによる提出
オフィスアワー	class room の限定コメントで受け付ける
備考・メッセージ	保育者になる意識で授業に参加しましょう。

講義科目名称： 幼児と環境

授業コード：

英文科目名称： Infants and Environment

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	1年生	1単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
入江和夫 松田こずえ			
授業形態：講義	担当形態：複数	実務経験：なし&あり	添付ファイル
添付ファイル			
幼児と環境2020版.pdf			

講義概要	領域「環境」の指導で必要となる感性を養い、教育内容に関する知識・技能を身に付ける。乳幼児の発達と環境との関わりについて、保育内容（環境）の指導法の基盤となるように現代的課題を理解する。松田教員は私立幼稚園、及び公立幼稚園での十年間の教員経験、また二年間のアメリカ在住経験を持つ。このことを踏まえて日本及びアメリカの具体的な子どもの姿から「環境」の関わりについて、理解を深められるようにgoogle classroomによる遠隔授業などを含めた授業を行っていく。 他科目との関連では「保育内容（環境）の指導法」で活動のねらいを考える際に役立てる。		
授業計画および学習形態	第1回	現代社会の幼児を取り巻く環境と課題① 乳幼児の発達と環境の関わりの方角性を明確するために「育みたい資質・能力」及び「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」に関して理解する。 予習：保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（以下、解説書）から物的環境、人的環境などの園の環境の諸側面が及ぼす影響を理解する。予習：Class ROOM課題に関わる内容を調べておく。復習：提出課題に関する教師の限定コメントのフィードバックから理解を深める。（2時間）D：多 E：あり F：あり	
各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第2回	現代社会の幼児を取り巻く環境と課題②～ESDの視点から～ 乳幼児の生活における健康や安全に関わる地球温暖化の現状とその対応をESDの視点から考える。 予習：Class ROOM課題に関わる内容を調べておく。復習：提出課題に関する教師の限定コメントのフィードバックから理解を深める。（2時間）D：多 E：あり F：あり	
	第3回	乳幼児期・児童期の認知的発達 乳幼児期の認知的発達の特徴についてClass課題を通して理解する。 予習：Class ROOM課題に関わる内容を調べておく。復習：提出課題に関する教師の限定コメントのフィードバックから理解を深める。（2時間）D：多 E：あり F：あり	
	第4回	乳幼児の物理的、数量・図形との関わり 具体的な活動としておもちゃづくり等を行い、数量・図形との関わり方の視点から考察する。 予習：Class ROOM課題に関わる内容を調べておく。復習：提出課題に関する教師の限定コメントのフィードバックから理解を深める。（2時間）D：多 E：あり F：あり	
	第5回	乳幼児の発達における環境とのかかわり 子育ての悩みなどについて理解する。 予習：Class ROOM課題に関わる内容を調べておく。復習：提出課題に関する教師の限定コメントのフィードバックから理解を深める。（2時間）D：多 E：あり F：あり	
	第6回	乳幼児の自然との関わり 幼稚園でのアオムシ飼育活動の実践記録から「自然との関わり・生命尊重」を理解する。 予習：Class ROOM課題に関わる内容を調べておく。復習：提出課題に関する教師の限定コメントのフィードバックから理解を深める。（2時間）D：多 E：あり F：あり	
	第7回	まとめ及び学習到達度確認テスト まとめと学習到達度確認テストを行う。振り返りを限定コメントから行う。 予習：Class ROOM課題に関わる内容を調べておく。復習：提出課題に関する教師の限定コメントのフィードバックから理解を深める。（2時間）D：多 E：あり F：あり	
	教育目標との関連	乳幼児の身近な環境との関わり方や認知的発達の理解及び数量・図形・標識などの表現を修得する。	
到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	1 乳幼児期の認知的発達の特徴及び乳幼児と自然環境の関わり方について理解し、説明できる。 2 乳幼児期の認知的発達の特徴の知識を得たことを基に環境と乳幼児の関わり方を考えることができる。 3 乳幼児を取り巻く環境をESDなどから考え、数量・図形及び標識・文字等の関わり方について表現できる。 到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること。		
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	①期末試験では授業の内容全般についての理解度を評価する（86%） ②classroom等による課題及び振り返り「感想及びわかったこと」（200字以上）提出（14%） 評価基準は添付資料のルーブリックを参照すること。		
教科書	保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説		
参考書	google classroom課題を解説した動画をyoutubeで配信する。		
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	各回の予習、復習は上記の通り		
履修上の注意、条	毎回のgoogle classroom課題及び「感想及び気づき」提出		

件等	
オフィスアワー	google classroomの限定コメントで受け付ける。
備考・メッセージ	領域「環境」の理解するために必要な授業であることを理解しながら受講しましょう。

講義科目名称： 幼児と人間関係

授業コード：

英文科目名称： Young Children and Human Relationship

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	1年	1単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
久保寺節子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	
添付ファイル			
2020正カリキュラムマップ幼児と人間関係.pdf			
2020正ループリック様式幼児と人間関係.pdf			

講義概要	現代の乳幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、乳幼児教育で保障すべき、養護・教育の内容に関する知識を身に付ける。特に、領域「人間関係」の指導の基盤となる基礎理論として、関係発達論的視点について学び、他者との関係や集団との関係の中で、幼児期の人とかかわる力が育つことを理解する。子どもの人間関係の発達過程の理論と実践について、公立幼稚園・私立幼稚園副園長の実務経験のある本授業担当者から保育現場における事例を通して学ぶ。子どもが主体的に学び、人間関係を育む保育者としての当事者意識を高める。 他の科目との関連：乳幼児の人間関係は他の領域とも関係が深く、生活や遊びを通して総合的に発達することを理解した上で、本講座で学んだ理論を他の領域と関連付けながら具体的な保育場面につなげていく。遠隔授業（配信）で行う。		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A: グループワーク B: ディスカッション C: フィールドワーク D: プレゼンテーション E: 振り返り F: 宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回 イントロダクション・子どもと人間関係 ・現代社会と幼児の人間関係・自分自身の人間関係について振り返る ・子どもを取り巻く環境（社会文化・自然を含む）について知る 予習：シラバスを読み、本講義の全体像を把握する（30分間） 復習：学びの振り返り（1時間） A：少、B：中、D：少 E：あり、F：あり		
	第2回 乳児期における人間関係 ・身近な大人との関係を基盤として育つ子ども ・アタッチメントの理解 予習：配布資料を読んで授業に臨む（50分間） 復習：学びの振り返り（1時間） A：少、B：中、D：少 E：あり、F：あり		
	第3回 幼児期における人間関係 ・関係性の育ちや個と集団の育ち 予習：配布資料を読んで授業に臨む（50分間） 復習：学びの振り返り（1時間） A：少、B：中、D：少 E：あり、F：あり		
	第4回 幼児期における協同性の育み ・主体性と遊びの関係を学び理解する ・社会情動性（非認知能力）の重要性を学ぶ 予習：配布資料を読み、授業に臨む（50分間） 復習：「事例研究シート」に取り組む（2時間）次回授業時に検討 A：多、B：中、D：少 E：あり、F：あり		
	第5回 幼児期の道徳性・規範意識の芽生えと育ち ・子どもの発達と善悪の認識の関係性 ・葛藤、いざこざの意味に学ぶ 予習：幼稚園教育要領における10の姿から、道徳性・規範意識の芽生えについてを熟読する（50分間） 復習：「事例研究シート」をまとめる（2時間）次回授業時に提出 A：多、B：中、D：少 E：あり、F：あり		
	第6回 幼児の人間関係の育み：1）家庭との関係性 ・家庭の影響と子どもの人間関係との関係性について学ぶ A：中、B：中、D：中 E：あり、F：あり 予習：「事例研究シート」の考察を深める。（2時間） 復習：学びの振り返り（1時間）		
	第7回 幼児の人間関係の育み：2）地域との関係性 授業の総括・振り返りと最終課題シート ・地域の影響と子どもの人間関係との関係性について学ぶ。 ・最終課題シートに取り組む。その後、解説を聞き、多面的視点から保育を捉える。 予習：授業のキーワードで不明なところをまとめておく。最終課題シートに備える（2時間） 復習：学びの振り返り（1時間） A：中、B：中、D：少 E：あり、F：あり		
	第8回 幼児の人間関係の育み：3）幼・保・小との連携 諸外国（フィンランドのプレスクール）との比較より ・生涯発達の視座から乳幼児期の人間関係の育ちについて大切なことを考える ・外国の保育システムについて学び、日本の乳幼児教育の課題と展望について考察する		

	予習：授業のキーワードで不明なところをまとめておく（40分間） 復習：演習全体の学びの振り返り。（2時間） A：少、B：中、D：少 E：あり、F：あり
教育目標との関連	保育所保育指針が示す乳児保育における養護及び教育について、保育者が行う援助や関わりについて、保育者として必要な教養、子どもや保育の内容・方法を理解し、基礎的な専門知識、技法、態度を身につける。また、身に付けた教育・福祉の専門知識を活かして、地域社会及び家庭においても、人間関係を円滑にする役割を果たすことができるようになる。
到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	1. 子どもの人間関係の発達論について理解し、自分の言葉で説明・解説できる 3. 子どもとの関係性を育むための言葉づかいや表情等について、指摘できる 5. 保育者は子どもの人間関係の育ちのための人的環境であることを自覚して、多様な他者を尊重し、受け入れることができる 到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること。
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	提出課題：100% 毎回のミニレポートや課題の内容で評価する。
教科書	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」及び解説書
参考書	授業にて随時紹介する
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	復習：振り返りを行い、不明な用語、内容について理解しておくように努める（1時間）、予習：毎授業における課題に取り組み、授業に臨むこと（1時間）
履修上の注意、条件等	・シラバスの内容は、履修学生の理解度等による変更もあります。
オフィスアワー	質問等に関しては、googleclassroomの限定コメントにより受け付ける
備考・メッセージ	今年度は遠隔授業（配信）で行う。 子どもの人間関係の育ちの資源であるとの当事者意識を持って、履修しましょう。

講義科目名称： 幼児と言葉

授業コード：

英文科目名称： Young Children and Language

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	1年	1単位	卒業必修 幼免必修 保育士必修
担当教員			
相澤京子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：なし	
添付ファイル			
幼児と言葉2020.pdf			

講義概要	領域「言葉」の指導の基盤となる、乳幼児が豊かな言葉や表現を身につけ、想像する楽しさを広げるために必要な基礎的知識を身につける。具体的には、人間の証と言える「言葉」の意義と機能について理解した上で、乳幼児の言葉の発達過程を学ぶ。さらに、乳幼児の言葉を育み、言葉に対する感覚を豊かにする絵本や紙芝居などの児童文化財や言葉遊びの実践に関する基礎的知識を身につける。 他の科目との関連：「保育内容（言葉）の指導法」では本講義で学んだ理論を具体的な保育場面につなげていく。また、総合的に保育内容を理解するためには、他の領域に関する科目もそれぞれに関連している。		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回 オリエンテーションー人間にとって「言葉」とは何か？ シラバスを用いて、本講義のねらいと内容、及び受講上の注意と約束についての説明を受ける。 ワークショップを踏まえて言葉とは何かを考える。 予習：シラバスをよく読み、科目の全体像を把握しておくこと。（約30分） A:中 F:あり 第2回 言葉の機能 前回のワークショップを踏まえて、言葉の機能について学ぶ。 絵本カードの課題についての説明を受ける。 復習：テキストpp17-21を読んでおくこと。絵本を読み、記録をとること。（約1時間） A:中 F:あり 第3回 乳幼児の言葉の発達① ビデオを視聴し、乳幼児の言葉の発達の全体像を把握する。 予習：自分自身の幼少期までの言葉について保護者等に聞いておく。（約30分） 復習：ビデオ確認プリントの内容を復習しておくこと。絵本を読み、記録をとること。（約1時間） A:少 E:あり F:あり 第4回 乳幼児の言葉の発達② 出生後から前言語期までの言葉の発達を具体的に学ぶ。 復習：テキストpp39-41を読んでおくこと。絵本を読み、記録をとること。（約1時間） F:あり 第5回 乳幼児の言葉の発達③ 初語から一語文の時期までの言葉の発達を具体的に学ぶ。 復習：テキストpp42-45を読んでおくこと。絵本を読み、記録をとること。（約1時間） F:あり 第6回 乳幼児の言葉の発達④ 二語文から多語文が出てくる時期までの言葉の発達を具体的に学ぶ。 復習：テキストpp45-46を読んでおくこと。絵本を読み、記録をとること。（約1時間） F:あり 第7回 乳幼児の言葉の発達⑤ 書き言葉に関心を持ち、習得する時期までの言葉の発達を具体的に学ぶ。 復習：テキストpp47-49を読んでおくこと。絵本を読み、記録をとること。（約1時間） F:あり 第8回 言葉を育み、想像する楽しさを広げる児童文化財① 児童文化財の種類と乳幼児にとっての意義を学ぶ。 復習：テキストpp99-102を読んでおくこと。絵本を読み、記録をとること。（約1時間） F:あり 第9回 言葉を育み、想像する楽しさを広げる児童文化財② 絵本の読み聞かせの方法を学び、実際に実践する。 復習：テキストpp102-103を読んでおくこと。絵本を読み、記録をとること。（約1時間） D:多 F:あり 第10回 言葉を育み、想像する楽しさを広げる児童文化財③ 絵本と紙芝居の違いと、紙芝居の演じ方を学ぶ。 復習：テキストpp110-112を読んでおくこと。絵本を読み、記録をとること。（約1時間） F:あり 第11回 言葉に対する感覚を豊かにする実践① 言葉の美しさや楽しさを実感するためのワークショップを行う。 復習：自身の身近にある言葉から、言葉の面白さが分かる例を探す。絵本を読み、記録をとること。（約1時間） A:中 F:あり 第12回 言葉に対する感覚を豊かにする実践② 言葉遊びの種類を知るとともに、実際に実践する。 復習：テキストpp116-121を読んでおくこと。絵本を読み、記録をとること。（約1時間） A:中 F:あり 第13回 言葉に対する感覚を豊かにする実践③ 児童文化財や言葉遊びの保育への取り入れ方を学ぶ。		

	第14回 復習：これまでの授業の振り返りを行う。絵本を読み、記録をとること。（約2時間） B:中 F:あり 総括と学習到達度の確認テスト 授業についての総括を行い、学習到達度の確認テストを実施する。 復習：確認テストで分からなかった部分を見直す。絵本を読み、記録をとること。（約1時間） F:あり 第15回 学びの振り返り 本科目の到達目標と各自の到達度を確認する。 絵本カードの課題を提出し、感想をまとめる。 復習：これまでの授業のノート・プリント類を整理し、見直す。（約1時間） E:あり
教育目標との関連	乳幼児の言葉の発達やそれを支える児童文化財等の基礎的知識を習得することにより、社会生活に必要な教養と保育者として確かな知識を身につける。また、言葉に対する感覚を豊かにする実践を行うことは、学生自身の豊かな感性を育てることにつながる。
到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	DP1. 言葉のもつ意義と乳幼児の言葉の発達について理解し、説明できる DP1. 乳幼児の言葉に対する感覚を豊かにする実践に関する基礎的知識を習得し、説明できる DP3. 乳幼児の言葉を育み、想像する楽しさを広げる児童文化財を実践できる DP4. 乳幼児の言葉を育み、想像する楽しさを広げる児童文化財に関心を持つ 到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること。
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	試験 60% ・授業内容全般を理解し、自分の言葉で説明できるかどうかを評価する 提出課題 30% ・絵本を読んだ記録をきちんと取れているかを評価する 授業への参加度 10% ・授業内での実践や課題に対する取り組み姿勢を評価する 評価方法は添付資料のルーブリックを参照すること。
教科書	『保育者をめざす人の保育内容「言葉」 第2版』（駒井美智子編、みらい）定価2,200円（税込）
参考書	『幼稚園教育要領解説』（平成29年3月告示 文部科学省） 『保育所保育指針解説』（平成29年4月告示 厚生労働省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	各回の準備学習は上記の通りである。提出課題以外にも、絵本や紙芝居などの児童文化財に接する機会を多く持つこと。
履修上の注意、条件等	受講者全員に絵本の読み聞かせの実践をしてもらう予定である。 シラバスの内容は、履修学生の理解度等による変更の可能性もある。
オフィスアワー	103研究室で受け付ける。時間は研究室に掲示する。質問はGoogle Classroomの限定コメントでも受け付ける。
備考・メッセージ	対面授業で行う。授業の進め方の都合により、50分授業を15回実施する。

講義科目名称： 幼児と表現

授業コード：

英文科目名称： Young Children and Expression

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	1年	1単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
二階堂あき子 大見由香、高畠扶貴、富金原光秀			
授業形態：演習	担当形態：オムニバス	実務経験：各教員共に有（講義概要欄参照）	
添付ファイル			
幼児と表現カリキュラムマップ.pdf			
幼児と表現ルーブリック.pdf			

講義概要	幼稚園教育要領と保育者保育指針等に於ける感性と表現に関連する領域「表現」について理解する。領域「表現」に関する乳幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、乳幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などについて実践的に学び、乳幼児期の表現活動を支援するための知識・技能、表現力を身につける。 各教員の経験からくる「暗黙知（プロの技）」から、学生自身の啓発及び、感性を刺激することで、学生自身が子どものよき表現するモデルとなれることを目指す。 当該科目は、保育の他領域「幼児と言葉」、「幼児と健康」、「幼児と人間関係」、「幼児と環境」と重なり関連する。表現は、他領域を「表現」することに深く結びついているからである。 また、当該科目を基本として、「表現の指導法Ⅰ」及び「表現の指導法Ⅱ」に続く科目となる。 遠隔授業（配信）で行う。 大見先生の実務経験 授業担当者はインターナショナルスクールや多国籍クワイヤーの指導経験がある。 海外の合唱曲とその民族・文化的背景や英語による歌唱のポイントや表現法をなじみやすい方法で紹介できる。 高畠先生の実務経験 都内公立保育所、私立小学校において保育士、小学校教諭の立場で 18年 にわたり表現及び音楽科を担当した指導歴をもっている。 富金原先生の実務経験 担当講師は保育所や幼稚園での製作活動や子育て支援事業、東京おもちゃ美術館等、体験授業やフィールドワークを行っている。 それら現場経験を交えて保育においてアートが幼児期の発達や造形の役割について実践的に考察・検証する。 二階堂先生の実務経験 モダンダンス、ジャズダンス、舞踊創作の指導者として、35年以上の経験があり、また、親子体操・ダンス、キッズヨガ、障碍児のエアロビクスやダンスなども、都内の各地域の特殊学校等で担当していた。 短大、バレエスタジオや地域のサークル活動にて、ダンス創作法やストレッチ方法などを指導中。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回 「表現とは何か①」 様々なアートや環境・技術(ICT)と対話（担当：二階堂） オリエンテーション1 領域「表現」の造形・身体表現 及びICT「Information and Communication Technology（情報通信技術）」の理解する 事前事後学習（1時間）専門用語の確認をする。 ワークシートの目次をよくみて、予習しておく F：有 第2回 「表現とは何か②」 幼児の表現遊び（担当：大見、高畠） オリエンテーション2 領域「表現」の音楽（器楽合奏・歌唱等）を理解する 予習：教科書やワークシートの目次をよくみて、予習しておく（1時間） D:少 F:有 第3回 身体表現等と多文化背景について学ぶ 身体と表現の始まりを意識する 文化背景の異なる表現方法（担当：二階堂） 事前事後学習は、授業内で示す（1時間） D：中 E:有 F:有 第4回 造形表現について学ぶ 身の回りの環境を用いて、造形遊びが総合的な表現活動となるよう保育の題材を創造的に構想する。（担当：富金原） 事前事後学習は、授業内で示す（1時間） C:中 F：有 第5回 音楽表現A 歌唱等について学ぶ（担当：大見） 事前事後学習は、授業内で示す（1時間） D:少 E:有 F：有 第6回 音楽表現B 器楽合奏等について学ぶ（担当：高畠） 事前事後学習は、授業内で示す（1時間） D:少 E:有 F：有 第7回 領域「表現」の授業全体を振り返り、その目標の達成について確認する

	実技発表会 講義のまとめ及び、筆記テスト対策 事前事後学習は、授業内で示す（1時間） （担当：二階堂、大見、高島、富金原） E:有 F:有 第8回 結果による振り返りを行い、領域「表現」の目標の達成を確実なものとする 筆記テスト 筆記テスト解説 実技発表会のまとめ 事後学習は、授業内で示す（1時間） （担当：二階堂、大見、高島、富金原） E:有 F:有
教育目標との関連	「社会生活に必要な教養と保育者として豊かな知識を身に付ける」ために、感性をどのように磨き、どのような表現活動をするのかを、実際に思考錯誤することで修得する。それには、自身の精神力・努力が重要である。様々な物事に好奇心を持ち関連づけていくことで、「表現」の領域を経験的に学ぶ。 他の科目との関連：「実習・実践・研究に関する科目」の基礎知識として「保育内容（表現）」の教育内容・方法を学び、実習に備える。
到達目標 カリキュラムマップ	1. 子どもの遊びを豊かに展開するために「表現」領域の内容や知識を修得する。 2. 身体表現、造形的表現、言語表現、音楽表現等の表現活動に必要な技術方法や知識を習得する。 3. 子どもの「表現」援助に必要な指導力の向上を目指して、自身の表現力や感性を養うことに努力できる。 到達目標は、添付資料のカリキュラムマップ参照のこと。
評価方法および評価基準	1. テスト及び主体的・対話的・協調性などの授業態度を評価する（各担当教員による40%） 2. 発表及び課題提出（テキスト書き込み等）を評価する（各担当教員による60%） *欠席等の取り扱いは、『学生ハンドブック』の履修要項に準ずる。 評価基準は添付資料のルーブリックを参照のこと。
教科書	『改訂 幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』神原雅之 監修 教育芸術社 2019年 2,200円 テキスト プリントを適宜、配布する 『Work Book 幼児と表現 ～保育者を目指して～』大見 由香, 高島 扶貴, 二階堂 あき子, 富金原 光秀 著 出版社: NextPublishing Authors Press 2019年 600円 『幼稚園教育要領』文部科学省 240円(税別) 『保育所保育指針』厚生労働省320円(税別) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府他 385円 共にフレーベル館
参考書	『生活事例からはじめる ー保育内容ー 表現』 徳安敦・関口明子編著 青踏社 1,900円＋税 授業中に適宜資料を配布する。 参考URL http://felicia000.blogspot.com/
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	事前事後学習は、各教員が授業内で示す
履修上の注意、条件等	実践的演習なので、学生主体の授業展開になる。そのため各自が積極的な授業参加することで評価の対象となる。
オフィスアワー	質問等に関しては、googleclassroomの限定コメントにより受け付ける
備考・メッセージ	今年は遠隔授業のためアクティブラーニング度はこの通りではない。 1回目から8回目迄のいずれか、遠隔授業（配信）、もしくは遠隔授業（ZOOM同時双方向）、遠隔授業（面接）面接授業を予定 掲示板や参考URL等を良く見ておき、発表日や提出日を忘れないようにする。 締め切り過ぎたら不受理とする。進度調整有。 二階堂担当部分に関しては、http://felicia000.blogspot.com/ に授業スライドを提示する

講義科目名称： 幼児と健康

授業コード：

英文科目名称： Infants and Health

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	2年	1単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
尾近千鶴			
授業形態 講義	担当形態 単独	実務経験 有	
添付ファイル			
幼児と健康2020.pdf			

講義概要	近年における幼児を取り巻く社会状況や教育的課題を踏まえ、領域「健康」の指導に必要な基盤となる基礎的知識・基礎的技能を身につけることを目指す。主に、幼児の健康、心身の発達と基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達と身体活動を軸に展開する。 後学期の「保育内容（健康）の指導法」では、子ども自らが成長とともに「健康な心と体を育て、安全な生活を作り出す力を養う」ため、その保育実践に向けてグループワークを通して実践的に援助方法を学ぶ。学生はその基盤となる知識・技能を本科目で学び理解を深める。 他の科目との関連：1年次に学ぶ「子どもの保健」をもとに、「子どもの健康と安全」「保育内容（健康）の指導法」「体育実技」、「体育理論」、「実習に関する科目」などの基礎知識として本科目の教育内容・方法を学び、実習に備える。 担当教員：「国内」幼稚園・保育園併設の施設で子どもの保健活動、及び、医療・福祉機関で心身の健康への支援に携わった経験を持つ。「国外」初等教育関連機関で教員として、また、福祉関連施設でvolunteerの経験を持つ。		
授業計画および学習形態	第1回	オリエンテーション 乳幼児期の健康課題の概要について 授業の進め方と、授業の評価方法の説明をする。 乳幼児期の健康の意義、乳幼児を取り巻く生活環境を理解する。 予習：シラバス、教科書第Ⅰ～Ⅲ部を読んでおく。復習：教科書第Ⅰ部を読んで関係参考書を見ておくこと。（約2時間） 「現代の乳幼児を取り巻く生活環境と健康課題」について、後日の課題提出とする。 B:少 F:あり	
各回の授業内におけるアクティブラーニングの割合を明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第2回	乳幼児の心身の発達の特徴 日本の気候を考慮し、心身の発達に適した環境について学ぶ。 乳幼児期の身体的発達の特徴、生理的機能の発達について学ぶ。 予習・復習：前回の授業内容を復習する。教科書第Ⅱ部と第Ⅲ部を読んでおくこと。（約2時間） A:少 B:中	
	第3回	乳幼児の心身の発達と生活習慣の形成 乳幼児期の生活習慣の獲得及び生活リズムの形成とその意義について理解する。 心身の発達に向け、運動遊びをどのように生活に取り入れるのかについて学ぶ。 予習・復習：前回の授業内容を復習する。教科書第Ⅱ部と第Ⅲ部を読んでおくこと。（約2時間） A:少 B:中	
	第4回	心身の発達と脳の発達における概念形成 乳幼児期の脳の発達と生活に即した多様な経験について理解する。 概念形成には五感を通じた実体験が必要であることを理解する。 予習・復習：前回の授業内容を復習する。教科書第Ⅳ部を読んでおくこと。（約2時間） A:少 B:中	
	第5回	基本的生活習慣獲得と自立 将来にわたる社会面、生活面での心地よい生活と自立に向けた基本的生活習慣獲得について理解する。 乳幼児期の生活習慣の獲得時期の目安を理解する。 予習・復習：前回の授業内容を復習する。教科書第Ⅳ部を読んでおくこと。（約2時間） A:少 B:中	
	第6回	子どもの視点に立った安全生活の保障 現代における幼児期の怪我や事故の特徴、予防について理解する。 リスクとハザードの違いについて理解する。 予習・復習：これまでの授業内容を復習する。また、第Ⅳ部を読んでおく。（約2時間） A:少 B:中	
	第7回	豊かな環境設定における遊びと生活文化の継承 社会の変化と生活の中での季節に応じた遊びと生活文化の経験、またその配慮の基本的な考え方について理解する。 予習・復習：これまでの授業内容を復習する。教科書第Ⅴ部を読んでおくこと。約2時間） A:少 B:少 F:あり	
	第8回	保育実践に向けて まとめ 子どもの健康の保障、全面発達の保障について、大人の役割、保育者の役割について理解する。 授業のまとめ「幼児と健康」について、これまでの授業や課題提出などに関し総括と振り返りを行う。 A:少 B:少 E:あり	
	教育目標との関連	健康な心と体を育て自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の指導の基盤となる知識、技能を身につける。具体的には、幼児の心身の発達、基本的生活習慣、安全な生活、運動発達等において、幼児期には大人と違った特徴や意義があることを踏まえ、その相違が指導方法にも関連していることについて理解する。	

到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	1. 幼児期の健康課題と健康の発達の意味を理解する。 2. 幼児期の体の諸機能、運動の発達と生活習慣の形成を理解する思考力と発達段階に応じた判断力を高める。 3. 安全な生活と怪我や病気の予防に必要な技能と相手に伝える能力を高める。 4. 幼児を取り巻く健康に関する社会状況や教育的課題に関心を持ち、意欲的に授業に取り組む。 5. 幼児が自らの健康を保つよう気づきを促し必要感や達成感を育めるように、グローバルな視野と豊かな人間性を生かし社会に貢献する姿勢をもつ。 到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照のこと。
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	提出課題 授業内容の理解度 知識 思考 判断 受講態度 期限内での積極的な課題提出 関心 意欲 ICTなどを活用し、全ての授業回の課題提出で評価する。
教科書	『演習 保育内容 健康 ー大人から子どもへつなぐ健康の視点』 井狩 芳子著 萌文書林 第2版第1刷発行 2018年 1800円＋税
参考書	『幼稚園教育要領解説』文部科学省 『保育所保育指針解説』厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府他 共にフレーベル館 その他 参考URLなどは授業中に提示する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	シラバス参照又は授業時に通知する。既知の用語だけでなく、新しい健康関連の言葉・保育用語を理解しておくこと。
履修上の注意、条件等	期限内の積極的な課題レポートの提出を求める。
オフィスアワー	質問は原則、授業日に受け付ける。ICTの活用、遠隔授業で限定コメントを受け付ける。
備考・メッセージ	課題の提出日を確認すること。 健康に関するニュースなどの情報収集に努めること。 遠隔授業（配信）で行う。

授業コード：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	1年	1単位	卒業選択、幼児必修、保育士必修
担当教員			
久保寺節子			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	
添付ファイル			
2020正ループリック様式保育内容（人間関係）の指導 去.pdf			
2020正カリキュラムマップ保育内容（人間関係）の指導 去.pdf			

講義概要	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について乳幼児の姿と保育実践とを関連させて理解を深める。その上で、公立・私立幼稚園の副園長経験者である講師から、幼児の発達過程にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育の具体的な方法について学び、子どもの姿を多面的に考察し、保育を構想する方法を身に付ける。 他の科目との関連：乳幼児は総合的に生活や遊びを通して発達することから、他の領域と密接に関連する。本講座で学んだ理論を他の領域と関連づけながら具体的事例を通して理解を深める。遠隔授業（配信）で行う。	
授業計画および学習形態	第1回	授業の概略説明 ・環境との出会いと関わり合いを学び、人間関係の基礎を理解する 「私」にとっての人間関係とは 予習：保育所保育指針、幼稚園教育要領解説書に目を通しておくこと（50分程度必要） 復習：学習した範囲を振り返ること（1時間） A：多 B：多 D：中 E：あり F：あり
各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A：グループワーク B：ディスカッション C：フィールドワーク D：プレゼンテーション E：振り返り F：宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第2回	育ち合うとは何か ・子どもと保育者の関わり合いを考え、乳幼児の自己とそれを支える保育者の役割を理解する 予習：テキスト第1章を熟読すること（30分程度必要） 復習：学習した範囲を振り返ること（1時間） A：多 B：多 D：中 E：あり F：あり
	第3回	乳幼児期の発達と人間関係 ・「乳幼児と保育者の出会いと関わり」と保育者の援助について理解する 予習：テキスト第2章を熟読すること（30分程度必要） 復習：学習した範囲を振り返ること（1時間） A：多 B：多 D：中 E：あり F：あり
	第4回	子どもと保育者の関わり ・「子どもの自己主張を支える」保育者の援助について理解する 予習：テキスト第3章を熟読すること（40分程度必要） 復習：学習した範囲を振り返ること（1時間） A：多 B：多 D：中 E：あり F：あり
	第5回	遊びの中の人との関わり合い① ・「遊びの中の人との関わり合い」と保育者の援助について理解する 3歳児の事例から 予習：テキスト第4章 § 1. 2. 3を熟読すること（30分程度必要） 復習：ミニテストに備え、今まで学習した範囲を復習すること（2時間） A：多 B：多 D：中 E：あり F：あり
	第6回	遊びの中の人との関わり合い② ・「遊びの中で共有すること」と保育者の援助について理解する 4歳児の事例から ★ミニテスト実施 予習：テキスト第4章 § 4を熟読すること（30分程度必要） 復習：今まで学習した範囲及びミニテストの内容を復習する。 A：多 B：多 D：中 E：あり F：あり
	第7回	遊びの中の人との関わり合い③ ・ミニテストのフィードバック ・「遊びをつくること」と保育者の援助について理解する 5歳児の事例から 予習：ミニテストの振り返り。テキスト第4章 § 5を熟読すること（30分程度必要） 復習：学習した範囲を振り返ること（1時間） A：多 B：多 D：中 E：あり F：あり
	第8回	生活を通して育つ人との関わり合い ・「家庭や園生活を通しての人との関わり合い」と保育者の援助について理解する 予習：テキスト第5章に目を通すこと（30分程度必要） 復習：学習した範囲を振り返ること（1時間） A：多 B：多 D：中 E：あり F：あり
	第9回	個と集団の育ち① ・「一人ひとりを理解する」「個と集団の関係」の重要性和保育者の援助について理解する 予習：テキスト第6章 § 1. 2を熟読すること（30分程度必要） 復習：学習した範囲を振り返ること（1時間） A：多 B：多 D：中 E：あり F：あり
	第10回	個と集団の育ち② ・「集団で活動する楽しさ」や「協同性を育む」ことの重要性和保育者の援助について理解する

	予習：テキスト第6章 § 3, 4を熟読すること。ミニテストに備えること（30分程度必要） 復習：学習した範囲を振り返ること（1時間） A：多 B：多 D：中 E：あり F：あり 第11回 人との関わり合いを見る視点① ・「他者との信頼関係および依存と自立」と保育者の援助について理解する A：多 B：多 D：中 E：あり F：あり ★ミニテスト実施 予習：ミニテストの振り返り。テキスト第7章に目を通すこと（30分程度必要） 復習：学習した範囲を振り返ること（1時間） A：多 B：多 D：中 E：あり F：あり 第12回 人との関わり合いを見る視点② ・ミニテストのフィードバック ・「自我の発達、葛藤、集団の中での役割と責任・道徳性の芽生え」と保育者の援助について理解する 予習：テキスト第8章を熟読すること（40分程度必要） 復習：学習した範囲を振り返ること（1時間） A：多 B：多 D：中 E：あり F：あり 第13回 幼児教育の現代的課題と療育及び諸外国の保育 ・領域「人間関係」における現代的課題と療育に対する視座を諸外国（フィンランド：ネウボラ）の乳幼児教育からも考察し、理解を深める。 予習：テキスト第8章を熟読すること（40分程度必要） 復習：学習した範囲を振り返ること（1時間） A：多 B：多 D：中 E：あり F：あり 第14回 全体の振り返りを通しての今後の課題の明確化 ・「自己の課題と自学の目標」の明確化 予習：すべての授業を振り返ること（1時間） 復習：キーワードをもとに自分の学びを振り返ること（1時間） A：多 B：多 D：中 E：あり F：あり
教育目標との関連	乳幼児期教育はその後の人格形成の基盤となすということを理解し、保育者として必要な子どもや保育の内容・方法について乳幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容に関する知識、技能、態度を習得する。乳幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。また、身に付けた教育・福祉の専門知識を活かして、地域社会及び家庭においても、多様性を尊重したコミュニケーションによって人間関係をより豊かに円滑にすることができるようになる。
到達目標 カリキュラムマップ 知識・理解 1. 知 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	1. 乳幼児が人と関わる力を育む為には、保育者が重要な役割を果たすことを理解し、説明できる 3. 幼児期の遊びや生活の中で育つ人間関係の発達について、個と集団の中での育ちを観点として討論できる 5. 保育者には幼児のモデルとなる役割があるという自覚をもって、自主的・自律的に行動し、多様な他者と協調することができる 到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること。
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	提出課題：100% 毎回のミニレポートや課題の内容で評価する。
教科書	『新訂 事例で学ぶ保育内容＜領域＞人間関係』 無藤隆監修、岩立京子編者代表 2018年出版 2,200円 萌文書林
参考書	資料を適宜配布する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	各回の予習・復習は上記の通り。
履修上の注意、条件等	授業では、幼児教育と自分がどのようにつながるか、自分だったらどうするかという当事者意識をもって、参加すること。 ・シラバスの内容は、履修学生の理解度等により、変更することもあります。
オフィスアワー	・質問等に関しては、googleclassroomの限定コメントにより受け付ける
備考・メッセージ	・今年度は遠隔授業（配信）で行う。

講義科目名称： 保育内容（環境）の指導法

授業コード：

英文科目名称： Teaching Method of Contents in Early Childhood Care and Education(Enviroment)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	1年	1単位	卒業選択、幼児必修、保育士必修
担当教員			
入江和夫、入江三津子			
授業形態：演習	担当形態：複数	実務形態：なし	
添付ファイル			
2020環境の指導法ループリックカリキュラムマップ 2nd. pdf			

講義概要	現代の乳幼児を取り巻く環境や乳幼児と環境との関わりについての専門的事項を踏まえ、幼稚園教育要領等に表示された領域「環境」のねらい及び内容について理解を深める。また、乳幼児が発達段階に即して環境との関わりの中で深い学びを実現していくことを踏まえた領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育の構想、指導方法を身に付ける。 他の科目との関連では、指導法で扱う「何をどのように指導するのか」の「何を」深める「幼児と環境」と関連している。また、「自然遊びと生活環境保全I」「自然遊びと生活環境保全II」での実践的な自然体験や乳幼児の安全な生活とは何かを理解する生活環境保全と関連する。		
授業計画および学習形態	第1回	幼児教育の基本と保育内容「環境」 ー保育内容の基本的構造と領域「環境」のねらい、内容についてー 保育者の専門性を育むために、学生自らの自然体験や製作活動、飼育栽培及び指導案作成や模擬授業実践などを行う意義を理解する。 予習：幼稚園教育要領などの解説から該当する箇所を把握すること。復習：「授業の振り返り、気づき、自分なりに考えたこと」のメール提出（2時間） Eあり、Fあり	
各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第2回	子どもの発達と領域「環境」 ー乳幼児期にふさわしい環境と環境構成の実際ー 保育者の専門性を育むために、幼稚園教育要領などの各解説「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」「育みたい資質・能力」の理解を深める。 予習：各解説について該当する箇所を読み、内容を把握すること。復習：「授業の振り返り、気づき、自分なりに考えたこと」のメール提出（2時間） A少、D少、Eあり、Fあり	
	第3回	幼稚園活動DVDにおける3つの「育みたい資質・能力」 幼児の遊びや活動の事例＝幼稚園活動DVDを視聴し、幼稚園教育要領などの各解説に記載されている3つの「育みたい資質・能力及び「ねらい、内容」の関わりに関する活動を活動事例から理解する。 予習：各解説について該当する箇所を読み、内容を把握すること。復習：「授業の振り返り、気づき、自分なりに考えたこと」のメール提出（2時間） A少、D少、Eあり、Fあり	
	第4回	幼稚園活動DVDにおける「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」 幼児の遊びや活動の事例＝幼稚園活動DVDを視聴し、幼稚園教育要領などの各解説に記載されている「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」に関する活動を活動事例から理解する。 予習：該当する解説を読み、内容を把握すること。復習：「授業の振り返り、気づき、自分なりに考えたこと」のメール提出（2時間） A少、C中、Eあり、Fあり	
	第5回	自然に親しみ、植物に触れる保育の実際（計画立案） ー指導計画立案「花の栽培」ー 植物を観察、育てることで生き物への親しみと命の大切さを理解する活動計画を領域「環境」のねらい 予習：種まきの注意事項を読み、実習に役立てる。復習「授業の振り返り、気づき、自分なりに考えたこと」のメール提出（2時間） C多、D少、Eあり、Fあり	
	第6回	自然に親しみ、植物に触れる保育の実際（栽培の実践） ー模擬保育「花の栽培の実際」ー 植物の種まきを行い、生き物への親しみと命の大切さを理解するとともに領域「環境」のねらいや内容から指導方法を考え、幼稚園教育要領の「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」「資質・能力」の観点から理解を深める。 予習：該当する解説を読み、内容を把握すること。復習：「授業の振り返り、気づき、自分なりに考えたこと」のメール提出（2時間） C多、D少、Eあり、Fあり	
	第7回	教材製作・活用を通しての保育の実際（遊具製作の実践） ー実践の省察、改善「遊具製作など」 「環境」のねらいや内容から遊具などに注目し、活用を考えながら製作する。 予習：学習指導要領の該当する箇所を読み、内容を把握すること。復習：「授業の振り返り、気づき、自分なりに考えたこと」を提出（2時間） C多、Eあり、Fあり	
	第8回	標識・文字等及び数量・図形等及び生活に関係の深い情報や施設に関わる保育の実際 ー園生活や活動、遊びの中で標識、文字、情報等に触れる活動とはー 近くの公園まで歩き、標識・文字等に関わる情報に気づき、日々変化していく植物の観察や製作した遊具などを通して数量・図形への関心・感覚を豊かにできることに気づき、その意義を理解する。また、英語イメージングクラスなどの活動を参観することを通して、日本文化や異文化に触れ、その意義を理解する。 予習：該当する解説を読み、内容を把握すること。復習：「授業の振り返り、気づき、自分なり	

	第 9 回 に考えたこと」を提出（2 時間） C多、Eあり、Fあり 指導案の作成① 「幼児と環境」で製作したおもちゃを実習の「主活動」の一つとした製作遊びを扱い、それに基づいた「導入」「展開」「まとめ」の指導案を作成する。予習：配布されたを読み、特徴を把握する。 予習：該当する解説を読み、内容を把握すること。復習：「授業の振り返り、気づき、自分なりに考えたこと」を提出（2 時間） C多、Eあり、Fあり 第 10 回 指導案の作成② 作成①で完成させた指導案を持ち寄りグループ協議しながら、1 つの指導案として作り上げていく。 予習：該当する解説を読み、内容を把握すること。復習：「授業の振り返り、気づき、自分なりに考えたこと」を提出（2 時間） C多、Eあり、Fあり 第 11 回 作成した指導案の改善 作成した指導案に基づき、グループ活動によって細案の完成を目指す。 予習：該当する解説を読み、内容を把握すること。復習：「授業の振り返り、気づき、自分なりに考えたこと」を提出（2 時間） C多、Eあり、Fあり 第 12 回 模擬保育①（1 班、2 班、3 班） チームティーチングによる模擬保育を行い、全体討議による「授業のよかった点、改善すべき点」などの意見から、保育の在り方の理解を深め、指導案を改善する。 予習：該当する解説を読み、内容を把握すること。復習：「授業の振り返り、気づき、自分なりに考えたこと」を提出（2 時間） C多、Eあり、Fあり 第 13 回 模擬保育②（4 班、5 班、6 班） チームティーチングによる模擬保育を行い、全体討議による「授業のよかった点、改善すべき点」などの意見から、保育の在り方の理解を深め、指導案を改善する。 予習：該当する解説を読み、内容を把握すること。復習：「授業の振り返り、気づき、自分なりに考えたこと」を提出（2 時間） C多、Eあり、Fあり 第 14 回 保育内容「環境」の指導法に関する学習到達度テスト及び模擬保育③（6 班、7 班） 保育内容「環境」の指導法の理解度の評価を行う。またチームティーチングによる模擬保育を行い、全体討議による「授業のよかった点、改善すべき点」などの意見から、保育の在り方の理解を深め、指導案を改善する。 予習：該当する解説を読み、内容を把握すること。復習：「授業の振り返り、気づき、自分なりに考えたこと」を提出（2 時間） C多、Eあり、Fあり 第 15 回 学びの振り返り、模擬保育③（8 班、9 班）及び環境に関わる現代的課題 この授業の理解度の評価を学生にフィードバックする。またチームティーチングによる模擬保育を行い、全体討議による「授業のよかった点、改善すべき点」などの意見から、保育の在り方の理解を深め、指導案を改善する。またESDやインクルーシブ保育についても概観する。 予習：該当する解説を読み、内容を把握すること。復習：「授業の振り返り、気づき、自分なりに考えたこと」を提出（2 時間） C多、Eあり、Fあり
教育目標との関連	幼児期の日常生活や遊びを通して探求する心を援助できるような模擬体験を行うことで、豊かな感性を育むとともに模擬保育の実践を通して指導力を身に付けることを目指す。
到達目標 カリキュラムマップ	1 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園 教育・保育要領における領域「環境」のねらいや内容を理解し、説明できる。 2 自然体験、おもちゃ製作、栽培体験などを通して、保育活動場面で子どもの反応を考えながら、どのような指導法が適切なのかを考えることができる。 3 指導案の立案及びそれに基づいたTeam Teachingによる模擬保育の実践技能を修得し、よりよい保育とは何かを示した改善指導案として表現できる。 到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること。
評価方法および評価基準	①期末試験では授業内容全般についての理解度を評価する（85%）。 ②毎回の授業の振り返りとしてclassroom等による「感想及びわかったこと」（200字以上）を提出する（15%）。 評価基準は添付資料のルーブリックを参照すること。
教科書	保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（以下、各解説）
参考書	授業ごとに資料などを配布する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	各回の予習、復習は上記の通り
履修上の注意、条件等	授業の振り返り「わかったこと&感想」についてはメール提出
オフィスアワー	入江研究室で受け付ける。時間は研究室前に掲示する。
備考・メッセージ	保育者になる意識で授業に参加しましょう。

講義科目名称： 保育内容（健康）の指導法

授業コード：

英文科目名称： Childcare Content Health Guidance Method

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	2年	1単位	卒業選択、幼免必修、保育士必修
担当教員			
尾近千鶴 二階堂あき子			
授業形態：演習	担当形態：オムニバス	実務経験：あり	
添付ファイル			
保育内容（健康）の指導法2020.pdf			

講義概要	乳幼児が成長とともに「自ら健康な心と体を育て、安全な生活を作り出す力を養う」ため、発育発達の基本を踏まえ適切な援助方法を学ぶ。学生は自らの健康管理を振り返る視点を持ち、保育者として子どもに対する心身の健康と安全についての理解を深める。 教科書や参考資料、刊行物をもとに、子どもの健康の特性について知識を得る。グローバルな視点から国内外の子どもの健康に関する課題、昨今の感染症問題、保育実践などについて、グループワークや課題レポートに取り組み保育構想の向上に努める。 他の科目との関連：1年次に学ぶ「子どもの保健」をもとに演習を進める。「子どもの健康と安全」、「幼児と健康」、「体育実技」、「体育理論」、「実習に関する科目」の基礎知識として本科目の教育内容・方法を学び、実習に備える。 担当教員1：「国内」幼稚園・保育園併設の施設で子どもの保健活動、及び医療・福祉機関で心身の健康への支援に携わった経験を持つ。 「国外」初等教育機関で教員として、また、福祉関連施設でvolunteerの経験を持つ。 担当教員2：キッズヨガ、障碍児のエアロビクスやダンスなども、都内の各地域の特殊学校等で6年間担当していた。 現在、大田区の福祉や保育の関係者に、ストレッチ体操などを指導、親子ヨガやキッズボディーコーディネーション資格の講師も勤める。		
授業計画および学習形態	各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A: グループワーク B: ディスカッション C: フィールドワーク D: プレゼンテーション E: 振り返り F: 宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。		
第1回	オリエンテーション 保育内容（健康）の概要について 尾近 授業の進め方と、授業の評価方法の説明をする。オムニバス形式とする。 「子どもの健康な育ちを保障する」幼稚園や保育園のガイドラインを理解する。 予習、復習：シラバスを読んでおき、教科書第1章を読んで関係参考書を見ておくこと。 レポート：教科書pp. 57-59の「やってみよう 睡眠リズムの獲得作戦」を参考にして自分の睡眠について考えて実践記録を付け始めること。（約2時間）提出日は追って案内する。 B: 少		
第2回	生涯の各時期の健康観 子どもの特徴 尾近 「健康な子ども、元気な子どもの姿とは」子どもの体の特徴と保育の視点を学ぶ。 予習、復習：教科書第1章と第2章を復習し、第3章を読んでおくこと。 宿題：教科書p. 38「やってみよう」教科書pp. 57-59の「やってみよう 睡眠リズムの獲得作戦」を参考にして自分の睡眠について考えて実践記録を引き続きつける。（約2時間） B: 少 F: あり		
第3回	健康課題 現代の生活様式 尾近 「子どもの全面発達と現代っ子の健康問題」を考え、話し合う。 予習・復習：教科書第3章を復習し、第4章を読んでおくこと。 宿題：教科書pp. 50-52「やってみよう」教科書pp. 57-59「睡眠リズムの獲得作戦」の自分の実践記録を引き続きつけておく。（約2時間） A: 中 B: 中 D: 少 F: あり		
第4回	生理的発達の保障 活動と休息のバランス 尾近 「生活リズムの獲得」について、人の睡眠と様々な法則について理解する。 予習、復習：教科書第4章を復習し、第5章を読んでおくこと。 教科書pp. 57-59「睡眠リズムの獲得作戦」の自分の実践記録をまとめておく。（約2時間） B: 少 D: 少 E: あり		
第5回	恒温の獲得 人が最も活動しやすい体温 尾近 「恒温獲得のすずめと、恒温動物について」その事例と方法を知る。 予習、復習：教科書第5章を復習し、6章を読んでおく。 宿題：教科書p. 70をみて五感について器官と名称を覚えてくる。五感の獲得のために何ができるかを考えてくる。（約2時間） B: 少 E: あり F: あり		
第6回	五感を育む 体験による発達 尾近 「五感」とは？「五感を獲得するために」様々な事例と工夫を学ぶ。 五感を育む遊びを考える。 予習、復習：教科書第6章を復習し、第7章を読んでおく。また、第10章を読んで安全について考えておく。（約2時間） A: 少 B: 少 D: 少 E: あり		
第7回	心身の発達 子どもと大人 尾近 「未熟から成熟への発達の概要とその援助」について理解し、心と体の関係を話し合う。 冒険・安全について考える。 宿題：安全のためのパフォーマンスを考えておく。（教材探しについて） 予習、復習：教科書第7章を復習し、第8章を読んでおく。第10章と第11章を読んでおく。（約2時間） A: 少 B: 少 F: あり		
第8回	安全管理と教育 尾近 子どもの視点に立った安全生活の保障①安全教育について学ぶ。 予想される子どもの姿とは（指導案について）		

	第9回 予習、復習：教科書第10～11章を復習し、第12章を読んでおく。（約2時間） A:中 E:あり 協応動作とは 二階堂 「子どもの運動発達の保障と体力」について学ぶ。（運動遊びの援助と指導）模擬保育園児への安全対策の伝え方を考える。（教材について） 予習、復習：教科書第8章を復習し、第9章を読んでおく。第10章と第11章を引き続き参考にし、見本演技を準備する。（約2時間） E:有 F:有 第10回 概念形成とは 二階堂 「脳の発達と概念の獲得」について脳が育つための条件を学び、心の体の結びつきを考える。模擬保育園児への安全マニュアルのプレゼンテーションの作成（実践について） 予習、復習：教科書第9章を復習し、第10章、第11章までの流れを理解して見本演技ができるようにしておく。（約2時間） C:多 D:多 E:有 F:有 第11回 基本的生活習慣 二階堂 「基本的生活習慣の保障」と身の自立と援助について理解する。模擬保育園児への安全マニュアルの発表（日誌について） 予習、復習：教科書第10章を復習し、第11章を理解する。実習日誌と指導案に関する参考文献を読んでおく。（約2時間） C:多 D:多 E:あり F:有 第12回 リスクとハザード 二階堂 「子どもの視点に立った安全生活の保障」②リスクの見極めとハザードの除去について考える。身近な危険探しワーク（教材研究について） 課題（観察）のフィードバック 予習・復習：安全教育と観察についてまとめておき復習とする。教科書第13章を読んで行事の遊びについて考えておく。（約2時間） D:中 E:あり F:あり 第13回 遊びのとらえ方 二階堂 「子どもの育ちと遊びの保障」「食文化」「年間行事」を通して遊びについて理解する。日本文化を考えよう（図書館検索ワーク） 予習、復習：教科書第13章を復習し、第14章と第15章を読んで配布プリントを整理しておく。 C:中 E:あり 第14回 子供の健康を支える 児童期を見据えた支援 尾近 保育内容「健康」を理解するために、実践的に考える。 これまでの授業のまとめ 予習、復習：教科書を復習する。配布プリントを整理しておく。 B:少 D:少 E:あり 第15回 授業のまとめ 振り返り 尾近 保育内容「健康」大人から子どもへつなぐ健康の視点 全面発達の保証 子どもにかかわる大人の役割、保育者の役割 B:少 E:あり
教育目標との関連	幼稚園教育要領及び保育所保育指針に於ける、心身の健康に関する領域「健康」に示された観点から、乳幼児期の健康教育の理論と実践を理解する。、教職員として自身の心身の健康を維持増進することにより子どもの発育発達に応じ健康面に関する保育計画を立案し、児童期を見据えた支援を行えるようになることを目指す。また、子どもが他者及び多様性を尊重し協力・協働を図れるように指導できることを目指す。
到達目標 カリキュラムマップ 識・理解 1. 知 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	1. 子どもの心身の基礎的健康に関わる領域と意義について理解できる。 2. 子どもの発育発達段階において必要な知識の修得に努める。 3. 子どもの「健康」増進を図るため創意工夫し技能の向上を目指すことができる。 4. 子どもの「健康」に関心をもち、グローバルな視野を持ち、現状の問題点とその対策を考えることができる。 5. 自らの「健康」を管理し、子どもの全面発達の保証という保育者の役割を目指すことができる。 到達目標は、添付資料のカリキュラムマップを参照のこと。
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	提出課題 50% 各担当教員から授業内に提出課題の内容について説明あり。 受講態度 25% 授業内での個人の積極的な参加及び発表 実技発表 25% グループ活動やディスカッションでの発表内容 評価基準は添付資料のルーブリックを参照のこと。
教科書	『演習 保育内容 健康 ー大人から子どもへつなぐ健康の視点』 井狩 芳子著 萌文書林 第2版第1刷発行 2018年 1800円＋税
参考書	『幼稚園教育要領解説』文部科学省 『保育所保育指針解説』厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府他 共にフレーベル館 その他 参考URLなどは授業中に提示する。
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	シラバス参照又は授業時に通知する。既知の用語だけでなく、新しい健康関連の言葉・保育用語を理解しておくこと。
履修上の注意、条件等	積極的な授業参加及びディスカッション、課題レポートの提出を求める。
オフィスアワー	それぞれの教員に対し、授業前後に教室または研究室で質問などを受け付ける。
備考・メッセージ	子どもの健康を守るための指導法に関連する情報を収集しておくこと。 掲示板や参考URL等をよく見ておき、課題の発表日及び提出日を確認すること。

講義科目名称： 教育原理

授業コード：

英文科目名称： Principles of Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	1年	2単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
百瀬和男			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	
添付ファイル			
2020 教育原理.pdf			

講義概要	教育の基本的概念を学ぶ。また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて知る（乳児期の教育の特性を含む。）。教育及び学校の営みがどのように行われ、変遷してきたかを理解する。また、教育制度、教育法規、教育行政の基本（教育行政学）についても取り上げていく。 担当教員は小学校、中学校、高等学校のほか幼稚園においても訓練を受けてきた。その経験を生かし、自らの専門である教育原理について生きた講義を実施する。本学はキリスト教主義を建学の精神としているので、それについても解説していく。教養を高め、他の人格を尊重する精神を養っていく。		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの割合を明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回	教育の理念① 教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解する。 B:少 F:あり（復習1時間）	
	第2回	教育の理念② 教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標を理解する。 B:少 E:あり F:あり（復習1時間）	
	第3回	教育の理念③ 子供・教員・家庭・学校など教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係を理解する。 F:あり⇒第1回から第3回の授業の要点をまとめておく。（2時間） B:少 E:あり	
	第4回	教育の歴史① 教育の歴史に関する基本的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解する。 B:少 E:あり F:あり（復習0.5時間）	
	第5回	教育の歴史② 家族と社会による教育の歴史を理解する。 B:少 E:あり F:あり（復習0.5時間）	
	第6回	教育の歴史③ 近代教育制度の成立と展開を理解する。 B:少 E:あり F:あり（復習0.5時間）	
	第7回	教育の歴史④ 現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解する。 F:あり⇒第4回から第7回の授業の要点をまとめておく。（2時間） B:少 E:あり	
	第8回	教育の思想① 教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解する。 B:少 E:あり F:あり（復習0.5時間）	
	第9回	教育の思想② 家庭や子供に関わる教育の思想を理解する。 B:少 E:あり F:あり（復習0.5時間）	
	第10回	教育の思想③ 学校や学習に関わる教育の思想を理解する。 E:あり F:あり（復習0.5時間）	
	第11回	教育の思想④ 代表的な教育家の思想を理解する。 F:あり⇒第8回から第11回の教育の思想についてその変遷をまとめておく。（2時間） B:少 E:あり	
	第12回	教育に関する社会的・制度的・経営的事項 現代の学校教育に関する社会的、制度的又は経営的事項のいずれかについて、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。 B:少 E:あり F:あり（復習0.5時間）	
	第13回	学校と地域との連携及び学校安全への対応 学校と地域との関連に関する基本を理解し、学校の管理下で起こる事件、事故及び災害の実情を踏まえて、学校保健安全法に基づく、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取組を理解する。 F:あり⇒第12回から第13回の授業内容に基づき、学校現場で想定される出来事をまとめておく。（2時間） B:中 E:あり	
	第14回	幼稚園教育 本学が国際こども教育学科を設置し、幼稚園教諭二種免許状、保育士資格、外国のアシスタント保育士の資格などを得られる教育機関であることに留意する。 A:少 B:少 E:あり F:あり（復習0.5時間）	

	第15回 まとめ アクティブラーニングの手法を用いて、討論・質疑・ノートの見直しを含めた講義の振り返りを行う。 A：中 B：中 E：あり
教育目標との関連	幼児期における教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであることを知り、幼児教育に関する専門知識と技術を修得する。
到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	1. 幼児期における教育は生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであることを認識し、教育の理念、思想について理解している。 2. 幼稚園教育をはじめ乳幼児教育全般についての制度の相違と共通性を理解しつつ、教育の本質について問題意識を持つことができる。 到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること。
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	■提出物 50% （提出物の評価はルーブリックで示す） ■授業態度 50% 評価基準は添付資料のルーブリックを参照すること。
教科書	『幼稚園教育要領解説』 著作権所有 文部科学省 フレーベル館 本体240円+税
参考書	NEW TESTAMENT （贈呈 ）
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	事前にテキストを熟読しておくこと。
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	月曜日の午前中以外は研究室にて質問を受けつける。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 保育内容（言葉）の指導法

授業コード：

英文科目名称： Teaching Method of Contents in Early Childhood Care and Education(Language)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期/後学期	2年	1単位	卒業選択 幼免必修 保育士必修
担当教員			
相澤京子			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：なし	
添付ファイル			
保育内容（言葉）の指導法2020. pdf			

講義概要	乳幼児の言葉に関する現状や課題を踏まえた上で、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。その上で、乳幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。 他の科目との関連：「幼児と言葉」で学んだ理論を本演習では具体的な保育場面につなげていく。また、総合的に保育内容を理解するためにあ、他の領域に関する科目もそれぞれに関連している。		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回	オリエンテーションー保育における「言葉」とは何か シラバスを用いて、本講義のねらいと内容、及び受講上の注意と約束について説明を受ける。 領域「言葉」のねらい及び内容を学ぶ。 予習：シラバスをよく読み、科目の全体像を把握しておく。（約30分） 復習：テキストpp25-35を読んでおく。（約1時間） E:あり F:あり 育みたい資質・能力と領域「言葉」との関係 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と領域「言葉」との関係性を理解する。 復習：テキストpp35-37を読んでおく。（約1時間） E:あり 子どもの言葉の発達過程① 実習での体験を踏まえ、子どもの言葉の発達過程についてまとめる。 予習：「幼児と言葉」のノート・プリントを見直す。（約1時間） E:あり 子どもの言葉の発達過程② 子どもの言葉の発達過程を踏まえ、生活に必要な言葉の習得について理解する。 予習：「幼児と言葉」のノート・プリントを見直す。（約1時間） E:あり 言葉を育む環境構成と保育者の援助① 子どもが話したい、聞きたいという意欲を生み出す援助方法を学ぶ。 復習：テキストpp63-66を読んでおく。（約1時間） B:少 言葉を育む環境構成と保育者の援助② 言葉がうまく伝わらないもどかしさに対する援助方法を学ぶ。 復習：テキストpp66-70を読んでおく。（約1時間） B:少 言葉を育む環境構成と保育者の援助③ 文字などで伝える楽しさを生み出す援助方法を学ぶ。 復習：テキストpp70-74を読んでおく。（約1時間） B:少 言葉を育む環境構成と保育者の援助④ 言葉に関して特別な配慮が必要な子どもへの援助方法を学ぶ。 復習：テキストpp75-86を読んでおく。（約1時間） 言葉を育む環境構成と保育者の援助⑤ 外国にルーツのある子どもへの援助方法を学ぶ。 復習：テキストpp75-86を読んでおく。（約1時間） 子どもの言葉を豊かにする児童文化財 絵本や紙芝居などの児童文化財の保育の中での活用方法を学ぶ。 復習：授業で紹介された絵本や紙芝居を読んでみる。（約1時間） B:中 言葉に対する感覚を豊かにする実践 言葉遊びを実際に行うとともに、保育の中での活用方法を学ぶ。 復習：授業で扱った以外の言葉遊びを実践する。（約1時間） A:多 子どもの言葉を育む保育の構想と実践① 指導案作成に向けて、教材研究を行う。 復習：教材研究の不足分を補っておく。（約1時間） A:多 子どもの言葉を育む保育の構想と実践② 子どもの言葉を育むための具体的な保育場面を想定した指導案を作成する。 予習：指導案の基本的な書き方について確認しておく。（約1時間） 復習：作成した指導案を見直しておくこと（約1時間） A:多 まとめー振り返りと今後の課題	

	授業についての総括を行うとともに、各自の学習到達度について振り返りを行い、今後の学習課題を明確にする。 復習：明確になった学習課題について振り返ること。（約1時間） E:あり
教育目標との関連	乳幼児の言葉を育む保育者の援助を理解し、具体的な指導場面を想定した保育を構想することは、保育者としての確かな知識を実践的な技能に結びつけることになる。
到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	DP1. 領域「言葉」のねらい及び内容を理解し、説明できる DP1. 乳幼児の言葉を育む環境構成と保育者の援助についての基礎的な知識を理解し、説明できる DP3. 乳幼児の発達や学びの過程を理解した上で、領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想できる DP4. 言葉に対して関心をもち、自身の言葉の力を高めようとすることができる 到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること。
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	レポート 40% ・授業内容全般を理解し、自分の言葉で説明できているかを評価する 提出課題 60% ・授業内で行う課題に対する取り組みを評価する 評価基準は添付資料のルーブリックを参照すること。
教科書	『保育者をめざす人の保育内容「言葉」第2版』（駒井美智子編、みらい）定価2,200円（税込） 『幼稚園教育要領解説』（平成29年3月告示 文部科学省） 『保育所保育指針解説』（平成29年4月告示 厚生労働省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）
参考書	授業中に指示する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	各回の準備学習は上記の通りである。その他にも、絵本や紙芝居などの児童文化財に接する機会を多く持つこと。
履修上の注意、条件等	シラバスの内容は、履修学生の理解度等により変更の可能性もある。
オフィスアワー	103研究室で受け付ける。時間は研究室に掲示する。遠隔授業においてはGoogle Classroomの限定コメントで受け付ける。
備考・メッセージ	遠隔授業（配信）で行う。

講義科目名称： 保育内容（表現）の指導法Ⅰ

授業コード：

英文科目名称： Teaching Method of Contents in Childhood Care and Education (Representaion)Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	2年生	1単位	卒業選択、幼免必修、保育士必修
担当教員			
二階堂あき子 高島扶貴 大見由香 富金原光秀			
授業形態：演習	担当形態：オムニバス	実務経験：全員有（講義概要欄参照）	
添付ファイル			
表現の指導法Ⅰカリキュラムマップ.pdf			
表現の指導法Ⅰルーブリック.pdf			

講義概要	保育内容を総合的に捉え各領域との関わりから、表現活動を中心に乳幼児に即した展開や指導方法を学ぶ。 身体的・音的・物的・時間空間的認識から五感へと、全ての環境資源を利用して、表現活動の特徴や面白さを確認し、乳幼児に指導するための、構想・計画・実践を身に付ける。 各教員の経験からくる「暗黙知（プロの技）」から、学生自身の啓発及び、感性を刺激することで、学生自身が子どものよき表現するモデルとなれることを目指す。 当該科目は、保育の他領域「幼児と言葉」、「幼児と健康」、「幼児と人間関係」、「幼児と環境」と重なり関連する。表現は、他領域を「表現」することに深く結びついているからである。 当該科目は、「幼児と表現」を基本として、「表現の指導法Ⅱ」に繋がる重要な科目である。 また、担当教員の担当する科目である音楽表現（器楽、声楽）、造形表現、身体表現なども深く関連する。 遠隔授業（配信）で行う 100分授業×14回授業 大見先生の実務経験 授業担当者はインターナショナルスクールや多国籍クワイヤーの指導経験がある。 海外の合唱曲とその民族・文化的背景や英語による歌唱のポイントや表現法をなじみやすい方法で紹介できる。 高島先生の実務経験 都内公立保育所、私立小学校において保育士、小学校教諭の立場で 18年 にわたり表現及び音楽科を担当した指導歴をもっている。 富金原先生の実務経験 担当講師は保育所や幼稚園での製作活動や子育て支援事業、東京おもちゃ美術館等、体験授業やフィールドワークを行っている。 それら現場経験を交えて保育においてアートが幼児期の発達や造形の役割について実践的に考察・検証する。 二階堂先生の実務経験 モダンダンス、ジャズダンス、舞踊創作の指導者として、35年以上の経験があり、また、親子体操・ダンス、キッズヨガ、障碍児のエアロビクスやダンスなども、都内の各地域の特殊学校等で担当していた。 短大、バレエスタジオや地域のサークル活動にて、ダンス創作法やストレッチ方法などを指導中。		
授業計画および学習形態	各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。		
	第1回	オリエンテーション① 二階堂 担当教員の紹介 領域「表現」と当該科目の概要について 乳幼児とアート① 専門用語を知る F:あり	
	第2回	オリエンテーション② 創作法入門二階堂 前回の復習 乳幼児とアート② 専門用語の理解 貫通表現（モチーフ）を理解して、探し出す （ICTを含めた対象・使用法の子どもへの導入方法を探索する） E:あり、F:あり	
	第3回	基礎とマインドセット 音楽表現① 大見 音の素材① 半音と半音階 音には音色、音程、リズムなど様々な要素がある中、半音という音程に焦点を当て、半音を使ってどんな響きが生まれるのか、それをモチーフにして使用するとどのようなイメージが展開されるのか、実際に音を聞いてイメージを表現する。作曲や効果音を作る際に役立てるとともに、子どもが音から持つイメージを大切にすることを養う。 E:あり、F:あり	
	第4回	表現事例から方法へ 音楽表現② 大見 音の素材② 曲ができるまで Yちゃんの例 ある小学生が作った曲から、どのようにしてその曲が作られていったのかプロセスを見て、一つの方法として曲作りのヒントにする。やさいをテーマに歌詞を作成し、うたを作ってみる。 E:あり、F:あり	
	第5回	表現の展開方法 高島	

多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第6回 作曲入門①琉球音階 創作に必要な制約について理解する。琉球民謡から音階を抽出し、制約の一つとして琉球音階を使用して音楽づくりを試みる。 ICTを活用した創作を行う。 E：あり F：あり ミニマルな表現と表現の可視化 高畠 (各表現分野の理解及び五感を拓く総合活動) 作曲入門② ミニマルミュージックを作曲してみよう 音楽におけるモチーフについて理解をし、ミニマルミュージックの音楽づくりを試みる。テキストのない音楽表現を可視化する身体表現について理解する。 ICTを活用した創作を行う。 E：あり F：あり 第7回 表現の探索方法① 造形表現① 富金原 造形的思考の道筋 I E：あり、F：あり ITやAIが進展する現代社会時代に、私たち人間にとって付加価値をもった表現力を備える子どもたちや我々メンバーを目指す。皆さんにはこれからの変化の時代に自覚的になってもらい、作品(遊び)「オリジナリティ」をもった遊びを具体化する。(映像、画像で提出する) E：あり、F：あり 第8回 表現の探索方法② 造形表現② 富金原 表現と身体・教材(造形事例(1)と(2))あり F_あり E：あり、F：あり 提出された画像や映像を観察し、各作品の評価や価値について検討する。 E：あり、F：あり 第9回 表現技法について 二階堂 (表現の認知段階、対象物・使用方法や、方法論の解説) 身体表現の基礎(昔話と遊びの表彰からみえるもの) 各分野のゼミに別れる手順の説明 E：あり、F：あり 第10回 音楽 造形 身体での表現の展開方法② 大見・高畠・富金原・二階堂 (創作活動から表現の組み立て、身近な物の応用) A：中 E：あり、F：あり 第11回 音楽 造形 身体での表現の発展方法① 大見・高畠・富金原・二階堂 (表現の発展方法の変化・変容・拡張(グループ、または個人の創作活動)) A：中 E：あり、F：あり 第12回 音楽 造形 身体での表現の発展方法② 大見・高畠・富金原・二階堂 各分野内発表(実技テスト)(発想を豊かにする個人創作の発展方法 または、協同創作の方法、子どもへの活用方法と場面を探る) A：中 E：あり、F：あり 第13回 模擬保育に向けた表現の指導方法 大見・高畠・富金原・二階堂 学年発表(選別グループによる)(指導方法のまとめ、プレゼンテーション) B：中 E：あり、F：あり 第14回 振り返りと評価法 大見・高畠・富金原・二階堂 乳幼児の表現活動分野の広がり、評価方法・後学期についてディスカッション) B：中 E：あり、F：あり
教育目標との関連	(1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。 1) 幼稚園教育の基本と領域「表現」のねらいや内容を包括的に理解している。 2) 領域「表現」を乳幼児の発育・発達に応じて、指導の留意点を理解している。 3) 幼稚園教育の評価の考え方を理解している。 4) 領域「表現」における「接続期」の課題を理解している。 (2) 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。 1) 身体表現、造形表現、言語表現、音楽表現、環境に関わる表現等の活動に必要な指導技術や知識を理解している。 2) 自身の表現力や感性を養い、乳幼児の「表現」援助に必要な情報機器及び教材の活用法を理解し、指導力の改善や向上の必要性を理解している。 3) 協同により自身の特性を理解し、表現における創意工夫を身につける。 4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につける。 5) 子どもが主体的・対話的に表現することの意味を理解して、保育環境をより向上させる構想力に取り組むことができる。
到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	3. 子どもの遊びを豊かに展開するために「表現」領域の内容や知識を修得できる。 2. 自身の得手不得手を自覚し、創意工夫により思考し、力量形成している。 2. 子どもが主体的に表現することの意味を理解し、判断してその環境作りに協力できる。 到達目標は添付資料のカリキュラムマップ参照のこと。
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	1、テスト及び主体的・対話的・協調性などの授業態度を評価する(各担当教員による40%) 2、発表及び課題提出を評価する(各担当教員による60%) *欠席等の取り扱いは、『学生ハンドブック』の履修要項に準ずる。 評価基準は添付資料のルーブリックを参照のこと。
教科書	テキスト プリントを適宜、配布する 『Work Book 幼児と表現 ～保育者を目指して～』大見 由香、高畠 扶貴、二階堂 あき子、富金原 光秀 著 出版社：NextPublishing Authors Press 2019年 600円 『幼稚園教育要領』文部科学省 240円(税別) 『保育所保育指針』厚生労働省320円(税別) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府他 385円 共にフレーベル館

参考書	『生活事例からはじめる 一保育内容― 表現』 徳安敦・関口明子編著 青踏社 1,900円＋税
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	事前事後学習は、詳しくは、各教員が授業内で示す
履修上の注意、条件等	実践的演習なので、学生主体の授業展開になる。そのため各自が積極的な授業参加することが評価の対象となる。
オフィスアワー	質問等に関しては、googleclassroomの限定コメントにより受け付ける
備考・メッセージ	掲示板や参考URL等を良く見ておき、発表日や提出日を忘れないようにする。 締め切り過ぎたら不受理とする。進度調整有。 二階堂担当部分に関しては、http://felicia000.blogspot.com/ に授業スライドを提示する。 今年は遠隔授業のためアクティブラーニング度はこの通りではない。 1回目から14回目は遠隔授業（配信）

講義科目名称： 保育内容（表現）の指導法Ⅱ

授業コード：

英文科目名称： Teaching Method of Contents in Childhood Care and Education (Representaion)Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	2年生	1単位	卒業選択、幼免必修、保育士必修
担当教員			
二階堂あき子 大見由香 高島扶貴 富金原光秀			
授業形態：演習	担当形態：オムニバス	実務経験：全員有（講義概要欄参照）	
添付ファイル			
表現の指導法Ⅱカリキュラムマップ.pdf			
表現の指導法Ⅱルーブリック.pdf			

講義概要	乳幼児期に於ける育みたい資質や能力を理解し、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領にある内容を表現と関連して理解を深める。 乳幼児期の発達を踏まえて、援助・指導できる実践的な場面を想定して、乳幼児の主体性を鑑みて保育構想を立案する方法を身に付ける。 当該科目は、保育の他領域「幼児と言葉」、「幼児と健康」、「幼児と人間関係」、「幼児と環境」と重なり関連する。表現は、他領域を「表現」することに深く結びついているからである。 「幼児と表現」を基本として、「表現の指導法Ⅰ」から総括に繋がる重要な科目である。 これまで「表現の指導法Ⅰ」で学んだノウハウを、学生が主体となり1つの上演作品を作りあげる活動を行うことで、実践的な活用ができるようになることを目的としている。 関連科目は、5領域と実習に関する科目全てとなる。 遠隔授業（配信）で行う。 100分授業×14回授業 大見先生の実務経験 授業担当者はインターナショナルスクールや多国籍クワイヤーの指導経験がある。 海外の合唱曲とその民族・文化的背景や英語による歌唱のポイントや表現法をなじみやすい方法で紹介できる。 高島先生の実務経験 都内公立保育所、私立小学校において保育士、小学校教諭の立場で18年にわたり表現及び音楽科を担当した指導歴をもっている。 富金原先生の実務経験 担当講師は保育所や幼稚園での製作活動や子育て支援事業、東京おもちゃ美術館等、体験授業やフィールドワークを行っている。 それら現場経験を交えて保育においてアートが幼児期の発達や造形の役割について実践的に考察・検証する。 二階堂先生の実務経験 モダンダンス、ジャズダンス、舞踊創作の指導者として、35年以上の経験があり、また、親子体操・ダンス、キッズヨガ、障碍児のエアロビクスやダンスなども、都内の各地域の特殊学校等で担当していた。 短大、バレエスタジオや地域のサークル活動にて、ダンス創作法やストレッチ方法などを指導中。		
授業計画および学習形態	各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示 第1回 オリエンテーション① 合同 二階堂（大見・高島・富金原） 後期シラバスの解説、各ゼミの後期の説明 防衛対策ミッション（課題1） 領域「表現」のねらいから指導方法を考え、各自の課題を設定する（課題2） A:小 B:中 E:あり F:あり 第2回 担当ゼミ① 表現の各領域について 大見・高島・富金原・二階堂 前回の復習から、各自の構想と協同学習を設定し、模擬保育を計画する 課題作品の練習 E:あり F:あり 第3回 担当ゼミ② 表現と協同遊び 大見・高島・富金原・二階堂 (ICTを含めた遊びから組み立てる表現、グループ活動) 乳幼児とアート 構想・構成と主題（テーマ）について E:あり F:あり 第4回 担当ゼミ③ 表現とイメージネーション 大見・高島・富金原・二階堂 ゼミ内のまとめ、5回目の自作品コンペに備える（子どもの想像力を促すための表現方法） D:多 E:あり、F:あり 第5回 表現とコミュニケーション クラス単位 二階堂（大見・高島・富金原） 自作品の紹介 グループ活動について（子どもの発想力を促すための対話と援助） 身体を使った活動的な遊びから表象を感じ取る。記録方法（ドキュメンテーションとポートフォリオ） 第6回 A:小 B:中 E:あり、F:あり 表現と接続期 クラス単位 高島（大見・富金原・二階堂） （「小1プロブレム」から幼児期と小学校教育の連続性を考える）		

しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第7回 E：あり、F：あり インクルーシブ保育と表現の可能性 クラス単位 富金原 （大見・高島・二階堂） インクルーシブ保育と表現の可能性 （各領域との関連性を考える、ディスカッション） クラス分けの説明 E：あり、F：あり 第8回 模擬保育① 発表準備 クラス単位 大見 （高島・富金原・二階堂） 各国の芸術教育の事情（子どもの動機を整理する、表現構想） 発表準備① A：多 E：あり、F：あり 第9回 模擬保育② 中間発表と推敲 クラス単位 （大見・高島・富金原・二階堂） （子どもの思いを形にする、指導案作成方法） A：多 E：あり、F：あり 第10回 模擬保育③ 発表準備 クラス単位 （大見・高島・富金原・二階堂） （子どもの発見を反映する、指導案の修正） A：多 E：あり、F：あり 第11回 模擬保育④ 合同発表 クラス単位 大見・高島・富金原・二階堂 （展示・発表方法：クリスマス会 劇あそび上演 インスタレーション） 実技テストとしての評価対象 A：多 E：あり、F：あり 第12回 模擬保育の振り返り 大見・高島・富金原・二階堂 （園の評価方法 統合芸術(Integrated Arts)の視点） B：中 E：あり、F：あり 第13回 保育の向上を目指して① 合同 大見・高島・富金原・二階堂 保育の表現と評価方法 （課題説明 ドキュメンテーションとポートフォリオ作成方法のまとめ）提出物が評価対象 E：あり、F：あり 第14回 保育の向上を目指して② 大見・高島・富金原・二階堂 まとめと振り返り （ドキュメンテーションとポートフォリオの用法）提出物が評価対象 （ポートフォリオ等の修正・整理と、成績評価方法と実技演習を含む） E：あり
教育目標との関連	（1） 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領におけるねらいと内容を理解する。 1) 幼稚園教育の基本と領域「表現」のねらいや内容を包括的に理解している。 2) 幼稚園教育要領のねらいから、各領域と領域「表現」の関連性を理解して指導上の留意点を理解している。 3) 幼稚園教育における評価を理解している。 4) 小学校を意識して、なだらかな「接続期」を目指して保育内容を構想することを身に付ける。 （2） 乳幼児の発達や学びを理解して、領域「表現」に関わる指導法を構想し、保育内容の向上に努めることができる。 1) 領域「表現」の指導上の留意点を乳幼児の発達や学びの過程において理解できる。 2) 自身の表現力や感性を養い、乳幼児の「表現」指導・援助に必要な情報機器及び教材の活用法を理解し、指導力の改善や向上の必要性を理解している。 3) 協同により自身の特性を理解し、表現における創意工夫を身に付ける。 4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。 5) 子どもが主体的に表現することの意義を理解して、保育環境をより向上させる構想力に取り組むことができる。
到達目標 カリキュラムマップ	3. 身体表現、造形的表現、言語表現、音楽表現等の表現活動に必要な技術や知識を習得する。 5. 子どもの「表現」援助に必要な指導力の向上を目指して、個性や現状に応じた表現を実践できる。 5. 子どもが主体的に表現することの意味を理解し、判断してその環境作りに協力できる。 到達目標は添付資料のカリキュラムマップ参照のこと。
評価方法および評価基準	1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準 1、課題提出及び主体的・対話的・協調性などの授業態度を評価する（各担当教員による40%） 2、発表及び課題提出を評価する（各担当教員による60%） *欠席等の取り扱いは、『学生ハンドブック』の履修要項に準ずる。 評価基準は添付資料のルーブリックを参照のこと。
教科書	テキスト プリントを適宜、配布する 『Work Book 幼児と表現 ～保育者を目指して～』大見 由香，高島 扶貴，二階堂 あき子，富金原 光秀 著 出版社：NextPublishing Authors Press 600円 『幼稚園教育要領』文部科学省 240円(税別) 『保育所保育指針』厚生労働省320円(税別) 『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領』内閣府他 385円 共にフレーベル館
参考書	参考書・参考資料等 『生活事例からはじめる 一保育内容— 表現』徳安敦・関口明子編著 青踏社 1,900円＋税
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	事前事後学習は、詳しくは、各教員が授業内で示す
履修上の注意、条件等	実践的演習なので、学生主体の授業展開になる。そのため各自が積極的な授業参加することが評価の対象となる。

オフィスアワー	質問等に関しては、googleclassroomの限定コメントにより受け付ける
備考・メッセージ	1回から14回の内 遠隔授業（配信）、遠隔授業（面接）、面接授業のいずれかを行う予定 掲示板や参考URL等を良く見ておき、発表日や提出日を忘れないようにする。 締め切り過ぎたら不受理とする。進度調整有。 二階堂担当部分に関しては、http://felicia000.blogspot.com/に授業スライドを提示する。

講義科目名称： 幼児造形 I

授業コード：

英文科目名称： Infant of modeling

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	1年	1単位	卒業選択、幼免必修、保育士必修
担当教員			
富金原 光秀			
授業形態：演習	担当形態：単独		実務経験：あり
添付ファイル			
カリキュラムマップ(幼児造形Ⅰ).pdf			
幼児造形Ⅰルーブリック.pdf			

講義概要	領域「表現」のねらいと内容に基づき、造形活動の基本的な知識・技能を習得し造形感覚を養う。また、幼児の発達段階を理解しながら材料・用具の機能や取扱いによる教育的意義を学ぶとともに、情報機器の活用により幼児の主眼的・対話的で深みのある造形活動を構想する指導・援助方法を身につける。具体的に「絵に表す」では、写生から観察力を養い、平面構成における描写力や手法を身につける。さらに描画材の特性を利用して表現技法を習得し、創造的思考や感性を高める。「立体に表す」では、日用品や廃材を使用して素材の質感に着目しながら立体物や玩具等の制作及び材質研究を行う。「造形あそび」では、あそびのもつ教育性について考察しながら自然の素材等からイメージを膨らませて幼児の造形表現活動に活かす。他科目である幼児と表現、表現指導法、環境指導法との関連を踏まえて「身体」「音」「自然あそび」について言及する。担当講師は保育所や幼稚園でのフィールドワークや子育て支援事業等の実務経験を交えて、現場の子どもたちの育ちや発達に寄与する造形活動を提案する。		
授業計画および学習形態	第1回 「保育内容「表現」及び幼児造形における指導・援助、環境づくり」 子どもの心身の発達と人間形成の基礎を養う幼児期の「表現」領域の理解及び造形活動の意義について習得する。また、幼児が表現活動に興味・関心をもって取り組むことができるよう保育者の指導・援助・環境づくりについて事例を示しながら考察する。 予習：教科書第1章、幼稚園教育要領、保育所保育指針「表現」項目を読んでおく。（約2時間） B：少 第2回 「幼児期の絵の発達と道筋について」 子どもの絵の表現の発達は、心身の発達と深い関係を持ち、認知機能、運動機能や手指の巧緻性、感情や感性の発達に大きく影響する。造形表現における発達の基本的な道筋を順序だてて理解するとともに、造形活動の支援・援助のしかたについて理解を深める。 予習、復習：教科書 p 67～p 75を読んで、要点をまとめる。（約2時間） B：少 第3回 「オートマティック技法による絵画表現（デカルコマニー他各種技法）」 表現活動の原点となる「写す」をキーワードとして、オートマティック各種技法について習得する。フィンガーペインティング、デカルコマニー、スパッタリング、スタンピング、フロッタージュなどの技法を組み合わせ、コラージュ作品を製作する。 予習、復習：オートマティック各種技法の特徴についてまとめる。（約1時間） B：少 第4回 「平面・立体構成の造形要素及び用具の基本的な取扱いと指導上の留意事項」 形、色、材料とその材質感など造形物を生みだす基となる造形要素について、点・線・面それぞれの知覚的な感覚の特性及び構成・構図について理解を深める。また、幼児造形の活動に必要なハサミ等危険の伴う用具の取り扱い、さまざまな種類の接着材料の取り扱い等、指導上の留意事項について理解する。 予習、復習：配布資料を読んで、重要な事項にラインを引き、要点をまとめる。（約2時間） B：少 第5回 「紙による立体造形の制作（折る・切る・貼る・組む）」 紙からいろいろな形を立体化する為の加工方法、折る、切る、貼る、とじる、丸める、曲げる、組む、開く等により制作を行う。直線的・曲線的な加工方法また、これらの技法を組み合わせ、作品を製作する。 予習、復習：配布資料を読んで、重要な事項にラインを引き、要点をまとめる。（約2時間） B：少 E：あり 第6回 「絵画の基礎 I（静物画の写生）」 立方体や卵など基本的な物の形を捉えてかき表す為の写生の技術及び「観察」の重要性について理解する。静物画の写生においては、実物を目前にしてかく作業となるので、周到に観察が要求される。描こうとする対象をよく見て描き、描きながらモノを見るという思考過程の繰り返しにより、描く対象を深く理解する。 予習、復習：配布資料を読んで、重要な事項にラインを引き、要点をまとめる。（約2時間） B：少 第7回 「色彩の基礎理論と心理的作用」 色彩の認知は、乳幼児期において視覚の発達や形成にかかわるとともに、視覚を通した生活に拡がりを与える。色の基本原理、色相・明度・彩度の三属性、色の三原色をはじめ、子どもの発達段階にしたがって、徐々に色を使って表現する過程や色の感情的作用によって人の心理に与える影響、色の保育環境への活用について理解する。 予習、復習：教科書 p 155～p 172を読み、重要な事項、要点をまとめる。（約2時間） B：少 第8回 「季節・行事にかかわる共同制作と壁面装飾・展示 I」 季節(行事)の代表的な展示例を挙げ、描いたり、つくったものを展示することによって、飾るよこびを共感する。また、展示物の造形的な美や、造形心理に注意や配慮をしたり、展示することで「どう見えるか?」「どう感じられるか?」を考慮し、結果的に「どのような教育的効果があるのか?」までを踏まえて装飾や展示を理解する。 予習、復習：共同製作で仕上げた作品の自己評価を行い、各自振り返りシートに記載する。（約1時間） A：多 B：中 E：あり		

	第9回 「素材・生活廃材を活用した立体造形の制作及び指導・援助の留意点」 日常生活で不要となった「廃材」や「廃品」を造形教育に取り入れ、その材料の質感等について工夫をしながら表現へと結びつけていく製作活動を行う。主体的な活動が広がる環境を準備したり、幼児が素材に興味や関心をもって取り組む指導法の考察、各素材に適した道具・用具の使用方法について習得する。さまざまな素材や材料、用具を使ってつくりあげる創造性、充実感、達成感を味わう。 予習、復習：製作課題に対する教育的な考察と検証を行い、各自振り返りシートに記載する。（約1時間） B：少 D：中 E：あり 第10回 「造形あそびの実際及び指導・援助の留意点」 造形あそびに見られる行為「見る」、「感じる」、「表わす」をテーマに、さまざまなモノに触れ、五感を通じて何かを発見したり、自ら意欲をもって題材を見つけ、「遊び」それ自体を生みだしていく探索活動を行う。感覚（感触）を楽しむ感覚遊び、環境に働きかける空間遊び、構成を楽しむ構成遊び、ごっこ遊びを代表する見立て遊びを体験する。また、造形あそびを行う上での指導・援助、留意事項について確認する。 予習、復習：造形あそびの意義について、教科書・配布資料を読んでまとめる。（約1時間） B：少 E：あり 第11回 「自然環境、近隣の環境から収集した素材を用いた制作（伝承あそび等）」 『保育所保育指針』、『幼稚園教育要領』では、「いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ」と記載される。さまざまな素材と出会うための環境構成や、発達過程にどのようなあそびが有効となるか考察し、造形あそびの内容を工夫する。また、自然物と触れ合い遊ぶことで思いを全身に表し、心身の発達や感性が育まれることの重要性について理解する。 予習、復習：日本の伝統・文化的な遊びの種類についてネット、資料などを検索して、まとめる。（約1時間） B：少 C：中 第12回 「情報機器を効果的に活用した造形活動の実際Ⅰ」 幼児造形活動にICT教育を取りこんだ造形表現の活動が求められる。情報機器を効果的に活用した造形活動の具体例を示しながらグループによる共同製作を行う。絵本や物語の題材を選択し、描いたり、つくりあげた制作物をタブレットを利用し、協力して撮影を行う。映像を通じて動きまわる動画作品に好きな音楽や言葉を取り込み、完成した動画を発表する。 予習、復習：情報機器を効果的に活用した造形教材について検討・考案し、グループごと配布シートにまとめる。（約1時間） A：中 B：少 D：中 第13回 「諸外国における造形活動の展開及び教材の提示」 諸外国における造形活動の事例をとりあげる。レジオ・エミリア、テ・ファリキ、モンテッソーリ、シュタイナー等と日本の幼児造形の現状について比較分析をおこなう。 予習、復習：近年注目される諸外国の保育の事例について調査し、ポートフォリオにまとめる。（約1時間） A：中 B：中 D：中 第14回 「ポートフォリオ（制作物）による自己評価・省察・改善点の提示と授業の総括」 各個人が15回の授業で制作した作品や資料をポートフォリオファイルに保管し、その省察や改善を含めた自己評価を行う。造形活動における製作物や活動の記録は、評価の際の重要な手がかりとなること、そして幼児理解を深めていく評価方法になる。学生自身が造形表現の授業時に制作物を保管・記録し、省察を行い、あらたな自己課題や目標設定に気づきをあたえるポートフォリオ評価の意義について理解する。最後に授業総括と各単元の解説を行う。 予習、復習：幼児造形教育においてポートフォリオを活用する意義についてまとめる。（約1時間） B：少 E：あり
教育目標との関連	領域「表現」のねらいでは、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」と記される。幼児が絵をかいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり飾ったりする活動を通して人や物と出会いを深めながら主体的な活動が展開できるよう、保育者は子どもの発達に応じた指導・援助方法に加え、表現技術や技能を身につけていく必要がある。 「幼児造形Ⅰ・Ⅱ」の科目を通じて学習する表現上の技術指導や援助は、保育現場での「表現」における重要な役割を担う。学生は本学の教育目標である幼児教育に関する専門的知識と技術を習得し、子どもの豊かな「感性」を引き出す教育活動に広く関心と意欲をもって取り組み、幼児の情緒の安定を図るとともに「生きる力」の基礎を培う人間形成に貢献できる人格を備えてほしい。
到達目標 カリキュラムマップ	1. 保育内容「表現」領域について理解し、幼児期の発達段階における造形表現の特徴について説明できる。 3. 造形教材の技能習得に積極的に取り組み、形や色の構成及び表現手法や表現技術について提示できる。 4. 造形教材の課題に関心・意欲を持って取り組み、幼児の感性を育てる表現活動の題材について提案することができる。 到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること。
評価方法および評価基準	1. 制作課題やグループ学習内容をまとめたポートフォリオの提出（50%） 2. 制作課題に対する教育的な考察とループリックによる検証（30%） 3. 課題発表時の表現力（20%） 評価基準は添付資料のループリックを参照すること。
教科書	『幼児造形の基礎 一乳幼児の造形表現と造形教材』 樋口一成編著 萌文書林 2018 ￥2,400
参考書	参考書・参考資料等 『幼稚園教育要領』文部科学省 『保育所保育指針』厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府 フレーベル館 2017 『事例で学ぶ保育内容領域「表現」』無藤隆 浜口順子他 萌文書林 2012 『遊びの指導』幼少年教育研究所 同文書院 2014 「必要に応じて資料・プリントを配布する」

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	各回の予習・復習は上記のとおりである。
履修上の注意、条件等	教職をめざす学生として、自覚、自律ある態度をもって授業に取り組むこと。
オフィスアワー	大講義室及び遠隔授業についてはオンラインのコメントで質問・相談を受け付ける。（研究室に時間帯を掲示）
備考・メッセージ	本ことに留意して実践に臨んでください。 授業を通して習得する表現上の技術や指導、援助は保育現場での子どもたちの表現力の誘い水となる大切な役割となる。 今年度は全14回遠隔授業（配信）を行い、製作についてはスケッチブックの利用、作品の画像をオンライン上で提出。

講義科目名称： 幼児造形Ⅱ

授業コード：

英文科目名称： Infant of modeling Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	1年	1単位	卒業選択、幼免必修、保育士必修
担当教員			
富金原 光秀			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務形態：あり	
添付ファイル			
幼児造形Ⅱループリック.pdf			
カリキュラムマップ（幼児造形Ⅱ）.pdf			

講義概要	子どもの造形表現の発達には心身をはじめとする認知機能、手の動きによる運動機能、感情表現と深いかかわりをもつ。本授業では、心で感じたことや想ったことを形や色や材料を用いて身体的に表現することの意義を理解するとともに、学習者自身の造形的思考力や造形表現力の資質伸張を図り、感性を養う。また、題材（平面・立体）にそって教材研究を行い、情報機器の活用等により幼児の主体的・対話的で魅力ある造形活動を構想する力を養う。後半では造形活動における環境構成、評価の考え方、指導・援助のありかたについて幼児の発達過程や個々の特性を理解しながら保育指導案を作成する。他科目である幼児と表現、表現指導法、環境指導法との関連を踏まえて「身体」「音」「自然あそび」について言及する。担当講師は保育所や幼稚園でのフィールドワークや子育て支援事業等の実務経験を交えて、現場の子どもたちの育ちや発達に寄与する造形活動を提案する。		
授業計画および学習形態	各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A: グループワーク B: ディスカッション C: フィールドワーク D: プレゼンテーション E: 振り返り F: 宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。		
第1回	「幼児造形の発達段階における表現の特徴及び指導・援助・留意点」 子どもの絵の表現と心身の発達について、認知機能、運動機能や手指の巧緻性、感情や感性との関連から考察する。また、発達の過程を固定的、断定的に捉えず、一人ひとりの子どもの発達状況や個々の子どもの状況を十分理解し、指導・援助することの重要性について確認する。 予習、復習：教科書 p 92～p 106、p 120～p 124 を読み、造形表現の指導・援助のあり方について要点をまとめる。（約2時間） 題材：消しゴム（ゴム印）と絵手紙を製作（参考作品） B：少		
第2回	「絵画の基礎Ⅱ（人物と風景描写）」 絵画の基礎的技能について学習する2回目。保育者として必須となる子どもや人物の描写とその背景（保育室・園庭）の描き方の基礎について写生の技術及び「観察」の重要性を理解する。描こうとする対象をよく見て描く過程、遠近法やグラデーション効果を使って立体的に描く絵画技法を習得する。 予習、復習：デッサン、スケッチ、クロッキーそれぞれの特徴についてまとめる。（約1時間） B：少		
第3回	「西欧・日本美術史の変遷及び作品鑑賞と情報機器を活用した制作」 世界の美術史の概要を学習し、文化的教養を深め、豊かな人間性を養う。旧石器時代の洞窟絵画をはじめ、初期キリスト教美術、ビザンチン美術、モザイク画、ゴシック様式の教会美術、ルネサンス美術、バロック美術とロココ美術、新古典・ロマン・写実主義の美術様式、19世紀の印象派、20世紀以降迄の西欧美術文化について知識を深める。また、室町文化を始め19世紀浮世絵に代表するジャポニスムに至る日本美術の歴史的変遷について学習した後、情報機器を活用したグループ活動による製作を行う。 予習、復習：授業の中で興味を示した人物や作品について時代背景とともにまとめる。（約2時間） A：中 B：少 D：中		
第4回	「美術・文化財の鑑賞（書籍・ネット上の美術鑑賞）」 前回の授業で学習した美術作品の知見をもって書籍やネット上の美術や文化財を鑑賞する。美術作品や文化財や資料に直接出会い、豊かな感覚や感性を養う。 予習、復習：美術作品、文化財を鑑賞して感じたこと、考えたことをレポートにまとめる。（約2時間） C：多		
第5回	「部分実習指導案の構成と造形活動の評価方法（ポートフォリオ評価について）」 造形表現における部分実習指導案の構成と評価方法について事例をもとに学習する。「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」に加え、園の方針や月や週の指導計画と照らし合わせながら指導案の構成を確認する。また、幼児期は年齢ごとに発達の個人差がおおきい時期となる為、造形活動にポートフォリオ評価法を活用する意義について理解する。 予習、復習：教科書 p 83～p 106 を読み、造形表現の指導計画のポイントについて要点をまとめる。（約2時間） B：少		
第6回	「教材研究Ⅰ（描画技法による教材研究・指導案の作成）」 これまで学んできた描画の技法や手法を用いて、幼児の年齢を踏まえた教材研究を行い制作を行う。また、実際に保育現場に組み込むことを想定した部分実習指導案を作成する。 予習、復習：教材研究で制作した造形教材を使って部分実習指導案を作成する。（資料配布） （約2時間） A：中 B：少		
第7回	「教材研究Ⅰ（描画技法による研究課題の提示・発表）」 これまで学んできた描画の技法や手法を用いて、幼児の年齢を踏まえた教材研究を行い、制作した造形教材の発表を行う。発表後には省察・改善点について自己評価を行う。 予習、復習：教科書 p 180～p 183 を読み、ごっこ・見立て遊び活動の構想についてまとめる。（約1時間） A：中 B：少		
第8回	「劇遊びの衣装・楽器制作（イメージと模倣遊び）」 幼児の劇遊びの衣装や楽器をグループごとに役割を分担して製作を行なう。これまで学習した材料や用具などの知識や技術を総合的に活用して制作する。共同製作によって、クラス仲間と協力		

	したり、意見を交換したり、制作し合うコミュニケーション力を身につける。また、さまざまな素材や材料、用具を使ってつくりあげる充実感や達成感を味わう。 予習、復習：劇遊びの教育的意義について教科書・資料をつかってまとめる。（約1時間） B：少 第9回 「劇遊びの衣装・楽器制作の発表と省察（ドキュメンテーションによる）」 お面などのかぶりものや装飾品を身につけながら物語の世界に入り、役になりきることで、満足感を味わったり、クラスメイトとの関係を深めていく場を共有する。学生自身が表現者となり、お面を身につけ役を演じながら、ごっこ遊びの世界をグループごとに発表する。また、お面をとり替え、異なる役を経験する。これらのごっこ遊びが、生活発表会やお遊戯会等に発展することを理解する。 予習、復習：発表を行い、感じたこと、考えたことをまとめる。（1時間） D：多 E：あり 第10回 「情報機器を効果的に活用した造形活動の実践Ⅱ」 情報機器を効果的に活用した造形活動の2回目課題。アイデアを出して情報機器を使った題材を選択し、描いたり、つくりあげた制作物を用いて幼児が主体的・対話的に造形活動にかかわることのできる造形教材を提案・提示する。 予習、復習：情報機器を効果的に活用した造形教材について検討・考案し、配布シートにまとめる。（約1時間） A：中 B：中 第11回 「季節・行事にかかわる共同制作と壁面装飾・展示Ⅱ」 季節・行事にかかわる制作と壁面装飾・展示の2回目。季節(行事)の代表的な製作と展示を行い、飾るよこびを共感する。また、展示物の造形的な美や、造形心理に注意や配慮をしたり、展示することで「どう見えるか?」「どう感じられるか?」を考慮し、結果的に「どのような教育的効果があるのか?」までを踏まえて装飾や展示を理解する。 予習、復習：仕上げた作品の自己評価を行い、各自振り返りシートに記載する。（約1時間） A：多 B：中 第12回 「教材研究Ⅱ（立体造形による制作研究・指導案の作成）」 これまで学んできた立体造形の技法や手法を用いて、幼児の年齢を踏まえた教材研究を行い製作を行う。また、実際に保育現場に組み込むことを想定した部分実習指導案を作成する。 予習、復習：教材研究で制作した造形教材を使って部分実習指導案を作成する。（約2時間） A：中 B：少 第13回 「教材研究Ⅱ（立体造形による研究課題の提示・発表）」 これまで学んできた立体造形の技法や手法を用いて、幼児の年齢を踏まえた教材研究を行い、製作した造形教材の発表を行う。発表後には省察・改善点について自己評価を行う。 予習、復習：幼稚園教育要領、保育所保育指針の表現領域について比較し、共通点、相違点についてまとめる。（約1時間） B：少 D：多 第14回 「授業総括と学習到達度の確認テスト・各単元の解説」 全30回の授業総括として学習到達度の確認テストを実施、また各単元の振り返りと解説、各自の到達度のチェックを行う。 B：少 E：あり
教育目標との関連	領域「表現」のねらいでは、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」と記される。幼児が絵をかくたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり飾ったりする活動を通して人や物と出会いを深めながら、主体的な活動が展開できるよう、保育者は子どもの発達に応じた指導・援助方法に加え、表現技術や技能を身につけていく必要がある。 「幼児造形Ⅰ・Ⅱ」の科目を通じて学習する表現上の技術指導や援助は、保育現場での「表現」における重要な役割を担う。学生は本学の教育目標である幼児教育に関する専門的知識と技術を習得し、子どもの豊かな「感性」を引き出す教育活動に広く関心と意欲をもって取り組み、幼児の情緒の安定を図るとともに「生きる力」の基礎を培う人間形成に貢献できる人格を備えてほしい。
到達目標 カリキュラムマップ	2. 幼児の発達段階を踏まえ、用具・材料の特性を効果的に活用する方法、その教育的意義について思考・判断することができる。 3. 情報メディア、情報機器を効果的に活用した造形教材及びポートフォリオを製作できる。 5. 幼児の造形活動における保育者の役割を自覚し、教材研究に取り組む態度がみられる 到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること。
評価方法および評価基準	1. 制作課題やグループ学習内容をまとめたポートフォリオの提出（50%） 2. 制作課題に対する教育的な考察とループリックによる検証（30%） 3. 課題発表時の表現力（20%） 評価基準は添付資料のループリックを参照すること。
教科書	『幼児造形の基礎 一乳幼児の造形表現と造形教材』樋口一成編著 萌文書林 2018 ￥2,400
参考書	『幼稚園教育要領』文部科学省 『保育所保育指針』厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府 フレーベル館 2017 『事例で学ぶ保育内容領域「表現」』無藤隆 浜口順子他 萌文書林 2017 『遊びの指導』幼少年教育研究所 同文書院 2014 必要に応じて資料・プリントを配布する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	各回の予習・復習は上記のとおりである。
履修上の注意、条件等	教職をめざす学生として、自覚、自律ある態度をもって授業に取り組むこと。

オフィスアワー	大講義室及び遠隔授業についてはオンラインの限定コメントで質問・相談を受け付ける。
備考・メッセージ	本授業を通して習得する表現上の技術や指導、援助は保育現場での子どもたちの表現力の誘い水となる大切な役割となることに留意して実践に臨んでください。 今年度は第1回～6回、第10回～12回、14回で遠隔授業（配信）を行い、製作についてはスケッチブックの利用、作品の画像をオンライン上で提出。第7回～第9回、第13回については対面授業をおこなう。

講義科目名称： 幼児音楽Ⅰ

授業コード：

英文科目名称： Musical Study for Child Education Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	1年	1単位	卒業選択、幼免必修、保育士必修
担当教員			
グループ学習：大見 由香 ※ピアノ指導担当教員は備考欄参照			
授業形態：演習	担当形態：複数	実務経験：あり	
添付ファイル			
幼児音楽ⅠCMROL.xlsx .pdf			

講義概要	子どもの生活と遊びの中での音楽について学ぶ。子どもの歌を支える歌唱やピアノの技能を習得しレパートリーを増やす。また打楽器の基礎的な奏法を学ぶ。2つのグループに分かれ、ピアノの個人レッスンとグループ授業を週ごとに交互に受講する。シラバス内容の順序はグループにより異なる。 ピアノ：保育者として必要なピアノの演奏技術を個人レッスンを通して習得する。毎回授業終了時にはレッスンや練習の成果の振り返りを行う。 グループ授業：毎回ピアノの課題曲やテクニック練習を行い、読譜や曲の理解に必要な音楽理論（楽典）を学ぶ。また声楽の演奏技術を学び子どものうたを数多く歌えるようにする。毎回授業開始時にウォームアップ、呼吸、発声練習、音程練習を行う。 他の科目との関連：本科目の理論は「幼児音楽入門（ピアノ）」と内容が重複する部分もあるが、本科目の方がはやく進む。また、実技は「幼児音楽Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」・「声楽Ⅰ、Ⅱ」の基礎となる。 主担当の大見はインターナショナルスクールや多国籍クワイヤーの指導経験があり、国内外の合唱曲とその民族・文化的背景や英語による歌唱のポイントや表現法をなじみやすい方法で紹介できる。		
授業計画および学習形態	第1回	グループ授業（１）音の高さ・春のうた 表現活動の中での保育者のピアノの活用法や歌唱活動と子どもの声域について理解する。 発声と呼吸についての基礎を学ぶ。音の高さについて学ぶ。 春のうた「チューリップ」などを歌う。 予習・復習：ピアノ 授業で学んだ曲やピアノの課題を練習する。 歌 授業で歌った歌を練習し暗譜で歌えるようにする。（2時間） A：中 D：少 E：あり F：あり	
各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第2回	ピアノレッスン（１）姿勢と手の形 課題曲１曲を教員や学生の前で演奏し、アドバイスを受ける。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。（2時間） A：少 D：少 E：あり F：あり	
	第3回	グループ授業（２）音の長さ・付点のリズム・子どもの生活のうた 音の長さ、付点のリズムについて学ぶ。 子どもの生活のうた「おはようのうた」などを歌う。 予習・復習：ピアノ 授業で学んだ曲やピアノの課題を練習する。ユーチューブプレイリストの生活のうたと春のうたを聴いておく。 歌 授業で歌った歌を練習し暗譜で歌えるようにする。（2時間） A：中 D：少 E：あり F：あり	
	第4回	ピアノレッスン（２）譜読みと指づかい 練習してきた曲のレッスンを受ける。１週間の練習を振り返り、成果と課題を見出す。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。（2時間） A：少 D：少 E：あり F：あり	
	第5回	グループ授業（３）全音と半音・変化記号・へ長調の音階と調号・打楽器の奏法 打楽器（すず、カスタネット、タンブリン）の奏法を学び、「おはながわらった」などの歌に合わせて演奏する。 全音と半音、変化記号の意味と書き方を学ぶ。へ長調、へ長調の音階と調号について学ぶ。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。変化記号の意味、使い方、書き方を復習する。ユーチューブプレイリストの春のうたを聴いておく。 宿題：プリント「へ長調の練習」を練習する。（2時間） A：少 D：少 F：あり	
	第6回	ピアノレッスン（３）強弱をつける 練習してきた曲のレッスンを受ける。１週間の練習を振り返り、成果と課題を見出す。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。（2時間） A：少 D：少 E：あり F：あり	
	第7回	グループ授業（４）ト長調の音階と調号・強弱記号・子どものうた ト長調の調号、音階について学ぶ。 子どものうた「ふしぎなポケット」・「おおきな古時計」を歌う。 強弱記号について学び、打楽器（大太鼓、小太鼓）で演奏する。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。プリント「ト長調の練習」を練習する。ユーチューブプレイリストの子どものうたを聴いておく。（2時間） A：少 D：少 E：あり F：あり	
	第8回	全体授業 うたの表現方法 子どものうた「むすんでひらいて」などを動作をつけて歌う。 グループで子どものうたを一曲選び、表現の工夫についてディスカッションし、練習する。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。ユーチューブプレイリストの子どものうたを聴いておく。 宿題：グループ発表で歌う曲を練習し、暗譜で表現をつけて歌えるようにする。（2時間） A：中 B：中 F：あり	
	第9回	ピアノレッスン（４）レガートとノンレガート 練習してきた曲のレッスンを受ける。１週間の練習を振り返り、成果と課題を見出す。	

	予習・復習：ピアノの課題を練習する。（2時間） A：少 D：少 E：あり F：あり 第10回 グループ授業（5）グループ発表テスト・繰り返し記号・夏のうた グループ授業（5）で選んだ曲を発表し、発表の振り返りと他のグループの評価を行う。 受けた評価についてディスカッションして課題を見出す。 夏のうた「あめふりくまのこ」「かたつむり」繰り返し記号について学ぶ。 予習・復習：グループ発表で歌う曲を準備する。繰り返し記号のプリントを行う。ピアノの課題を練習する。（2時間） A：中 D：中 E：中 F：あり 第11回 ピアノレッスン（5）メロディと伴奏のバランス 練習してきた曲のレッスンを受ける。1週間の練習を振り返り、成果と課題を見出す。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。（2時間） A：少 D：少 E：あり F：あり 第12回 グループ授業（6）夏のうた・ニ長調の音階と調号・3連音符 ニ長調の調号、音階について学ぶ。3連音符について学ぶ。 「おばけなんてないさ」「おもちゃのチャチャチャ」「おはようのうた」 予習・復習：ピアノの課題を練習する。プリント「ニ長調の練習」を練習する。（2時間） A：少 D：少 F：あり 第13回 ピアノレッスン（6）「おはようのうた」 ピアノ：課題曲のレッスンを受ける。 グループ：課題曲を1人ずつ歌い、課題を見出す。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。研究発表の曲を練習する。（2時間） D：中 F：あり 第14回 グループ授業（7）実技発表テスト 子どものうたをひとりずつピアノで演奏し、アドバイスをを受ける。 予習・復習：ピアノテスト曲の復習をする。研究発表の曲を練習する。（2時間） D：中 E：あり F：あり 第15回 ピアノレッスン（7）まとめと振り返り 幼児音楽Ⅰで取り組んだ課題曲を復習し、幼児音楽Ⅱへの課題を見出す。 練習してきた曲のレッスンを受ける。1週間の練習を振り返り、成果と課題を見出す。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。（2時間） A：少 D：少 E：あり F：あり
教育目標との関連	保育者に必要なピアノと声楽の演奏技能を身につける。季節のうた、生活のうたなど、さまざまな音楽に触れ、学生自身の感性を豊かにする。
到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	1. 園生活のなかで子どものうたがどのように歌われているか説明できる。 2. 子どもの状況に合った曲を選び、適切な表現で演奏できる。 3. 子どもたちのために『子どものうた』を歌ったり、ピアノで演奏したりすることができる。 4. 保育現場で子どもが楽しく歌えるように工夫できる。 到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	練習課題の取り組み・進捗 65% 実技発表 授業内に行ううたのグループ発表、ピアノの演奏テスト 20% 提出課題 15% （子どもの歌のピアノ課題曲をすべて合格していない場合は再試験対象となる） 評価基準は添付資料のルーブリックを参照すること
教科書	『選べる3ステップ 保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第1巻』 大海由佳 他 学研プラス 2019年 1,500円（税抜） 『選べる3ステップ 保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第2巻』 大海由佳 他 学研プラス 2019年 1,500円（税抜） 『幼稚園・保育園・小学校の先生を目指す人の為の基礎から学べる ピアノ1, 2, 3』 本廣明美 他 ドレミ楽譜出版 2019年 1,300円（税抜） 授業中に適宜プリントを配布する。
参考書	改訂『幼児のための音楽教育』神原雅之 編著 教育芸術社 2019年 2,000円（税抜） 『幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）解説』（フレーベル館、2018年） 『保育所保育指針（平成29年4月告示 厚生労働省）解説』（フレーベル館、2018年） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）解説』（フレーベル館、2018年）
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	ピアノは練習（予習と復習）をしてレッスンに臨むこと。毎日30分は練習し、毎週2曲以上は合格するよう取り組むこと。
履修上の注意、条件等	日々の練習を行って技術を修得する意欲のある者。テキスト、個人票は各自にあったアドバイスを記入するため、必ず自分の物を持ってくること。
オフィスアワー	大見：大見研究室。時間は研究室に掲示する。 ピアノ担当教員：授業の前後にピアノ室、または講師室外にて受け付ける。
備考・メッセージ	※ピアノ指導担当教員：宮本真理子、大平美樹、栗村葉子、小梶由理、平井敬子、藤澤桐子、矢浪桂子 子どもの歌のピアノ課題曲リストは授業内にて配付する。

講義科目名称： 幼児音楽Ⅱ

授業コード：

英文科目名称： Musical Study for Child Education Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	1年	1単位	卒業選択、幼免必修、保育士必修
担当教員			
グループ学習：大見 由香 ※ピアノ指導担当教員は備考欄参照			
授業形態：演習	担当形態：複数	実務経験：あり	
添付ファイル			
幼児音楽ⅡCMR.xlsx .pdf			

講義概要	子どもの生活と遊びの中での音楽について学ぶ。子どもの歌を支える歌唱やピアノの技能を習得しレパートリーを増やす。また打楽器の基礎的な奏法を学ぶ。2つのグループに分かれ、ピアノの個人レッスンとグループ授業を週ごとに交互に受講する。シラバス内容の順序はグループにより異なる。 ピアノ：保育者として必要なピアノの演奏技術を個人レッスンを通して習得する。毎回授業終了時にはレッスンや練習の成果の振り返りを行う。 グループ授業：毎回ピアノの課題曲やテクニック練習行い、読譜や曲の理解に必要な音楽理論（楽典）を学ぶ。また声楽の演奏技術を学び子どものうたを数多く歌えるようにする。毎回授業開始時にウォームアップ、呼吸、発声練習、音程練習を行う。 他の科目との関連：「幼児音楽Ⅰ」で習得した技術を向上させ、「幼児音楽Ⅲ、Ⅳ」・「声楽Ⅰ、Ⅱ」の基礎となる。 主担当の大見はインターナショナルスクールや多国籍クワイヤーの指導経験があり、国内外の合唱曲とその民族・文化的背景や英語による歌唱のポイントや表現法をなじみやすい方法で紹介できる。		
授業計画および学習形態	各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 A: グループワーク B: ディスカッション C: フィールドワーク D: プレゼンテーション E: 振り返り F: 宿題 ②【多】【中】 【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。		
	第1回	グループ授業（1）幼児音楽Ⅰの復習・秋のうた 前学期の復習（リズム、くり返し記号）。 秋のうた「どんぐりころころ」、「きのこ」、研究発表のうたを歌う。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。研究発表のうたを練習する。ユーチューブプレイリストの秋のうたを聴いておく。 グループ『弾き歌い伴奏集』第1巻もしくは第2巻から曲を選び、歌う練習をする。（2時間） A：少 D：少 E：あり F：あり	
	第2回	ピアノレッスン（1）「山の音楽家」 夏季休暇中に練習してきた曲のレッスンを受ける。練習を振り返り、成果と課題を見出す。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。（2時間） A：少 D：少 E：あり F：あり	
	第3回	グループ授業（2）臨時記号と調号のルール・秋のうた 臨時記号のルールを学び調号との違いを確認する。 秋のうた「まつぼっくり」「山の音楽家」「もみじ」、研究発表のうたを歌う。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。ユーチューブプレイリストの秋のうたを聴いておく。（2時間） A：少 D：少 F：あり	
	第4回	ピアノレッスン（2）「おべんとう」 練習してきた曲のレッスンを受ける。2週間の練習を振り返り、成果と課題を見出す。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。（2時間） A：少 D：少 E：あり F：あり	
	第5回	グループ授業（3）コードネーム・秋のうた コードネームについて学ぶ。 秋のうた「はたけのボルカ」を歌う。研究発表のうたを歌い、歌詞の意味に沿った表現をつける。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。研究発表のうたを練習する。ユーチューブプレイリストの秋のうたを聴いておく。（2時間） A：少 D：少 F：あり	
	第6回	ピアノレッスン（3）「おべんとう」仕上げ 練習してきた曲のレッスンを受ける。1週間の練習を振り返り、成果と課題を見出す。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。（2時間） A：少 D：少 E：あり F：あり	
	第7回	グループ授業（4）コードと転回形の練習・秋のうた コードをと転回形を弾く。コードネームをもとに伴奏をつける。 秋のうた「やきいもグーチャーパー」、「きのこ」を歌う。研究発表の歌をうたい響きや声の重なり合いを楽しむ。 また歌詞の意味を味わう。様々なポジションについて学ぶ。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。ポジションのプリントを練習する。研究発表のうたを練習する。ユーチューブプレイリストの秋のうたを聴いておく。（2時間） A：少 D：少 F：あり	
	第8回	研究発表曲の会場練習 研究発表の曲を会場で練習し、会場の雰囲気や響きを確認する。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。研究発表の曲を練習する（2時間） A：多 F：あり	
	第9回	音楽研究発表と音楽鑑賞 音楽研究発表会にて合唱曲を演奏する。また他者による演奏を鑑賞する。 予習：研究発表の曲を練習をする。（1時間） 課題：感想文を書く。 A：中 D：中 F：あり	

	第10回 ピアノレッスン（４）「おかえりのうた」 練習してきた曲のレッスンを受ける。１週間の練習を振り返り、成果と課題を見出す。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。（２時間） A：少 D：少 E：あり F：あり 第11回 グループ授業（５）アーティキュレーション・冬のうた アーティキュレーションについて学ぶ。 冬のうた「ゆき」「あわてんぼうのサンタクロース」「お正月」を歌う。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。ユーチューブプレイリストの冬のうたを聴いておく。（２時間） A：少 D：少 F：あり 第12回 ピアノレッスン（５）「おかえりのうた」仕上げ 練習してきた曲のレッスンを受ける。１週間の練習を振り返り、成果と課題を見出す。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。（２時間） A：少 D：少 E：あり F：あり 第13回 グループ授業（６）歌のテスト・復習プリント・冬のうた 準備してきた曲の中から一曲暗譜で独唱する。復習プリントを行う。 冬のうた「まめまき」「うれしいひなまつり」「おもいでアルバム」を歌う。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。ユーチューブプレイリストの冬のうたを聴いておく。（２時間） C：多 D：少 F：あり 第14回 ピアノレッスン（６）まとめと復習 ピアノ：テスト曲のレッスンを受ける。幼児音楽Ⅱで習得した曲を復習し、今後の課題を見出す。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。（２時間） A：少 D：中 E：あり F：あり 第15回 グループ授業（７）まとめと復習 テスト曲や幼児音楽Ⅱの課題曲を練習し、よりスムーズに演奏できるようにする。 予習・復習：ピアノの課題を練習する。（２時間） A：少 D：中 E：あり F：あり 第16回 ピアノ発表テストと振り返り ピアノ：子どものうたを１曲を演奏会形式のテストで演奏する。幼児音楽Ⅱで習得した曲を復習し、今後の課題を見出す。 予習・復習：ピアノのテスト曲を練習する。（２時間） A：少 D：中 E：あり F：あり
教育目標との関連	保育者に必要なピアノと声楽の演奏技能を身につける。また周囲の音に耳を澄ませ、季節のうた、生活のうたなど、さまざまな音楽に触れ、学生自身の感性を豊かにする。
到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	- 園生活のなかで子どもの歌がどのように歌われているか理解している。 - 子どもの状況に合った曲を選び、適切な表現で演奏できる。 - 子どもたちのために『こどものうた』を歌ったり、ピアノで演奏したりすることができる。 - 保育現場で子どもが楽しく歌えるように演奏できる。 - うたのグループ授業を通して、周囲の状況を把握し、協調し合う事ができる。 到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	練習課題の取り組み・進捗 60% 実技発表 授業内に行ううたのテスト、ピアノの演奏テスト 25% 提出課題 15% （子どもの歌のピアノ課題曲をすべて合格していない場合は再試験対象となる） 評価基準は添付資料のルーブリックを参照すること
教科書	『選べる３ステップ 保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第1巻』 大海由佳 他 学研プラス 2019年 1,500円（税抜） 『選べる３ステップ 保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第2巻』 大海由佳 他 学研プラス 2019年 1,500円（税抜） 『幼稚園・保育園・小学校の先生を目指す人のための基礎から学べる ピアノ１，２，３』 本廣明美 他 ドレミ楽譜出版 2019年 1,300円（税抜） 授業中に適宜プリントを配布する。
参考書	改訂『幼児のための音楽教育』神原雅之 編著 教育芸術社 2019年 2,000円（税抜） 『幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）解説』（フレーベル館、2018年） 『保育所保育指針（平成29年4月告示 厚生労働省）解説』（フレーベル館、2018年） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）解説』（フレーベル館、2018年）
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	ピアノは練習（予習と復習）をしてレッスンに臨むこと。毎日30分は練習し、毎週２曲以上は合格するように取り組むこと。
履修上の注意、条件等	日々の練習を行って技術を修得する意欲のある者。テキスト、個人票は各自にあったアドバイスを記入するため、必ず自分の物を持ってくること。
オフィスアワー	大見：大見研究室。時間は研究室に掲示する。 ピアノ担当教員：授業の前後にピアノ室、または講師室外にて受け付ける。
備考・メッセージ	※ピアノ指導担当教員：宮本眞理子、大平美樹、栗村葉子、小梶由理、平井敬子、藤澤桐子、矢浪桂子 子どもの歌のピアノ課題曲リストは授業内にて配付する。

授業コード：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	2年	1単位	卒業選択、幼免必修、保育士選択
担当教員			
宮本眞理子（グループ学習） ※ピアノの個人レッスン担当教員は備考欄参照			
受業形態：演習	担当形態：複数	実務経験：あり（宮本）	
添付ファイル			
「幼児音楽Ⅲ」カリキュラムマップ(到達目標).pdf			
「幼児音楽Ⅲ」ループリック.pdf			

- 63 -

	第9回 実習課題（子どもたちの前で弾くには・・・） グループ：子どもたちの前にいると想定して弾く練習をする。弾き歌いと先歌いの練習をする。 ピアノ：実習園からの課題を中心にレッスンを受ける。 （上級）各自のレベルに合った行進曲を担当教員と相談して決める。（行進曲のプリント配付） 予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日1時間） A：中 F：あり 第10回 実習課題・子どものうた・行進曲 グループ：（上級）「シューベルトの子守歌」、（初級）「みつばちのマーチ」の譜読みをする。 ピアノ：実習園からの課題を中心にレッスンを受ける。 予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日1時間） A：中 F：あり 第11回 教育実習の振り返り・行進曲・ペダル奏法 グループ：教育実習におけるピアノの取り組みについて振り返りをする。 （上級）「シューベルトの子守歌」でペダル奏法を学ぶ。（初級）「おじぎの和音」でペダル奏法を学ぶ。 ピアノ：（上級）任意の行進曲、（初級）「みつばちのマーチ」のレッスンを受ける。 予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日45分） A：中 E：あり F：あり 第12回 行進曲・ペダル奏法 グループ：（上級）「シューベルトの子守歌」でペダル奏法を学ぶ。（初級）「おじぎの和音」でペダル奏法を学ぶ。 ピアノ：（上級）任意の行進曲、（初級）「みつばちのマーチ」のレッスンを受ける。 予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日45分） A：中 F：あり 第13回 行進曲・トーンチャイム グループ：（上級・初級）トーンチャイムの演奏を楽しむ。 ピアノ：（上級）任意の行進曲、（初級）「みつばちのマーチ」のレッスンを受ける。 予習・復習 実技発表の課題（行進曲）を中心に練習する。（毎日1時間） A：中 F：あり 第14回 行進曲・トーンチャイム グループ：（上級・初級）トーンチャイムの演奏を楽しむ。 ピアノ：（上級）任意の行進曲、（初級）「みつばちのマーチ」を仕上げる。 予習・復習 実技発表の課題（行進曲）を練習する。（毎日1時間） A：中 F：あり 第15回 実技発表 グループ：なし ピアノ：実技発表をする。（上級）任意の行進曲、（初級）「みつばちのマーチ」発表後に担当教員よりアドバイスを受け、振り返りを行う。 D：多 E：あり
教育目標との関連	ピアノにおいては『こどものうた』を数多く知ること、グループ学習のトーンチャイムにおいては心を合わせて一つの音楽を作り出す喜びを味わうことが大切である。どちらも保育者として実践できる力をつけることで、豊かな感性と愛の心を育てることができる。
到達目標 カリキュラムマップ	1. (DP3) 子どもたちのために『こどものうた』を歌ったり、ピアノで演奏したりすることができる。 2. (DP5) 心を合わせて一つの音楽を作り出すことに喜びを見いだすことができ、聴く人達にも喜びを伝えることができる。 3. (DP3) 保育者としての音楽的センスと音楽の基礎技能を持ち、現場で子どもたちを指導することができる。 添付資料のカリキュラムマップ(到達目標)を参照
評価方法および評価基準	ピアノの個人レッスンの課題に対する取り組みと進度を評価する。 50% 実技発表を評価する。 20% グループ学習での取り組みを評価する。 30% 成績評価は添付資料のルーブリックを参照
教科書	『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第1巻』 大海由佳 他 学研パブリッシング 2019 1,500円（税抜） 『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第2巻』 大海由佳 他 学研パブリッシング 2019 1,500円（税抜）
参考書	『幼児のための音楽教育』神原雅之 他 教育芸術社 2018 2,000円（税抜） 『こどものうた140選』和田葉子 他 ドレミ楽譜出版社 2019 1,800円（税抜） その他 適宜プリントを配付する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	ピアノの練習は積み重ねが大事であるので、必ず毎日（30分～45分、実習前と実技発表前は1時間）練習すること。 レッスンを受けた内容をその日のうちに復習することで、大きな成果が得られる。
履修上の注意、条件等	保育士選択必修となっているが、実習に向けた内容や実習園からの課題を学ぶことができるので履修することを勧める。
オフィスアワー	ピアノについてはレッスン時に担当教員に質問すること。 その他の質問等に関しては、Googleクラスルームの限定コメントにより受け付ける。

備考・メッセージ	※ピアノの個人レッスン担当教員：大見由香, 大平美樹, 栗村葉子, 小梶由理, 平井敬子, 藤澤桐子, 矢浪桂子 ・全15回を遠隔授業（配信）で行う。 ・今年度は遠隔授業のためアクティブラーニング度はこの通りではない。 ・教育実習の時期が変更になったことにより、授業の順序・内容を変更している。 ・講義概要・教育目標にあるトーンチャイムの指導は今年度は行わない。
----------	---

講義科目名称： 幼児音楽Ⅳ

授業コード：

英文科目名称： Musical Study for Child Education Ⅳ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	2年	1単位	卒業選択、幼免選択、保育士選択
担当教員			
グループレッスン（ピアノ）： 宮本眞理子・大見由香 グループ学習（トーンチャイム）： 宮本眞理子 （リトミック）： 栗村葉子			
授業形態：演習	担当形態：複数	実務経験：あり（宮本）	
添付ファイル			
「幼児音楽Ⅳ」カリキュラムマップ(到達目標).pdf			
「幼児音楽Ⅳ」ループリック.pdf			

講義概要	この授業では、ピアノ演奏の技術や幼児の音楽指導に必要なことを学び、『こどものうた』のレパートリーを増やしていく。グループレッスンで、『こどものうた』の譜読みに取り組み完成させる。グループ学習のトーンチャイムの演奏では、一つの音楽を作り出す喜びを味わう。またリトミックについても学ぶ。 主担当者（宮本）は、音楽大学附属の音楽教室、高等学校音楽科での高度な音楽教育に携わって来た実務経験を生かし、効果的で分かりやすい練習方法を取り入れた授業を行う。 他の科目との関連：「幼児音楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「声楽Ⅰ・Ⅱ」などの音楽科目全般と、「幼児と表現」「保育内容（表現）の指導法Ⅰ・Ⅱ」に関連がある。また、実習で弾くピアノの課題も学ぶので実習とも関連がある。		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回	トーンチャイム（1） グループ：楽器について、演奏方法について学ぶ。	
	第2回	予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日30分） A:多 F:あり 秋のうた ピアノ：（上級・初級）「どんぐりころころ」の譜読みをし、仕上げる。 （上級）「きのこ」、（初級）「やきいもグーチーパー」の譜読みをする。	
	第3回	予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日30分） A:多 F:あり トーンチャイム（2） グループ：正確な譜読みを心がける。	
	第4回	予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日30分） A:多 F:あり 秋のうた・子どものうた ピアノ：（上級）「きのこ」、（初級）「やきいもグーチーパー」を仕上げる。 （上級）「くだものれっしゃ」、（初級）「手をたたきましょう」の譜読みをする。	
	第5回	予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日30分） A:多 F:あり トーンチャイム（3） グループ：部分練習をする。美しい音を出す振り方を学ぶ。	
	第6回	予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日30分） A:多 F:あり 秋のうた・子どものうた・冬のうた ピアノ：（上級）「くだものれっしゃ」、（初級）「手をたたきましょう」を仕上げる。 （上級）「ちいさな世界」、（初級）「ゆき」の譜読みをする。	
	第7回	予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日30分） A:多 F:あり トーンチャイム（4） グループ：部分練習を重ね、曲が出来上がる喜びを知る。	
	第8回	予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日30分） A:多 F:あり 子どものうた・冬のうた ピアノ：（上級）「ちいさな世界」、（初級）「ゆき」を仕上げる。 （上級・初級）「思い出のアルバム」の譜読みをする。	
	第9回	予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日30分） A:多 F:あり トーンチャイム（5） グループ：全曲通し練習をする。	
	第10回	予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日30分） A:多 F:あり トーンチャイム（6） グループ：幼稚園の誕生会のリハーサルをする。「ハッピー・バースデー」「クリスマスソング」他 予習・復習 ピアノの課題を練習する。（毎日30分）	

	第11回 A:多 F:あり トーンチャイム (7) グループ: 幼稚園の誕生会で演奏する。「ハッピー・バースデー」「クリスマスソング」他 予習・復習 ピアノの課題を練習する。(毎日30分) A:多 F:あり 第12回 冬のうた・実技発表の曲 ピアノ: (上級・初級)「思い出のアルバム」を仕上げる。実技発表の曲を練習する。 (上級)「うれしいひなまつり」の譜読みをする。 予習・復習 実技発表の曲を練習する。(毎日1時間) A:多 F:あり 第13回 冬のうた・実技発表の曲 ピアノ: (上級)「うれしいひなまつり」を仕上げる。 (上級・初級) 実技発表の曲を練習する。 予習・復習 実技発表の曲を練習する。(毎日1時間) A:多 F:あり 第14回 実技発表の曲 ピアノ: (上級・初級) 実技発表の曲を仕上げる。 予習・復習 実技発表の曲を練習する。(毎日1時間) A:多 F:あり 第15回 実技発表・リトミック グループ: リトミックについて学ぶ。 ピアノ: (上級・初級) 実技発表をする。(課題曲は12月初旬に掲示する。) 発表後に担当教員よりアドバイスを受け、振り返りを行う。 A:多 D:多 E:あり
教育目標との関連	ピアノにおいては『こどものうた』を数多く知ること、グループ学習のトーンチャイムにおいては心を合わせて一つの音楽を作り出す喜びを味わうことが大切である。どちらも保育者として実践できる力をつけることで、豊かな感性と愛の心を育てることができる。
到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	1. (DP3)子どもたちのために『こどものうた』を歌ったり、ピアノで演奏したりすることができる。 2. (DP5)心を合わせて一つの音楽を作り出すことに喜びを見いだすことができ、聴く人達にも喜びを伝えることができる。 3. (DP3)保育者としての音楽的センスと音楽の基礎技能を持ち、現場で子どもたちを指導することができる。 添付資料のカリキュラムマップ(到達目標)を参照
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	ピアノのグループレッスンの課題に対する取り組みを評価する。 40% 実技発表を評価する。 20% グループ学習のトーンチャイムの演奏への取り組みを評価する。 40% 成績評価は添付資料のルーブリックを参照
教科書	『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第1巻』 大海由佳 他 学研パブリッシング 2019 1,500円(税抜) 『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第2巻』 大海由佳 他 学研パブリッシング 2019 1,500円(税抜)
参考書	『幼児のための音楽教育』神原雅之 他 教育芸術社 2018 2,000円(税抜) 『こどものうた140選』和田葉子 他 ドレミ楽譜出版社 2019 1,800円(税抜) その他 適宜プリントを配付する。
準備学習(予習・復習等)の具体的内容および必要な時間	ピアノの練習は積み重ねが大事であるので、必ず毎日(30分、実技発表前は1時間)練習すること。レッスンを受けた内容をその日のうちに復習することで、大きな成果が得られる。
履修上の注意、条件等	幼児選択・保育士選択となっているが、秋・冬の『こどものうた』を学ぶことができるので履修することを勧める。
オフィスアワー	曜日・時間は研究室に掲示する。ピアノについてはレッスン時に担当教員に質問すること。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 声楽Ⅰ

授業コード：

英文科目名称： Vocal Study Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	2年	1単位	卒業選択、保育士選択
担当教員			
大見由香			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	
添付ファイル			
声楽1CMR.pdf			

講義概要	子どものうたや合唱曲に取り組む。授業では毎回ウォームアップ体操、呼吸、発声、音程などの基礎練習を行う。フレージング、歌詞の意味、曲の構成などを理解し、表現豊かな演奏を目指す。合唱ではお互いのバランスや調和をとる事を学ぶ。また、外国の歌に取り組み、異文化に触れる経験をする。学修の成果は、わらべうた歌を用いたグループ発表、子どもの歌や、合唱曲を用いて Virtual Choir 作品を各自で録画し、完成させる。遠隔授業（配信）と対面授業を合わせて行う。 他の科目との関連：「幼児音楽Ⅰ、Ⅱ」で習得した声楽の技能、表現力をさらに高める。本授業で習得した子どものうたの理解、表現、レパートリーは「保育内容（表現）の指導法Ⅰ、Ⅱ」「幼児音楽Ⅲ、Ⅳ」において、伴奏法、楽器演奏、身体表現、指導案作成の学習に関連する。「声楽Ⅱ」と連続性があるため続けて履修することが望ましい。 授業担当者はインターナショナルスクールや多国籍クワイヤーの指導経験があり、国内外の合唱曲とその民族・文化的背景や英語による歌唱のポイントや表現法を心身になじみやすい方法で紹介できる。		
授業計画および学習形態	第1回	授業の概要 呼吸と発声について 授業概要・呼吸と発声について説明を受け、実際に行う。 「春が来た」を独唱し、各自の声質と声域を確認する。 復習：授業で行った呼吸と発声の練習と自己ボイスチェックを行う。（20分） E：あり F：あり	
	第2回	「春がきた」2部合唱・春のうた 「春が来た」を2部で歌う。歌詞の意味とフレーズを理解して表現する。 音程（重唱）の練習。春のうたをうたう。 予習・復習：春のうたを覚え、両パートともいつでも歌えるようにする。（20分） E：あり F：あり	
	第3回	保育現場における歌唱活動（1） 春のこどもの歌の歌唱のポイントを学び練習する 予習・復習 春のうたを覚え、いつでも歌えるようにする。各自のパートを練習する。（20分） E：あり F：あり	
	第4回	保育現場における歌唱活動（2） わらべ歌 保育現場における歌唱活動について：弾き歌い、手遊び、わらべうた。わらべうたのグループ練習。 予習・復習：『幼児のための音楽教育』のわらべうたをうたい遊び方を覚える。（20分） A：中 D：中 F：あり	
	第5回	保育現場における歌唱活動（3） わらべうたのグループ発表を鑑賞し保育現場でのわらべ歌について考える 予習・復習：授業で歌った歌を練習する。（20分） E：あり F：あり	
	第6回	クラス別プロジェクト（1）計画 クラス別プロジェクトの内容を決定し、役割分担、準備計画を立てる。 予習・復習：授業で歌った歌を練習する。（20分） B：多 F：あり	
	第7回	クラス別プロジェクト（2）準備 クラス別プロジェクトの練習をし、必要な道具などを準備・作成する。 予習・復習：授業で決まった役割の練習、準備をする。（20分） B：あり F：あり	
	第8回	クラス別プロジェクト（3）作成 クラス別プロジェクトの練習をし、必要な道具などを準備・作成する。進捗状況を確認し、課題を見出す。 予習・復習：授業で決まった役割の練習、準備をする。（20分） B：あり E：あり F：あり	
	第9回	クラス別プロジェクト（4）発表 クラス別プロジェクトの作品を鑑賞し振り返る 振り返りと次への課題（20分） E：あり F：あり	
	第10回	全体プロジェクト（1）計画 グループごとにリハーサルを行い、見え方、音の伝わり方、機器類を確認する。 予習・復習：授業で決まった役割を暗譜で演じられるように練習し、準備をする。（20分） A：あり B：多 F：あり	
	第11回	全体プロジェクト（2）準備 リハーサルを振り返り、改善点を見出す。 予習・復習：各自の役割の練習、準備をする。（20分） E：あり F：あり	
	第12回	全体プロジェクト（3）準備	

	最終確認をする。 予習・復習：各自の役割の練習、準備をする。（20分） E:あり F:あり 第13回 全体プロジェクト（4）作成 全体プロジェクトの録画を各自で作成する。 予習・復習：個々の役割の練習と準備を行い、全体の流れを確認する。（20分） F:多 第14回 クラス別プロジェクト（5）発表 発表作品の準備段階や、最終作品を振り返る。振り返りアンケートを行う。 夏・秋のうたを歌う。 予習・復習：夏のうたを覚え、いつでも歌えるように練習する。（20分） E:あり F:あり 第15回 幼児音楽Ⅰまとめ 本授業で得たレパートリーや自身の歌唱について振り返り、今後の課題を見出す。 予習・復習：夏のうたを覚え、いつでも歌えるように練習する。（20分） E:あり F:あり
教育目標との関連	保育者として必要な声楽の技術と知識を身につける。 子どものうたや、学生自身が共感できる曲に取り組むことにより、豊かな知性と愛の心、歌ごころを育てる。
到達目標 カリキュラムマップ	1. 歌に込められたメッセージを理解し、状況にあった表現を理解している。 2. 童謡のレパートリーが増え、子どもやその時期の状況にあった歌を提示し、指導できる。 3. 子どもの歌を各音域で通る声で歌い、他者に伝わる表現で歌える。 4. うたの楽しさを感じ、表現の仕方を工夫することに関心を持つ。 5. お互いに聴き合う感覚を磨き、協働の重要性を理解している。 到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること。
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	受講態度 40% 課題への取り組み、またお互いに協力する姿勢、事前・事後の個人での練習を含む。 実技発表 60% グループ発表、こどものうたや合唱曲を用いたプレゼンでの演奏。 評価基準は添付資料のルーブリックを参照すること。
教科書	改訂『幼児のための音楽教育』神原雅之 編著 教育芸術社 2019年 2,000円（税抜） その他授業内にてプリントを配付する。
参考書	
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	復習：授業で取り組んだ子どものうたは、暗譜でいつでも歌えるようにしておく。
履修上の注意、条件等	うたを学びたいという気持ちのある者。グループでの発表に際しては、リハーサルを円滑に行うための協力、連絡、役割を全うする姿勢が不可欠。ファイルを準備し、授業で配布するプリントを保管し、毎回各自の楽譜を持ってくること。
オフィスアワー	大見研究室で受け付ける。オフィスアワーは、研究室に掲示する。 遠隔授業においては Google Classroom の限定コメントで受け付ける。
備考・メッセージ	本クラス用のYouTubeの練習用音源を活用して、日々の練習を行う事。

講義科目名称： 声楽Ⅱ

授業コード：

英文科目名称： Vocal Study Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	2年	1単位	卒業選択、保育士選択
担当教員			
大見由香			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	
添付ファイル			
声楽2CMR.pdf			

講義概要	子どものうたや合唱曲に取り組む。授業では毎回ウォームアップ体操、呼吸、発声、音程などの基礎練習を行う。フレージング、歌詞の意味、曲の構成などを理解し、表現豊かな演奏を目指す。合唱ではお互いのバランスや調和をとる事を学ぶ。また、外国の歌に取り組み、異文化に触れる経験をする。学修の成果は子どものうたを用いたグループ発表、文化祭音楽研究発表会にて発表し、学びを深める。 他の科目との関連：「幼児音楽Ⅰ、Ⅱ」で習得した声楽の技能、表現力をさらに高める。本授業で修得した子どものうたの理解、表現、レパートリーは「保育内容（表現）の指導法Ⅰ、Ⅱ」「幼児音楽Ⅲ、Ⅳ」において、伴奏法、楽器演奏、身体表現、指導案作成の学習に関連する。連続性があるため「声楽Ⅰ」から続けて履修することが望ましい。 授業担当者はインターナショナルスクールや多国籍クワイヤーの指導経験があり、国内外の合唱曲とその民族・文化的背景や英語による歌唱のポイントや表現法を心身になじみやすい方法で紹介できる。		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A: グループワーク B: ディスカッション C: フィールドワーク D: プレゼンテーション E: 振り返り F: 宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回	授業の概要 呼吸と発声について 音楽研究発表の曲(1)・秋のうた 授業概要・呼吸と発声について説明を受け、実際に行う。 音楽研究発表の曲の各パートとメロディを確認する。 秋のうたを歌う。 予習・復習：秋のうたを覚え、いつでも歌えるようにする。音楽研究発表の曲の各自のパートを練習する。(45分) A：中 D：中 F：あり	
	第2回	音楽研究発表の曲(2) 歌詞について・秋のうた 音楽研究発表の曲の歌詞の意味を確認する。 秋のうたを歌う。 予習・復習：秋のうたを覚え、いつでも歌えるようにする。音楽研究発表の曲の各自のパートを練習する。(45分) A：中 D：中 F：あり	
	第3回	音楽研究発表の曲(3) テスト・秋のうた 音楽研究発表の曲のテスト（各自のパートを独唱する）。 秋のうたを歌う。 予習・復習：秋のうたを覚え、いつでも歌えるようにする。音楽研究発表の曲の各自のパートを練習する。(45分) A：中 D：中 F：あり	
	第4回	音楽研究発表の曲(4) ハーモニー・秋のうた 音楽研究発表の曲のハーモニーを聞く練習する。 秋のうたを歌う。 予習・復習：秋のうたを覚え、いつでも歌えるようにする。音楽研究発表の曲の各自のパートを練習する。(45分) A：中 D：中 F：あり	
	第5回	音楽研究発表の曲(5) 表現をつける・秋のうた 音楽研究発表の曲の表現について考え、工夫する。 秋のうたを歌う。 予習・復習：秋のうたを覚え、いつでも歌えるようにする。音楽研究発表の曲の各自のパートを練習する。(45分) A：中 D：中 F：あり	
	第6回	音楽研究発表の曲(6) 並び方・秋のうた 音楽研究発表の際の並び方と立ち位置を確認し、練習する。 秋のうたを歌う。 予習・復習：秋のうたを覚え、いつでも歌えるようにする。音楽研究発表の曲の各自のパートを練習する。(45分) A：中 D：中 F：あり	
	第7回	音楽研究発表のうた(7) 伴奏合わせ 音楽研究発表の曲の伴奏合わせをする。 予習・復習：音楽研究発表の曲の各自のパートを練習する。(45分) A：中 D：中 F：あり	
	第8回	音楽研究発表の曲(8) 最終確認 音楽研究発表の曲の伴奏合わせをし、最終確認を行う。 予習・復習：音楽研究発表の曲の各自のパートを練習する。(45分) A：中 D：中 F：あり	
	第9回	音楽研究発表 音楽研究発表にて歌う。 予習・復習：音楽研究発表で歌う曲を練習する。(45分) A：中 D：中	
	第10回	音楽研究発表の振り返り・冬のうた 音楽研究発表について振り返る。	

	冬のうたを練習する。 子どものうたを用いたグループ発表に向けてグループで曲を決め、シナリオを作成する。 予習・復習：冬のうたを覚え、いつでも歌えるようにする。（45分） A：中 D：中 E：あり F：あり 第11回 冬のうた・グループ発表の準備 冬のうたを練習する。 子どものうたを用いたグループ発表の制作やリハーサルを行う。 予習・復習：冬のうたを覚え、いつでも歌えるようにする。（45分） A：中 D：中 F：あり 第12回 子どものうたのグループ発表 子どものうたを用いてグループ発表を行う。 発表についてディスカッションする。 予習・復習：冬のうたを覚え、いつでも歌えるようにする。（45分） A：中 D：中 E：あり F：あり 第13回 クリスマスのうた・グループ発表 クリスマスのうたを練習する。 グループ発表を行う。テスト曲を決定する。 予習・復習：クリスマスのうたを覚え、いつでも歌えるようにする。テスト曲を練習する。（45分） A：中 D：中 F：あり 第14回 冬のうた・テスト 冬のうたを練習する。テストにて歌う。 予習・復習：冬のうたを覚え、いつでも歌えるようにする（45分） A：中 D：中 第15回 冬のうた・卒業式のうた・まとめ 冬のうたと卒業式の歌を練習する。1年間の学びと成果について振り返る。 予習・復習：冬のうたを練習する。（45分） A：中 D：中 E：あり
教育目標との関連	保育者として必要な声楽の技術と知識を身につける。 子どものうたや、学生自身が共感できる曲に取り組むことにより、豊かな知性と愛の心、歌ごころを育てる。
到達目標 カリキュラムマップ	1. 歌に込められたメッセージを理解し、状況にあった表現を理解している。 2. 童謡のレパートリーが増え、子どもやその時期の状況にあった歌を提示し、指導できる。 3. 子どもの歌を各音域で通る声で歌い、他者に伝わる表現で歌える。 4. うたの楽しさを感じ、表現の仕方を工夫することに関心を持つ。 5. 合唱を通してお互いに聴き合う感覚を磨き、協働の重要性を理解する。 到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること。
評価方法および評価基準	受講態度 40% 課題への取り組み、またお互いに協力する姿勢、事前・事後の個人での練習を含む。 実技発表 40% グループ発表、音楽研究発表での演奏。 実技試験 20% 独唱またはアンサンブル形式のテスト。 発表とその取り組み、実技テストはルーブリックを用いて評価する。 評価方法は添付資料のルーブリックを参照すること。
教科書	改訂『幼児のための音楽教育』神原雅之 編著 教育芸術社 2019年 2,000円（税抜） その他授業内にてプリントを配付する。
参考書	
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	復習：授業で取り組んだ子どものうたは、暗譜でいつでも歌えるようにしておく。
履修上の注意、条件等	うたを学びたいという気持ちのある者。グループでの発表に際しては、リハーサルを円滑に行うための協力、連絡、役割を全うする姿勢が不可欠。ファイルを準備し、授業で配布するプリントを保管し、毎回各自の楽譜を持ってくる。
オフィスアワー	大見研究室で受け付ける。時間は、研究室に掲示する。
備考・メッセージ	本クラス用のYouTubeの練習用音源を活用して、日々の練習を行う事。

講義科目名称： 子ども家庭福祉

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	1年	2単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
小川一幸			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	
添付ファイル			
カリキュラムマップ 子ども家庭福祉. pdf			
ループリック 子ども家庭福祉. pdf			

講義概要	現在の子どもを取り巻く社会的環境は大きく変化し、その結果として少子化、核家族化、家庭や地域の子育て機能の弱体化、経済的問題（子どもの貧困）、女性の社会進出による保育ニーズの増大・多様化など様々な課題をもたらしている。そのような現実の中で、子ども家庭福祉は子どもを健やかに育てることをサポートする制度として社会的に重要な役割を担っている。子ども家庭福祉の現状と役割について、毎回授業に関連する映像を見て、グループディスカッション等も取り入れ、より理解を深める。 他の科目との関連：「子ども家庭福祉」は「社会福祉」の一分野であり、社会福祉全体の中での子ども家庭福祉の基本的枠組みを理解する。また、保育士の仕事は人との関りが不可欠であり、「相談援助」においては専門性を身に付け、実践に生かせるように学ぶ。 実務経験については38年間の社会福祉の現場経験あり、18年間は児童福祉関係、特に10年間は「児童相談所」で児童福祉司として子どもの援助に携わってきた。子どもの置かれている現状や課題など、具体的な事例なども紹介しながら授業をすすめて行く。		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの割合を明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回	子ども家庭福祉を学ぶにあたってのガイダンス 「子ども家庭福祉」を学ぶにあたって、子ども家庭福祉は社会福祉の一分野であり、社会福祉全体の中での子ども家庭福祉の基本的枠組みを先ず理解する。授業をするにあたって、子ども家庭福祉のとらえ方、児童等の定義、家族と家庭の違いなどの共通理解を形成する。それぞれが考えている子どもは抱えている課題は何か、その中で保育士の役割りは何かなどディスカッション等を通じて明らかにする。 予習：テキストP13～16、「子ども家庭福祉を学ぶ前に」を読んでおく。 現在子ども家庭福祉が抱えている具体的な課題について考えておく。 約45分 B：少	
	第2回	子どもを取り巻く現代社会の特徴と子ども家庭福祉 少子化、家庭機能の縮小が進む中で、子どもの生活・養育環境が大きく変化している。社会の変容、地域・家庭の機能の弱体化が、家庭や子どもの生活にどのような影響を与えているのかなどを考察する。また近年、大きな社会問題になっている子どもの貧困についても学ぶ。 予習：テキストP19～P32、「子どもと家庭を取り巻く現状」を読み、貧困とはどのような状態なのか、また家庭・社会・地域の変容の中での子どもの置かれている現状の課題などについて考える。 約45分 A：少 B：中 Eあり	
	第3回	子ども家庭福祉のあゆみ(歴史) 子ども家庭福祉の歴史を学ぶことで、どの様にして今日の児童福祉制度が形成されてきたのかなどを、それぞれの時代の社会背景を踏まえてながら理解を深める。特に戦後成立した児童福祉法は社会の変化に対応しつつ60数回以上の改正を重ねてきている。その改正の流れを学びながら子ども家庭福祉の変遷を理解する。 予習：テキストP56～P59、「日本の子ども家庭福祉」テキストP64～67「児童福祉法」を読んでおく。約30分 B：少 Eあり	
	第4回	子どもの権利と子ども家庭福祉 子どもの人権とは子どもが本来持っているものを正當に保障され、自らそれを行使する権利である。子どもの権利保障に関わる国際的な取り組み、特に子どもの人権観を大きく変えた「子どもの権利条約」成立までの経緯、また、日本における子どもの権利についての現状と子ども観「ウエルフェア」から「ウエルビーイング」、子どもの権利条約の中身についてなどについて学習する。 予習：テキストP33～P47、「子どもの権利」を読んでおく。約45分 B：少 Eあり	
	第5回	子ども家庭福祉の法律と実施（相談）機関 子ども家庭福祉の基本法である児童福祉法をはじめとする子ども家庭福祉を支えている「児童福祉六法」とそれに基づく法体系のあらまし、子ども家庭福祉施策を推進していく実施（相談）機関について学ぶ。特に子どもの相談機関の中心となっている児童相談所の具体的業務内容、役割などについて事例やDVDの映像を利用して理解を深める。 予習：テキストP67～P75「子ども家庭福祉に関する法律」、テキストP78～P80、「子ども家庭福祉の行財政と実施機関、テキストP78～P80「子ども家庭福祉を支える機関」を読んでおく。約45分 B：少 Eあり	
	第6回	児童福祉施設と子ども家庭福祉 児童福祉施設の果たしている役割、種類とその概要、設置と運営、利用の現状などを学び、地域・在宅福祉と施設福祉の機能の特徴、児童福祉施設の今後の方向性などについて考察し、話し合う。 予習：P87～88「児童福祉施設及び事業」を読んでおく。約45分 B：少 Eあり 予習：1回目～5回目までのレジュメを読んでおく 【振り返り1】第1回～第5回までの振り返り小テストを行う。（授業内容の理解度の確認）を行う	
	第7回	保育サービスと子ども家庭福祉について	

	保育所は子ども家庭福祉の中でも人々の関心とニーズが高いサービスである。その制度の概要や歴史的役割の変化と保育所の現状と課題、特に待機児童に伴い認可外保育施設の増加の意味などについて考え、話し合う。 予習：待機児童問題について考え、テキストP121～P131+、「保育サービス」を読んでおく。約60分 A：少 B：少 Eあり 第8回 子ども子育て支援新制度と子ども家庭福祉について いろいろ論議されてきた子ども・子育て支援に関する制度改革が、平成27年度より「子ども・子育て支援新制度」として実施された。保育の総合的提供や、地域の子ども・子育て支援の充実などがうたわれ様々な子ども育成施策がとられてきている、その制度の内容、現状の課題などについて学ぶ。 予習：テキストP100～P107「子ども・子育て新制度の事業」を読んでおく。約60分 B：中 Eあり 第9回 社会的養護と子ども家庭福祉について 子ども家庭福祉の原点といえる社会的養護とはどのようなものなのか、また、社会的養護が必要とされる児童の現状、と特に平成29年度に出された「新しい社会的養護ビジョン」の中で家庭養護中心に対応するとの方針が示されたが、その中心的役割を期待されている里親制度と特別養子縁組制度についても学ぶ。 予習：乳児院、児童養護施設とはどのような施設なのか、また、里親制度の種類についても調べておく。テキストP147～P159、「社会的養護」を読んでおく。約45分 A：少 B：少 Eあり 第10回 母子保健・障がいがある子どもと子ども家庭福祉について 母子保健法は児童福祉法から独立した法律であり、妊娠期から幼児期における母と子の健康を支援する施策、実施体制、サービスの概要などについて学ぶ。障がいがある子どもについては障がいとは何か、障がいの理解を妨げている「社会的障壁（しょうへき）ノーマライゼーションについて理解を深める 予習：テキストP109～P120、「母子保健サービス」テキストP179～P189、「障がいのある子どもの福祉」を読んでおく。約45分、 A：少 B：少 Eあり 第11回 ひとり親家庭と子ども家庭福祉について ひとり親家庭は年々増加している。ひとり親家庭の貧困率は50、8%とOECD加盟国の中でも高い数値を示している。そのような現状の中で、ひとり親家庭の生活の実態と課題を抱えているのか？また、その課題についてどのようなサービスが講じられているかを学び、さらにひとり親家庭を支えるのに必要なサービスについて考える。 予習：テキストP161～P176、「ひとり親家庭への福祉」を読んでおく。約30分 B：少 Eあり 【振り返りー2ー】第6回～第10回までの振り返り小テストを行う（授業内容の理解度の確認）を行う 第12回 児童虐待と子ども家庭福祉について（原因）ー1ー 児童虐待の相談件数は13万件を超え、また死亡事例の増加などにより、社会的にも大きな関心を集めている、子ども家庭福祉の中でも大きな課題の一つである。児童虐待についての種類や内容、児童虐待が生じる保護者の背景や現状を学び、なぜ虐待をしてしまうのか原因を話し合う、 予習：テキストP135～P141、「児童虐待」を読んでおく。約45分 A：少 B：少 Eあり 第13回 児童虐待と子ども家庭福祉についてー2（対応）ー 児童虐待への対応には子育て支援を中心とした予防的なものと、虐待そのものへの対応とがある。相談で対応できるものと、児童相談所の持っている虐待にたいする法的権限を使って対応するものもある。児童虐待に具体的にどのような流れで対応するのか、また、児童相談所が持っている法的権限とはどのようなものがあるか、児童相談所が法的権限を行使して実際に子どもを救出する映像を利用しながら学ぶ。 予習：テキストP135～P141、「児童虐待」を読んでおく。約45分 A：少 B：少 Eあり 第14回 子ども家庭福祉の総括と学習到達点の確認テスト 1回目～14回目の授業についての総括を行い、この回の中で学習到達度の確認テストを実施する 予習：1回目～13回目まで配布したレジュメ、特に授業の中で重要と指摘した項目を中心を読んでくる。約2時間 第15回 子ども家庭福祉の課題と展望 子ども家庭福祉は社会福祉制度の中でも大きな役割を担っており、子どもの豊かな育ちと権利擁護の実現を目的としている。子どもを取り巻く社会・生活環境・家庭機能が大きく変わっている中で、これからの子ども家庭福祉の役割と課題、保育士の役割について考察し、話し合う。 A：少 B：少 E：中
教育目標との関連	保育士は2001年（平成13年）の児童福祉法改正、2003年（平成15年）の施行により法制化された国家資格である。保育士は保育所に通園している子どもの保育だけでなく、子どもを養育している家庭、地域の子育て家庭への養育支援などの役割を果たすことになっている。、保育士や幼稚園の教諭は単に技術や知識を習得するだけではなく、「福祉は人なり」といわれているように、関わった人との信頼関係を築くことが出来、生活実態や課題をしっかりと理解し、プライバシーを尊重し人権を重んじるという考え方や実践力を身につける。

到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	1. 現在の子どもを取り巻く社会的環境は大きく変化し、少子化、核家族化、家庭や地域の子育て機能弱体化、などによって様々な課題をもたらしていることを理解し的確に説明できるように学ぶ 2. 子ども家庭福祉の基礎をなす法律の体系を理解し、それに基づく援助の制度・実施体制などについて類別することができるように学ぶ 3. 今日の子どもの置かれている状況や子ども家庭福祉の抱える課題について理解出来、どのような支援・援助体制があるかなど表現できるように学ぶ。
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	試験 60% 定期試験を実施して、授業内容全般についての理解度を評価する。 提出課題 10% 与えられた課題を講義内容との関連での理解度を評価する。 提出課題については授業時にルーブリックの表を公表し、その基準に従って評価を行う 振り返り 20% 振り返り小テストの評価 平常点評価 10% 毎回の授業の中での質問への応答、授業の理解度、積極性などを評価する。
教科書	「保育と子ども家庭福祉」 櫻井奈津子編 みらい 2019年 2100円（税別）
参考書	授業の時に適宜紹介する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	各回の予習は上記のとおり。授業期間を通じて、子ども家庭福祉に関連する新聞記事、ニュースなどに積極的に関心を持つ。
履修上の注意、条件等	新聞記事などはスクラップをして授業の参考にする。
オフィスアワー	授業終了後と授業実施日の昼休みの時間帯に教室で質問を受け付ける。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 保育者論

授業コード：

英文科目名称： General Theory of Early Childhood Caregivers

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	2年生	2単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
森下匡子			
授業形態：遠隔授業（配信）	担当形態：単独	実務経験：あり	
添付ファイル			
コピー2020ルーブリック保育者論 (1). pdf			
2020カリキュラムマップ 保育者論 .xlsx			

講義概要	「保育者論」は、保育者としての意義、役割及び専門職としての資質について学ぶ。多種多様な時代を生き抜いていく子どもたちが最初に経験する社会生活に関わる中で、保育者の重要性を考え、求められる保育者像を明確にする。保育職を目指すものとして、自己の振り返り、自身に必要となる専門的な学びを深める。他の科目との関連：「保育原理」で学ぶ保育に必要な基礎的事項や、保育全般の理念など、保育者としての角度から学ぶ。 「保育実習Ⅰ」での経験をもとに、保育現場での実践から、保育者の資質能力について学びを深める。 講師は私立幼稚園での担任教諭、保育園での保育士経験、親子教育研究センターでの子育て支援スタッフ、公共ホールでの託児事業担当、公立小学校での支援員などの経験から、子供の成長に合わせた保育の事例を基に、保育現場での実践につながる内容を授業に取り入れている。		
授業計画および学習形態	第1回	保育者とは 保育者とはどのような人のことをいうのか。保育者の仕事の本質・特性について考える。また、授業ガイダンスにおいて、授業の内容を確認する。 予習：教科書P3～12（30分） 教科書ワークあり 30分 F：あり	
各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第2回	保育者になるために 幼稚園教諭免許、保育士資格について学ぶ。また、保育者に求めに求められる心構えや服務について考えを深める。予習：教科書P23～28(30分) 教科書ワークあり 30分 F：あり	
	第3回	幼稚園教諭の仕事とその一日 保育幼稚園教諭の仕事について、DVD教材を通して具体的に学ぶ。また、幼児の集団生活の中での保育者の指導方法について考えを深める。予習：教科書P37～40（30分） F：あり	
	第4回	保育士の仕事とその一日 保育士の仕事について、教科書を通して具体的に学ぶ。また、保育実習Ⅰの経験から、保育士の姿、子どものかかわり方をまとめ、各自の課題を明確にする。予習：教科書P72～74 F：あり	
	第5回	子どもの内面や発達を理解する保育者 子どもの発達について考えを深める。教科書の事例から子どもの姿と保育者のかかわり方を読み取り、子どもの発達を支える重要性を学ぶ。予習：教科書P77～85を読む（30分） F：あり	
	第6回	遊びを援助する保育者① 子どもの成長発達における遊びの重要性について考えを深める。子どもにとっての「あそび」とは、子どもの興味関心を捉え、次の姿を予測する保育の効果を学ぶ。予習：教科書P95～100 F:あり	
	第7回	遊びを援助する保育者② 遊びの体験を通して、個別の遊びから集団遊びへの援助について学ぶ。また、子どもが遊びを通して成長する過程について考えを深める。教科書P106～110 F:あり	
	第8回	個と集団を活かす保育者 個と集団の違いやとらえ方を、保育所保育指針、幼稚園教育要領、認定こども園保育要領などからまとめる。保育者のかかわり方で集団での個の成長発達につながる重要性を学ぶ。予習：教科書P113～121（30分） F：あり	
	第9回	家庭や地域と連携・支援する保育者 家庭や地域との連携、園とのかかわり方を学ぶ。特に現代における子育て支援の必要性について、社会資源としての園の在り方について考える。予習：教科書P133～138 教科書ワークあり（30分） F：あり	
	第10回	多様な子どもの理解と支援する保育者 現代社会における子どもの問題や社会的課題により生じる子どもの多様性について学ぶ。そのうえで、保育現場での対応、保育士のかかわり方を理解する。また、海外での保育事情に触れ、保育に対する考え方を学ぶ。予習：教科書P151～158を読む30分(30分) F:あり	
	第11回	教材などを通して学びを深める保育者 子どもの興味関心を強め、豊かな経験につながる保育教材について学ぶ。幼稚園教育実習の経験から実際の教材の取入れ方法や、子どもへのアプローチの方法をまとめる。予習：教科書P183～188を読む(30分) F:あり	
	第12回	成長する保育者と同僚性 保育現場でのチームワークの重要性を学ぶ。保育の中の協同性、協調性について考えを深める。予習：教科書P193～201を読む 30分 教科書ワークあり（30分） F:あり	
	第13回	保育者の専門性についてまとめる 保育者として求められる資質、能力について、学生自身の考えをまとめる。さらに保育の質の向上の重要性について学びを深める。1 予習：教科書P209～216を読む（30分） F:あり	
	第14回	まとめ 課題の振り返り、今までの授業内容についてまとめる。 F:あり	

教育目標との関連	保育者の職務の意義や内容について知識を深く理解し、保育者としての基本を身につける。また、保育者の職務の意義や内容について自身が考察し、保育者としての適切な判断ができることが重要と考える。そのうえで保育現場で必要となる環境構成や、子どもの遊びを支える技術を確実に身につける学びを深め、実践力へとつなげる。さらに保育に関わる視聴覚資料や参考資料により、子どもの育ちに興味関心を持ち保育者に対する意欲を高める。保育者論の学びを通して、保育者としての責任感を持ち、自覚しながら行動することは保育現場でも求められる。
到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	1、保育者としての本質を理解し、保育の専門性を深める知識を身につける 2、保育内容の向上を目指し、保育現場での実践につながる方法を理解する
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	割合 評価基準 提出課題100% 各授業毎に出された課題の内容を評価する。
教科書	アクティベート保育学02 『保育者論』 大豆生田啓友・秋田喜代美・汐見稔幸〔編著〕 ミネルヴァ書房 2019年4月30日出版 定価2000円（税別）
参考書	保育所保育指針 厚生労働省 編 フレーベル館 2018年3月23日発行 定価320円（税別） 幼稚園教育要領 文部科学省編 フレーベル館 2018年3月23日発行 定価240円（税別） 認定こども園保育要領 内閣府 文部科学省 厚生労働省編 フレーベル館 2018年3月29日発行 定価350円（税別）
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	教科書の指定ページをよく読み予習をすること。 毎回の授業記録をノートにまとめ、授業内容を復習する。
履修上の注意、条件等	保育者を目指す学生としての自覚を持ち、授業に取り組むこと。
オフィスアワー	Google classroom 限定コメントにて質問を受ける
備考・メッセージ	授業形態 遠隔授業（配信） 各回、授業内容をノートに記録し、毎回の授業に教科書 ノートを用意すること 2020年度においては、遠隔授業（配信）のためアクティブラーニングは未実施となる

講義科目名称： 子育て支援

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	2年生	1単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
森下匡子			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	
添付ファイル			
2020カリキュラムマップ 子育て支援改訂版. pdf			
2020ループリック子育て支援改訂版. pdf			

講義概要	現代社会における多様化する家族の形の中で、子育てを楽しみ、保護者自身が積極的に子どもへ関わる事ができるよう、保育者が専門的に支援することの重要性が問われている。この状況に対応できる保育者になるために、保護者とのかかわり方、支援方法の実践を学ぶ。子どもを通して関わる保護者との関係を理解し、適切な支援への重要性を理解する。また、現代では家庭での養育力（子育て力）の低下が社会的に大きな課題となっている。保育所・幼稚園・認定子ども園は、地域での子育て支援にも積極的に実践することが求められている中で、保育者としての専門性を活かした適切な対応とその責任を学ぶ。さらに、SDG sにかかわる課題より、世界の子育て支援環境についても理解を深める。 講師は私立幼稚園での担任教諭、保育園での保育士経験、親子教育研究センターでの子育て支援スタッフ、公共ホールでの託児事業担当、公立小学校での支援員などの経験から保護者のニーズに合わせた支援の重要性を実践事例として授業に取り入れている。		
授業計画および学習形態	各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。		
第1回	第 1 回 子育て支援とは 保護者が必要とする子育て支援における保育者の役割と、保育相談支援の重要性を考える。また、授業ガイダンスにおいて、授業内容・授業進行・評価方法・評価基準を確認する 予習：教科書P1～5 20分 E:あり 復習 60分		
第2回	第 2 回 保護者との相互理解と信頼関係の形成 子育て支援において基本となる、保護者との相互理解と信頼関係の構築について学ぶ。バイステックの7原則を理解し、支援の際の保育者の基本的態度を身につける 予習：教科書P14～16 20分 教科書ワーク① F:あり 復習 60分		
第3回	第 3 回 保護者の抱える支援ニーズのへの気づき 保護者の抱える子育ての不安や、悩みなどに気づき、その背景や家庭環境から適切な支援とつなげていく。国の子育て支援に対する施策と現状について学び、そのうえで、それぞれに適した支援を考える。また、諸外国における子育て支援の状況について理解する。 予習：教科書P26～29 20分 F:あり 復習 60分		
第4回	第 4 回 社会資源とは何か、また関係機関との連携について理解する 現代の社会ではなぜ子育てを社会で取り組むことが重要となるのか？保育現場と社会との関係性など、地域との連携について学ぶ。また、子育て支援に必要な社会資源についてまとめる。 予習：教科書P84～85 20分 教科書ワーク② E:あり 復習 60分		
第5回	第 5 回 園における支援 ① 在園児の保護者に向けて設定される子育て支援の実際を、教科書の事例から学ぶ。特に、通常の保育の中で実践できる保護者支援について、その技術・方法を学び、適切な保育者対応について考えを深める。 予習：教科書P96～98 20分 復習： 60分 F:あり		
第6回	第 6 回 園における支援 ② 保育現場の環境設定から保護者支援につながる要因について考える。保護者支援につながるための適切な環境設定について学ぶ。 予習：教科書P104～105 20分 教科書ワーク③ F:あり 復習 60分		
第7回	第 7 回 地域における支援 地域における“子育て支援の拠点”とは何かを考え、現代社会における、子育て家庭への支援の重要性と、保護者の適切な子ども理解への援助を、園全体の役割として担うことを学ぶ。特に、一時預かり・子育てひろば・子育て相談の実施の重要性について事例から考えを深める。 予習：教科書P108～113 20分 教科書ワーク④ E:あり F:あり(教科書ワーク⑤) 復習 60分		
第8回	第 8 回 特別な配慮を要する子どもおよびその過程に対する支援 複雑な家庭環境、障害のある子どもの家庭、多様化する家庭に対する支援について学ぶ。それぞれの子育ての課題を適切に判断し、より安心して子育てが出来る環境設定の提案など、保育者の責任ある対応を理解する。 予習：教科書p120 132 156 20分 Fあり 復習 60分		
第9回	第 9 回 子どもの虐待予防と対応 児童虐待における原因、保護者の背景、子育ての環境について学ぶ。保育者として適切な行動から虐待防止への基本姿勢を学ぶ。また、実際の事例から虐待について把握することが重要となる。 予習：教科書P144～147 20分 Fあり 復習 60分		
第10回	第 10 回 保育相談支援の展開・支援計画について 保育相談支援における、ケースワークの展開・計画案について学ぶ。保護者の状況を把握し、課題を明確化し、実際の支援へつなげる流れを理解する。 予習：教科書P36～38 p48～49 20分 E:あり 復習 60分		
第11回	第 11 回 保護者支援の評価、カンファレンス 園における相談支援の評価について学ぶ。また、保護者支援のにおける職員間の連携や重要性について考える。 予習：教科書P60～63 P72～74 20分 教科書ワーク⑥ F:あり		

	第12回 第 12 回 保育相談支援における個別面談実践 個別面談の方法を学ぶ。実践に向けて準備を行う 予習：配布資料読み取り 20分 F：あり 復習 90分 第13回 第 13 回 個別面談実 1グループごとに事例から面談実践を行う。それぞれが、保育者・保護者・観察者となる。各回の ポイントをまとめる。ワークシートあり 予習：教科書P168～171 20分 復習60分 A：多 第14回 第 14 回 まとめ 試験 1 3回で実践した個別面談について、事例解説を通して理解を深める。また現代社会の抱える子 育て支援についての今後の課題について学ぶ。 予習：授業全般の復習 ノート整理 2時間 F：あり 第15回 第 15 回 まとめ 振り返り 今までの授業内容をまとめ、課題に取り組む。 F：あり
教育目標との関連	本講義では、現代における子育て支援の重要性を正しく理解し、保育者としての知識を身につけるとともに、 子育て支援に対する適切な対応を保育者自身が考えることにより、保育現場での適切な判断力を養う。 また、授業内容の中でも重要とされる、個別相談の技術を身につけ、保護者に伝わりやすい表現を用いて子育 て支援に携わる。現代における多様な社会変化による子育ての課題に対して積極的に関心を持ち、保育現場で の適切な対応に意欲的に取り組むことが重要である。そのためにも、保育者として、直接保護者と関わり、多 様化する保護者を尊重することができるよう学びを深める。
到達目標 カリキュ ラムマップ 1. 知 識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会 性	2、社会における子育て支援の重要性を理解、その課題に関心をもって保育者としての正しい判断ができる 3、保育現場で行われる、子育て支援に対する適切な技術を身につける
評価方法および評 価基準 1. 試験等の評価方 法 2. ルーブリッ クによる評価基準	割合 提出物 課題 90% ワークシートや、教科書ワークなどの課題の提出期限と課題の内容について評価す る 授業態度 10% 授業中の約束の厳守、課題実践の態度などから評価する。
教科書	新基本保育シリーズ19 「子育て支援」 監修 公益財団法人児童育成協会 編集 西村重稀 青井夕貴 出版：中央法規 2019年2月20日発行 定価2,000円(税別)
参考書	保育所保育指針 厚生労働省 編 フレーベル館 2018年3月23日発行 定価320円(税別) 幼稚園教育要領 文部科学省 編 フレーベル館 2018年3月23日発行 定価240円(税別) 認定こども園保育要領 内閣府 文部科学省 厚生労働省 編 フレーベル館 2018年3月29日発行 定価350円 (税別)
準備学習（予習・ 復習等）の具体的 内容および必要な 時間	授業前：前回の授業内容の振り返り、教科書の指定されたページをよく読んでおく。30分 授業後：毎回ノートをまとめ、授業内容の理解を確認する。 30分 授業で配布する資料・新聞記事はまとめて保管し、毎回の授業に持参すること。
履修上の注意、条 件等	日頃からニュース等における、保育・子育ての問題に関心を持ち、現代の社会状況、多様な子育て環境を理解 すること。
オフィスアワー	Googleclassroom限定コメントまたは対面授業の際には前後に教室で質問を受けます。
備考・メッセージ	遠隔授業（配信）10回 対面授業5回 アクティブラーニングの内容は、遠隔授業の際にはこの通りではない。 普段の園生活を通して、子ども・保護者に寄り添うことが何よりも重要となり、その中から子育て支援につな げることができる保育者を目指す。現代の子ども理解や多様な家庭環境への対応の学びを深め、保育現場での 保護者支援の実践に丁寧に取り組む姿勢を身につけましょう。また、園が担う地域での子育て支援の重要性を 正しく理解する。

講義科目名称： 子ども家庭支援論

授業コード：

英文科目名称： Child and family support theory

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	2年生	2単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
中村麻衣子 柴田啓一 久保寺節子			
授業形態：講義	担当形態：オムニバス	実務経験：あり（中村・久保寺）	
添付ファイル			

講義概要	少子高齢化や就労女性の増加などの社会変動は、家庭生活にも大きな変化をもたらした。従来の家族のあり方や養育システムが機能しづらくなり、多様化した家族生活にひずみを生じさせている。現代の社会に求められている「家庭支援」がどのようなものであるのか、その中で保育者はどのような支援を提供していくことができるのかを探る。そのために、世界の子育て支援関連制度にも目を向け、家族関係や養育システムの歴史的変遷と現状を把握し、養育環境の中に生じる問題点を考える。 公立幼稚園・私立幼稚園副園長の実務経験を有する教員（久保寺）、および、スクールカウンセラー、発達相談員の実務経験を有する教員（中村）からは、具体的な現場の事例等をもとに技能・態度を学ぶ。		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A：グループワーク B：ディスカッション C：フィールドワーク D：プレゼンテーション E：振り返り F：宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回	子ども家庭支援の意義と役割 家族形態の変遷や家庭の社会的機能の変化を理解する。また、現代における家庭支援の意義について理解する。予習：教科書P1～P11を読んでおくこと。復習：授業で学んだ内容を復習すること（約2時間） A：多 B：多 D：中 E：あり F：あり 子ども家庭支援の目標と機能 児童家庭福祉から子ども家庭福祉への転換について理解し、子どもにとっての支援、親にとっての支援とは何かを考える。予習：教科書P12～P20を読んでおくこと。復習：授業で学んだ内容を復習すること（約2時間） A：多 B：多 D：中 E：あり F：あり 子ども家庭支援における保育士等の役割と子育て支援施策・次世代育成支援策の推進 保育所保育指針に定められている家庭支援について理解し、社会の変化から保育者に求められている役割について考える。また、1994年に策定されたエンゼルプラン以降の一連の子育て支援施策について学び、少子化の動向と子育て支援のニーズについて理解する。予習：教科書P21～P31（第3章）およびP109～P124（第10章）を読んでおくこと。復習：授業で学んだ内容を復習すること（約2時間） A：多 B：多 D：中 E：あり F：あり 保育士に求められる基本的態度 対人援助者に求められる基本的原則とされる「バーステックの原則」を学び、対人援助職の倫理や基本的態度等について理解する。予習：教科書P32～P43を読んでおくこと。復習：授業で学んだ内容を復習すること（約2時間） A：多 B：多 D：中 E：あり F：あり 保育の特性と保育士の専門性を生かした子ども家庭支援 保育士の専門性を生かした子ども理解の視点、保護者理解の視点を理解し、実践の場で「知識と技術」に基づいた「判断」をどのようにするのかについて、事例をもとに多面的に考える。予習：教科書P. 44～P. 56を読んでおくこと。復習：授業で学んだ内容を復習すること（約2時間） A：多 B：多 D：中 E：あり F：あり 保護者との相互理解と信頼関係の形成 子どものウェルビーイングのために、保護者と保育士の相互理解が欠かせないことについて理解する。そのためには子どもに対する専門的意識と共に、保護者に対する基本的姿勢も欠かせないことを理解し、具体的な事例をもとに、多面的に考える。予習：教科書P. 57～P. 70を読んでおくこと。復習：授業で学んだ内容を復習すること（約2時間） A：多 B：多 D：中 E：あり F：あり 家庭の状況に応じた支援 保育所保育指針から見る、現代社会の中で家庭の状況を理解し、個々の家庭に応じた支援の必要性を理解する。相談・援助者は子育て家庭にどのような役割が求められているかについて考える。また、子どもの発達段階に応じた支援および家庭の状況に応じた支援の具体的な方法について考える。予習：教科書P. 71～P. 83を読んでおくこと。復習：授業で学んだ内容を復習すること（約2時間） A：多 B：多 D：中 E：あり F：あり 地域の資源の活用と関係諸機関の連携・協力 子どもや子育て家庭の支援を行う機関や施設について理解する。地域の資源にはどのようなものがあるか理解し自分が居住する地域の資源に関心を持つ。保育士としてどのような実践をしたいか考える。予習：教科書P. 84～P. 96を読んでおくこと。復習：授業で学んだ内容を復習すること（約2時間） A：多 B：多 D：中 E：あり F：あり 子育て家庭の福祉を図るための社会資源 保育所保育指針の改定の社会的背景、および改定のポイントについて理解する。保護者・家庭および地域と連携した子育て支援に必要な社会資源としての専門機関について理解し、保育者としてどのようにかわることができのかを学ぶ。予習：教科書P. 97～P. 108を読んでおくこと。復習：授業で学んだ内容を復習すること（約2時間） A：多 B：多 D：中 E：あり F：あり 子ども家庭支援の内容と対象 妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援について、フィンランドのネウボラについて学び	

	ながら日本の取り組みについて理解する。保育所を利用している家庭への支援・地域の子育て家庭への支援・幼稚園の子育て家庭への支援など様々な支援の方法を取り上げ考察する。 予習：教科書P. 125～P. 138を読んでおくこと。復習：授業で学んだ内容を復習すること（約2時間） A：多 B：多 D：中 E：あり F：あり 第11回 保育所等利用児童の家庭への支援 保育所における子ども家庭支援の基本的事項について理解する。保育所のさまざまな支援を実際の場面を想定したワークをしながら、保護者の心情に寄り添った援助方法を理解する。 予習：教科書P. 139～P. 155を読んでおくこと。復習：授業で学んだ内容を復習すること（約2時間） A：多 B：多 D：中 E：あり F：あり ★ミニテストあり 第12回 地域の子育て家庭への支援 現代社会において地域の関係が希薄になっている状況がある。その中で地域の中で子どもを育てる意義を理解する。地域子育て支援センターにおけるさまざまな支援を理解し、地域に関心を持ち、地域の子育てを支えるための具体的方策について考える。 予習：教科書P. 156～P. 167を読んでおくこと。復習：授業で学んだ内容を復習すること（約2時間） A：多 B：多 D：中 E：あり F：あり 第13回 要保護児童およびその家庭に対する支援 要保護児童（保護者のない児童・被虐待児など）とその家庭への支援と実際について理解する。また、保育所の役割について考える。 予習：教科書P. 168～P. 184を読んでおくこと。復習：授業で学んだ内容を復習すること（約2時間） A：多 B：多 D：中 E：あり F：あり 第14回 保育の現場での子ども家庭支援の現状と課題 保育の現場における子ども家庭支援の実際と支援の方法について理解する。 予習：教科書P. 185～P. 196を読んでおくこと。復習：授業で学んだ内容を復習すること（約2時間） A：多 B：中 D：中 E：あり F：あり
教育目標との関連	社会変動が家族関係や養育システムに影響を及ぼし、個々の家庭生活の質を大きく変化させていることを認識することで、決められた一通りの支援を行う保育士ではなく、目の前の家族にニーズに合わせた支援を行える保育士になることを目指す。また、自らの将来像を思い描きながら、働き方や育児の仕方について考えることができるようにする。
到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	1. 各家庭のニーズに合わせて家族や地域と連携することの大切さを説明できる。 2. 支援に関する基本的原則や手順を踏まえ、子育て支援に向けて適切な判断ができる。 3. 支援が必要な状況を分析し、論じることができる。 4. 支援が必要な人の気持ちに寄り添いながら、子どもの最善の利益を追求することができる。 5. 多様性を尊重し、望ましい解決策に導くことができる。
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	毎回の提出課題で評価します。
教科書	『シードブック 子ども家庭支援論』 松村和子 編著 柴田啓一 他 共著 建帛社, 2019年 2,200円
参考書	
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	各回の予習・復習は上記の通り。
履修上の注意、条件等	子どもを取り巻く社会情勢について関心を持ち、自分なりの意見・考えを持つよう心掛けること。
オフィスアワー	研究室に掲示する。遠隔授業においては限定コメントで受け付ける。
備考・メッセージ	第1回目～第4回目は柴田、第5回目～第12回目は久保寺、第13回目～第14回目は中村が担当する。 なお、今年度は遠隔授業（配信）で行う。

講義科目名称： 子ども家庭支援の心理学

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	2年生	2単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
中村麻衣子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	
添付ファイル			
カリキュラムマップこども家庭支援の心理学（遠隔授業）.pdf			
ループリック子ども家庭支援の心理学（遠隔授業）.pdf			

講義概要	乳幼児期から老年期までの生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得した上で、各時期における発達課題や初期経験の重要性を理解する。また、現代社会における家族・家庭の意義や機能を理解し、子どもとその家庭を包括的にとらえる視点を習得する。そして、子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題、および、子どもの心身の健康に関わる課題について考える。スクールカウンセラーや発達相談を有する教員による具体的な家庭支援の事例を通して、子ども家庭に一番身近な保育士がどのような役割を担うべきなのか考えていく。 他の科目との関連：1年生前期の「保育の心理学」で学んだ子どもの発達に関わる心理学の基礎を踏まえ、本講では子どもをめぐる家族関係について発達の観点から理解し、包括的に捉える視点を養う。その上で、2年生後期の「子ども家庭支援論」では、家庭の状況に応じた支援のあり方や保育者の役割についてより深く学ぶ。		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A: グループワーク B: ディスカッション C: フィールドワーク D: プレゼンテーション E: 振り返り F: 宿題 ②【多】 【中】 【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回	ガイダンス、乳幼児期から学童期前期の発達 基本的信頼感や自己肯定感はどのように形成されるのか、乳幼児期の発達の概要を理解する。 予習：シラバス全体を読み、教科書の目次に目を通し、授業の流れを把握する。（約1時間） 復習：テキスト第1章を読み、授業内容を振り返る。（約1時間） B：少 E：あり F：あり	
	第2回	学童期後期から青年期の発達 ピアジェやエリクソンの発達理論を基に、学童期後期から青年期の発達の概要を理解する。 復習：テキスト第2章を読み、授業内容を振り返る。（約2時間） A：少 B：少 E：あり F：あり	
	第3回	成人期・老年期の発達と生涯発達の視点 成人期・老年期の発達の概要を理解する。また生涯発達心理学の考え方を学ぶ。 復習：テキスト第3章・第4章を読み、授業内容を振り返る。（約2時間） B：少 E：あり	
	第4回	家族・家庭の意義と機能 家族・家庭の機能の変容と子育てへの影響、家庭支援の必要性について考える。 復習：テキスト第5章を読み、授業内容を振り返る。（約2時間） E：あり F：あり	
	第5回	現代の家庭における人間関係 親子関係及び夫婦関係の時代的变化と子どもの発達への影響を考える。 復習：テキスト第7章を読み、授業内容を振り返る。（約2時間） E：あり F：あり	
	第6回	子育て経験と親としての育ち 親としての成長、家庭教育の重要性について考える。 復習：テキスト第8章を読み、授業内容を振り返る。（約2時間） B：少 E：あり	
	第7回	子育てを取り巻く社会的状況 子育て家庭をとりまく社会環境はどのように変化しているのか学ぶとともに、その変化が子育てにどのような影響を及ぼしているのか考える。 復習：テキスト第6章を読み、授業内容を振り返る。（約2時間） B：少 E：あり	
	第8回	ワークライフバランスと子育て 仕事と子育てのバランス、個々の家族メンバーの自己実現について考える。 復習：テキスト第9章を読み、授業内容を振り返る。（約2時間） A：多 B：多 E：あり	
	第9回	多様な家庭環境と子どもの育ち 家庭環境の多様化と複雑化と子どもの育ちへの影響を学ぶ。 復習：テキスト第10章を読み、授業内容を振り返る。（約2時間） E：あり	
	第10回	特別な支援を必要とする家庭 周囲の理解が得にくい特殊な状況を抱えた家庭への対応の仕方について考える。特に、状況の把握、情報提供、他機関との連携の仕方について学ぶ。 復習：テキスト第11章を読み、授業内容を振り返る。（約2時間） A：多 B：多 E：あり	
	第11回	地域社会における家庭支援 家庭支援を支える社会資源、家庭と地域の連携について考える。 復習：テキスト第12章を読み、授業内容を振り返る。（約2時間） D：多 E：あり	
	第12回	子どもの生活・生育環境とその影響 子どもの生活環境と育ちへの影響について学ぶ。 復習：テキスト第13章・第14章を読み、授業内容を振り返る。（約2時間） B：少 E：あり	

	第13回 子どもの心の健康と課題 心身症、精神疾患、児童虐待等の子どもの心の健康について理解する。 復習：テキスト第15章を読み、授業内容を振り返る。（約2時間） A：多 B：多 E：あり F：あり 第14回 まとめと学習成果の振り返り これまでの授業の総まとめを行い、シラバスに書かれている到達目標を達成できたか各自振り返る。また、授業内容全般についての理解度確認テストを行う。 予習：これまでの授業全体を通して質問などを考えて授業に臨むこと。（約2時間） E：あり
教育目標との関連	子どもは社会に生まれ社会の中で育つが、子どもにとって最初に出会う最も身近な社会が家庭であるといえる。家庭の中での保護者やきょうだいなどとのやり取りを通して子どもは発達していく。家庭における子どもの発達と家族の役割について理解し、目の前の家族のニーズに合わせた支援ができる保育士になることを目指す。また、自らの将来像を思い描きながら、ワークライフバランスについて自分なりに考えられるようにする。
到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	1. 家庭における子どもの発達と家族の役割について、説明することができる。 3. 子どもの発達や家庭環境を理解し、子どもや子どもを取り巻く人々への支援について、自ら考え、論じることができる。 *添付資料のカリキュラムマップを参照
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	提出課題：100% 課題は授業内で指示する。 *評価基準は添付資料のルーブリックを参照
教科書	保育士を育てる「子ども家庭支援の心理学」 藤田久美（編著） 一藝社 2020年 2,100円
参考書	授業中に適宜、資料を配布する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	各回の予習・復習は上記の通り。
履修上の注意、条件等	子どもを取り巻く社会情勢について関心を持ち、自分なりの意見・考えを持つよう心掛けること。
オフィスアワー	研究室に掲示する。遠隔授業においては限定コメントで受け付ける。
備考・メッセージ	遠隔授業（配信）で行う。

講義科目名称： 子どもの保健

授業コード：

英文科目名称： Pediatric Health

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	1年	2単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
尾近千鶴			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：有り	
添付ファイル			
136 Pediatric Health.xlsx			

講義概要	「子どもの保健」は、子どもが疾病にならないよう保健衛生を保ち、看護するといった医療的な側面がある。さらに、子どもたちの心と身体を健康を増進することを目的とした分野である。子どもは、絶えず発達・成長していく特性がある。先天的な条件や養育、環境の影響を受けやすい面を考慮し、その子なりに順調に健やかに育つような働きかけと実践活動について学ぶ。子どもが自立した生活が送れるように、社会における周囲の大人の適切な対応について理解を深める。 他の科目との関連：「子どもの保健」は乳幼児教育の原理から実践に必要な技能まで、「乳児保育」「保育の心理学」など、子どもの「心身の健康」に深く関連する。幼児教育者・保育者としてより深く子どもの保健を理解する資質を高め、社会から求められる役割について学ぶ。「子どもの健康と安全」では、さらに幅広い知識と技能を習得するため学びを深めていく。 担当教員は、国内の幼稚園・保育園併設の施設や医療施設で、また、国外の初等教育機関で、教員として子どもの保健活動に携わった経験がある。日々の保育だけでなく課外活動や宿泊保育を通した日常生活における健康観察のポイントや健康に過ごすための保護者への育児支援について、具体例から理解を深める授業を行う。		
授業計画および学習形態	第1回	子どもの心身の健康とは 保健とは 子どもの心身の健康と保健を学ぶ意義について理解する。 生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的について知る。 世界から見た我が国の保健活動について、広い視野に立つ重要性を知る。 第1章①② B:少 予習：子どもの保健のシラバス全体をよく読んでおく。 科目でどのような知識を習得するのか把握しておくこと。（約1時間）	
	第2回	健康の概念とは 健康指標とは グローバルな視点から、健康の概念と健康指標について理解する。 世界保健機関 保育所保育指針における健康の概念について学ぶ。 子どもの出生と母子保健の意義について学ぶ。 第1章①②③ 予習・復習：前回の授業の復習として教科書を読んでおくこと。 保育所保育指針の第1章、第3章に目を通しておくこと。（約2時間） B:少 E:あり 振り返り問題	
	第3回	現代社会における子どもの健康に関する現状と課題 我が国の出生と子どもの死亡に関する統計から、健康に関する現状を知る。 グローバル時代の推移を理解し、現代社会における現状と課題を考える。 第1章②③ 予習・復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。（約2時間） B:中 E:あり 振り返り問題 F:あり	
	第4回	子どもの身体的発育・発達と保健（1）身体発育と運動機能の発達 子どもの正しい身体計測の仕方を知る。 我が国の子どもの身体発育の標準と評価の仕方について知る。 子どもの身体発育や発達に影響するものを理解する。 第2章① 予習・復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。 自身の母子健康手帳に何が記入されているのかを見ておくこと。（約2時間） B:少 E:あり 振り返り問題	
	第5回	子どもの身体的発育・発達と保健（2）生理機能の発達 子どもと大人の生理機能の違いを理解する。 子どもの生理機能の評価の仕方を理解する。 生理機能の発達に応じた生活習慣を理解する。 第2章② 予習・復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。 風邪や腹痛など、日常よく起こる体調不良について調べておくこと。（約2時間） B:少 E:あり 振り返り問題	
	第6回	子どもの心身の健康状態とその把握（1）健康状態の観察 子どもの健康状態の把握の方法について学ぶ。 子どもの体調不良時の主な症状とその評価、対応について学ぶ。 第4章 予習・復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。 体調不良時の観察ポイントをまとめておくこと。（約2時間） B:中 E:あり 振り返り問題	
	第7回	子どもの心身の健康状態とその把握（2）心身の不調等の早期発見 子どもの体調不良時の主な症状とその評価、対応について学ぶ。 子どもの預かり時、引き継ぎ時の健康状態をきちんと伝えることについて学ぶ。 普段と様子が違う時に、検温し、経過を把握することについて学ぶ。 4章 予習・復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。 健康診断をするメリットについてまとめておくこと。（約2時間） A:中 E:あり 振り返り問題	

	第8回 子どもの心身の健康状態とその把握 (3) 発育・発達の把握と健康診断 子どもの健康診断と関連機関との連携を学ぶ。 検診を通じた子育て支援を理解する。 第7章 予習・復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。 子どもに関連する障害児施設などについて調べておくこと。(約2時間) B:中 E:あり 振り返り問題 第9回 子どもの疾病の予防及び適切な対応 (1) 免疫 感染症と予防 子どもの免疫の発達について理解する。 世界の動向を踏まえつつ、感染症の種類と感染経路を知る。 子どものかかりやすい感染症の特徴を知る。 第5章①④⑤⑥ 予習・復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。 出席停止など、学校の出欠に関わる疾患について調べておくこと。(約2時間) B:中 E:あり 振り返り問題 第10回 子どもの疾病の予防及び適切な対応 (2) 救急対応 感染経路による予防方法と、感染者が集団生活を控えるべき期間を理解する。 予防接種について理解する。 救急疾患とその対応について学ぶ。 第5章①②③ 予習・復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。 予防接種をする意義について、昨今問題になっていることについて調べること。(約2時間) B:中 E:あり 振り返り問題 第11回 子どもの疾病の予防及び適切な対応 (3) 先天性疾患 新生児の病気、先天性疾患と対応を知る。 第5章④⑤ 予習・復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。 先天性疾患について調べておくこと。(約2時間) B:中 E:あり 振り返り問題 第12回 子どもの疾病の予防及び適切な対応 (4) アレルギーと適切な対応 アレルギー疾患の特徴と対応を知る。 第5章④⑤ 予習・復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。 アレルギー対応食について調べておくこと。(約2時間) B:中 E:あり 振り返り問題 第13回 保護者との情報共有 子育て支援 保護者との情報共有の具体的な方法について学ぶ。 慢性疾患や障害児など様々な健康状況と支援について学ぶ。 子育てをする家族への支援や子育て支援の実際を理解する。 第6章 予習・復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。 地域にどのような子育て支援があるか行政について調べておくこと。(約2時間) B:中 E:あり 第14回 地域における保健活動と子どもの虐待防止 および まとめ 地域の子どもの健康支援において、どのような活動を行なっているか理解する。 子どもの虐待の現状を理解し、虐待防止の取り組みを考える。 子どもは社会のものなのか、家族のものなのか、グローバルな視点で思考する。 第3章 予習・復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。 第2章の身体発育や発達に関する項目を見ておくこと。(約2時間) B:中 E:あり 振り返り問題 授業について総括を行う。
教育目標との関連	子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解し、子どもの発育・発達の特性に応じた対応に関する知識、技法、態度を修得する。 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下で幼児教育者として適切な対応ができるための知識、技法、態度を習得する。
到達目標 カリキュラムマップ	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解できる。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について自分なりに考察することができるようになる。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解し、効果的な対処ができるようになる。 4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について、関心を持ち意欲的に取り組めるようになる。 5. グローバルな視野を持ち、子どもの保健に関する情報を積極的に取り入れ、学び続ける態度をもつことができるようになる。
評価方法および評価基準	講義内容の理解度 知識の定着度 思考力と判断力 遠隔授業参加の評価 関心度 意欲 受講態度 課題レポート、振り返り問題、 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準
教科書	小林美由紀編著 授業で現場で役に立つ！ 子どもの保健テキスト 診断と治療社 2018 2,200円
参考書	授業中、適宜紹介する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	講義までに授業計画を確認して事前学習をしておくこと。テキストをよく読んで、キーワードを用いてまとめておくこと。復習は、授業の振り返りをし、教科書やプリント類をよく読んで知識をしっかりと定着できるようにする。予習復習は2時間程度が望ましい。
履修上の注意、条件等	授業におけるICTの準備を整えることが望ましい。ニュースやインターネットなどは、出典先が確かな情報元から最新情報を入手しておくこと。子どもだけでなく保護者に関する支援なども重要な課題なので、関心を持つ

	て情報を得ておくとよい。
オフィスアワー	質問などは、原則、授業日に受け付ける。ICTを活用、遠隔授業で限定コメントを受け付ける。
備考・メッセージ	保健の知識や技能は、子どもの健やかな発達や成長を支援するために欠かせないものです。一緒に学びを深めていきましょう。 遠隔授業（配信）で行う。

講義科目名称： 子どもの健康と安全

授業コード：

英文科目名称： Child Health and Safety

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	2年	1単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
尾近千鶴 福地昭輝			
授業形態：演習	担当形態：複数（オムニバス）	実務経験：有り	
添付ファイル			
137Child Health and Safety.xlsx			

講義概要	「子どもの健康と安全」は、子どもたちの心と身体の健康を増進することを目的とした分野である。一年生で学んだ「子どもの保健」を基礎として、子どもが疾病にならないよう保健衛生を保ち看護するといった医療的な側面を、演習を通して更に理解を深める。子どもは、絶えず発達・成長していく特性がある。先天的な条件や養育、環境の影響を受けやすい面を考慮し、その子なりに順調に健やかに育つような働きかけと実践活動について演習を通して学ぶ。子どもが自立した生活が送れるように、社会における周囲の大人の適切な対応について、実践例をふまえ理解を深める。 他の科目との関連：乳幼児教育の原理から実践に必要な技能まで、「乳児保育」「保育の心理学」「子どもの保健」など、子どもの「健康」に深く関連する。「教職概論」をもとに幼児教育者としてより深く子どもの保健を理解する資質、社会から求められる役割について習得する。 演習では、チームとして情報を共有し協働活動できる保育者を目指し、グループワークやディスカッションを行う。 担当教員は、国内の幼稚園・保育園併設の施設や医療施設で、また、国外の初等教育機関で教員として、子どもの教育・保健活動に携わった経験がある。保育実践における健康観察のポイントや健康に過ごすための育児支援について、具体例から理解を深める授業を行う。保育における園内施設・設備（遊具等）玩具などの安全性についての知識と考察を行う。また、様々な自然災害（地震・大雨など）世界的な規模で発生するウイルスによる疾病対策の理解を深める。				
授業計画および学習形態	第1回	子どもの健康と安全とは 保健的観点を踏まえた保育環境及び援助とは 尾近	子どもの健康と安全について概要を知る。 保健的観点を踏まえた保育環境及び援助について知る。 第1章 予習：子どもの健康と安全のシラバスと教科書第1章を読んで、「子供の健康と安全」で何を学ぶのか把握しておくこと。（約1時間） 復習：授業で学んだことをおさらいテストで確認すること。（約1時間） B:少		
各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第2回	子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康及び安全の管理 尾近	子どもの保健に関する個別対応の基本について知る。 健康診査（健康診断）について知る。 体調変化の際の個別対応について知る。 第1章 予習：健康診断について調べておくこと。 復習：前回の授業の復習として教科書を読んでおくこと。おさらいテスト（約2時間） B:少 E:あり		
	第3回	子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康及び安全の管理 尾近	集団全体の健康及び安全の管理について知る。 第1章 予習：第2章を読んでおくこと。 復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。おさらいテスト（約2時間） B:中 E:あり 振り返り問題		
	第4回	保育における健康及び安全の管理 福地	衛生管理について知る。 施設環境（遊具や室内備品など）、屋内の衛生管理、屋外の衛生管理について、いくつかの先進的な取り組みを行っている園の映像からの取り組み方の姿を知る。（保育実習Ⅱで配当される園では、どのようになっているのかを調べる） 第2章 予習：子供の事故について調べておくこと。 復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。おさらいテスト（約2時間） B:中 E:あり 振り返り問題		
	第5回	保育における健康及び安全の管理 福地	事故及び安全対策について知る。 子どもの事故は、遊びの中で起こる。遊具や備品の構造的な特性を認識し、年齢ごとの遊び方の特徴も調べ、自己防止の重要性、発達段階別の怪我や事故の種類と発生場所については、活動の映像記録を視聴して、事故防止のための具体的な方法を考え、また、事故後のケア、精神的支援を保護者と共有する手立てをグループで話し合う。 第2章 予習：災害の対応について調べておくこと。 復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。おさらいテスト（約2時間） B:少 E:あり 振り返り問題		
	第6回	危機管理と災害への備え 福地	保育における危機管理について知る。 保育における災害への備えについて知る。日本は、地理的気候的な特性から、自然災害の起こることを想定し備えることが必要である。地球規模の気候変動や懸念される大地震への対策は、こどもの命を守ることを第一に考え、地域の協力をふまえ園全体で取り組む体制（組織や災害時の避難、避難所でのケアなど）グループで話し合い共有する。 第2章 予習：第3章を読んでおくこと。体調不良時の対応について調べておくこと。		

	第7回 復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。おさらいテスト（約2時間） B:少 E:あり 振り返り問題 子どもの体調不良などに対する適切な対応 体調不良 尾近 ①体調不良や傷害が発生した場合の対応と応急処置 体調不良時の対応、傷害時の応急処置、事故にあったときの対応、薬の投与の仕方、病院受診時の対応、 第3章 予習：救急時の対応について調べておくこと。 復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。おさらいテスト（約2時間） B:中 E:あり 振り返り問題 第8回 子どもの体調不良などに対する適切な対応 救急 尾近 ②救急処置及び心肺蘇生法 救急処置、子どもの心肺蘇生法、子どもの新しい心肺蘇生指針 第3章 予習：第4章を読んでおくこと。 復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。おさらいテスト（約2時間） B:中 E:あり 振り返り問題 第9回 子どもがよくかかる感染症の対策 尾近 ①感染症の集団発生の予防 子どもがよくかかる感染症の症状と対応、感染症の流行予防のための対策、 ②感染症発生時と罹患後の対応 出席停止期間の基準、感染症罹患後の対応、保護者及び他職種・自治体との連携 第4章 予習：第5章を読んでおくこと。 復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。おさらいテスト（約2時間） B:中 E:あり 振り返り問題 第10回 保育に必要な保健的対応 保育における保健的対応の基本的な考え方 尾近 保健的な視点、食事、排泄、睡眠、外出、行事 第5章 予習：第5章を読んでおくこと。 復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。おさらいテスト（約2時間） B:中 E:あり 振り返り問題 第11回 保育に必要な保健的対応 3歳未満児への対応 尾近 乳児の抱き方、おんぶの仕方、食事の与え方、口腔内の衛生、衣服の着せ方、排泄のさせ方、保清、寝かせ方、外出時の注意、おもちゃと固定遊具、ベビーカー・自動車・自転車の乗せ方 第5章 予習：第5章を読んでおくこと。 復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。おさらいテスト（約2時間） B:中 E:あり 振り返り問題 第12回 保育に必要な保健的対応 個別的な配慮を要する子どもへの対応 尾近 慢性疾患、医療費、低体重児、アレルギー、先天性疾患、悪性新生物、心身症など 第5章 予習：第5章を読んでおくこと。 復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。おさらいテスト（約2時間） B:中 E:あり 振り返り問題 第13回 保育に必要な保健的対応 障害を持つ子どもへの配慮 尾近 子どもの在宅医療支援、医療的ケア児、肢体不自由児、呼吸障害児、嚥下障害児、視覚障害児、聴覚障害児、発達障害児 子どもへの声のかけ方 第5章 予習：第6章を読んでおくこと。 復習：前回の授業の復習として教科書等を読んでおくこと。おさらいテスト（約2時間） B:中 E:あり 振り返り問題 第14回 健康及び安全の管理の実施体制 福地 保育における保健活動の計画及び実施 保健計画、保健活動、職員間及び関係機関や地域との連携・協働体制の先進事例を範として学ぶ。 第6章 復習：これまでのすべての授業の復習として教科書等、資料を読んでおくこと。おさらいテスト（約2時間） B:中 E:あり 振り返り問題 第15回 総括 学びの振り返り 尾近 授業についての総括を行い、到達目標と各自の到達度チェックを行う。 授業の評価を行う。
教育目標との関連	保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について、ガイドラインや近年のデータを踏まえ、理解する。 衛生管理、事故防止、危機管理、災害対策、感染症対策について、具体的に理解する。 子どもの健康及び安全の管理に関わる組織的取り組みや保健活動の計画、評価等について具体的に理解する。
到達目標 カリキュラムマップ 知識・理解 1. 知 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の知識を衛生管理、事故防止、危機管理、災害対策、感染症対策等の観点から習得しその意義を理解する。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について根拠に基づいて考察する。 3. 保育における保健的観点を踏まえたガイドラインや近年のデータをもとに、保育環境や援助方法について理解し効果的な対処ができるようになる。 4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について、関心を持ち意欲的に取り組めるようになる。 5. グローバルな視野を持ち、根拠に基づいた保健情報を子どもとその保護者に提供できるよう積極的に学び続ける。

評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	筆記評価：50% 講義内容の理解度 知識の定着度 思考力と判断力 小テスト、課題レポート、振り返り問題など 演習評価：50% 授業参加の評価 関心度 意欲 受講態度 プレゼンテーション、グループ活動、ディスカッションなど
教科書	小林美由紀編著 授業で現場で役に立つ！子どもの健康と安全 演習ノート診断と治療社 2019年11月29日発行 2000円
参考書	授業中、適宜紹介する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	授業までに授業計画を確認して事前学習をしておくこと。教科書をよく読んで、キーワードを用いてまとめておくこと。復習は、授業の振り返りをし、教科書やプリント類をよく読んでおさらいテストをし知識をしっかり定着させておくこと。予習復習は2時間程度が望ましい。
履修上の注意、条件等	ニュースやインターネットなどは、出典先が確かな情報元から最新情報を入手しておくこと。子どもだけでなく保護者に関する支援なども重要な課題なので、関心を持って情報を得ておくことよい。
オフィスアワー	それぞれの教員に対し、授業前後に教室または研究室で質問を受け付ける。
備考・メッセージ	子供の健康と安全といった保健に関する知識や技能は、子どもの健やかな発達や成長を支援するために欠かせないものです。演習を通して一緒に学びを深めていきましょう。

講義科目名称： 特別支援教育（障害児保育）Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	2年生	1単位	卒業選択、幼免選択、保育士必修
担当教員			
金田敏子			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	
添付ファイル			
特別支援保育Ⅱ.pdf			

講義概要	この科目はⅠⅡで構成される特別支援教育（障害児保育）のⅡにあたる。ⅠⅡを通して学ぶ中の一環である。Ⅱでは昨年度主に学んできた障害自体についての学びを基礎に、疑似体験を通して障害理解を深める。実際の保育実践をインクルーシブな理念の元どう進めるかを学ぶ。その中で親とどう共同・協働し、地域その他機関と連携し将来までを見通した保育を考える。授業者は発達相談を25年間行い、胎児性水俣病の縦断的な研究をしてきたので、その事例提示から学ぶ。		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回	オリエンテーション B：少 E：あり 予習・復習合わせて2時間 予習：テキストの目次と最初の部分を読む 復習：授業での学びを振り返り、記録する。	
	第2回	障害理解の実体験―①視覚障害 視覚障害についての知識と支援の理論について学ぶ B：少 E：あり 予習・復習合わせて2時間 予習：テキストの目次と最初の部分を読む 復習：授業での学びを振り返り、記録する。	
	第3回	障害理解の実体験―②肢体不自由・車いす― 肢体不自由についての知識と支援の理論を学ぶ B：少 E：あり F：あり 予習・復習合わせて2時間 予習：テキストの目次と最初の部分を読む 復習：授業での学びを振り返り、記録する。	
	第4回	早期発見・早期治療・早期保育へ 実態把握に関して、早期発見、治療、保育について学ぶ B：少 E：あり 予習・復習合わせて2時間 予習：テキストの目次と最初の部分を読む 復習：授業での学びを振り返り、記録する。	
	第5回	巡回指導の実際と保育との関係 指導・支援に関して、巡回指導の実際と保育との関係について学ぶ B：少 E：あり 予習・復習合わせて2時間 予習：テキストの目次と最初の部分を読む 復習：授業での学びを振り返り、記録する。	
	第6回	障害児保育の実際について 障害児保育の実際について学ぶ B：少 E：あり F：あり 予習・復習合わせて2時間 予習：テキストの目次と最初の部分を読む 復習：授業での学びを振り返り、記録する。	
	第7回	「ともに育ちあう保育実践」 テキストを元にテーマについて学ぶ B：少 E：あり 予習・復習合わせて2時間 予習：テキストの目次と最初の部分を読む 復習：授業での学びを振り返り、記録する。	
	第8回	「ともに育ちあう保育実践」 軽度障害児の保育・学習障害児の保育 テキストを元にテーマについて学ぶ B：少 E：あり 予習・復習合わせて2時間 予習：テキストの目次と最初の部分を読む 復習：授業での学びを振り返り、記録する。	
	第9回	「ともに育ちあう保育実践」 肢体不自由の保育・脳性麻痺児の保育 テキストを元にテーマについて学ぶ B：少 E：あり F：あり 予習・復習合わせて2時間 予習：テキストの目次と最初の部分を読む 復習：授業での学びを振り返り、記録する。	
	第10回	「ともに育ちあう保育実践」 障害児グループの保育 テキストを元にテーマについて学ぶ	

	第11回 B：少 E：あり 予習・復習合わせて2時間 予習：テキストの目次と最初の部分を読む 復習：授業での学びを振り返り、記録する。 学校選択一小学校へ 最近の学校現場における事例や実践から学ぶ 第12回 B：少 E：あり 予習・復習合わせて2時間 予習：テキストの目次と最初の部分を読む 復習：授業での学びを振り返り、記録する。 保育・子育て・親たち—生涯発達を通して 生涯発達について学ぶ 第13回 B：少 E：あり 予習・復習合わせて2時間 予習：テキストの目次と最初の部分を読む 復習：授業での学びを振り返り、記録する。 F：あり インクルーシブと地域づくり インクルーシブと地域づくりについて学ぶ 第14回 B：少 E：あり 予習・復習合わせて2時間 予習：テキストの目次と最初の部分を読む 復習：授業での学びを振り返り、記録する。 総括と学習到達度の確認テスト これまでの授業についての総括を行い、この回の中で学習到達度の確認テストを実施する。 第15回 B：中 E：あり 予習・復習合わせて2時間 予習：これまでの授業の資料とテキストを読み返す 復習：テストに出た問題を振り返り、関連箇所を資料などで確認する。 学びの振り返り 当該科目の到達目標と各自の到達度チェック E：あり 予習復習合わせて2時間 予習：テストに出た問題を振り返り、関連箇所を資料などで確認する。 復習：授業での学びを振り返り、記録する。
教育目標との関連	障害児保育について I から更に学びを深め、主体的に障害児保育の理論と実践について考え、議論することで知識・思考力を身に付ける
到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	1. 障害児保育の保育内容・方法のあり方について検討する。 2. 巡回相談と保育実践の関係 3. 個別対応から集団としての障害児保育理解へ—仲間づくりを通して— 4. 保護者とともに、地域との連携 5. 小学校への連携（さらに将来を見通し）を考える （到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること）
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	振り返り（毎回、授業の振り返りシートを記入する）40% 試験60% （評価基準は添付資料のルーブリックを参照すること）
教科書	『発達障害児の発達支援と子育て支援』 瓜生淑子・西原睦子編集 かもがわ出版 2016年 2500円
参考書	使用しない
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	授業後、教室で
備考・メッセージ	

講義科目名称： 乳児保育Ⅰ

授業コード：

英文科目名称： Infant Care Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	1年	2単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
松本 佳子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	
添付ファイル			
コピーカリキュラムマップ様式（乳児保育Ⅰ）.pdf			
コピールーブリック様式(乳児保育Ⅰ).pdf			

講義概要	直接世話をする者だけでなくそれを取り巻く生態学的な環境が大きく作用しあい、乳児の健全な育ちは保障される。 保育者の養成、研修制度のひとつである保育士養成校は、乳児に直接関わらなくてもその発達に大きな影響を及ぼす。当講座では、過去から積み上げられてきた育児・保育文化、そしてこれから創り上げようとする保育文化を視野に入れ、乳児の健やかな育ちを支え、専門職である保育士としてふさわしい資質、能力を身につけることを目標とする。 他科目との関連：「乳児に関連した『生理的特性』『疾病』『看護についての理解』『保育看護』について子どもの保健でさらに掘り下げて学ぶ。また子どもの食と栄養では『調乳』『離乳食』について実技を踏まえて習得し『食育』の必要性、重要性について捉える。」 松本講師は公立(川崎市役所)産休明け保育所にて管理栄養士の立場から、調乳、アレルギー食、離乳食、乳児食を中心に担当・指導してきた。また保育士資格(登録)を持ち、産休明け児クラス、乳児クラスにて、朝の視診、保護者対応、基本的生活習慣の自立に向けた援助も行ってきた。現在は保育士国家試験対策講師・職業訓練講師として『乳幼児の食事』を中心に指導している(専門学校他)。 教科書を中心に現場で実践してきたことを交え、保育・看護・栄養に精通した保育士になれるよう授業を進める。		
授業計画および学習形態	各回の授業内におけるアクティブラーニングの割合を明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。		
第1回	乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割について	乳児保育の歴史をたどり、乳児保育の意識変遷について考察する。 保育所保育指針第1章『保育所保育に関する基本原則』、幼保連携型認定こども園教育・保育要領第1章『幼保連携型認定こども園における教育及び保育の基本』を確認する。 予習:保育所保育指針第4章『子育て支援』を読み、子どもの育ちと家庭との連携の重要性及び保育士の役割について考える。(約1時間) B:少 E:あり F:あり	
第2回	育児不安の背景と、家庭での保育の現状と課題について	核家族が多くを占める我が国だが女性の社会進出と家事・育児の両立に光を当て、『育児不安の背景』『父親・母親像』『父親・母親としての成長』について意見交換をする。 予習:子育てに関するニュースに関心を持ち、虐待事例をひとつ取り上げ、保護者の目線からまた保育士として保護者支援の立場から考察する。(約1時間30分) A:多 E:あり F:あり	
第3回	3歳未満児の発育、発達を踏まえた保育(1) 0歳児の発育、発達	保育所保育指針2章-1『乳児保育に関わるねらい及び内容』について確認する。 母体内から外界への環境変化に適応すべく、著しい発達・発育が見られる0歳児について学ぶ。愛着の重要性について意見交換をする。 予習:テキスト第3章『0歳児の保育』及び保育所保育指針第2章-1(乳児保育の内容)を読む。(約1時間30分) B:少 E:あり	
第4回	3歳未満児の発育、発達を踏まえた保育(2) 1歳児の発育、発達	保育所保育指針第2章-2『1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容』について確認する。 運動機能の発達、探索活動の活発化、情緒的深まりなど、1歳児ならではの特性について押さえる。自発的、能動的な働きかけが多くなり、玩具などを実物に見立てる象徴機能が発達し、人との関わりがより強まる時期であることを理解する。 予習:テキスト第3章『1、2歳児クラス』及び保育所保育指針第2章-2を読む。(約1時間30分) B:少 E:あり F:あり	
第5回	3歳未満児の発育、発達を踏まえた保育(3) 2歳児の発育、発達	保育所保育指針2章-2『乳児保育に関わるねらい及び内容』について確認していく。 基本的運動機能や指先が発達する。行動範囲は広まり、自我の育ちの表れとして自己主張が強くなる時期であることを理解する。事例を通して、2歳児クラスの保育について考える。 予習:テキスト第4章『おおむね2歳児への援助』及び保育所保育指針第2章-2を読む。(約1時間30分) B:少 E:あり F:あり	
第6回	第3～5回まとめと幼児クラスへの移行	保育所保育指針第2章-3『3歳以上児の保育に関するねらい及び内容』について確認する。 乳児クラスから幼児クラス(3歳クラス)へ移行する時期と保育について、そのつながりの重要性について意見交換する。 予習:テキスト3～4章、保育所保育指針第2章-1、2、3を再読する。(約2時間) B:少 E:あり F:あり 【振り返り】第1回～5回の振り返りテストを行い、3歳未満児の発育発達のについての理解を深める。なおテストは第7回目に返却、解説する。	
第7回	保育所における乳児保育	保育所の1日について、朝の視診・受け入れから降園までの流れ、保育内容及び保護者対応について学ぶ。基本的生活習慣とは何か。またそれを身につけるための働きかけ、内容について考える。 予習:テキスト第6章『家庭との連携』、保育所保育指針第1章『養護に関する基本的事項』を読	

	む。(約1時間30分) E:あり F:あり 第8回 保育所以外の児童福祉施設における乳児保育(1) 乳児院 乳児院の1日(24時間)について、その流れ及び保育看護について学ぶ。 乳児院の役割と変遷、機能、乳児院での養育の基本について意見交換をする。 予習:テキスト第1章『乳児保育の歴史的な流れ』を読み、その社会的役割を考える。(約2時間) B:多 E:あり 第9回 保育所以外の児童福祉施設における乳児保育(2) 児童養護施設 乳児院から児童養護施設への措置変更について子どもの立場に立ち援助点考える。 児童養護施設の歴史的変遷及び社会的役割について、考察する。 児童養護施設に勤める保育士としての責任、位置づけについて考察する。 予習:身近にある児童養護施設の形態及び役割、職員の配置について調査する。(約5時間) C:多 E:あり 第10回 【振り返り】第7回～9回の授業の振り返りテストを行う。保護者を支援する施設の役割について理解し、さらに施設のあり方について深めたい内容をまとめる。なおテストは第10回目に返却、解説する。 保護者との連携、協働 ・ 自治体や地域の関係諸機関との連携、協働 保育所保育指針第4章に謳われているように、保育所における保護者支援は『入所している子どもの保護者』だけではなく『地域における子育て支援』も含んでいる。保護者支援は保育士等の重要な業務である。その専門性を生かした関わり及び地域での保育所の位置づけについて学ぶ。 予習:保育所保育指針第4章を再読し、『地域の保護者などに対する子育て支援』の実際について調査する。また『子どもの虐待ニュース』については常に関心をもって見るようにする。(約5時間) A:少 E:あり F:あり 第11回 保育者の資質向上と連絡、協力 育児不安や悩みを抱えて子育てをしている保護者が、苦悩の末に大きな喜びを発見した事例(4例)を扱い検討する。懇談会などで保育者がファシリテータの役割をしながら、保護者の育児力を高めるためにはどうしたらよいか、また職種間の連絡、協力について意見交換をする。 予習:保育所保育指針第5章『職員の資質向上』を読む。自分が居住する地域の様々な『子育て支援』について調査する(別途指示)。(約5時間) B:多 E:あり F:あり 第12回 家庭における乳児の保育 家庭における0歳児、1歳児、2歳児の日常について学ぶ。 家庭と保育所二つの文化を行き来する入所している0歳児、1歳児、2歳児に焦点を当て、その生活の連続性について考察する。 また事例を通して子どもどうしの衝突と保育士の関わり方について意見交換をする。 予習:テキスト第2章『家庭で育つ・育てる』及び保育所保育指針第4章を再読し、『子育て支援計画』を作成する。(約5時間) B:多 E:あり F:あり 第13回 乳児保育における計画、記録、評価とその意義 乳児保育における計画・記録・評価の意義について学ぶ。 『全体の計画』から『長期・短期の指導計画』へのおおし方について学ぶ。『入園前面談』『避難訓練計画』『食育計画』『保健計画』の他、『連絡帳』の重要性について学び一部、作成をする(その都度指示・乳児保育Ⅱにおいて詳しく学習する)。 予習:テキスト第10章『保育の計画』を参考に様々な計画について確認する。(約2時間) E:あり F:あり 第14回 乳児保育Ⅰ試験と各単元の解説・ 学びの振り返りⅠ 【振り返り】(1)乳児保育の変遷と社会的役割(2)女性の社会進出と子育ての両立・育児不安(3)3歳未満児の発育・発達(4)家庭・保育所・乳児院・児童養護施設で育つ子ども(5)専門職保育士の役割(6)地域諸機関との連携について総まとめをする。第14回目前半に『乳児保育Ⅰ』のテストを行い、後半解説する。 予習:第1回～13回の配布資料(第12回配布の『試験に向けて』の資料含む)、保育所保育指針・テキストの学習箇所を確認する。(約3時間) B:あり E:多 F:多 第15回 学びの振り返りⅡ 【振り返り】育児不安と保育所・保育士の役割について再確認し、乳児保育の在り方について意見交換をする。 予習:第1回～14回の配布資料(テストを含む)、保育所保育指針、テキストの学習箇所を再確認する。(約2時間) B:あり E:多 F:多
教育目標との関連	乳児保育の歴史はまだ浅く、保育現場で試行錯誤しつつ創り上げていかなければならない部分も少なくない。家庭と保育所・こども園、二つの文化の中で生きる乳児にとって、日中の保護者である保育士の存在は極めて大きい。乳児の発育発達の理解はもとより、実践に必要な知識、技術をしっかりと身につけた上で現場に立ちたい。 主体的に行動し、職種間の連携を大切に、保護者からの信頼を獲得できるよう、常に自己研鑽を怠らず、課題意識を持ち探求し続けることが求められる。
到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	1 乳児保育の意義及び乳児の発育発達について理解し、産休明け児及び月齢、年齢に合わせた保育実践ができる。 3 育児不安の背景、乳児保育の今日的課題を把握し、入所児の保護者だけでなく地域の保護者等に対する子育て支援について考えることができる。 仕事と子育ての両立支援だけでなく、家庭で保育されている乳児及び保護者に対しての支援の重要性について考えられる。 4 保育士として求められる基本的態度(時間厳守、守秘義務など)を身につけるよう努力し続ける。
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	1 試験 50% 総まとめとして定期試験を1回行う(14回目)。授業全般から総合的な理解を確認する。 2 提出課題 30% その都度課題を与えるので、授業内容を踏まえて課題意識を持ち自分なりの考えを述べてほしい。 3 発表・平常点 20% 評価方法はルーブリックを用いて行う。 授業内容の振り返り(小テストを適宜行う)及び宿題確認を行う。

教科書	新版『乳児保育』 咲間まり子編著 松本佳子共著 大学図書出版 2018年 ￥1760(税込み)
参考書	保育士を育てる『乳児保育Ⅱ』（乳児保育Ⅱで使用するテキスト） 谷田貝公昭監修 松本佳子共著 一藝社 保育所保育指針
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	各回の予習、復習は上記『授業計画及び学習形態』の通り。毎回、前回の授業内容も振り返ること。
履修上の注意、条件等	DVDやビデオ視聴時には、その記録を基にレポート課題の提出を求める。（その都度指示） 提出物の期限及び授業開始時間までの着席厳守のこと。 毎回必ず、『教科書』『保育所保育指針』を持参すること。
オフィスアワー	質問は授業の前後に教室にて受け付ける。
備考・メッセージ	子育てに関連するのニュースを意識して見るようにすること。 また問題意識を持ち、専門職保育士として考察する習慣をつけたい。

講義科目名称： 乳児保育Ⅱ

授業コード：

英文科目名称： Infant Care Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	1年	1単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
松本 佳子			
授業形態：演習	担当形態：単独		実務経験：あり
添付ファイル			
コピーカリキュラムマップ様式（乳児保育Ⅱ）.pdf			
ルーブリック様式（乳児保育Ⅱ）.pdf			

講義概要	直接世話をする者だけでなくそれを取り巻く生態学的な環境が大きく影響し、乳児の健全な育ちは保障される。 保育所・こども園や家庭における保育者・家族との関係、保育環境や保育内容、人間関係などが、乳児が直接関わる生態学的環境といえる。乳児保育Ⅱでは、養護と教育が一体となった乳児保育における配慮の実践について、さらに深く掘り下げて、遠隔授業(配信)にて学ぶ。 他科目との関連：「保育に関連した『生理的特性』『疾病』『看護についての理解』『保育看護』について子どもの保健でさらに掘り下げて学ぶ。特別な配慮を要する障害児に対する援助及び理解については、特別支援教育(障害児保育)にて『発育発達』を学び現場で対応できるようにする。『制度』については子どもの家庭福祉にて確認する。」 松本講師は公立(川崎市役所)産休明け保育所にて管理栄養士の立場から、調乳、アレルギー食、離乳食、乳児食を中心に担当、指導をしてきた。また保育士資格(登録)を持ち、産休明けクラス、乳児クラスにて、朝の視診、保護者対応、基本的な生活習慣の確立に向けた援助も行ってきた。現在は保育士国家試験対策講師、職業訓練講師として、また高校家庭科の講師として子どもの食を中心に指導している(専門学校、高校他)。 保育所現場に即対応できる保育士を育成したい。		
授業計画および学習形態	第1回	第1章 乳児保育の基本・乳児保育の必要性 子どもを直接、間接的に取り巻く生態学的な環境について考える。 保育所等の子どもを中心に、文化・思想・人間関係の重なりについて学び、直接接する保護者や保育者だけでなく、その外側に広がる人間関係の網の中で子どもたちは生きていることに気づく。 『愛着形成』の必要性について、また担当保育士との愛着形成について学ぶ。 予習:第1章「愛着とは」「情緒・社会性・身体的発達の基盤を作る重要な乳幼児期」を読み、子どもの育ちに大切なものは何か考える。(約3時間) E:あり F:あり	
	第2回	第2章 乳児期の養護の実践 乳児期の養護と教育が一体となった保育について考え、援助の実践について学ぶ。 保育士の動線と考えた保育室の環境構成、乳幼児にとって安全な保育環境について学ぶ。 予習:第2章事例①～⑦を読み、乳児と保育士とのさまざまな関わりについて知る。 E:あり F:あり	
	第3回	第3章 乳児期の子どもの学び 玩具制作を行う。牛乳パックを使った玩具、カスタネットを制作する(1000ml牛乳パック、色画用紙、色紙、ボタン2個、のり、はさみの用意)。 作品を使い目の前に2歳児6名がいると仮定して、おとぎ話をしたり童謡を歌ったりする。 予習:玩具づくりの構想を練る。必要なものを用意する。(約2時間) E:あり F:あり	
	第4回	第4章 乳児保育における指導計画の実践 乳児保育Ⅰの復習を兼ね『全体の計画』とは何か、また『長期指導計画』『短期指導計画』へのおろし方、ポイントについて考える。 評価を踏まえた計画の改善について考え、より良い保育へとつなげていける。 予習:第4章-3節-2保育士の役割(子どもの理解・行為の意味の理解・発達する姿を見通す)について熟読する。乳児保育Ⅰで学んだ指導計画を復習しておく。(約2時間) E:あり F:あり	
	第5回	第5章 乳児期の健康と安全 保育室・調乳室その他の衛生管理のポイントについて学ぶ。 災害に対する備え及び災害訓練、避難計画について学ぶ。 特別な配慮を必要とする乳幼児(病後児保育その他)について考える。 予習:第5章乳児がかかりやすい疾病及び予防について読み、保育所内での感染症防止について考える。 第5章図表5-4「衛生管理の視点」を確認する。(約2時間) E:あり F:あり	
	第6回	第6章 6か月未満児の保育 産休明け児、乳児の保育所・家庭での1日の生活について学ぶ。 発達過程を確認しながら、乳児に多い事故、幼児に多い事故と安全管理について考える。 家庭との連携及び「連絡帳」の重要性について再考する。 予習:乳児保育Ⅰ第3回課題「あなたの部屋でハイハイし始めた乳児にとって危険な箇所は」について復習しておく。 E:あり F:あり	
	第7回	第7章 6か月未満児の生活と遊び 5つの基本的な生活習慣(食事・睡眠・排泄・清潔・着脱衣)の確立に向けて、保育士の関わりについてまとめていく。人的環境、物的環境の重要性について考える。 予習:保育所保育指針第5章「職員の資質向上」を読む。(約5時間) E:あり F:あり	
	第8回	第8章 6か月～1歳未満児の保育 月齢ごとの発育発達の特徴と保育士の関わりについて学ぶ。	

	この時期に多い健康上の問題や事故と保育士の配慮点について確認していく。 予習：健康上の問題やこの時期に多い事故を調査し、保育上の注意点について考察する。（2時間） E:あり F:あり 第9回 第9章 6か月～1歳未満児の生活と遊び 5～6か月頃に開始し、1歳6か月くらいまでに完了する離乳食について学ぶ。 新保育所保育指針の「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」という3つの視点がどのように育まれていくか事例を通して学ぶ。 予習:前期使用テキスト第3章(離乳食)を読み、月齢・年齢による食事と保育者の援助について復習しておく。（約3時間） E:あり F:あり 第10回 第10章 1歳児の保育 1歳児クラスの特徴、デイリープログラム、1歳児の心の発達と保育士の関わりを中心に学ぶ。 1歳児の発達過程から、遊びと保育士の関わりについて検討する。 予習:前期使用テキスト第3章(排泄)を読み、排泄機能と発育発達について復習しておく。（約2時間） E:あり F:あり 第11回 第11章 1歳児の生活と遊び 基本的な生活習慣のひとつ「清潔」「着脱衣」について、「沐浴」の実技を配信授業にて学ぶ。 保育者自身が常に身近を清潔に保つことにより、子どもたちも気持ちよく生活を送ることができる。 言葉の発達と絵本の重要性について学ぶ。 予習:前期使用テキスト第3章(沐浴)の図表を確認し、配慮点復習しておく。 E:あり F:あり 第12回 第12章 2歳児の保育 2歳児保育の特徴と課題、月齢差と保育士の関わり、留意点について学ぶ。 複数担任制の役割分担、動き、職員間の報告・連絡・相談について考える。 予習:テキスト12章を読み、複数担任制の意義、役割分担、1日の中での動きについて考察する。（約3時間） E:あり F:あり 第13回 第13章 2歳児の生活と遊び 産休明け・0歳児・1歳児・2歳児・幼児クラスへの移行について検討する。人的環境・物的環境の変化、子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮について学ぶ。 子どもにとっての「遊び」とは、また「遊び」を発展させていくための保育士の関わりについて考える。 予習:2歳児の保育評価基準の観点は何を考察する。（約3時間） E:あり F:あり 第14回 第14章 特別な配慮を必要とする乳児の保育 【振り返り】(1)3歳未満児の発育発達を踏まえた保育とは(2)養護と教育の一体性を踏まえた保育の方法及び環境構成とは(3)乳児保育全般の配慮点は(4)乳児保育の計画作成の仕方について(5)特別な配慮を必要とする乳児とはについて総まとめをする。 予習:第1回～13回の配信授業、保育所保育指針、テキストの学習箇所を確認する。（約3時間） E:あり F:あり 第15回 第15章 乳児保育の課題と対応 15回めに1～14回の学びの振り返りを行う。 乳児保育の果たす役割、明日の保育につなげるための保育士としての在り方について考える。 予習:乳児保育Ⅰ、Ⅱを通して得たもの、考えたことをまとめる。（約3時間） B:多 E:多
教育目標との関連	乳児保育の歴史はまだ浅く、保育現場で試行錯誤しつつ創り上げていかなければならない部分も少なくない。家庭と保育所・こども園、二つの文化の中で生きる乳児にとって、日中の保護者である保育士の存在は極めて大きい。乳児の発育・発達とはもとより、実践に必要な知識、技術をしっかりと身につけた上で現場に立ちたい。 主体的に行動し、職種間の連携を大切に、保護者からの信頼を獲得できるよう、常に自己研鑽を怠らず、課題意識を持ち探求し続けることが求められる。
到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	1 愛着の重要性について理解し保護者へのアドバイスができる。また個人差に配慮した指導計画が作成できる。 2 保育室を安全に保つための環境づくりについて考えられる。人的環境について考え自己研鑽を怠らない。 3 5つの基本的な生活習慣を身につけさせるために、乳児の発達段階を把握し、個別の配慮ができる。 4 保育士として求められる基本的態度(時間厳守、守秘義務など)を身につけるよう努力し続ける。 5 幼児クラスへの移行について、配慮点を考えられる。
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	提出課題 100% 第1回～15回、配信(または対面授業)の都度課題を与えるので、授業内容を踏まえて期限内に提出すること。提出課題にて評価をする。 期限を過ぎた場合は減点する。 15回全ての課題提出が、単位取得(合格)の条件となる。
教科書	保育士を育てる『乳児保育Ⅱ』 谷田貝公昭監修 松本佳子共著 一藝社 2020年 ￥2100(+税) 保育所保育指針
参考書	新版『乳児保育』(乳児保育Ⅰで使用したテキスト) 編著 咲間まり子 共著 松本佳子他 保育所保育指針
準備学習(予習・復習等)の具体的な内容および必要な時間	各回の予習、復習は『授業計画及び学習形態』の通り。今までに学習した内容を踏まえて、予習に取り組む。

履修上の注意、条件等	『子どもの玩具作り』『短期指導計画作成』などの内容もあり。 DVDやビデオ視聴時には、その記録を基に課題の提出を求めることがある(その都度指示)。
オフィスアワー	質問等に関しては、google classroomの限定コメントにより受け付ける。
備考・メッセージ	子育てに関するニュースを意識して見るようにすること。

講義科目名称： 異文化コミュニケーション演習

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年 専攻科	1単位	2年 専攻科 選択
担当教員			
巖 ナオミ			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：有	
添付ファイル			

講義概要	異文化コミュニケーションの体験的集中講義。今年度は社会情勢を鑑みICTを活用した双方向型授業を行う。地球温暖化が危機的レベルに達し未曾有の事態が発生している今、国境を越え地球規模の課題に各人が協力して取り組む時代に入った。 この新時代に生きるグローバル市民として必要な意識(Interbeing Awareness)とコミュニケーション・スキル(情報収集・編集力、共感力など)を身につける講座。 身体への気づきとアートの活用も促す体験型。 多様な文化において正解は必ずしも一つではない。しかしいかなる多様性の中でも決して揺るがないたった一つの正解がある。それは「命の尊重」。本講座では自分の命、子どもの命はもちろん人間だけではなくあらゆる生命への尊重を最も大切な基本価値として各課題に取り組んでいく。 実務経験 大手企業教育事業部主任として複数企業の国際化教育をデザイン、実施。独立したのちも多くの自治体、企業の国際化研修、海外派遣者・帯同家族研修に携わる。英国I社と日英で企業のリーダーシップトレーニング、アウトドア研修にて体験的手法を磨く。異文化対応の専門家として建設省河川局諮問委員、日本の水辺環境のユニバーサルデザイン化に参画、文部省の委員としては海外成長体験と研究を基に海外子女教育の施策提言をまとめた。		
授業計画および学習形態	各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。		
	第一回	異文化コミュニケーション演習概要 授業の概要、進め方、評価基準、各自の目標など確認 持ち物（各回共通）：テキスト、専用ノート、ドローイングパッド、クレパス（クレヨン）色数任意 動きやすい服装も毎回着用のこと A,B多 EF あり 課題に1時間～ 調査・準備に1時間～	
	第二回	地球環境、生態系とわたし Global ecosystemの現状とわたし 地球上の離れた地域で起きていることとそれに関わる自分を知る	
	第三回	持ち物、服装、各回共通項目は第1回参照、以下同様 A,B多 EF あり 課題に1時間～ 調査・準備に1時間～ 異文化コミュニケーション・スキル実習 4つのコミュニケーション・スタイルと価値志向 自分のスタイルを知る 動きやすい服装で A,B多 EF あり 課題に1時間～ 調査・準備に1時間～	
	第四回	異文化コミュニケーションの基礎とスキル実習 日本語の呼吸と英語の呼吸 聴き方、話し方の種類とタイミング 動きやすい服装で A,B多 EF あり 課題に1時間～ 調査・準備に1時間～	
	第五回	異文化コミュニケーション・スキル実習 共感コミュニケーションの要素 自己共感と感情の言葉/ニーズの推測 動きやすい服装で A,B多 EF あり 課題に1時間～ 調査・準備に1時間～	
	第六回	異文化コミュニケーションとわたし 1～5回を踏まえた各自の課題と探求テーマを共有 リソースとサポートの特定 動きやすい服装で A,B多 EF あり 課題に1時間～ 調査・準備に1時間～	
	第七回	今、地球で起きていること Global Report 1 動きやすい服装で A,B多 EF あり 課題に1時間～ 調査・準備に1時間～	
	第八回	今、地球で起きていること Global Report 2 動きやすい服装で A,B多 EF あり	

	第九回 課題に1時間～ 調査・準備に1時間～ 今、地球で起きていることとわたし Global Report 3 /personal presentation まなびを形に・生活実践シェア 新しい可能性の領域と新しい習慣 動きやすい服装で A,B多 Eあり 課題に1時間～ 調査・準備に1時間～ グローバルからいま、ここへ From Global to Local 全体ふりかえり 新しい習慣の共有 第十回
教育目標との関連	本講座では多文化共生に必要な基本を学び、日常生活での実践課題や習慣を見直す稽古を年間通じて行なう。これらの体験学習は自らを知り、社会生活に応用できるコミュニケーションスキルを身につけるだけでなく、身体感覚を磨き、さまざまな刺激を通じ感性を豊かに耕し、祈り心が自然と育まれるプロセスとなると期待される。
到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	知識・理解 グローバル市民として求められる知見をさまざまな切り口から検証する 思考・判断 多文化理解と対応は本講座の眼目として十分に扱う 技能・表現 言語としてだけでなく文化としての英語を使いこなすポイントを学ぶ 関心・意欲 関心・意欲 地球生態系に起きている諸問題を理解し、どう関わるか選択する自主性、積極性を育てる 態度 あらゆる生命へ愛を注ぐ自分を育む
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	遅刻なしの出席、全課題の期日内提出が単位取得の前提。 各回テーマを自分なりに積極的に掘り下げ、日常生活の応用稽古をどれだけ徹したかをその上加味して総合的に評価する。
教科書	「ぼくらの地球の治し方」 藤原のぶひろ 著 フォレスト出版 「銀河鉄道の夜」 宮沢賢治 著 角川文庫 「モモ」 ミヒヤエル・エンデ作 大島かおり訳 岩波書店
参考書	「ニッポンが変わる、女が変わる」 上野千鶴子 中央公論新社 2013年 「朝、目覚めると、戦争が始まっていた」 方丈社編集部 方丈社 2018年 「ミツバチおじさんの森づくり -日本ミツバチから学ぶ自然の仕組みと生き方」 吉川 浩 著 ライトワーカー 「買いものは投票なんだ」 藤原のぶひろ著 フォレスト出版 「私と世界を幸福で満たす食べ方・生き方」 テイク・ナット・ハン他 サンガ出版 2018年 「動物かんきょう会議」 日本語版vol.03 イアン・マリルウ ノールエ 2004年 「みんなの地球カタログ」 ソーヤー海 監修 トゥヴァージンズ 2018年
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	授業終了直後にふりかえり用紙を書く（30分～）。復習・予習はこのふりかえりをあらためて読みかえし問いを立て関連図書を探して調べる、気になったことを自由に掘り下げてシェアする（1時間前後）指定図書を読み込む（各自のスピードに応じて毎日少しずつでも）
履修上の注意、条件等	変則日程に留意、持ち物、服装等余裕を持って準備。 欠席した場合は理由書を提出、欠席日の課題は各自の責任において次回までに追いついてやってくる
オフィスアワー	授業日、原則として授業後、またはアポイントメントによる。
備考・メッセージ	自分が居るところだけでなく、居ないところの地図を見る習慣を通して全生命を尊重する姿勢を育みましょう。 それを根幹から支える身体感覚と呼吸にも注目していきます

講義科目名称： Intensive EAL

授業コード：

英文科目名称： Intensive EAL

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	専攻科	2単位	専攻科選択
担当教員			
長谷山 康一 Mary Jones			
授業形態：演習	担当形態：オムニバス	実務経験：あり	
添付ファイル			

講義概要	本科目は、多文化理解のための英語力、英語コミュニケーション力の養成を目的としている。カナダ・ブリティッシュコロンビア州バンクーバーにおいて13週間語学研修を行う。語学研修ではレベルに合ったクラスでリーディング、ライティング、スピーキング、リスニング、文法、発音をバランスよく学ぶ。 他の科目との関連：同時に現地にて受講する「カナダ保育研究」他、国際こども教育すべての科目に関連する。 担当者（ジョーンズ）は20年間英語の教育経験があり、さまざまな英語表現や文化の違いなどについて視野を広げて向き合うアドバイスをを行う。		
授業計画および学習形態	各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。		
教育目標との関連	英語は国際こども教育専攻者として、多文化の理解や課題の研究において大きなツールとなる。また社会への貢献としては、保育者として子ども、保護者、また職場において英語でコミュニケーションができるよう能力をつける事を目的としている。		
到達目標 カリキュラムマップ	1. 英語力を身につけることにより、多文化をより深く理解できるようになる。 2. 英語力を活かしてコミュニケーションとる事により、他者の気持ちや背景、さらにダイバーシティについて思考を深める事ができるようになる。 3. 英語のリーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの力が身に付く。 4. 社会や国際の場においての英語の重要性を見出し、英語や多文化への関心が深まる。 5. 多文化や多文化を有する人々について興味を持ち、身近なこととしてとらえる事ができるようになる。		
評価方法および評価基準	事前学習における参加と課題：20% 語学研修での参加と成果：60% 事後学習におけるプレゼンテーション：20%		
教科書	Communicate Abroad Simo Cookson & Chihiro Tajima 著 センゲージ ラーニング株式会社 出版		
参考書			
準備学習（予習・	中学・高校の英語を復習し、英文法を理解しておくこと。		

復習等)の具体的 内容および必要な 時間	
履修上の注意、条 件等	海外での生活に興味を持ち、安全面や健康管理に留意すること。
オフィスアワー	ジョーンズ研究室にて相談を受け付ける。時間は研究室のドアに掲示。
備考・メッセージ	カナダでは語学学校の学習のみならず、さまざまな気付きや経験を通して英語や文化を吸収しましょう。

講義科目名称： 多文化間心理学

授業コード：

英文科目名称： Cross-cultural psychology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	専攻科	2単位	専攻科選択
担当教員			
中村 麻衣子			
授業形態：講義	担当形態：単独		実務形態：なし
添付ファイル			
多文化間心理学 .pdf			

講義概要	文化・社会的要因が人の心の形成に与える影響を学ぶ。文化による人の行動の差異や普遍性を理解するとともに、多文化接触・体験や多文化環境において生じる心理的現象について学び、多文化共生社会をめざす保育者のあり方を考える。 他の科目との関連：「保育の心理学」「子ども家庭支援の心理学」「子ども家庭支援論」「子ども理解と相談・援助」で学んだ心理学や支援の基礎知識を基に、異文化接触の心理学理論およびその支援を学び、グローバルな視点を獲得する。		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A: グループワーク B: ディスカッション C: フィールドワーク D: プレゼンテーション E: 振り返り F: 宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回	あなたの常識は私の非常識。多文化心理学への招待 現在進行中であるグローバル化社会にいる私たちの周りで起こっていることを概観し、文化に関する心理学的な知見を学ぶ。また、認知発達の見点から文化の問題を考え、多文化理解の心理学を学ぶことの意義を理解する。 予習：「あなたが常識だと思っていることが、他の人にとってそうではなかった経験」、あるいは逆に、「他の人の常識が、あなたにとって非常識だったという経験」を考えておく。(約1時間) A：中 B：中 D：中 E：あり F：あり	
	第2回	日本在住外国人の心理 日本に住む外国人はどのように日本の社会に適応しているのか、または、どのような不便さを感じているのかを理解する。特に、子どもの教育においては、日本の学校についていけないため未就学になっているような児童が相当数存在している現状などを、事例を通して学ぶ。 予習：偏見やステレオタイプがなぜ起こるのかについて考えておく。(約1時間) A：中 B：中 D：中 E：あり F：あり	
	第3回	共文化コミュニケーション 共文化とは、居住地域、年代、職業、ジェンダーなどの差異や、障害の有無など、「日本文化」という1つの文化の中に存在しているが、独自の考え方や行動様式を備えているグループが持っているものである。私たちは、同じように日本で育ったとしても、それぞれ育った地域、性別、職業などによって大きな影響を受けており、若者文化、女性文化、教員文化など、さまざまな共文化を併せ持つことになる。この共文化の違いによる諸問題や現象を理解する。 予習：ある朝起きたら、あなたの性が変わっていた。さて、あなたの生活はどのように変化すると思いますか。また、将来の夢や希望も含めて、あなたが経験するであろう変化について、できるだけ具体的に考えておく。(約1時間) A：中 B：中 D：中 E：あり F：あり	
	第4回	帰国日本人の心理 一定期間海外に暮らした後で日本に帰国した場合、母国日本においてさまざまな問題に遭遇し、困惑するということがよくある。この現象をスクールカウンセラーとしての経験を持つ教員の事例を通して理解する。 予習：あなたの周りに帰国児童・生徒はいたのだろうか。また海外生活が長かった有名人・芸能人の言動で気になったことについて考えておく。(約1時間) A：中 B：中 D：中 E：あり F：あり	
	第5回	海外留学での多文化経験 日本人が外国に出かけて現地で異文化と出会ったとき、心に何が始まるのかについて、自らの体験や事例をもとにグループディスカッションを通して具体的に考える。 予習：インターネットを使って、今まで日本人留学生在が何らかの事件に巻き込まれた例を探しておく。(約1時間) A：中 B：中 D：中 E：あり F：あり	
	第6回	海外駐在での多文化体験 海外赴任者と、それに同伴する家族の心を理解する。現地での生活は、日本で得られたような普通の便利さが大幅に欠乏すると感じることが多い。また、子どもは現地の言葉をいかに習得し、学校に適応するのか。これらの現象について、事例をもとにケーススタディーを通して理解する。 予習：海外に赴任することが決まったら、どのような準備をしたら良いと思うか考えておく。(約1時間) A：中 B：中 D：中 E：あり F：あり	
	第7回	国際舞台で起きる多文化交流の諸相① 国内外で起きているさまざまな交流活動の諸相を、本講から3回にわたり、国際交渉、国際協力、マスメディアの観点から考察する。本講では、国際交渉に欠かせない多文化コミュニケーション能力とは何かについて理解する。 予習：捕鯨問題について概略を調べておく。(約1時間) A：中 B：中 D：中 E：あり F：あり	
	第8回	国際舞台で起きる多文化交流の諸相② 国内外で起きているさまざまな交流活動の諸相を、国際協力の視点で考察する。国際協力とは、社会や経済の開発、平和問題、人命や人権など人道上の問題、環境問題などに対して、国を越えて行われる援助活動のことである。このような援助の実態と、そこで起こる援助する側・される側の心の問題について、事例をもとにグループディスカッションを通して考える。 予習：青年海外協力隊について、文献やインターネットなどで調査しておく。(約1時間)	

	A：中 B：中 D：中 E：あり F：あり 第9回 国際舞台で起きる多文化交流の諸相③ 国内外で起きているさまざまな交流活動の諸相を、マスメディアとパーセプションギャップについて考察する。映画「パッチギ」を視聴し、グループディスカッションを通して考える。 予習：外国人が登場する映画やドラマを見たことがあるだろうか。あるいは、逆に外国映画に日本人が登場する映画やドラマは見たことがあるだろうか。その中に出てくる人物の国籍、職業、性別、外見、性格、役について書き出しておく。(約1時間) A：中 B：中 D：中 E：あり F：あり 第10回 英語圏のマンガから見える子どもの生活文化とユーモア 文化が人間の発達や認知に与える影響をマンガを通して楽しく学ぶ。 予習：スヌーピーなど英語圏のマンガを読んでおもしろいと感じられない、意味がわからない、という経験はあるだろうか。考えておくこと。(約2時間) A：中 B：中 D：中 E：あり F：あり 第11回 多言語アイデンティティー 複数の文化と言語環境で成長する子どもたちの生活と心理について考える。また、カナダなどにおける二言語教育やそれに関する研究の知見から、二言語併用が子どもの認知過程やその発達に与える影響について考察する。 予習：日本での外国語教育について、今のままで良いと思いますか。自分の考えをまとめておく。(約2時間) A：中 B：中 D：中 E：あり F：あり 第12回 多文化共生をめざす保育者のあり方 多文化共生保育とは、さまざまな違いを認めあい、すべての子どもが自分らしく生きるために必要な力を身につけることである。多文化をもつ子どもは園内では比較的早期に適応したかに見えるために、保育者は「慣れたら問題なし」としてしまいがちである。ここからは多文化共生の保育は生まれてこない。保育者の多文化をもつ子どもや保護者に対して、相手の文化を尊重する深い配慮をもった関わり方、それを周囲の子どもが見て学ぶことが多文化共生保育の重要なポイントの一つである。また、保育者が日常の保育上困ったこととしてあげていることには、多文化を持つ保護者との言葉・文化の違いに起因する様々な行き違いに端を発していることが多い。保育を行う上では保育者と保護者間の信頼関係の構築とそのための保育者の多文化理解が必須であることを理解する。 予習：実習やボランティア活動などで異文化の子どもと関わった経験はあるだろうか。その時に感じたことをまとめておく。(約2時間) A：中 B：中 D：中 E：あり F：あり 第13回 多文化コミュニケーションスキル 文化背景の異なる人々と共生していくには相手を理解しようとオープンな心で接することが大切だが、自分の考えや感じたことを相手に正確に伝えることも大切である。本講ではコミュニケーションスキルの1つであるアサーティブ・コミュニケーションについて実践的に学ぶ。 予習：これまで、自分の思っていることや考えていることが相手にうまく伝わらなかった経験や、そもそも伝えることを諦めてしまった経験はあるだろうか。その原因を考えておく。(約1時間) A：中 B：中 D：中 E：あり F：あり 第14回 まとめと小テスト 予習：これまでの授業全体を通して、質問などを考えて授業に臨むこと。(約1時間) 復習：テストの自己採点。できなかった問題にもう一度取り組む(約1時間) A：小 B：小 D：小 E：あり F：あり 第15回 授業の総括と振り返り テストのフィードバック。また、シラバスに書かれている到達目標を達成できたか各自振り返る。 予習・復習：学習の成果と課題を考える。(約2時間) A：中 B：中 D：少 E：あり Fあり
教育目標との関連	グローバルな視野を持ち、文化的背景の異なる人々を理解するための知識、技法、態度を習得する。国際社会に生きる一員として、多文化共生社会をめざす保育者のあり方について、自分なりの考えを持てるようにする。また、文化的背景の異なる人々が共生する国際社会で活躍できる保育者をめざす。
到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	1. 異文化接触・多文化環境において生じる心理的問題を理解し、説明することができる 3. 多文化共生社会をめざす保育者のあり方について、自ら考え、論じ合うことができる 5. グローバルな視野を持ち、異なる価値観や多様性を尊重し、受け入れることができる。 *添付資料のカリキュラムマップを参照
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	提出課題：30% 課題は授業内で指示する。 平常点：70% 授業内での発言・発表やグループワークでの積極性など、授業への貢献度を評価する。 *評価基準は添付資料のルーブリックを参照
教科書	なし。授業でレジュメや資料を配布する。
参考書	授業中に指示する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	各回の予習、復習は上記のとおり。
履修上の注意、条件等	世界情勢に関心を持ち、多文化共生について自分なりの意見・考えを持つよう心掛けてください。授業内でしばしば意見を求める。
オフィスアワー	研究室に掲示する。遠隔授業においては限定コメントで受け付ける。

備考・メッセージ	対面授業で行う。
----------	----------

講義科目名称： 家族と多文化社会

授業コード：

英文科目名称： Family and Multicultural society

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	専攻科	2単位	専攻科選択
担当教員			
柴田 啓一			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：無	
添付ファイル			
「家族と多文化社会」カリキュラムマップ.pdf			
「家族と多文化社会」ループリック.pdf			

講義概要	家族が担う機能は時代や社会によって異なるものである。文化もまた同様に多様なものである。また、文化は国家という地理的範囲で単一であるわけではなく、国内においても様々な文化が存在し、社会の階層や集団によって身にまわっている文化は異なるものである。 本講義では、文化を次世代に継承する社会集団である家族についての理解を深める。文化の継承や社会階層の再生産、子どもの学力形成に家族がいかに機能しているかについて考察し、現代社会において家族が抱える様々な問題について理解を深める。	
授業計画および学習形態	第1回	文化とは 文化とは何か。文化は目に見えないが存在し、世代や時間を超えて伝承され、あるいは変化するものである。テキストは第一子をもうけた母親が「公園デビュー」し、母親同士の小集団の一員となる記録である。公園の母親集団の行動規範を理解し、文化についての理解を深める。 B:多 予習:テキスト「プロローグ」を読んで自分なりに論点をまとめること(約2時間)。 B:中。
各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多:45分以上 中:15分～44分 少:15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第2回	文化と集団 テキストは第一子をもうけた母親が「公園デビュー」し、母親同士の小集団の一員となる記録である。公園の母親集団の行動規範を理解し、文化についての理解を深める。 B:多 予習:テキスト第1章の該当節を読んで自分なりに論点をまとめること(約2時間)。
	第3回	孤立化する育児環境 出産に伴い仕事を辞めた場合、パートナーが長時間労働などで育児にあまり関わらず、さらに身近に親や知人がいないと孤立して育児することとなる。こうした環境で子育てする人の意識について、第1章を読んで理解する。B:多 予習:テキスト第1章の該当節を読んで自分なりに論点をまとめること(約2時間)。
	第4回	集団の規範と階層性① 集団には規範が存在し、その規範を理解し身にまとうことで集団のメンバーと承認される。このメカニズムについてテキスト第2章を読んで理解する。B:多 予習:テキスト第2章の該当節を読んで自分なりに論点をまとめること(約2時間)
	第5回	集団の規範と階層性② どのような集団にも集団内で序列が形成される。テキスト第2章の内容を例に、集団内で序列が形成される仕組みについて理解を深める。B:多 予習:テキスト第2章の該当節を読んで自分なりに論点をまとめること(約2時間)
	第6回	集団の意識① 目的意識を共有する集団ほど集団内の凝集性やコミュニケーションは高まる。一方、集団の内部と外部に対する意識は異なり、異質な者に対しては「よそ者」扱いする傾向にある。こうした意識がなぜ生じるか、テキスト第3章を通して理解する。B:多 予習:テキスト第3章の該当節を読んで自分なりに論点をまとめること(約2時間)
	第7回	集団の意識② ルールや規範を守ることで集団の一員となるのであるが、こうしたルールや規範を集団の内部でのみ通用するものである。部外者から見た集団の閉鎖性、排他性について、テキスト第3章を通して理解する。B:多 予習:テキスト第3章の該当節を読んで自分なりに論点をまとめること(約2時間)。
	第8回	文化とコミュニティ① 文化を生成し、伝承するのは人である。身近なところからどのように文化が生成されるのか、テキスト第4章を読んで理解する。B:多 予習:テキスト第4章の該当節を読んで自分なりに論点をまとめること(約2時間)。
	第9回	文化とコミュニティ② 文化を生成する社会集団がどのように形成されるのかについて理解を深める。B:多 予習:テキスト第4章の該当節を読んで自分なりに論点をまとめること(約2時間)。
	第10回	文化とは?集団とは? 文化とは何か、テキスト全体を振り返り、理解を深める。B:多 予習:テキスト「エピローグ」を読んで自分なりに論点をまとめること(約2時間)
	第11回	文化の発見① 身近な社会集団を取り上げ、その中で形成され伝承されている文化について考える。 B:多 予習:各自で発見した文化についてレポートをまとめる。 予習:レポートの作成(約2時間)。
	第12回	文化の発見② 各自でまとめたレポートを発表し、相互評価をすることで多角的な文化の視点を養う。 B:多 D:中 予習:配布された資料をよく読んで論点をまとめること(約2時間)。
	第13回	日本人のしつけは衰退したか① 昨今、家庭の教育力が低下していると言われて、その原因は家族の「核家族化」であると言われている。こうした言説が本当かどうかを検証するため、広田照幸著『日本人のしつけは衰退したか』を読んで理解する。 B:多 予習:配布された資料をよく読んで論点をまとめること(約2時間)。

	第14回 日本人のしつけは衰退したか② 同じ国でも時代が異なると、共有する文化も異なる。文化は絶えず伝承するメンバーの間で変化するものであり、過去が理想的に語られることもある。このことをテキストを読んで理解する。 B:多 予習:テキストを読んでくこと 第15回 まとめ これまでの授業を振り返り、多角的に文化を捉える視点を養う。 B:多 予習:これまで授業をまとめておくこと (約2時間)。
教育目標との関連	もっとも基礎的な社会集団である家族を理解することにより、多様な保護者の立場や保護者のニーズを受容する態度や思考力を身につけることができる。また、文化を多面的に捉える思考力が身につくことで、豊かな感性や社会性を高めることができる。
到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	2. 子どもの保護者のニーズや価値観の多様性について客観的に判断できる。 5. 文化の多様性を理解し、異なる価値観を尊重することができるようになる。
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	平常点評価 50% ・毎回レジュメをもとに討論します。討論への貢献度、発表内容によって評価します。 提出課題 50% ・輪番でレジュメを作成してもらいます。まとめ方や論点の整理がなされているかどうかで評価します。レジュメのまとめ方と評価の基準については授業時にルーブリックを配布します。
教科書	本山ちさと『公園デビュー 母たちのオキテ』学陽文庫（絶版なので入手方法等については最初の授業のときに指示します）。
参考書	広田照幸（1999）『日本人のしつけは衰退したか』講談社現代新書、924円。耳塚寛明編（2014）『教育格差の社会学』、2200円。その他の参考書、参考文献については授業時に指示する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	事前にテキストや資料を読んで授業に臨むことが前提になります。輪番でレジュメを作成してもらいます。授業時にはレジュメをもとに討論しますので、資料を読んで論点や疑問点等を毎回各自でまとめておいてください。
履修上の注意、条件等	教科書を丹念に読み込むことで家族と社会に関する知識や理解、問題意識を深めます。教科書を読んでもくことを前提に議論を進めますので、必ず次回の該当範囲を事前に読んで論点を各自整理して望むこと。また、広く社会に関心を持ち、新聞やテレビのニュースに通じておくこと。
オフィスアワー	授業終了後に教室内で受け付ける。
備考・メッセージ	履修者の関心や理解度によって、進め方が若干変更になる可能性もあります。

講義科目名称： カナダ保育研究

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	専攻科	2単位	専攻科 選択
担当教員			
長谷山 康一			
授業形態：演習（実習）	担当形態：単独	実務経験：あり	
添付ファイル			

講義概要	本科目では、カナダ保育を包括的に研究するに当たって、カナダ・ブリティッシュコロンビア州での現地保育園の視察、その他現地社会活動の視察及び体験を通じて、海外の保育活動をその社会的文脈を含め、実体験と並行して考察をするものである。 他の科目との関連：本来、在学中に学ぶ全ての科目群の内容は多様な形及び側面で一つの学びとして織り込まれるべきである。その上で、在学期間を通して国際こども教育を考える際、個々の学生の位置によって、その基となったり、きっかけとなる知識や思想、または既得のそれらを深め、より有効なものにするための即社会的見地を、本科目で得る異国の教育現場や社会環境における実体験から見出すことも可能となる。これにより、存在論的にも認識論的にもより学生個々に即した新鮮な材料を提供できるものと考えられる。 教員の本科目関連する実務経験としては、担当教員は、現地保育者資格の保有、現地大学における保育士資格学位プログラムの現役教員及び教育実習指導教員であり、現地社会においても10年ほどの滞在歴を持っており、それらの経験と知識を用いて、「保育」を養成教育及び社会文化的な側面から学生と共に紐解いていく。		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	1	カナダ基礎知識 社会文化、社会歴史、社会政治的な方面からの国家としてのカナダを一定程度、理解する。 （総括Miniプロジェクト（導入）） A：中 B：中 E：あり F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（1時間） 復習：授業内容を記録ノートに省察（2時間）	
	2	ブリティッシュコロンビア州保育施設の基礎情報 ブリティッシュコロンビア州保育の基礎的な現状、制度の理解。 A：中 B：中 E：あり F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（1時間） 復習：授業内容を記録ノートに省察（2時間）	
	3	カナダ・ブリティッシュコロンビア州政府の乳幼児学習フレームワークについて知る カナダ・ブリティッシュコロンビア州政府の乳幼児学習フレームワークについて、その概要を理解する。 A：中 B：中 E：あり F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（1時間） 復習：授業内容を記録ノートに省察（2時間）	
	4	カナダ・ブリティッシュコロンビア州政府の乳幼児学習フレームワークについて考察する 前回授業の内容から、各学生で異なる焦点を担当し、考察・共有する。 A：中 B：中 D：中 E：あり F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（1時間） 復習：授業内容を記録ノートに省察（2時間）	
	5	カナダの乳幼児教育（フレンチ・イマージョン／先住民族） カナダ全土の乳幼児教育をフレンチイマージョンやインディジナス教育から考察する。 A：中 B：中 E：あり F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（1時間） 復習：授業内容を記録ノートに省察（2時間）	
	6	こども教育と社会的制度 こども教育と社会的制度について考察する。 （総括Miniプロジェクト（プロポーザル作成開始）） A：中 B：中 E：あり F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（1時間） 復習：授業内容を記録ノートに省察（2時間）	
	7	カナダ・ブリティッシュコロンビア州乳幼児教育者免許課程 州の教育者資格制度を理解し、保育者に求められる質や教育を考察する。 A：中 B：中 E：あり F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（1時間） 復習：授業内容を記録ノートに省察（2時間）	
	8	カナダの保育現場 概論 保育現場の社会的位置付けや、その様々な形態の理解を社会文化的側面から掘り下げる。 A：中 B：中 E：あり F：あり 予習：事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備（1時間） 復習：授業内容を記録ノートに省察（2時間）	

9	現地保育所の実態 前回授業を、さらに細かな「事例」を通じて、考察、理解する。 A: 中 B: 中 E: あり F: あり 予習: 事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備 (1 時間) 復習: 授業内容を記録ノートに省察 (2 時間)
10	現地保育士や他のこどもに関わる専門職の現状 働き手に焦点を当て、考察する。 (総括Miniプロジェクト (仮プロポーザル発表/個別調査開始)) A: 中 B: 中 E: あり F: あり 予習: 事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備 (1 時間) 復習: 授業内容を記録ノートに省察 (2 時間)
11	カナダ現地の社会文化とこども 概論 以下5回の授業では、それぞれのカナダにおける社会的側面から「こども」について考察する。今回は、そのイントロダクション。 A: 中 B: 中 E: あり F: あり 予習: 事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備 (1 時間) 復習: 授業内容を記録ノートに省察 (2 時間)
12	街と人 A: 中 B: 中 E: あり F: あり 予習: 事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備 (1 時間) 復習: 授業内容を記録ノートに省察 (2 時間)
13	社会的構造と営み A: 中 B: 中 E: あり F: あり 予習: 事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備 (1 時間) 復習: 授業内容を記録ノートに省察 (2 時間)
14	異文化コミュニケーション A: 中 B: 中 E: あり F: あり 予習: 事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備 (1 時間) 復習: 授業内容を記録ノートに省察 (2 時間)
15	こども、家族、教育、コミュニティ A: 中 B: 中 E: あり F: あり 予習: 事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備 (1 時間) 復習: 授業内容を記録ノートに省察 (2 時間)
16	施設視察 1 現地保育施設及び関連資源の見学と考察。 B: 中 C: 多 E: あり F: あり 予習: 事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備 (1 時間) 復習: 授業内容を記録ノートに省察 (2 時間)
17	施設視察省察 1 現地保育施設及び関連資源の見学と考察。 B: 中 D: 多 E: あり F: あり 予習: 事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備 (1 時間) 復習: 授業内容を記録ノートに省察 (2 時間)
18	施設視察 2 現地保育施設及び関連資源の見学と考察。 B: 中 C: 多 E: あり F: あり 予習: 事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備 (1 時間) 復習: 授業内容を記録ノートに省察 (2 時間)
19	施設視察省察 2 現地保育施設及び関連資源の見学と考察。 B: 中 D: 多 E: あり F: あり 予習: 事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備 (1 時間) 復習: 授業内容を記録ノートに省察 (2 時間)
20	施設視察 3 現地保育施設及び関連資源の見学と考察。 B: 中 C: 多 E: あり F: あり 予習: 事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備 (1 時間) 復習: 授業内容を記録ノートに省察 (2 時間)
21	施設視察省察 3 現地保育施設及び関連資源の見学と考察。 (総括Miniプロジェクト (調査中間報告)) B: 中 D: 多 E: あり F: あり 予習: 事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備 (1 時間) 復習: 授業内容を記録ノートに省察 (2 時間)
22	施設視察 4 現地保育施設及び関連資源の見学と考察。 B: 中 C: 多 E: あり F: あり 予習: 事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備 (1 時間) 復習: 授業内容を記録ノートに省察 (2 時間)

	23	施設視察省察 4 現地保育施設及び関連資源の見学と考察。 B:中 D:多 E:あり F:あり 予習:事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備 (1 時間) 復習:授業内容を記録ノートに省察 (2 時間)
	24	施設視察 5 現地保育施設及び関連資源の見学と考察。 B:中 C:多 E:あり F:あり 予習:事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備 (1 時間) 復習:授業内容を記録ノートに省察 (2 時間)
	25	施設視察省察 5 現地保育施設及び関連資源の見学と考察。 B:中 D:多 E:あり F:あり 予習:事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備 (1 時間) 復習:授業内容を記録ノートに省察 (2 時間)
	26	カナダ保育者との対話 1 現地保育士及び教育関係者との対談から学ぶ。
	27	B:多 予習:事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備 (1 時間) 復習:授業内容を記録ノートに省察 (2 時間) カナダ保育者との対話 2 現地保育士及び教育関係者との対談から学ぶ。
	28	B:多 予習:事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備 (1 時間) 復習:授業内容を記録ノートに省察 (2 時間) 総括プロジェクト Step 1 Mini研究プロジェクト:プロポーザル共有と協同再考
	29	B:中 D:多 E:あり F:あり 予習:事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備 (1 時間) 復習:授業内容を記録ノートに省察 (2 時間) 総括プロジェクト Step 2 Mini研究プロジェクト:付加リサーチ
	30	B:中 D:多 E:あり F:あり 予習:事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備 (1 時間) 復習:授業内容を記録ノートに省察 (2 時間) 総括プロジェクト Final Mini研究プロジェクト:発表・共有 B:中 D:多 E:あり F:あり 予習:事前にリーディング・マテリアルを指定し、討論の準備 (1 時間) 復習:授業内容を記録ノートに省察 (2 時間)
教育目標との関連	国際こども教育者としての実践力、すなわち行動力は発揮されることを前提と考えると、実際に国際社会的環境を身をもって感じ、考える機会がより多く必要である。これは、その核となる経験と学びを提供するものである。	
到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	1. 学生個々にとって国際的な社会環境における教育と他の人間的営みに関する比較的現地化した体験を通じて、専門職としてのより高度な教育力の基礎知識の習得、ならびに実践力の基礎となる知識・思想を深めることができる。 2. 異国での生活と学習体験を通し、多文化や多様な社会及び人間の営みに対し、理論的な視点をより柔軟かつ多様化できる。 3. 専門職として必要かつ、より高度な説明理論や表現、コミュニケーション能力を継続した挑戦から体得し、発揮できるようになる。 4. 実際に多様な海外のこども教育に触れる体験を通じて、世界のこどもの育ちに関し、自らのテーマを幅広い見識から見出し、こども教育の発展を主体的に考え、より高度な探究をする技能を得る。 5. 教育という活動において、国外の教育現場体験からなる視点を深めることで、自らのこども愛を能動的に表現する多角的な術を向上できる。	
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	学習ノート 50% 授業毎に自己省察を行い、各授業における学習への理解度や内在的積極性を評価します。 プレゼンテーション 30% 各自に設定した関連テーマにおいて学びを深めた度合いを評価します。 小論文 20% ドラフト、教員レビュー及び最終版の提出を持って学習理解度と積極性を評価します。	
教科書	授業中に指示します。	
参考書	使用しない	
準備学習 (予習・復習等) の具体的な内容および必要な時間	学期を通し、各自、授業内容及び自己省察を継続的に行い、課題に備えること。	
履修上の注意、条件等	特になし	
オフィスアワー	各週の授業前後で設定。	

備考・メッセージ	未だの場合、自ら「卒業後は何をしたいのか」、そのためには「何を学びたいのか」を見つけ、取り組もうとする意欲を持って授業に参加してほしい。授業内容などで枠組みや制限はあるが、その中で、学生として自分のやりたいことを教員とともに考えていく態度を持って取り組んでほしい。
----------	--

講義科目名称： 保育内容総論

授業コード：

英文科目名称： Contents of Early Childhood Care and Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	1 年	1 単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
山下晶子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	
添付ファイル			
カリキュラムマップ保育内容総論.xlsx			
保育内容総論.xlsx			

講義概要	・幼稚園、保育所、認定こども園における保育内容の理解を深め、その基本的な考え方と諸事項を総論的に学習する。 ・グループでの作業を通して、保育現場での実践力・応用力を養う。またグループメンバーと共に、子どもの生活や遊びから、子どもの姿をイメージし、具体的な保育者の援助や配慮等を学ぶ。さらに、グループ討議や課題作成を通して協働する力を養う。 ・保育を構成する理論や歴史、環境と生活からの経験的な学び、それらを支える保育方法などについて、幼稚園教育要領や保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領をはじめとする様々な資料を基に学ぶ。また、保育者実務の講話より保育実践の事例や映像を通して学び、子どもが主体的に学び育つ保育内容について理解を深める。		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの割合を明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多:45分以上 中:15分～44分 少:15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回	オリエンテーション・保育内容の概要と目的 ・本講義の内容・構成について理解する ・子どもを取り巻く環境について知る ・保育の社会的意義と保育者の専門性などの重要性を知り、当事者として学ぶ意識を高める A:中 B:中 E:あり、F:あり 予習:シラバスを読み、本講義の全体像を把握する (30分間) 復習:学びの振り返り (1時間)	
	第2回	保育内容の変遷 ・保育内容の歴史の変遷について学び、社会情勢と保育内容の関係性を理解する ・環境による保育と5領域とへの歩みについて学び、その意味を理解する A:少、B:中、D:少 E:あり、F:あり 復習:学びの振り返り (1時間)	
	第3回	子どもの発達と保育内容① ・乳児期の発達の特徴を理解し、保育内容との関係性を理解する ・保育現場の保育実践の映像・講話を通し学ぶ ＊「保育内容事例研究ワークシート」に取り組む A:少、B:中、D:少 E:あり、F:あり 復習:学びの振り返り (1時間)	
	第4回	子どもの発達と保育内容② ・主体的・対話的・深い学びについて理解する ・幼児期の発達の特性を理解し、保育内容との関係性を理解する ・社会情動性(非認知能力)の重要性を学ぶ ・保育現場の保育実践の映像・講話を通し学ぶ ＊「保育内容事例研究ワークシート」に取り組む A:少、B:中、D:少 E:あり、F:あり 復習:学びの振り返り (1時間)	
	第5回	子どもの生活・家庭・地域社会と保育内容 ・行事について焦点を当てて学ぶ ・カリキュラムの基本的な考え方と保育計画、保育内容とのつながりについて学び理解する ・ワークシートをもとに考察する A:多、B:中、D:中 E:あり、F:あり 復習:学びの振り返り (1時間)	
	第6回	インクルーシブ保育・ダイバーシティ(多様性)と保育内容 ・家庭の影響と子どもの育ち、保育内容の関係性を学ぶ ・インクルーシブ保育の概要と個別支援計画や支援体制について事例から理解する ・社会の多様性と子ども一人一人の多様性理解と保育内容の関係を学び理解する A:中、B:中、D:少 E:あり、F:あり 復習:学びの振り返り (1時間)	
	第7回	記録のとり方と保育内容 ・保育内容と記録の関係について学び、記録のとり方と作成を学ぶ ・記録の保育内容への活かし方の基本を事例から学び、実践に繋げる意味を理解する A:少、B:中、D:少 E:あり、F:あり 復習:学びの振り返り (1時間)	
	第8回	評価の意味と意義(1) 評価法の種類と価値 ・評価の意味と意義について理解する ・保育の事前・遊び・事後評価など、評価の視点について学ぶ ・PDCA、チェックリストを始め、保育における様々な評価の視点を知り、重要性を理解する	

	A:中、B:中、D:中 E:あり、F:あり 復習:ノート等の整理をして、ミニテストに備える(1時間30分) 評価の意味と意義(2) 質的評価とプロジェクト・アプローチ ・生涯発達の視座から幼児期の学びと育ちについて大切なことを学ぶ ・対話による探求的保育であるプロジェクト・アプローチを総合的に学ぶ *ミニテスト予定 A:少、B:中、D:少 E:あり、F:あり 予習:ミニテストに備える(1時間30分間) 復習:学びの振り返り(1時間) 第9回 第10回 保育内容と指導計画案(1) 指導計画案と保育内容の関係性 ・乳幼児の育ちについて大切なことを考えた指導計画案について学ぶ ・指導計画案の作成と活かし方の重要性について理解する *部分指導案作成する A:中、B:中、D:少 E:あり、F:あり(指導案作成) 第11回 保育内容と指導計画案(2) 指導計画案・保育内容と評価の関係性 ・指導計画案の作成と保育内容、そして評価との関係性について学ぶ ・評価の活かし方について理解する A:中、B:中、D:少 E:あり、F:あり 復習:学びの振り返り、ノートを整理する(1時間) 第12回 諸外国の保育 ・諸外国の保育に学び、世界の動向への意識を高める ・多様な保育と保育者の専門性について学ぶ A:少、B:中、D:少 E:あり、F:あり 復習:授業で紹介された国々について調べる(1時間) 第13回 多様な保育(支援が必要な子どもの保育) ・仲間の中で育ちあう保育について考察する A:少、B:中、D:少 E:あり、F:あり 復習:期末最終課題に取り組む(1時間30分) 第14回 地域の子育て支援の取り組み ・地域子育て支援についてどのような取り組みや地域ネットワークの活動を学ぶ (映像を視聴し学ぶ) A:少、B:中、D:少 E:あり、F:あり 復習:期末最終課題に取り組む(1時間30分) 第15回 授業の振り返りと展望:遊びと学びの保障に向けて ・本講義の内容について復習し、今後を展望する ・子どもの最善の利益の保障となる保育内容について考える A:少、B:中、D:少 E:あり、F:あり 復習:学びの振り返り、最終課題に取り組む(2時間)
教育目標との関連	複雑化した現代社会により、保育は多機能化している。保育者は「一人ひとりの子どもの発達に責任を持ち、子どもの最善の利益」を保障することが必須である。そこには、子どもが社会に順応することを求めるだけでなく、生活を創造し、社会を変革しながら生き生きと生活する基礎を培うことが保育内容であると捉えることが求められる。保育者も子どもと共に生活する中で、学び成長する者として、保育内容を展開することが大切である。ゆえに保育内容総論では、歴史、思想、保育方法等の知識を習得し思考し、自分の意見をもてるように学ぶ。
到達目標 カリキュラムマップ	授業の到達目標 - 子ども理解と保育との関連性を理解し具体的な保育の過程に繋げ説明できる。 - 保育内容の方法と原理、及び保育者の役割を理解し、5領域の内容が総合的に理解でき論理的な考えに基づき論じ合うことができる。 - 保育者としての態度の必要性を理解し、その基礎を理解することができる。
評価方法および評価基準	保育内容プロジェクト(指導計画案と教材作成): 授業内容全般について理解度を評価する。 50% ミニテスト: 授業内で与えた課題について、自分なりの考察がなされているかを評価する。 20% 受講態度: グループワーク、ディスカッション等において、理解度や取り組みの積極性等を評価する。 30% *欠席等については「履修要項」に準ずる。
教科書	「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」解説書
参考書	安心感と憧れが育つひと・もの・こと 齋藤政子編著(明星大学出版部) 2,484円
準備学習(予習・復習等)の具体的な内容および必要な時間	毎回の授業における課題に取り組む。授業で不明な用語・内容理解のための復習が欠かせない。
履修上の注意、条件等	授業を構成する当事者として出席するように ・私語・携帯電話等の教室内使用は不可。条件を満たせない場合は、単位取得が難しくなります。 ・シラバスの内容は授業展開に応じて変更する場合があります。
オフィスアワー	研究室に掲示します。

備考・メッセージ	学ぶ者の姿を見て子どもたちは学びます。よく生きようとする者の姿を見て子どもたちは良く生きようとし ます。保育者として、学びよく生きるとは何かについて常に問題意識を持ち、授業に臨んでほしいと思います。
----------	---

講義科目名称： 幼児音楽入門（ピアノ）

授業コード：

英文科目名称： 備考欄に記載

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	1年	1単位	卒業選択
担当教員			
宮本眞理子			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	
添付ファイル			
「幼児音楽入門(ピアノ)」カリキュラムマップ(到達目標).pdf			
「幼児音楽入門(ピアノ)」ルーブリック.pdf			

講義概要	幼い頃の歌いたいという体験や、リズムに合わせて身体が揺れるという体験を誰もが思い出すことができるだろう。そのような感性豊かな乳幼児期に音楽の楽しさを伝えることは、保育者の大切な役目である。 この授業は、ピアノ初心者のための入門のコースである。ピアノが弾ける・歌える保育者になるために、楽譜を読む・書く・歌う・弾く、また音を聴き取るなどの基礎的な訓練を重ねて実践力をつけていく。 担当教員(宮本)は、音楽大学附属の音楽教室、高等学校音楽科での高度な音楽教育に携わって来た実務経験を生かし、初心者向けの読譜力アップの授業に力を入れている。 他の科目との関連：「幼児音楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「音楽(声楽)」など音楽科目全般と、「幼児と表現」「保育内容(表現)の指導法Ⅰ・Ⅱ」に関連がある。また、実習で弾くことになる『こどものうた』も学ぶので、実習とも関連がある。 今年度は遠隔授業(配信)で行う。		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの割合を明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回	音楽の基礎を学ぶ (1) 授業の進め方について 理論：譜表(五線と加線)・音部記号 読む：ピアノの中央と低い方のドレミファソ(10枚)のカードを覚える。 書く：短いメロディーを高さをかえて書く。 歌う・弾く：「ぶんぶんぶん」(I-P.13ステップ1)をドレミで歌いながら弾く。左右の手の指番号を覚える。 聴き取る：2音の高さの違いを聞き分ける。 プリント学習：No.1 予習・復習 音符カード10枚と左右の手の指番号を確実に覚える。「ぶんぶんぶん」を練習する。(毎日20分) A:少 F:あり	
	第2回	音楽の基礎を学ぶ (2) 理論：音の並びについて知る。(ドレミファソラシド・ドシラソファミレド) (ドミソシレファラド・ドラファレシソミド) 読む：10枚のカードを読み、ピアノで鳴らす。 書く：短いメロディーを高さをかえて書く。 歌う・弾く：「ぶんぶんぶん」(I-P.13ステップ1と2)をドレミで歌いながら弾く。 聴き取る：聴いた音をラララで歌う。 予習・復習 10枚のカードの音をピアノで確認する。「ぶんぶんぶん」を練習する。(毎日20分) A:少 F:あり	
	第3回	音楽の基礎を学ぶ (3) 理論：音符と休符①(単純音符・単純休符の長さ) 読む：中央から下のドシラのカードを増やす。(13枚)ピアノで鳴らして確認する。 書く：短いメロディーを高さをかえて書く。 歌う・弾く：バイエルNo.44(テキスト1・2・3-P.23)を歌いながら弾き、音符の長さを確認する。 聴き取る：3つの音の動きを聴き楽譜に書く。 プリント学習：No.2 予習・復習 13枚のカードの音を覚え、ピアノで確認する。「ぶんぶんぶん」とバイエルNo.44を練習する。(毎日20分) A:少 F:あり	
	第4回	音楽の基礎を学ぶ (4) 理論：音符と休符②(付点音符・付点休符の長さ) 読む：13枚のカードを復習する。ピアノで鳴らして確認する。 書く：高い方の音域のメロディーを写す。 歌う・弾く：フランスのソルフェージュ教材より。 「ちょうちょ」(I-P.14ステップ1)をドレミで歌いながら弾く。 聴き取る：4つの音の動きを聴き楽譜に書く。 プリント学習：No.3 予習・復習 13枚のカードの音をピアノで確認する。今回までの3曲を練習する。(毎日30分) A:少 F:あり	
	第5回	音楽の基礎を学ぶ (5)	

	理論：リズムと拍子（拍と拍子・拍子記号） 読む：高い方のドレミファソのカードを増やす。（18枚）ピアノで鳴らして確認する。 書く：ピアノの中央の音域のメロディーを高い方と低い方に書きかえる。 歌う・弾く：「きらきらぼし」（I-P. 48ステップ1）をドレミで歌いながら弾く。 聴き取る：短いメロディーを聴いて書く。 プリント学習：No.3（続き） 予習・復習 18枚のカードの音をピアノで確認し、確実に覚える。「きらきらぼし」等4曲を練習する。（毎日30分） A:少 F:あり
第6回	音楽の基礎を学ぶ（6） 理論：和音 読む：ピアノの中央と高い方・低い方のドレミファソを復習する。（18枚） ピアノで鳴らして確認する。 書く：ト音記号のメロディーを同じように写す。 歌う：フランスのソルフェージュ教材より。 弾く：「きらきらぼし」の連弾をして楽しむ。 プリント学習：No.4 予習・復習 18枚のカードの音をピアノで確認する。これまでに学んだ『こどものうた』3曲を練習する。（毎日30分） A:少 F:あり
第7回	音楽の基礎を学ぶ（7） 読む：ピアノの中央と高い方のドレミファソの間のラシのカードを増やす。（20枚） ピアノで鳴らして確認する。 書く：ヘ音記号のメロディーを同じように写す。 歌う・弾く：フランスのソルフェージュ教材より。ヘ音記号のメロディーを歌いながら、左手の練習をする。 バーナム ピアノ テクニックより。 聴き取る：短いメロディーを聴いて書く。 プリント学習：No.4（続き） 予習・復習 20枚のカードの音をピアノで確認し、確実に覚える。これまでに学んだ『こどものうた』を練習する。（毎日30分） A:少 F:あり
第8回	音楽の基礎を学ぶ（8） 理論：調（調子記号） 読む：これまでのカード20枚を復習する。ピアノで鳴らして確認する。 書く：ト音記号のメロディーをヘ音記号に書きかえる。 歌う・弾く：フランスのソルフェージュ教材より。ヘ音記号のメロディーを歌いながら、左手の練習をする。 バーナム ピアノ テクニックより。 プリント学習：No.5 予習・復習 20枚のカードの音をピアノで確認する。これまでに学んだ『こどものうた』を練習する。（毎日30分） A:少 F:あり
第9回	音楽の基礎を学ぶ（9） 読む：ヘ音記号の低いシラソファのカードを増やす。（24枚）ピアノで鳴らして確認する。 書く：ヘ音記号のメロディーをト音記号に書きかえる。 歌う・弾く：フランスのソルフェージュ教材より。左手の練習をする。（2拍子・4拍子・3拍子） バーナム ピアノ テクニックより。 聴き取る：短いメロディーを聴いて書く。 プリント学習：No.5（続き） 予習・復習 24枚のカードの音をピアノで確認し、確実に覚える。これまでに学んだ『こどものうた』を練習する。（毎日30分） A:少 F:あり
第10回	音楽の基礎を学ぶ（10） 理論：これまでの復習をする① 読む：これまでのカード24枚を復習する。知っている音域をピアノで確認する。 書く：「たなばたさま」（I-P. 51ステップ1）を写す。（ヘ長調） 歌う・弾く：「たなばたさま」をドレミで歌いながら弾く。左手に出て来るb（フラット）の黒鍵の位置を確認する。 プリント学習：No.6 予習・復習 24枚のカードの音をピアノで確認する。「たなばたさま」の写譜を仕上げる。「たなばたさま」を練習する。（毎日30分） A:少 F:あり
第11回	音楽の基礎を学ぶ（11） 読む：大譜表の外側の加線2本の音ドを覚える。知っているドをピアノで鳴らして確認する。加線のラとシの読み方も知る。 書く：「うみ」（I-P. 58ステップ2）を写す。（ト長調） 歌う・弾く：「うみ」をドレミで歌いながら弾く。左手の和音の読み方・弾き方を学ぶ。左手に出て来る#（シャープ）の黒鍵の位置を確認する。

	プリント学習：No.6（続き） 予習・復習 24枚のカードの音と加線2本のドをピアノで確認する。「うみ」の写譜を仕上げる。「うみ」を練習する。（毎日30分） A:少 F:あり 第12回 音楽の基礎を学ぶ（12） 理論：これまでの復習をする。② 読む：大譜表の内側の加線の音の読み方を知る。楽譜の音の重なり具合を確認する。 歌う・弾く：「たなばたさま」「うみ」をドレミで歌いながら弾く。 プリント学習：No.7 予習・復習 24枚のカードの音をピアノで確認し、確実に覚える。「たなばたさま」と「うみ」を練習する。（毎日30分） A:少 F:あり 第13回 音楽の基礎を学ぶ（13） 読む：カードの復習をする。（確実にない音をさがす。）加線の音の読み方を復習し、確実にする。 歌う：フランスのソルフェージュ教材より。 弾く：やさしい『こどものうた』に和音の伴奏（分散含む）を付けて弾く。 プリント学習：No.8 遊びを工夫する：トーンチャイムを使った遊びを知る。（音の高低） 予習・復習 24枚のカードの音をピアノで確認し、確実に覚える。これまでに学んだ『こどものうた』を練習する。（毎日30分） A:中 F:あり 第14回 音楽の基礎を学ぶ（14） 読む：カードの復習をする。カードを見てすぐピアノで鳴らせるようにする。 歌う：フランスのソルフェージュ教材より。 弾く：「ちょうちょ」（I-P.15ステップ2）を練習する。 プリント学習：No.9 遊びを工夫する：トーンチャイムを使った遊びを知る。（リズム） 予習・復習 24枚のカードの音をピアノで確認し、確実に覚える。これまでに学んだ『こどものうた』を練習する。（毎日30分） A:中 F:あり 第15回 音楽の基礎を学ぶ（15） まとめ 読む：カードの復習をする。かるたで確認をする。 弾く：各自1曲発表する。 プリント学習：No.10 遊びを工夫する：トーンチャイムの遊びを発展させ、やさしい『こどものうた』を演奏して楽しむ。 A:中 D:少 E:あり
教育目標との関連	この科目は、音楽の基礎技能や現場で役に立つ音楽指導力を身につける科目の準備段階になる。次の段階では、音楽の喜び・楽しさを知ることにより、これから関わる子どもたちにも音楽の喜び・楽しさを伝えられるようになる。保育者としての実践的な技能と共に、豊かな感性と愛の心を育てることにつながる。
到達目標 カリキュラムマップ	1. (DP1) 基礎的な知識を理解し、楽譜を見て歌ったりピアノで演奏したりすることができる。 2. (DP4) 歌ってみよう弾いてみようとい欲的に取り組むことができる。 3. (DP2) 子どもたちにどのように音楽の楽しさを伝えるかを様々な角度から考えることができる。 添付資料のカリキュラムマップ(到達目標)を参照
評価方法および評価基準	1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準 プリント課題 50% 毎回のプリント学習（小テスト）の成果を評価する。 実技課題 20% ピアノの課題の取り組みを評価する。 平常点評価 30% 音楽の基礎力アップのための取り組みと成果を評価する。（音符カード等） 成績評価は添付資料のルーブリックを参照
教科書	『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第1巻』 大海由佳 他 学研パブリッシング 2019 1,500円（税抜） 『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第2巻』 大海由佳 他 学研パブリッシング 2019 1,500円（税抜） その他 適宜プリントを配付する。
参考書	大学所有のものを授業時のみ貸与して使用する。 ・『バーナム ピアノ テクニック』 ・フランスのソルフェージュ教材 ・音符カード
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	小さな積み重ね（くり返し）の努力が大きな成果となる。「幼児音楽」で使用する楽譜を身近に置き、読んだり歌ったり弾いたりすると良い。ピアノの練習をドレミで歌いながらすると読譜も早くなり歌も上達する。準備学習の音符カードとピアノの課題は必ず行うこと。（毎日20分～30分）
履修上の注意、条件等	入学時の音楽調査により読譜力アップが必要と思われる者に履修を勧める。

オフィスアワー	質問等に関してはメールにより受け付ける。
備考・メッセージ	Introduction to Musical Study for Child Education:piano ・全15回を遠隔授業（配信）で行う。 ・教材（プリント・音符カード等）は事前に郵送している。 ・ピアノの課題については「幼児音楽Ⅰ」のピアノレッスンにて担当教員が確認し、プリント課題については最後に提出したものを評価する。 ・今年度は遠隔授業のため、アクティブラーニング度はこの通りではない。

講義科目名称： 保育英語研究

授業コード：

英文科目名称： Research in English for Nursery Schools

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	専攻科	2単位	専攻科 選択
担当教員			
Mary Jones			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	
添付ファイル			
ループリック様式 保育英語研究.pdf			
カリキュラムマップ様式 保育英語研究.pdf			

講義概要	In this current global society, the number of non-Japanese speaking children is increasing. With English as the global common language, there is a great need for teachers who can talk with the parents of these students. We will study the English needed to express your learning from other courses, such nutrition, health and Japanese culture. In this course, we will study the English needed to work in an English-speaking nursery school or kindergarten as an teacher. In each class, we will focus on one topic and learn the English needed not just within the nursery school, but also to talk to parents about their children's day. This class will be conducted entirely in English. Mary Jones has 20 years of experience teaching English in Japan from nursery schools to adults in business situations. Her focus in teaching is growing students communication skills through communicative activities that will increase the students' confidence.		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回	Going to School Asking for Directions to the Preschool A Snowy Day In this class, we will study English for talking about coming to school and weather. We will also how to write a sign-up sheet. A:中 B:少 E: あり F:あり	
	第2回	Study/Homework time: Approximately 2 hours. Fun School Events - Summer Tanabata Festival A Day in the poll In this class, we will study English to describe and explain Japanese events and playing in the pool. A:中 B:少 E: あり F:あり	
	第3回	Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Fun School Events - Fall Horizontal Bar Sports Day In this class, we will study the English used when talking about sports day. A:中 B:少 E: あり F:あり	
	第4回	Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Fun School Events - Winter Performance Day Omochitsuki Event In this class, we will learn the English used when talking about performance day and omochitsuki. A:中 B:少 E: あり F:あり	
	第5回	Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Fun School Events- Spring Setsubun Hinamatsuri In this class, we will learn the English used when talking about Japanese events, setsubun and hinamatsuri.	

		A:中 B:少 E: あり F:あり Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Presentations – Preperation Drawing and Painting In this class, students will prepare their presentations A:中 B:少 E: あり F:あり
	第6回	
		Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Presentations – Arts and Crafts In this class, students will give their arts and crafts presentations.
	第7回	A:中 E: あり F:あり
		Study/ Homework Time: Approximately 2 hours The Developmental Stage of an Infant Infant (0-2 months) Infant (3-5 months) Infant Daycare program In the class, we will learn the English used during lunch or talking about infants.
	第8回	
		A:中 B:少 E: あり F:あり Study/ Homework Time: Approximately 2 hours School Absence and Illness A Painful Cavity Taking Precautions against the Flu School Closure In this class, we will learn the English used when talking about illnesses and how they effect the school.
	第9回	
		A:中 B:少 E: あり F:あり Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Emergency Drill Emergency Pick-Up Drill Evacuation Drill In this class, we will learn the English used when running emergency drills.
	第10回	
		A:中 B:少 E: あり F:あり Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Education Prior to Enrollment Listen to a Story and Visualize Learning Hiragana and the Alphabet In the class, we will learn the English used in teaching the children how to tell time and how to read.
	第11回	
		A:中 B:少 E: あり F:あり Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Education Prior to Enrollment Learning to Tell Time Learning about Numbers In the class, we will learn the English to teach children about numbers.
	第12回	
		A:中 B:少 E: あり F:あり Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Phonics In this class, we will learn about phonics and how it can be used to help children.
	第13回	A:中 B:少 E: あり F:あり

	第14回 Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Presentations - Preperation We will prepare for the group presentations. Each pair of students will choose one theme of this course and prepare a presentation for the next class. A:多い E: あり F:あり 第15回 Study/ Homework Time: Approximately 1 hour Presentations & Review Each group of students will give their presentations. We will also review and look back over the course. A:多い C:あり D: あり F:あり
教育目標との関連	In this course, students will learn the importance of English in modern society and be able to use it to communicate with parents and coworkers in the future. They will have the basic English needed to communicate with children and parents about life in a nursery school and be a vital member of the staff.
到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	3. Students will acquire the basic English needed to be an assistant teacher at a nursery school or kindergarten. 4. Students will realize the importance of English in the modern Japanese society. 5. Students will have a greater appreciation for other cultures.
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	Writing assignments 40% Presentations 40% Vocabulary Tests 20%
教科書	「幼保英検準1級テキスト」 幼児教育・保育英語検定協会 著 株式会社ブックフォレ 出版 2019年
参考書	None
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	There will be a vocabulary test every week, so please study the previous week's vocabulary.
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	I will take questions before and after each class.
備考・メッセージ	

講義科目名称： 英語で伝える日本文化

授業コード：

英文科目名称： Explaining Japanese Culture in English

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	専攻科	1単位	専攻科 選択
担当教員			
Mary Jones			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	
添付ファイル			
カリキュラムマップ ルーブリック評価 英語で伝える日 カリキュラムマップ&ルーブリック評価 本文化.pdf			

講義概要	While many Japanese people are interested in and love learning about foreign countries, some are unable to explain Japanese culture to people from other countries. Many travelers to Japan love learning about Japanese culture. And when traveling or living abroad it is always great to be able to talk about your country. For students here, the ability to explain life in Japan and Japanese culture will also be very helpful in their future employment. While either working abroad or at an international school in Japan, there will be people who might have questions about Japanese life. In this course, we will focus on a certain cultural aspect of life in Japan in each class. Mary Jones has over 20 years of experience teaching English in Japan from nursery schools to adults in business situations. Her focus in teaching is growing students' communication skills through communicative activities that will increase the students' confidence.		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	Class 1 Tokyo Station & Exploring Metropolitan Tokyo We will study about the transportation system in Tokyo and understand the importance of the public transportation system in daily life. A: 少 B:中 E:あり F:あり Study/ Homework time: Approximately 2 hours Class 2 Restaurant in Ginza We will learn about eating in restaurants in Japan. We will talk about the differences between eating out in Japan and other countries. A: 少 B:中 E:あり F:あり Study/ Homework time: Approximately 2 hours Class 3 Kakunodate: A Town of Samurai and Cherry Blossoms We will talk about the traditional Japanese event, hanami and also small traditional cities around Japan. A: 少 B:中 E:あり F:あり Study/ Homework time: Approximately 2 hours Class 4 Old Private Houses in Takayama We will talk about traditional Japanese houses and the Japanese tradition of giving souvenirs. A: 少 B:中 E:あり F:あり Study/ Homework time: Approximately 2 hours Class 5 Hacho Miso in Okazaki We will talk about regional specialty foods around Japan. A: 少 B:中 E:あり F:あり Study/ Homework time: Approximately 2 hours Class 6 Cormorant Fishing We will talk about traditional Japanese jobs that reflect Japanese culture. A: 少 B:中 E:あり F:あり Study/ Homework time: Approximately 2 hours Class 7 Uji Byodoin We will talk about traditional Japanese shrines and their affect on Japanese daily life. A: 少 B:中 E:あり F:あり Study/ Homework time: Approximately 2 hours Class 8 Kyoto Studio Park We will talk a little about Japanese history and the very popular Samurai drama. A: 少 B:中 E:あり F:あり Study/ Homework time: Approximately 2 hours Class 9 Bakery Shops in Kobe We will talk how cultures from outside Japan has influenced Japanese culture. A: 少 B:中 E:あり F:あり		

	Class 10 Study/ Homework time: Approximately 2 hours White Heron Castle We will talk about castles including their history and popular examples around Japan. A: 少 B:中 E:あり F:あり Study/ Homework time: Approximately 2 hours Class 11 Ritsurin Park We will talk about traditional Japanese gardens including the history and examples of them. A: 少 B:中 E:あり F:あり Study/ Homework time: Approximately 2 hours Class 12 Charms of Miyazaki We will talk about traditional Japanese myths and their affects on traditional life now. A: 少 B:中 E:あり F:あり Study/ Homework time: Approximately 2 hours Class 13 At the Nichinan Coastline We will talk about Japanese shrines. A: 少 B:中 E:あり F:あり Study/ Homework time: Approximately 2 hours Class 14 Ishigaki Island We will talk about nature in Japan. A: 少 B:中 E:あり F:あり Study/ Homework time: Approximately 2 hours Class 15 Final Presentations Students will give their final presentations and we will have a review of the class. A: 少 B:中 E:あり F:あり Study/ Homework time: Approximately 2 hours
教育目標との関連	In this course, students will learn the basic English skills to talk about and explain Japanese culture.
到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	3. Students will acquire the English skills needed to talk about and explain different aspects of Japanese culture. 4. Students will acquire a greater understanding of cultural differences. 2. Students will be gain a new understanding and appreciation of Japanese culture.
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	50% Writing assignments 50% Presentations
教科書	河原俊昭／榎木蘭鉄也／岡戸浩子／小宮富子／吉川寛／石川有香／徳地慎二／J. ドレイトン 共著、『Discovering Japan through Tourism English 「観光英語で日本発見！」』英宝社、2010年、
参考書	Will be presented in class
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	Every week there will be a short writing assignment. (1 hour) There are two presentations about Japanese culture. (2hours)
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	I will take questions before and after each class.
備考・メッセージ	

講義科目名称： English Conversation I

授業コード：

英文科目名称： English Conversation I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1 年	1 単位	選択
担当教員			
Mary Jones			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	
添付ファイル			
カリキュラムマップ ルーブリック評価 English ConversationI.pdf			

講義概要	In order to gain confidence and fluency speaking English it is vital to practice as much as possible. Therefore this class will be divided into 6 separate classes spreading across 3 levels. This is to give each student time to use English and ask questions as necessary. This class will be continued in English Conversation II in the second year. Also, as preparation for the IELTS exam which will be taken in the third year, a textbook series using British English will be used. It is necessary for the students to become accustomed to British English pronunciation as well as difference between British English and American English. There are 15 thirty minutes classes each semester. During the summer vacation and spring vacation will be a special English Day event, where students must use the English they have learned in the previous classes.		
授業計画および学習形態	第1回	Class One Elementary: Welcome to the Class Be Verb, Subject Pronouns Saying Hello, Saying Goodbye Pre-Intermediate: Are you? Can you? Do you? Did you? Word Order in Questions Exchanging Information Intermediate: Eating in...and out Present Simple and Continous Food and Cooking Talking about Preferences A:多い B:中 E:あり F:あり	
	第2回	Class Two Elementary: One World Be Verb: Negative and Questions Where are you from? Where is it from? Pre-Intermediate: The Perfect date? Present Simple Describing People, appearance and personality Intermediate: Eating in...and out Action and non-action verbs Agreeing and disagreeing Predicting content using visual clues A:多い B:中 E:あり F:あり	
	第3回	Class Three Elementary: What's your email? Possessive Adjectives Giving personal information Classroom Language Pre-Intermediate: The Remake Project Present Continuous Clothes, prepositions of place Describing a picture, talking about preferences Intermediate: Modern Families Future Forms: present continuous, be going to Family Talking about the future A:多い B:中 E:あり F:あり	
	第4回	Class Four Elementary: Are you tidy or untidy? Singular and plural nouns Saying where things are Pre-Intermediate: OMG! Where's my passport?	

	Past simple: regular and irregular verbs Talking about your last holiday Understanding the key events in a story Intermediate: Modern families Future forms: will/won't Retelling a story Identifying reasons A:多い B:中 E:あり F:あり Class Five Elementary: Made in America Adjectives & Modifiers Describing things: the same or different? Pre-Intermediate: That's me in the picture! Past continuous Prepositions of time and place Talking about preferences Intermediate: Spending Money Present Perfect Talking about money Listening for facts A:多い B:中 E:あり F:あり Class Six Elementary: Slow down! Imperatives & Let's Talking about feelings Pre-Intermediate: One dark October evening Time sequencers and connectors Retelling a story Listening for specific information Intermediate: Spending Money Present perfect & past simple Talking about experiences A:多い B:中 E:あり F:あり Class Seven Elementary: Britain: the good and the bad Present simple: positive and negative sentences Things I like and don't like about my country Pre-Intermediate: Trip Aside Be going to (plans and predictions) Planning a tour Intermediate: Changing Lives Present perfect, for/since Talking about extremes A:多い B:中 E:あり F:あり Class Eight Elementary: 9 to 5 Present simple: questions Talking about jobs Understanding specific information Pre-Intermediate: Put it in your calendar! Present Continuous: future arrangements Making arrangements Understanding times, dates and appointments Intermediate: Changing Lives Present perfect continuous How long...? Understanding the order of events A:多い B:中 E:あり F:あり Class Nine Elementary: Love me, love my dog Word order in questions Getting to know somebody Pre-Intermediate: Word games Defining relative clauses Describing and paraphrasing Guessing words from definitions Intermediate: Survive the Drive
--	---

	第10回 Comparatives Being a tourist Confirming predictions A:多い B:中 E:あり F:あり Class Ten Elementary: Family Photos Possessive 's, Whose...? Talking about family Identifying the main/supporting information Pre-Intermediate: Who does what? Present perfect & yet, just, already Talking about housework Understanding text cohesion - connectors Intermediate: Survive the Drive Comparatives and Superlatives Transport Giving opinions 第11回 A:多い B:中 E:あり F:あり Class Eleven Elementary: From morning to night Prepositions of time and place Daily routine A typical weekend Pre-Intermediate: In your basket Present perfect or past simple Talking about shopping experiences Understanding a theory Intermediate: Men, women, and children Articles:a/an, the, no article Generalizing Understanding the main point in a paragraph 第12回 A:多い B:中 E:あり F:あり Class Twelve Elementary: Blue Zones Position of adverbs, expressions of frequency Retelling the main information in a text Inferring information Pre-Intermediate: #greatweekend Something, anything, nothing, etc Adjectives ending -ed and and -ing Describing your weekend Intermediate: Men, women and children Collocation: verbs/ adjectives & prepositions Talking about childhood 第13回 A:多い B:中 E:あり F:あり Class Thirteen Elementary: Vote for me! can/can't Talking about abilities Focusing on practical information Pre-Intermediate: I want it NOW! Comparatives adjectives and adverbs, as...as Comparing habits: present and past Scanning for data Intermediate: Bad manners? Obligation and prohibition: have to, must, should Talking about annoying habits and manners 第14回 A:多い B:中 E:あり F:あり Class Fourteen Elementary: A quiet life? Present Continuous Spot the differences Identifying a situation from context Pre-Intermediate: Twelve lost wallets Superlatives Describing a city or town Talking about memorable experiences Intermediate: Bad Manners?
--	--

		Phone language Understanding problems and advice Assessing a point of view A:多い B:中 E:あり F:あり Class Fifteen Elementary: A city of all seasons Present simple or present continuous? The weather and seasons What to do in London Pre-Intermediate: How much is enough? Quantifiers, too, not enough Health and the body Talking about your lifestyle Intermediate: Yes, I can! Ability and possibility: can, could, be able to Talking about ability Understanding tips and examples
	第15回	
	第16回	A:多い B:中 E:あり F:あり Class Sixteen Elementary: A North African story Object pronouns: me, you, him, etc Reading habits Retelling a story Understanding a traditional story Pre-Intermediate: Think positive...or negative? will/won't: predictions Making predictions Using existing knowledge to predict content Intermediate: Yes, I can! -ed/-ing adjectives Assessing advice Making inferences
	第17回	A:多い B:中 E:あり F:あり Class Seventeen Elementary: The third Friday in June like + verb-ing Favorite times Understanding feelings and opinions Pre-Intermediate: I'll always love you will/ won't / shall : other uses Giving examples and reasons Understanding specific details Intermediate: Sporting superstitions Past tense: simple, continuous Relationships Talking about sports
	第18回	A:多い B:中 E:あり F:あり Class Eighteen Elementary: Making music Review: be or do? Giving opinions about music Pre-Intermediate: The meaning of dreaming Review: present, past and future Talking about the past, present, and future Checking hypotheses Intermediate: Sporting Superstitions Past tenses: simple, perfect Telling an anecdote Understanding how examples support main points
	第19回	A:多い B:中 E:あり F:あり Class Nineteen Elementary: Selfies Past simple of be Talking about selfies and photos Understanding the order of life events Pre-Intermediate: First day nerves Uses of the infinitive Retelling a article Understanding content words

	Intermediate: #thewaywemet Past and present habits and states Talking about present and past habits Understanding facts and supporting information A:多い B:中 E:あり F:あり Class Twenty Elementary: Wrong name, wrong place Past simple: Regular verbs Did you..? When was the last time? Understanding the sequence of events Pre-Intermediate: Happiness is... Uses of the gerund Describing feelings Understanding how something works Intermediate: #thewaywemet Relationships Presenting an opinion Predicting the end of a story
第20回	
第21回	A:多い B:中 E:あり F:あり Class Twenty-one Elementary: Happy New Year? Past simple: irregular verbs A memorable night Understanding extra information Pre-Intermediate: Could you pass the test? Have to, don't have to, must, mustn't Talking about language learning Using topic sentences Intermediate: Behind the scenes Passive: All tenses Listening for content films Understanding the main point in a paragraph
第22回	A:多い B:中 E:あり F:あり Class Twenty-two Elementary: A murder mystery Past simple: regular and irregular Police interview Taking notes and comparing information Pre-Intermediate: Should I stay or should I go? Should Discussing habits and preferences Understanding opinions Intermediate: Behind the scenes Passive: all tenses Cinema Talking about films
第23回	A:多い B:中 E:あり F:あり Class Twenty-three Elementary: A house with a history There is/there are, some/any Describing a house Using evidence to predict outcome Pre-Intermediate: Murphy's Law If + present tense, will, first conditional Using the right word in a conversation Scanning for specific information Intermediate: Every picture tells a story Modals of deduction: might, can't, must Talking about profile pictures Checking assumption
第24回	A:多い B:中 E:あり F:あり Class Twenty-four Elementary: Room 333 There was/ there were Describing a room Understanding specific details Pre-Intermediate: Who is Vivienne? Possessive Pronouns

		Reacting to a story Using information to interpret a story Intermediate: Every picture tells a story Modals of deduction: might, can't, must Making deductions Understanding humor A:多い B:中 E:あり F:あり Class Twenty-five Elementary: #mydinnerlastnight Countable/uncountable nouns Food diary for yesterday Food and drink Pre-Intermediate: Beware of the dog If +past, would: second conditional Would you know what to do? Animals and insects Intermediate: Live and Learn First conditional and future time clauses & when, until, etc Education Assessing opinions Understanding points of view
第25回		
第26回		A:多い B:中 E:あり F:あり Class Twenty-six Elementary: White gold Quantifiers: how much/ how many, a lot of How much salt and sugar do you have a day? Categorizing information Pre-Intermediate: Fearof.net Present perfect + for and since How long...? Taking notes Intermediate: Live and learn First conditional and future time clauses Talking about school Understanding points of view
第27回		A:多い B:中 E:あり F:あり Class Twenty-seven Elementary: Facts and Figures Comparative adjectives Asking and answering quiz questions Understanding instructions Pre-Intermediate: Scream queens Present perfect or past simple? Biographies Talking about life events Intermediate: The hotel of Mum and Dad Second conditional Houses Discussing pros and cons
第28回		A:多い B:中 E:あり F:あり Class Twenty-eight Elementary: The most dangerous place.. Superlative adjectives Places and buildings Tourist information Pre-Intermediate: Into the net Expressing movement Responding to opinions Intermediate: The hotel of Mum and Dad Choosing between conditionals Describing ideal situations Using prediction to understand content
第29回		A:多い B:中 E:あり F:あり Class Twenty-nine Elementary: Five continents in a day Be going to (plans), future time expressions City holidays Taking notes

	Pre-Intermediate: Early birds Word order of phrasal verbs Retelling a person's day Understanding reasons Intermediate: The right job for you Choosing between gerunds and infinitives Work Listening and making notes A:多い B:中 E:あり F:あり Class Thirty Elementary: The fortune teller be going to: predictions Making predictions Following the events of a story Pre-Intermediate: International inventions Passive Passives quiz Understanding historical information Intermediate: The right job for you Choosing between gerunds and infinitives Making a presentation Predicting from evidence A:多い B:中 E:あり F:あり
教育目標との関連	The goal of this class is that each student gains confidence and fluency using English.
到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	1. Understanding of British English vocabulary and idioms has improved. 2. Listening ability has improved. 3. Able to communicate effectively in English and use English grammar competently
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	Homework 30% Short writing assignments Participation 30% Participation in group work and event Speaking test 20% 2 short speaking tests Quizzes 20% Short weekly courses なお、提出課題についてはルーブリックの表を別途配布し、各項目のパフォーマンス評価を行います。
教科書	This course will use the English File series. Level will be decided within the first two weeks. Levels are Elementary, Pre-intermediate, and Intermediate.
参考書	「マーフィーのケンブリッジ英文法（初級編）」 Raymond Murphy 著 Cambridge University Press 出版
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	授業前後に教室で受け付ける。
備考・メッセージ	

講義科目名称： English ConversationⅡ

授業コード：

英文科目名称： English ConversationⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2 年	1 単位	選択
担当教員			
Mary Jones			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	
添付ファイル			
カリキュラムマップ ルーブリック評価 English Conversation II.pdf			

講義概要	In order to gain confidence and fluency speaking English it is vital to practice as much as possible. Therefore this class will be divided into 4 separate classes spreading across 3 levels. This is to give each student time to use English and ask questions as necessary. As preparation for the IELTS exam which will be taken in the third year, a textbook series using British English will be used. It is necessary for the students to become accustomed to British English pronunciation as well as difference between British English and American English. There are 15 thirty minutes classes each semester. During the summer vacation and spring vacation will be a special English Day event, where students must use the English they have learned in the previous classes.		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回	Class One Elementary: Welcome to the Class Be Verb, Subject Pronouns Saying Hello, Saying Goodbye Pre-Intermediate: Are you? Can you? Do you? Did you? Word Order in Questions Exchanging Information Intermediate: Eating in...and out Present Simple and Continuous Food and Cooking Talking about Preferences A:多い B:中 E:あり F:あり	
	第2回	Class Two Elementary: One World Be Verb: Negative and Questions Where are you from? Where is it from? Pre-Intermediate: The Perfect date? Present Simple Describing People, appearance and personality Intermediate: Eating in...and out Action and non-action verbs Agreeing and disagreeing Predicting content using visual clues A:多い B:中 E:あり F:あり	
	第3回	Class Three Elementary: What's your email? Possessive Adjectives Giving personal information Classroom Language Pre-Intermediate: The Remake Project Present Continuous Clothes, prepositions of place Describing a picture, talking about preferences Intermediate: Modern Families Future Forms: present continuous, be going to Family Talking about the future A:多い B:中 E:あり F:あり	
	第4回	Class Four Elementary: Are you tidy or untidy? Singular and plural nouns Saying where things are Pre-Intermediate: OMG! Where's my passport? Past simple: regular and irregular verbs	

		Talking about your last holiday Understanding the key events in a story Intermediate: Modern families Future forms: will/won't Retelling a story Identifying reasons A:多い B:中 E:あり F:あり Class Five Elementary: Made in America Adjectives & Modifiers Describing things: the same or different? Pre-Intermediate: That's me in the picture! Past continuous Prepositions of time and place Talking about preferences Intermediate: Spending Money Present Perfect Talking about money Listening for facts
	第5回	
	第6回	A:多い B:中 E:あり F:あり Class Six Elementary: Slow down! Imperatives & Let's Talking about feelings Pre-Intermediate: One dark October evening Time sequencers and connectors Retelling a story Listening for specific information Intermediate: Spending Money Present perfect & past simple Talking about experiences
	第7回	A:多い B:中 E:あり F:あり Class Seven Elementary: Britain: the good and the bad Present simple: positive and negative sentences Things I like and don't like about my country Pre-Intermediate: Trip Aside Be going to (plans and predictions) Planning a tour Intermediate: Changing Lives Present perfect, for/since Talking about extremes
	第8回	A:多い B:中 E:あり F:あり Class Eight Elementary: 9 to 5 Present simple: questions Talking about jobs Understanding specific information Pre-Intermediate: Put it in your calendar! Present Continuous: future arrangements Making arrangements Understanding times, dates and appointments Intermediate: Changing Lives Present perfect continuous How long...? Understanding the order of events
	第9回	A:多い B:中 E:あり F:あり Class Nine Elementary: Love me, love my dog Word order in questions Getting to know somebody Pre-Intermediate: Word games Defining relative clauses Describing and paraphrasing Guessing words from definitions Intermediate: Survive the Drive Comparatives

	第10回 Being a tourist Confirming predictions A:多い B:中 E:あり F:あり Class Ten Elementary: Family Photos Possessive 's, Whose...? Talking about family Identifying the main/supporting information Pre-Intermediate: Who does what? Present perfect & yet, just, already Talking about housework Understanding text cohesion - connectors Intermediate: Survive the Drive Comparatives and Superlatives Transport Giving opinions 第11回 A:多い B:中 E:あり F:あり Class Eleven Elementary: From morning to night Prepositions of time and place Daily routine A typical weekend Pre-Intermediate: In your basket Present perfect or past simple Talking about shopping experiences Understanding a theory Intermediate: Men, women, and children Articles:a/an, the, no article Generalizing Understanding the main point in a paragraph 第12回 A:多い B:中 E:あり F:あり Class Twelve Elementary: Blue Zones Position of adverbs, expressions of frequency Retelling the main information in a text Inferring information Pre-Intermediate: #greatweekend Something, anything, nothing, etc Adjectives ending -ed and -ing Describing your weekend Intermediate: Men, women and children Collocation: verbs/ adjectives & prepositions Talking about childhood 第13回 A:多い B:中 E:あり F:あり Class Thirteen Elementary: Vote for me! can/can't Talking about abilities Focusing on practical information Pre-Intermediate: I want it NOW! Comparatives adjectives and adverbs, as...as Comparing habits: present and past Scanning for data Intermediate: Bad manners? Obligation and prohibition: have to, must, should Talking about annoying habits and manners 第14回 A:多い B:中 E:あり F:あり Class Fourteen Elementary: A quiet life? Present Continuous Spot the differences Identifying a situation from context Pre-Intermediate: Twelve lost wallets Superlatives Describing a city or town Talking about memorable experiences Intermediate: Bad Manners? Phone language
--	---

	Understanding problems and advice Assessing a point of view A:多い B:中 E:あり F:あり 第15回 Class Fifteen Elementary: A city of all seasons Present simple or present continuous? The weather and seasons What to do in London Pre-Intermediate: How much is enough? Quantifiers, too, not enough Health and the body Talking about your lifestyle Intermediate: Yes, I can! Ability and possibility: can, could, be able to Talking about ability Understanding tips and examples 第16回 Class Sixteen Elementary: A North African story Object pronouns: me, you, him, etc Reading habits Retelling a story Understanding a traditional story Pre-Intermediate: Think positive...or negative? will/won't: predictions Making predictions Using existing knowledge to predict content Intermediate: Yes, I can! -ed/-ing adjectives Assessing advice Making inferences 第17回 Class Seventeen Elementary: The third Friday in June like + verb-ing Favorite times Understanding feelings and opinions Pre-Intermediate: I'll always love you will/ won't / shall : other uses Giving examples and reasons Understanding specific details Intermediate: Sporting superstitions Past tense: simple, continuous Relationships Talking about sports 第18回 Class Eighteen Elementary: Making music Review: be or do? Giving opinions about music Pre-Intermediate: The meaning of dreaming Review: present, past and future Talking about the past, present, and future Checking hypotheses Intermediate: Sporting Superstitions Past tenses: simple, perfect Telling an anecdote Understanding how examples support main points 第19回 Class Nineteen Elementary: Selfies Past simple of be Talking about selfies and photos Understanding the order of life events Pre-Intermediate: First day nerves Uses of the infinitive Retelling a article Understanding content words
--	--

	Intermediate: #thewaywemet Past and present habits and states Talking about present and past habits Understanding facts and supporting information A:多い B:中 E:あり F:あり 第20回 Class Twenty Elementary: Wrong name, wrong place Past simple: Regular verbs Did you..? When was the last time? Understanding the sequence of events Pre-Intermediate: Happiness is... Uses of the gerund Describing feelings Understanding how something works Intermediate: #thewaywemet Relationships Presenting an opinion Predicting the end of a story A:多い B:中 E:あり F:あり 第21回 Class Twenty-one Elementary: Happy New Year? Past simple: irregular verbs A memorable night Understanding extra information Pre-Intermediate: Could you pass the test? Have to, don't have to, must, mustn't Talking about language learning Using topic sentences Intermediate: Behind the scenes Passive: All tenses Listening for content films Understanding the main point in a paragraph A:多い B:中 E:あり F:あり 第22回 Class Twenty-two Elementary: A murder mystery Past simple: regular and irregular Police interview Taking notes and comparing information Pre-Intermediate: Should I stay or should I go? Should Discussing habits and preferences Understanding opinions Intermediate: Behind the scenes Passive: all tenses Cinema Talking about films A:多い B:中 E:あり F:あり 第23回 Class Twenty-three Elementary: A house with a history There is/there are, some/any Describing a house Using evidence to predict outcome Pre-Intermediate: Murphy's Law If + present tense, will, first conditional Using the right word in a conversation Scanning for specific information Intermediate: Every picture tells a story Modals of deduction: might, can't, must Talking about profile pictures Checking assumption A:多い B:中 E:あり F:あり 第24回 Class Twenty-four Elementary: Room 333 There was/ there were Describing a room Understanding specific details Pre-Intermediate: Who is Vivienne? Possessive Pronouns Reacting to a story
--	--

		Using information to interpret a story Intermediate: Every picture tells a story Modals of deduction: might, can't, must Making deductions Understanding humor A:多い B:中 E:あり F:あり Class Twenty-five Elementary: #mydinnerlastnight Countable/uncountable nouns Food diary for yesterday Food and drink Pre-Intermediate: Beware of the dog If +past, would: second conditional Would you know what to do? Animals and insects Intermediate: Live and Learn First conditional and future time clauses & when, until, etc Education Assessing opinions Understanding points of view
	第25回	
	第26回	A:多い B:中 E:あり F:あり Class Twenty-six Elementary: White gold Quantifiers: how much/ how many, a lot of How much salt and sugar do you have a day? Categorizing information Pre-Intermediate: Fear of .net Present perfect + for and since How long...? Taking notes Intermediate: Live and learn First conditional and future time clauses Talking about school Understanding points of view
	第27回	A:多い B:中 E:あり F:あり Class Twenty-seven Elementary: Facts and Figures Comparative adjectives Asking and answering quiz questions Understanding instructions Pre-Intermediate: Scream queens Present perfect or past simple? Biographies Talking about life events
	第28回	Intermediate: The hotel of Mum and Dad Second conditional Houses Discussing pros and cons A:多い B:中 E:あり F:あり Class Twenty-eight Elementary: The most dangerous place.. Superlative adjectives Places and buildings Tourist information Pre-Intermediate: Into the net Expressing movement Responding to opinions Intermediate: The hotel of Mum and Dad Choosing between conditionals Describing ideal situations Using prediction to understand content
	第29回	A:多い B:中 E:あり F:あり Class Twenty-nine Elementary: Five continents in a day Be going to (plans), future time expressions City holidays Taking notes Pre-Intermediate: Early birds

	Word order of phrasal verbs Retelling a person's day Understanding reasons Intermediate: The right job for you Choosing between gerunds and infinitives Work Listening and making notes A:多い B:中 E:あり F:あり Class Thirty Elementary: The fortune teller be going to: predictions Making predictions Following the events of a story Pre-Intermediate: International inventions Passive Passives quiz Understanding historical information Intermediate: The right job for you Choosing between gerunds and infinitives Making a presentation Predicting from evidence A:多い B:中 E:あり F:あり
教育目標との関連	The goal of this class is that each student gains confidence and fluency using English.
到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	1. Understanding of British English vocabulary and idioms has improved. 2. Listening ability has improved. 3. Able to communicate effectively in English and use English grammar competently
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	Homework 30% Short writing assignments Participation 30% Participation in group work and event Speaking test 20% 2 short speaking tests Quizzes 20% Short weekly courses なお、提出課題についてはルーブリックの表を別途配布し、各項目のパフォーマンス評価を行います。
教科書	This course will use the English File series. Level will be decided within the first two weeks. Levels are Elementary, Pre-intermediate, and Intermediate.
参考書	「マーフィーのケンブリッジ英文法（初級編）」 Raymond Murphy 著 Cambridge University Press 出版
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	授業前後に教室で受け付ける。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 演習ゼミ（横溝一浩）

授業コード：

英文科目名称： seminar

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	専攻科	2単位	専攻科 必修
担当教員			
横溝一浩			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	
添付ファイル			

講義概要	受講者の問題意識や研究関心にそって、面白いこと、意義深いことはどういうことか、問を立てる力を養う。ゼミにおいては、研究するということは何をどのようにするという事なのかを基本文献の講読を通して追求する。研究論文とレポートの違いは何か、問題意識をどの様に深め、研究課題とするかなど研究に対する基本的な態度を養う。その後、学生各自でテーマを絞り込み。さらにテーマの入り口を狭くする。この過程によって研究はより奥行きのあるものとなり「良い研究」をすることが可能となる。この研究の過程を通して自らの考えを論じていける力、専攻科修了後に自ら学び続ける姿勢を身につけ、専門職としての実践の基礎を養う。		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回	研究テーマを考える 先ず、調査レポートと研究論文の違いについてりかいする。 興味・関心の高い分野、キーワードなどを列挙しながら研究テーマについて考える。	
	第2回	A：中 B：中 D：中 E：あり 研究テーマに関連した予備調査 研究テーマに関連した分野について、文献、事象、データなどについて、予備検索を行う。 その後、研究テーマに関連した分野で何が明らかになっているか、何が課題点として残っているか課題の所在を整理する。 A：中 B：中 D：中 E：あり	
	第3回	問い立てを行う 調査分野や対象、調査方法についての見通しを立てた上で、研究分野についての課題点や明らかにしたいこと（仮説）を決定する。 A：中 B：中 D：中 E：あり	
	第4回	先行研究（実践例）の整理 1 先行研究や実践例などについて調査し、明らかになっている点について精査する。 A：中 B：中 D：中 E：あり	
	第5回	先行研究（実践例）の整理 2 先行研究の調査方法観点から課題点を精査する。調査結果については、調査方法・調査の限界点などを考え、因果関係について再考するとともに調査の範囲外の部分についても整理する。 A：中 B：中 D：中 E：あり	
	第6回	調査活動（文献・データの収集） 1 研究テーマに関連した、公的な統計データなどを収集・整理する。 A：中 B：中 D：中 E：あり	
	第7回	調査活動（文献・データの収集） 2 比較対象となる文献や実践例について、さらに幅を広げて調査する。 A：中 B：中 D：中 E：あり	
	第8回	調査活動（文献・データの収集） 3 研究の問い立てに対する逆説的文献や実践例について調査し、研究テーマと照合し、今後の方向性について検討する。 A：中 B：中 D：中 E：あり	
	第9回	中間発表に向けた準備 1 中間発表のプレゼンテーションの準備（スライドなど） A：中 B：中 D：中 E：あり	
	第10回	中間発表に向けた準備 2 中間発表のための予稿の作成。 A：中 B：中 D：中 E：あり	
	第11回	研究テーマの再検討 中間発表における討論の中から、検討すべき事項について再考する。 A：中 B：中 D：中 E：あり	
	第12回	再調査の実施 追加調査を行い、研究に対するパースペクティブについて確認をする。 A：中 B：中 D：中 E：あり	
	第13回	論文作成 1 研究論文の作成を行う。 A：中 B：中 D：中 E：あり	
	第14回	論文作成 2 研究論文の作成を行う。論文の論理性をチェックした上で、研究成果として何が明らかになったかを確認する。 A：中 B：中 D：中 E：あり	
	第15回	発表会準備 最終発表に向けての準備（スライドと予稿）。 A：中 B：中 D：中 E：あり	
教育目標との関連	専門職として、実践における問題発見能力や問題解決能力を研究を通して身につける。		

到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	1. 研究テーマの目的を社会的背景や既往研究と関連付けして英回できる。 2. 研究目的に沿って、調査研究を遂行し、その結果を整理できる。 3. 得られた調査結果から導かれる解釈を正しく理解できる。 4. 調査成果をとりまとめ、論理的に文章で記述できる。 5. 研究成果を口頭で発表し、討論において的確に応答ができる。
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	問題発見ならびに的確な問を立てられる（テーマ設定）：20% 調査・研究能力（調査結果の解釈と理解度）：20% 発表会におけるプレゼンテーション能力：20% 論文（目的・内容の理解度、文書表現力、論理性）：20% 研究のパースペクティブ（独自性）：20%
教科書	文献など適宜指示する
参考書	
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	
備考・メッセージ	

講義科目名称： 演習ゼミ（富金原光秀）

授業コード：

英文科目名称： Exercise seminar

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	専攻科	2単位	専攻科 必修
担当教員			
富金原光秀			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	
添付ファイル			
演習ゼミ：ループリック.pdf			
カリキュラムマップ（演習ゼミ）.pdf			

講義概要	現未来に映しだされる保育・教育の課題や問題を20世紀の造形や美術が問いかけてきた多元文化論や文明論から考察、実践知を消費としてだけではなく生産活動としてとらえなおし、あらためてアートが担う可能性について研究を試みる。 閉塞された社会状況の中、今アートに何ができるか、何が求められるのかについて人類学的な視点から検討し、造形・音・自然環境・IT・言語、これらを総合するなど表現活動を実際におこない、その成果や価値を検証していくとともに評価事項の構築を検討する。		
授業計画および学習形態	第1回	世界の幼児教育・保育を大局的にとらえつつ、自らの研究計画を作成する。	
各回の授業内におけるアクティブラーニングの割合を明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多:45分以上 中:15分～44分 少:15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第2回	研究課題に向けた個別対応	
	第3回	研究の主題を絞り込む。テーマの決定	
	愛4回	研究課題の情報及び資料等の収集と整理	
	第5回	研究課題に向けた個別対応	
	第6回	研究課題に向けた実践活動	
	第7回	中間報告及びディスカッション	
	第8回	中間報告後の点検、評価、改善	
	第9回	論点整理と情報、資料等の再収集	
	第10回	研究発表に向けた個別対応	
	第11回	研究発表に向けた個別対応	
	第12回	研究発表及びディスカッション	
	第13回	研究発表を終えて振り返り、再修正、今後の課題について	
	第14回	まとめ	
	教育目標との関連	世界の主要国に関する保育の専門的知識や技能について総合的に考察、実践研究を行いつつ、現代的課題の調査・分析・実践を行い、成果を発信する。	
到達目標 カリキュラムマップ	1. 国際的な保育・教育の動向を踏まえ、その現状分析や問題点を論理的に理解する。 2. 問題や課題に向き合い解決に向けた調査及び研究を行う。 3. 幼少期の表現活動をアートプロジェクトとして構想し、その価値や評価を研究成果として発信する。 4. 世界の保育・情勢に対して、意欲的・積極的な態度で取り組む。 5. 表現活動を人類学的に捉えとともに多元文化論や文明論から考察、アートが保育・教育に担う役割について研究を行う態度を身につける。		
知識・理解 1. 知 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性			
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	1. 実践活動及び課題の成果 2. 研究論文の成果（論理的思考力） 3. プレゼンテーション等による表現力		
教科書	必要に応じて随時提示。		
参考書	必要に応じて随時提示。		

準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	自学調査・研究を前提とする。
履修上の注意、条件等	研究論文執筆の基本的ルールを徹底すること。
オフィスアワー	大講義室及び遠隔授業についてはオンラインのコメントで質問・相談を受け付ける。（研究室に時間帯を掲示）
備考・メッセージ	今年度は必要に応じてzoom、遠隔授業（配信）及び対面授業を行う。

講義科目名称： 演習ゼミ（松田こずえ）

授業コード：

英文科目名称： International early childhood education Seminar

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	専攻科	2単位	専攻科 必修
担当教員			
松田こずえ			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	
添付ファイル			
演習ゼミ(松田こずえ)・ループリック様式.pdf			
演習ゼミ(松田こずえ)カリキュラムマップ様式.xlsx			

講義概要	本演習ゼミでは、世界の幼児教育に関して一人一人の興味や関心に応じて主体的に学びを深め、保育を考える新たな視点を持つことを目指します。 グローバル化の流れを受け、幼児教育にも国際的な視点を持つことが求められる時代になりました。時代の変革のスピードも速く、保育の現場をいかにグローバルな場にするかということに目が向けられがちです。しかし、より良いものを次世代に残したい、保育を通じて幸せな世の中をつくることに貢献したいという世界共通の普遍的な思いに気づくことも大切です。日本の幼稚園教員としての実務経験と海外在住経験を持つ教員、および他の履修生と討議を重ねながら、視野を広げていきます。		
授業計画および学習形態	第1回	イントロダクション(ガイダンス) ・シラバス内容と授業概要を理解し、1年間の目標を確認する 予習：シラバスを読む 復習：授業で学んだことを振り返り、授業を通じた自らの目標を立てる(約2時間) A：中 B：多 E：あり F：あり	
各回の授業内におけるアクティブラーニングの割合を明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A：グループワーク B：ディスカッション C：フィールドワーク D：プレゼンテーション E：振り返り F：宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第2回	研究論文とは何か(国際乳幼児教育の視点から①) ・リサーチクエスションの見つけ方、レポートとの違い、情報源の信頼性について理解する 予習：研究論文とレポートの違いについての意見をまとめる 復習：リサーチクエスションについて省察する(約2時間) A：中 B：多 E：あり F：あり	
	第3回	研究論文を探す(国際乳幼児教育の視点から②) ・論文の検索システムの使い方、調べ方について学ぶ 予習：関心のあるテーマについての意見をまとめる 復習：論文の検索方法の基本について省察する(約2時間) A：中 B：多 E：あり F：あり	
	第4回	研究論文の形式と構成(保育学の視点から①) ・研究プロジェクトのテーマの選択と、仮タイトルの決定を通じて、自らの研究課題についての理解を深める 予習：関心のある論文を入手し、3本以上読む 復習：3本の研究論文についてのポイントをまとめる(約2時間) A：中 B：多 E：あり F：あり	
	第5回	多様な研究方法(社会学の視点から①) ・質的研究法/量的研究法 ・質的研究法の演習を通じて、多様な研究方法を理解する 予習：自分の関心のある研究方法(メソッド)を調べる 復習：多様な研究方法について省察する(約2時間) A：中 B：中 C：中 E：あり F：あり	
	第6回	フィールドワーク法についての学び(社会学の視点から②) ・写真を用いたフィールドワークの演習を通じて、研究法についての理解を深める 予習：フィールドワークについて自分なりの意見をまとめる 復習：写真を用いたフィールドワークのレポートを完成する(約2時間) A：少 B：少 C：多 E：あり F：あり	
	第7回	先行文献の収集(歴史学の視点から) ・文献・資料の収集方法、図書館の利用(発展) ・引用文献の書き方について学ぶ 予習：自分の研究テーマに関連する先行文献について調べる 復習：先行文献を調べ、論文における記載の仕方を理解する(約2時間) A：多 B：中 C：少 E：あり F：あり	
	第8回	論文における倫理(社会学の視点から③) ・オリジナリティと剽窃(ひょうせつ)、インフォームドコンセントについて学ぶ 予習：論文における倫理についての指定文献を読む 復習：論文における倫理と剽窃についての理解を定着させる(約2時間) A：中 B：多 E：あり F：あり	
	第9回	人に伝わるプレゼンテーション(基礎) ・プレゼンテーションの作成とディスカッションを通して、より良く人に伝える方法について理解する 予習：プレゼンテーションを作成し、発表リハーサルの準備をする 復習：教員や他の履修学生からのアドバイスをもとにプレゼンテーションを修正・改善する(約2時間) B：中 D：多 E：あり F：あり	
	第10回	履修者の研究プロジェクトの中間発表 ・準備、実施、ディスカッション、振り返りを通して、研究課題についての考察を深める 予習：中間発表のプレゼンテーションのナレーションを準備する 復習：教員や他の学生からのアドバイスをもとに、研究論文について修正を加え、改善する(約2時間)	

	B：中 D：多 E：あり F：あり 第11回 論理的な文章の書き方(保育学の視点から②) ・論理的な文章、要旨、本文、文献註の書き方について理解する 予習：指定文献を読む 復習：自分の研究論文の要旨を書く(約2時間) A：中 B：多 E：あり F：あり 第12回 統計的データの扱い方(子どもをめぐる社会的状況の理解) ・説得力のある論文を書くための数字の扱い方、比較について考える 予習：指定文献を読む 復習：統計的データを用いた比較について調べる(約2時間) A：中 B：多 E：あり F：あり 第13回 思考を深めるディスカッション(多文化教育への理解) ・自分の意見を言うことと人の意見を取り入れることについて、演習を通じて理解する 予習：指定文献を読む 復習：有意義なディスカッションの方法についての考察を深める(約2時間) A：中 B：多 E：あり F：あり 第14回 人に伝わるプレゼンテーション(発展) ・効果的なプレゼンテーションの方法と実践をプレゼンテーションのリハーサルを通して学ぶ ・タイムマネジメントや、ポインターの使い方などを学ぶ 予習：自分の研究論文に関するプレゼンテーションを準備する 復習：教員や他の履修学生からのアドバイスをもとにプレゼンテーションを修正・改善する(約2時間) B：中 D：多 E：あり F：あり 第15回 履修者の研究プロジェクトの発表とディスカッション(国際乳幼児教育の視点から③) ・自分の研究プロジェクトのプレゼンテーションを実施し、今後の展望を見据える 予習：自分の研究論文に関するプレゼンテーションのリハーサルを実施する 復習：自らの研究プロジェクトに関し得られた学びについて省察する(約2時間) B：中 D：多 E：あり F：あり
教育目標との関連	国際乳幼児教育の視点から、多様な方法で保育について学ぶ。履修者は、さまざまな研究方法を知り、人や自らと対話することを通じて自らの問いを探求する。
到達目標 カリキュラムマップ	3. 国際乳幼児教育に関し、多様な方法で、自らの考えや主張を発表することができる 4. 保育者が知的好奇心を持つことにより、子どもの知的好奇心の育成につながることを理解できる 5. 主体的に調べ、意欲的に学び、グローバルな視点で考えることの面白さを味わうことができる
評価方法および評価基準	1. 毎回の授業への準備、参加の貢献度 40% 2. 個人研究プロジェクト(論文/発表) 60% 3. ルーブリック評価による(添付資料参照のこと)
教科書	演習授業内で適宜指示する
参考書	演習授業内で適宜指示する
準備学習(予習・復習等)の具体的な内容および必要な時間	シラバスの各回の欄に記載する、Googleclassroom による課題の提出
履修上の注意、条件等	授業は遠隔(Googlemeetを使用した双方向)で行う 第7回授業は対面で行う 欠席等の扱いについては、「履修要綱」に準ずる やむを得ず欠席の場合は、あらかじめ教員に連絡をし、課題に関する指示を受ける
オフィスアワー	研究室に掲示する 質問はGoogleclassroomの限定コメント、メールで受け付ける
備考・メッセージ	専攻科の学生としての高い意識と倫理観をもち、積極的に学んでいきましょう

講義科目名称： 日本の文化とところ（茶道）

授業コード：

英文科目名称： Japanese Culture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	2 年	2 単位	卒業選択
担当教員			
田中久美子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：	
添付ファイル			

講義概要	日本の伝統文化のうち、ここでは書道・浴衣の着付け・茶道を学び和のこころを理解する。 書道：日本における書道が実用性と芸術性の二面を持つ事を理解し、心惹かれる文字を習得する。 着付け：美しい着物を時代の流れ、季節のうつろい等T.P.Oを指導しながら総合的に学習する。 茶道：テーブルと椅子で日本の伝統の茶道を学習する。 書道・着付け・茶道の順序はグループによって変わる。		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回	書道 書の基本 姿勢と持ち方。書法一般を理解し、基本点画を学ぶ。	
	第2回	書道 基礎知識 漢字書 文字の歴史を知る。楷書、行書を理解し、筆法を学ぶ。 手本による実践練習をする。	
	第3回	書道 基礎知識 漢字書 筆順学習。篆書、隸書を理解し、筆法を学ぶ。手本による実践練習をする。	
	第4回	書道 基礎知識 漢字書 文房四宝。草書を理解し、筆法を学ぶ。手本による実践練習をする。	
	第5回	書道 基礎知識 硬筆 ひらがなの歴史を知る。いろは歌を通し、形の整ったひらがなの書き方を学ぶ。手本による実践練習をする。	
	第6回	着付け 基礎知識 講義 1 家紋について 2 きものの種類（T.P.O）に応じたの装い 3 きものの名称	
	第7回	着付け 浴衣の着方 実技 浴衣の着付け（自分で着る）、たたみ方 Fあり	
	第8回	着付け 浴衣の着方 実技 浴衣の着付け（自分で着る、相手への着付け）、たたみ方 Fあり	
	第9回	着付け 浴衣の着方 実技 浴衣の着付け（自分で着る、相手への着付け）、たたみ方 Fあり	
	第10回	着付け 総合 講義 帯の種類と帯結び Eあり	
	第11回	茶道 茶の湯について お茶の歴史、茶碗、茶筌、服紗の扱い方 Fあり	
	第12回	茶道 季節の掛け軸について お茶を点てる お菓子と抹茶のいただき方	
	第13回	茶道 茶花について お茶を点てて客をもてなす Fあり	
	第14回	茶道 茶の湯体験 茶碗に茶巾、茶筌を入れ、服紗さばきをして茶杓をふき茶碗へのせる Fあり	
	第15回	茶道 日本のしきたりについて 懐紙を中心に日本の文化を学ぶ。 Eあり	
教育目標との関連	日本の伝統的茶道を通して美術工芸を見ることが、花を育てる楽しみ、夏は涼しく冬は暖かく人をもてなす優しい心を養う。 社会人としての教養を高め、日本文化を知識として身につけ、豊かな感性を育む。		

到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	書道：伝える手段としての文字は形・大きさのバランス・空白を生かすことにある。実践練習を通し、自分で書く文字の大切さを知る。 着付け：浴衣の着付けが完全に出来るようになる。 茶道：日本のしきたり等も学習し身につける。
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	書道 30% 着付け 30% 茶道 30% 受講態度 10% (3科目の総合)
教科書	適宜プリントを配付する。
参考書	なし
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	
履修上の注意、条件等	三種類5回ずつの履修なので、理解して次の授業に出席するように。 着付けは、浴衣、半幅帯、腰ひも3本、帯板、筆記用具を各自用意すること。
オフィスアワー	授業終了後に教室で質問を受け付ける。
備考・メッセージ	礼儀を重んじる科目であると理解しておく。

講義科目名称： 子ども理解と相談・援助

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	2年生	2単位	卒業選択、幼免必修、保育士必修
担当教員			
中村麻衣子 久保寺節子			
授業形態：演習	担当形態：オムニバス	実務経験：あり	
添付ファイル			

講義概要	幼児教育の礎となる幼児理解について、子ども観、子どもの発達、遊びと生活の意味と意義を理論と実践から学び、実践者としての基礎力を養う。公立幼稚園・私立幼稚園副園長の実務経験を有する教員（久保寺）による具体的な保育現場における子どもの姿等の事例から子どもを理解するための知識・技能・態度を身につける。また、幼児理解に欠かせない保護者との連携や子育て支援の意義と方法について学ぶ。近年保育者に子育て支援等の役割が強調される中で相談援助の基本的な考え方やカウンセリング・マインドをふまえた相談への対応が求められている。スクールカウンセラー、発達相談員の実務経験を有する教員（中村）によるカウンセリング技法や対人関係のトレーニングの個人ワークを通して、保育・教育相談を実践的に学ぶ。		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの割合を明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回	イントロダクション 幼児理解の意味と意義：保育理解との関係性を学ぶ ・幼児理解の意義・実践・評価の関係を学ぶ。幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂（定）の要点を理解し、これからの保育について考える。 A：少 B：中 D：少 E：あり F：あり 予習：シラバスを読んでくる（1時間） 復習：学びの振り返り（1時間）	
	第2回	幼児の発達理解：発達観と幼児理解の関係性 ・子ども観・発達観と幼児理解の関係性について学ぶ。主体的・対話的な学びについて理解する。 A：少 B：中 D：少 E：あり F：あり 予習：配布資料を読んでくる（1時間） 復習：学びの振り返り（2時間）	
	第3回	幼児理解と観察：1）観察の重要性と方法について学ぶ ・こども理解に欠かせない観察とその方法について理解を深める。ラーニング・ストーリーについて実践事例をもとに学ぶ。 A：中 B：中 D：中 E：あり F：あり 予習：日常の幼児の姿に留意する（1時間） 復習：学びの振り返り（1時間）	
	第4回	幼児理解と観察：2）『学びの物語』乳児の事例に学ぶ ・子ども理解（乳児期）について、ワークシートから実践的・体験的に観察と記録について学ぶ A：多 B：中 D：多 E：あり F：あり 予習：配布課題を読んでくる（1時間） 復習：学びの振り返り（2時間）	
	第5回	幼児理解と観察：3）『学びの物語』幼児の事例に学ぶ ・子ども理解（幼児期）について、ワークシートから実践的・体験的に観察と記録について学ぶ A：多 B：中 D：中 E：あり F：あり 予習：事例研究に取り組む（1時間） 復習：学びの振り返り（1時間）	
	第6回	保護者との関わりと子ども理解：1）家庭との信頼関係・互惠関係 ・保護者について理解を深め、事例を通して保育者の知識・スキル・姿勢を学ぶ A：中 B：中 D：少 E：あり F：あり 予習：課題文献を読む（1時間） 復習：ミニテストに備える（2時間）	
	第7回	保護者との関わりと子ども理解：2）保護者を巡る現代の課題	

	・ひとり親、貧困、DV、虐待、発達障害、国際化等、保護者を巡る現代の課題とその支援を学ぶ A：少 B：中 D：中 E：あり F：あり 予習：課題を読んでもくる（1時間） 復習：学びの振り返り（1時間） 第8回 保護者との関わりと子ども理解：3）ロールプレイから学ぶ ・幼児理解のための保護者との関係性構築について実践的に学ぶ A：多 B：中 D：多 E：あり F：あり 予習：ミニテストに備える（2時間） 復習：学びの振り返り（1時間） 第9回 特別なニーズ（権利）を有する子ども理解 ・インクルージョン・ダイバーシティの視座から子ども（乳幼児期～青年期）理解を深め、適切な支援について考える A：少 B：多 D：少 E：あり F：あり 予習：文献を読む（1時間） 復習：学びの振り返り（1時間） 第10回 子育て支援と幼児理解：1）カウンセリングマインドへの誘い ・カウンセリングマインドの意味と意義を理解する A：少 B：中 D：中 E：あり F：あり 予習：文献を読む（1時間） 復習：学びの振り返り（2時間） 第11回 子育て支援と幼児理解：2）カウンセリングマインドの技法 ・カウンセリングマインドの基礎的な実践について、その姿勢と技法を学び、保育者としての当事者意識を高める。 A：中 B：中 D：中 E：あり F：あり 予習：課題に取り組む（1時間） 復習：学びの振り返り（1時間） ★ミニテスト予定 第12回 多文化共生理解と子ども理解 ・多様化、国際化する社会における子ども理解と課題について学ぶ。保育者として、多様な国籍を持つ子どもや帰国子女の子どもたちをその家族を含めた具体的な支援の方法および課題を事例をもとに考える。 A：中 B：中 D：少 E：あり F：あり 予習：指定文献を読む（1時間） 復習：学びの振り返り（1時間） 第13回 幼児理解と子ども観再訪、及び今までの振り返り ・子どもを市民として捉えるレッジョ・エミリア市の実践に学ぶ。レミダにおけるモノとの対話を通して、日本の保育を考える。 A：少 B：中 D：中 E：あり F：あり 予習：配布資料を読む（1時間半） 復習：授業振り返りと試験準備（2時間） 第14回 授業の総括・振り返り ・今学期の学びを総括し、自己の学び評価を行うと同時に今後の課題・展望を明らかにする E：あり 予習：すべての授業を振り返る（1時間）
教育目標との関連	幼児理解について知識を理解し、子ども、同僚、及び保護者と関わる姿勢、スキルを身につける。特に、記録等子ども理解を可視化できるようにする。
到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断	2. 子ども理解の意味と意義、発達を理解し、現状の保育の課題との関係性を考察することができる 3. 様々な言葉・方法で幼児理解のあり方について表現することができる 4. 保育の専門家として歩むための学びであると当事者意識を高めることができる

3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	提出課題：100% 毎回のミニレポートや課題の内容で評価する。
教科書	授業中にレジメを配布する。
参考書	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育保育要領」他、授業にて提示・紹介する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	各回の予習・復習は上記のとおり。
履修上の注意、条件等	・授業を構成する当事者として臨みましょう。 ・私語・携帯電話等の教室内における使用は不可です。条件を満たせない場合は、単位取得が難しくなります。 ・シラバスの内容は、履修学生の理解等により変更もあります。
オフィスアワー	研究室で受け付ける。遠隔授業時には限定コメントで受け付ける。
備考・メッセージ	第1回～第6回、第12回、第13回は久保寺、第7回～第11回、第14回は中村が担当する。 今年度は遠隔授業（配信）で行う。

講義科目名称： ボランティア活動

授業コード：

英文科目名称： Volunteer Activities

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	2 年	2 単位	卒業選択
担当教員			
福地昭輝			
授業形態：講義	担当形態：オムニバス	実務経験：あり	
添付ファイル			
ループリック ボランティア活動.pdf			
カリキュラムマップ ボランティア活動.pdf			

講義概要	本授業は、ボランティア活動の意義を理解するとともに、実践を通して社会貢献の必要性を理解する。学生自身の自発的な活動を実践する地域についてのニーズを調べ、興味・関心のある活動に実際に参加し、自身の活動のプレゼンテーションを行う。 本科目は保育や幼児教育の枠にとどまらず、地域の福祉に関心を持ち、自ら能動的に活動することが求められるものである。 日常生活でボランティア活動を行う場は限りなくあり、活発になれば共生社会をかたちづくる大きな力となる。 日本にとどまらず、海外の各地でボランティア実体験を通して、視野を広げ、民族や文化歴史を大切にしながら、多文化共生社会の実現の一員となれる。その時に求められるボランティア活動を考える。①災害時避難②避難所の活動③復興支援に大別し、非常時にボランティア活動の主体者となるための知識・技能の習得に努める。 担当教員の福地は幼稚園の園長の経験があり、幼稚園や保育園が位置する地域のボランティアのニーズについて、また、JICA（国際協力事業団）専門家としての活動に従事してきた国際業務経験（モルディブ共和国、モンゴルなど）経験を語り、国際協力の意義を伝えていく。 災害大国日本の現状を見ると、突然に地震による大災害、台風などの気象災害による大雨洪水の被害などを、意識して備えなければならない。実体験につなげられる模擬体験を行う。		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回	授業の概要について ボランティアとは何かを学び、自主的活動として学生の主体的な実践することについて理解する。 B：少 予習：自分で取り組んでみたいと思うボランティアを調べておくこと（約1時間）。 自らの特性を生かした活動を企画する① 生活弱者として幼児や高齢者の実態から、何ができるかを模索し本学の特徴を活かしたボランティア活動を企画する。 A：多 B：多 復習：授業でまとめたことを読み直し把握しておくこと（約1時間）。 自らの特性を生かした活動を企画する② 第2回で企画した案を実践するため、グループを組織する。スムーズな運営や安全性への配慮、組織の中での個々の役割を考えて実行計画をたて、工程表を作成する。 C：多 復習：授業でまとめたことを読み直し把握しておくこと（約1時間）。 自らの特性を生かした活動を企画する③ グループ毎の計画を発表して、相互理解を図り、行動に移すための計画の修正を行う。 C：多 復習：授業でまとめたことを読み直し把握しておくこと（約1時間）。 ボランティア概論 ボランティア活動の歴史を振り返り、ボランティアの意義と目的を学ぶ。自分なら何ができるかの可能性を考える。 B：中 復習：授業でまとめたことを読み直し把握しておくこと（約1時間）。 地域のニーズを知る 特定の地域における福祉のニーズを知るすべ学ぶ。本学が位置する鶴川地区を事例に、地域の特徴を知る方法と地域のニーズに対してどのような活動がふさわしいかを考える。地域社会福祉法人・NPO法人代表に事例を紹介してもらう。 B：中 復習：授業でまとめたことを読み直し把握しておくこと（約1時間）。 ボランティア活動とは何か ボランティアとは何かについて、「ボランティア4原則」を元に理解を深める。また、ボランティア活動に参加する際の基本的なルールについても理解する。 B：少 復習：授業でまとめたことを読み直し把握しておくこと（約1時間）。 グループ活動① 今後の活動の内容についてディスカッションし、ボランティア活動の理解を深める。 A：多 B：多 復習：授業でまとめたことを読み直し把握しておくこと（約1時間）。 グループ活動② 「デイサービスひまわり」の訪問交流活動を行うための準備を行う。 A：多 介護の技術と基本的コミュニケーションを学ぶ 「デイサービスひまわり」の訪問交流活動を行うための事前知識と心得を学ぶ 「デイサービス三輪ひまわり」担当職員の方による講演を聞き、ボランティアをする側の精神や姿勢を学び、コミュニケーションをとる上での心理的な配慮について考える。また、コミュニケーションの方法	

	や活動スキルについて体験的に学ぶ。 B：少 第11回 活動の準備 「デイサービスひまわり」の訪問交流活動を行うための準備を行う。 A：多 第12～13回 ボランティア活動の実践 「デイサービス三輪ひまわり」を訪問し、利用者との交流活動を行う。 C：多 第13回 自主活動へむけて 自主活動のプレゼンテーションと活動の準備を行う。 B：中 D：中 第14回 活動の振り返り ボランティア活動の実践の振り返り。活動を通して得られたことを報告し、ボランティア活動の理解を深める。B：中 D：中 第15回 まとめ これまでの活動を振り返り、今後どのようなボランティア活動に取り組むか個人で発表する。 発表レポートはルーブリックで評価する。 B：中 D：多
教育目標との関連	現代社会においては様々なモノやサービスを購入できる一方で、利潤追求を目的とせず、社会的課題の解決に貢献する活動が求められている。ボランティアの精神は「愛の教育」という建学の精神にも通じ、ボランティアに参加する側とそれを受ける側での互いの感謝の気持ちの交流が愛の精神を養うこととなる。
到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	1. ボランティアとは何かを、その考え方や実践事例から理解し、基礎的な知識や技能と関係づけることができる。 2. 日常生活や災害時の生命を守るためのリスクに対する知識・技術を総合して判断行動することができる。 3. 幼児や高齢者が日常生活における食や生活上の安心・安全を支援できる活動の技能を身につけることができる。 4. 日常から地域社会とかかわりを持ち、自分は何ができるかの自覚を高め貢献する意欲を高めることができる。 5. ボランティア活動を通して、自他の人間性を深めることができる。自分自身がボランティアを志す仲間と共に協力し実践することができる。社会貢献を通して謙虚な態度をもって取り組むことができる。
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	レポート 40% ・授業内でレポートを指示します。理解度の確認を行い評価します。 提出課題 30% ・自分で調べたことや活動したことをまとめます。独自性と活動の取り組みを評価します。 受講態度 10% ・自主的に、意欲的に参加しているかどうかについて評価します。 実技発表 20% ・学んだ内容がどれだけ会得できているかを評価します。
教科書	特になし
参考書	授業時に必要に応じて指示する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	授業時に必要に応じて指示する。
履修上の注意、条件等	学外での自主的なボランティア活動に取り組むことが履修の条件となる。夏期休暇や週末など、自分で取り組める日時と内容を設定し各自で活動すること。
オフィスアワー	教員の研究室で受け付ける。時間は研究室に掲示する。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 児童文化

授業コード：

英文科目名称： Children's Culture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	2 年	1 単位	卒業選択
担当教員			
相澤京子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：なし	
添付ファイル			
児童文化2020. pdf			

講義概要	現代社会では様々な場面において「文化」が伝承の危機を迎えている。こどもに関しても例外ではなく、都市部の開発による環境の変化や少子化等により、こどもが自由に遊ぶことが困難となり、「児童文化」が伝承しにくい状態になって久しい。しかし、こどもたちの発達を助け、感性を豊かにするためには、児童文化財は欠かせないものであることから、乳幼児にかかわる保育者を目指す者として「児童文化」の理解は必要不可欠である。そこで、本講義では、絵本・紙芝居をはじめとする様々な児童文化財を取り上げ、実践してみることににより、保育環境の中でどのように活用できるのかを体験的に学ぶことを目的とする。		
	他の科目との関連：「幼児と言葉」「保育内容（言葉）の指導法」などの授業で蓄積した絵本の知識や、「保育実習指導Ⅰ（保）」での言語表現技術の実践をさらに深化・発展させる。		
授業計画および学習形態	第1回	オリエンテーションー児童文化とは何かー シラバスを用いて、本演習のねらいと内容を説明する。 児童文化財の種類を学生自身の経験を振り返ることによってまとめる。 予習：シラバスをよく読み、科目の全体像を把握しておくこと。（約30分） 復習：配布したプリントの内容を振り返っておく。（約30分） D:中	
各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第2回	保育教材としての絵本 絵本の絵の法則や子ども特有の見方について学ぶ。さらに、保育現場での絵本の活用方法について考える。 復習：絵本の絵の法則について、実際の絵本で確認しておく。（約1時間） A:中 B:中 D:中 E:あり	
	第3回	日本の昔話 昔話の特徴について知る。また、日本の昔話の代表的な作品の内容を確認するとともに、それらをもとにした昔話絵本の比較を行う。 復習：様々な昔話絵本を読み比べてみること。（約1時間） A:中 D:中	
	第4回	外国の昔話 ペロウ童話とグリム童話の概要と、そこに見られる話について整理する。さらに、それらをもとに創作されたディズニー作品の内容について検討する。 復習：授業で紹介した作品を実際に読んでおく。（約1時間） A:少 B:少	
	第5回	児童文化財の製作と実践① くつしたを用いたパペットの製作を行う。 復習：作成したパペットを用いた自己紹介を考える。（約1時間） A:多	
	第6回	児童文化財の製作と実践②／伝承遊びの実践① 作成したパペットの動かし方を学び、実際に自己紹介を行う。 伝承遊びの種類を知るとともに、折り紙やあやとり等の伝承遊びを実践する。 復習：保育の中でパペットを活用できる場面を想定し、練習する。（約1時間） A:中 D:中	
	第7回	伝承遊びの実践② お正月に関する伝承遊びを実践するとともに、伝承遊びの魅力と子どもにとっての意義を考える。 復習：授業で取り上げなかった伝承遊びを実践する。（約1時間） A:多	
	第8回	総括と学習到達度の確認テスト 保育における児童文化の意義について考えることにより、これまでの授業の総括を行う。また、学習到達度の確認テストを実施することによって各自の到達度を把握し、今後の課題を明確にする。 予習：これまでのノート・プリント類を整理する。（約1時間） B:少 E:あり	
	教育目標との関連	様々な児童文化財を知り、実践することは、保育者として必要な知識と実践力を身につけることにつながる。その中で、こどもが生きる地域や社会、文化に関心を持つとともに、多様な他者との協調性を図るようになる。	
到達目標 カリキュラムマップ	DP1. こどもの育ちについての児童文化財の意義を理解し、説明できる DP3. こどもの発達段階に適した児童文化財を選択し、実践できる		
知識・理解 1. 知 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること。		

評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	試験 40% ・授業の内容全般についての理解度と実践力を評価する 提出課題 50% ・授業内に行った課題に対する取り組みを評価する 授業への取り組み 10% ・伝承遊びの実践に対する取り組みを評価する
教科書	必要に応じて、プリントを配布、またはGoogle Classroomに掲載する。
参考書	『保育における子ども文化』松本峰雄編（わかば社、2014）1,980円（税込）
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	各回の準備学習は上記の通りである。指示されたほかにも、児童文化財に触れる機会を意識的に増やしてもらいたい。
履修上の注意、条件等	伝承遊びを実践する時間を設けるので、各自の意欲的な姿勢が求められる。 材料費が200円程度必要である。 シラバスの内容は履修学生の人数等によって変更の可能性もある。
オフィスアワー	103研究室で受け付ける。時間は研究室に掲示する。質問はGoogle Classroomの限定コメントでも受け付ける。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 保育原理

授業コード：

英文科目名称： Principles of Early Childhood Care and Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	1 年	2単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
山下晶子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	
添付ファイル			
カリキュラムマップ保育原理.xlsx			
ルーブリック保育原理.xlsx			

講義概要	子どもや子育てに関わる環境の変化に伴い、保育をめぐる状況は社会状況によって変化する保育を保育の今までのようなものなのか、また、社会が状況が変わろうと変わらない大切にするべき保育を、社会的、文化的、歴史的な視点を持ちながら、保育の原理を理解する。 保育を展開していくときに保育者として守るべき大切な基盤・基本が、「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」、「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」にそれぞれに明文化されている。実現に向けて努力するのが保育者の役割であるが、しかし、目の前の子どもや保護者は一人ひとり違い、同じではない。子ども、保護者一人ひとりに視点を持つことが必要。幼児理解、保護者理解をしていくのかこととはどういうことなのかを授業を通して保育の原理を理解していく。また、子どもの最善の利益を保障する保育のあり方を、授業を通して子どもと育ち合う者としての知識・スキル・姿勢を養う。 本講義担当者は、長年保育現場にて保育、園長の実務経験を有することから、担当者の現場での体験を踏まえた保育実践の具体的な事例を含んだ内容（保育の現在、保育の計画と保育実践との関係、保育所機能の現状等）から学びを深め保育の原理を理解する。		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの割合を明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回	オリエンテーション・保育の目的 ・保育原理で学ぶこと ・授業説明 A：少 B：少 D：少 E：あり F：あり 予習：シラバスを読んでくる（1時間） 復習：個人ファイル「保育原理想びのポートフォリオ」の用意と作成（2時間）	
	第2回	保育の対象としての子ども ・子どもの最善の利益とは、権利主体としての子ども、子どもを尊重するとはを考える A：少 B：中 D：少 E：あり F：あり 個人ファイル「保育原理想びのポートフォリオ」持参（1時間） 復習：個人ファイル整理（1時間）	
	第3回	子どもの遊びとは①体験的学びから保育の方法 ・保育における「遊び」の意義・意味について体験的学びから考える。 A：中 B：中 D：中 E：あり F：あり	
	第4回	子どもの遊びとは②意味と意義について ・幼児期の遊びを再現することから遊びの意味と意義を考える A：中 B：中 D：多 E：あり F：あり	
	第5回	子どもの遊びとは③遊びと学びの関係性 ・遊びと学びの関係性について事例から学ぶ。（グループワーク） A：多 B：中 D：中 E：あり F：あり	
	第6回	「保育に求められる子ども観・発達観」 ・時代と共に変化する子ども観と発達観、子ども理解について A：多 B：中 D：中 E：あり F：あり	
	第7回	保育の歴史から学ぶ：①世界の変遷 ・保育の歴史を学ぶことにより、過去・現在・未来の繋がりを知る ・フレーベルの恩物から幼児教育の意義への理解を深める A：少	

	B：中 D：少 E：あり F：あり 第8回 保育の歴史から学ぶ：②日本の変遷 ・日本の保育の始まりと発展について学ぶ A：多 B：中 D：中 E：あり F：あり 第9回 保育実践の要を理解する：①保育園と幼稚園に焦点をあてて ・保育の基本（理念・制度・課程・保育内容・保育者の役割）について学ぶ ・「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「認定こども園教育・保育要領」への理解を深める A：少 B：中 D：少 E：あり F：あり 第10回 環境を通した保育 ・保育における環境とは、環境を通した保育の意義を理解する A：少 B：少 D：少 E：あり F：あり 第11回 保育の方法と勧め方 ・園生活の流れや様々な保育形態について理解する A：少 B：中 D：少 E：あり F：あり 第12回 保育の専門性と質の向上 ・保育に質の向上と自己研鑽、また保育所・幼稚園・認定こども園等における研修等の取り組みを理解する A：中 B：少 D：少 E：あり F：あり 第13回 現代社会の保育課題を考える①：保育ニーズの変化 ・子ども主体が脅かされる社会における問題について問い、自らの貢献を考える：早期教育、虐待、長時間保育、ESD、災害・紛争等、課題に取り組む。 A：多 B：中 D：中 E：あり F：あり 第14回 授業の総括と自己理解の確認試験 ・今学期の学びを振りかえり（試験） ・自己の学び評価を行うと同時に今後の課題・展望を明らかにする。 A：少 B：少 D：少 E：あり 第15回 ★個人ファイル「保育原理のポートフォリオ」提出 学びの振り返りと今後の展望 ・全授業振り返りを行い、今後の自分の課題を明らかにする A：少 B：中 D：中 E：あり
教育目標との関連	「子どもの権利」「子どもの最善の利益の保障」を担う専門家としての基本となる学びであることを自覚することが求められる。また、「保育」について自分の言葉で様々な分野の人に語れる表現力を身につける。
到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	1. 保育の意義及び目的、更に、現状の保育の課題について知識と理解を習得し、そのことについて説明することができる。 3. 様々な言葉で保育の原理について自ら考え、論じ合うことができる。 4. 子どもを知りたい、わかりたい、と探究者としての保育者の学びであることを自覚し、問題意識を持ち、意欲的な学びを自ら取り組む努力を続けられる。
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	授業態度・参加状況・期末試験を総合的に評価。 授業態度・参加・課題への取り組み 20% 個人「保育原理ファイル」（学びのポートフォリオ）内容 30% 期末試験・ミニテスト 50% ＊欠席等の取扱いについては、『履修要項』に準ずる。
教科書	幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育保育要領」

参考書	①改訂版「保育原理の基礎と演習」わかば社 1800円 ②安心感人・物・事と憧れが育つひと・もの・こと/齋藤政子編著（明星大学出版部）2484円 他、授業にて提示・紹介します。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	授業後は、振り返りを行い、不明な内容について、理解しておくよう努めること。 授業後は、振り返りを行い、不明な用語・内容について、理解しておくよう努めること。
履修上の注意、条件等	・テキストは毎時必要。 ・個人「保育原理ファイル」（学びのポートフォリオ）を各自用意します。 ・授業を構成する当事者として臨みましょう。 ・私語・携帯電話等の教室内における使用は不可です。条件を満たせない場合は、単位取得が難しくなります。 ・シラバスの内容は、履修学生の理解及授業展開等により変更も有ります。
オフィスアワー	研究室に表示します。
備考・メッセージ	子ども・保育について知りたい、との思いで履修しましょう。

講義科目名称： 社会的養護 I

授業コード：

英文科目名称： Care of Society I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	2年生	2単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
横溝一浩			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	
添付ファイル			
社会的養護 I r. pdf		ループリック	
社会的養護 I map. pdf		カリキュラムマップ	

講義概要	子どもが児童虐待等の理由で、家庭における養育が受けられない場合、社会が代わってその子を養育する。これが社会的養護である。この授業では、社会的養護の社会的背景・制度・施設を理解した上で、各施設で行われている子どもたちへの支援内容を学ぶ。「子どもの最善の利益」を常に考えながら社会的養護の原理を実践できる保育士の育成を目標として、全体の学びの中で、この授業を位置付けるものである。教科担当教員は、家庭養護における実務経験（里親経験）から、要保護児童の自立支援、養子縁組里親の支援、NPO法人における活動から、障害児（者）の支援についての具体的方法を教育に活かしたい。 他の科目との関連：この科目を学ぶ前提の知識として社会福祉論・児童家庭福祉などがある。2年次の相談援助、社会的擁護内容を学ぶ上での基本となる科目であると同時に保育実習（施設）においても実習を遂行する上で基本的な知識となる。		
授業計画および学習形態	第1回	社会的養護の理念と概念 社会的養護とは何かをテーマに、先ず各自で親元で生活できない子どもたちの背景についてイメージした上で、今後の学習の進め方について解説する。 予習：シラバスを読んで、社会的養護の全体像を把握しこの科目のイメージを持っておくこと。（約1時間） B少 E有 F有	
	第2回	社会養護の歴史的変遷 社会的養護について福祉が制度化される過程で、これまでどのように歩んできたか理解した上で現状を概観する基礎を学ぶ。 予習：前期の社会福祉論から社会福祉の制度化の歴史についてワークシートを作成し整理する。（約2時間） B少 E有 F有	
	第3回	児童家庭福祉の一分野としての社会的養護 社会養護の問題は単なる親子関係の問題ではなく家庭や地域レベルでの支援が必要であることを学び理解する。 予習：児童虐待の事例から、その問題の根源がどこにあるかワークシートを作成しながらイメージする。（約2時間） B少 E有 F有	
	第4回	児童の権利と社会的養護 子どもの権利とはどのようなものか、その権利の保障方法について考え理解する。 予習：子どもの権利とはどのようなものか「子どもの権利ノート」からワークシートを作成し整理する。（約2時間） B少 E有 F有	
	第5回	社会的養護の制度と法体系 社会的養護の根幹にある「パレンスパトリエ」の考え方を理解した上で、それぞれの法律の目的や対象が何かを理解する。 予習：未成年犯罪の事例を読み、その背景についてワークシートを作成して整理する。（約2時間） B少 E有 F有	
	第6回	社会的養護の仕組みと実施体制 社会的養護の基本的な仕組みについて理解する。 予習：東京都のホームページから社会的養護の体制を調べ、ワークシートを使って整理する。（約2時間） B少 E有 F有	
	第7回	施設養護の原理 施設養護において生活する子どもたちにとってのアイデンティティ形成と強化、親子関係を再構築する為のアタッチメント形成支援などについて理解し、子ども一人一人のライフストーリーワークの必要性について学ぶ。 予習：ライフストーリーワークを行う為に必要な資料を揃える。（約2時間） B少 E有 F有	
	第8回	施設養護の実際1（障害系施設：継続的なケアの必要性） ドキュメント動画を通して、障害系施設で生活する利用者について理解する。 障害系施設においては、児童から成人までの永続的なケアが実施されている。なぜ永続的なケアが必要なのか保育士の支店を理解する。 予習：「障害」について、各自のイメージをワークシートに記入する。 施設養護において生活する子どもたちの背景を理解し、その原理（アドミッションケアからアフターケアまで）と役割について学び、「自立支援」の考え方を理解する。 B多 E有 F有	
	第9回	施設養護の実際2（乳児院：施設養護から家庭養護へ） ドキュメント動画を通して、施設養護で生活する子どもと里親との親子関係構築について理解する。さらに保育士がどのような役割を果たしているかを考察する。 予習：施設で生活する子どもたちの課題についてワークシートにキーワードを記入する。（約2時間）	

	時間) A多 E有 F有 施設養護の実際 3 (児童養護施設：施設養護の課題) ドキュメント動画を通して、施設養護で生活する子どもが退所・自律に向けてどのような課題があるか理解する。そのうえで保育士や施設職員がどのような自立支援をしているか、その実際を見た上で考察する。 予習：施設で生活する子どもたちの課題についてワークシートにキーワードを記入する。(約2時間) A多 E有 F有 第11回 施設養護とソーシャルワーク 1 (アドミッジョンケアからインケアに向けて) 施設養護の養育者として必要なソーシャルワークの視点を学び、施設においてソーシャルワークの視点がどのように展開されるか事例を通して確認する。特にアドミッジョンケアからインケアに向けて、入所時の児童の課題についてワークを行う。 予習：事例シートの事例を熟読して、各自でアセスメントをしておくこと。(約2時間) A多 E有 F有 第12回 施設養護とソーシャルワーク 2 (リービングケアからアフターケアに向けて) 施設養護の養育者として必要なソーシャルワークの視点を学び、施設においてソーシャルワークの視点がどのように展開されるか事例を通して確認する。特にリービングケアからアフターケアに向けて、退所時の児童の課題についてワークを行う。 予習：事例シートの事例を熟読して、各自でアセスメントをしておくこと。(約2時間) A多 E有 F有 第13回 倫理の確立 倫理とは社会生活上の行動規範であるが、ここでは、社会的養護の専門職としての倫理について考える。 予習：教科書(P.182～)を参考にワークシートを作成する。(約2時間) B少 E有 F有 第14回 総括と学習到達度の確認テスト 1 回目～14 回目の授業についての総括を行い、この回の中で 学習到達度の確認テストを実施する。 第15回 学びの振り返り 各自の到達度チェック(自己評価及び学修成果の確認)
教育目標との関連	社会的養護における教育目標は以下の通りである。 1. いかなる環境の子供であっても、その人格を尊重し、その健やかな育ちを保障する為の基礎力を養う。 2. 個々の子どものニーズや背景を受容し、養育支援を行える基礎力を養う。 3. 子どもの気持ちに寄り添う支援、子どもたちが自立するために必要な支援を実施する為の基礎力を養う。 4. 社会的養護の実現に向けて、職場や関係機関との連携の為に必要な基本となる知識とコミュニケーション力の基礎を養う
到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	1. 社会的養護の制度や実施体制について説明できる。 2. 社会的養護の形態と、その原理について理解し、保育士としてその原理に基づいた思考・判断ができる。 4. 社会的養護の現状とその課題について把握し、問題意識を持つことができる。
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<評価方法> 定期試験：60% 定期試験を実施します。授業全般の理解度を評価します。 課題シート・振り返りシート：20% 授業に臨む前の予習の態度(授業参加への積極性)、授業で何が修得できたか、授業内容について深く考察できたかを評価します。 受講態度：20% 授業への集中、グループワーク等の貢献度、説明に対しての積極的傾聴態度、授業内容の記録、教員の質問・問いかけに対し真剣に考えているか等を評価します。 <評価基準> 別途、ルーブリックに従う
教科書	新・基本保育シリーズ6「社会的養護Ⅰ」、相沢仁他編著、中央法規、2019年発行、2,200円
参考書	授業中に適宜配布する
準備学習(予習・復習等)の具体的な内容および必要な時間	社会的養護は、社会福祉・児童家庭福祉をベースに授業を展開するので、これらの科目のテキストや資料を再読すること。
履修上の注意、条件等	子どもたちとその背景にある環境を、保育の専門職として幅広い視点で考えてみてください(個人の主観的な感情ではなく)。
オフィスアワー	研究室にて基本的にはオフィスアワー受け付ける。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 社会的養護Ⅱ

授業コード：

英文科目名称： Care of Societ Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	2年生	1単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
横溝一浩			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	
添付ファイル			
社会的養護Ⅱmap. pdf		カリキュラムマップ	
社会的養護2R. pdf		ループリック	

講義概要	社会的養護に関する基本的な重要（必要）事項の学習とそれに関する演習課題への考察を通して、児童福祉施設の保育士が行う児童ケア（のあり方）を的確にとらえるための基本的視点を学ぶと同時に、施設の保育士に求められる倫理・資質を学ぶ。 【他の科目との関連】 「社会的養護」における社会的養護の制度と実施体系、施設養護の基本原則、児童の権利擁護等に関する基本的な学びを、演習課題への考察等を通してさらに深めていく。 【教員の実務経験】 家庭養護における実務経験（里親経験）から、要保護児童の自立支援、養子縁組里親の支援 NPO法人における活動から障害児（者）の支援についての具体的方法を教育に活かしたい。		
授業計画および学習形態	各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。		
第1回	子どもの権利擁護 子どもの権利擁護（演習・課題シート1） 社会的養護における子供の権利擁護について理解し、その基本的なあり方について学ぶ。 B：少 E：あり F：あり 予習：権利擁護とは何か、社会福祉ならびに社会的養護1の教科書を読んで理解しておく（1時間）		
第2回	保育士の倫理と責務 社会的養護における子どもの理解（演習・事例検討） 社会的養護のもとで生活する子どもの理解の方法や」その家庭環境について理解を深める。 B：少 E：あり F：あり 予習：施設入所児童の入所理由や措置理由を調べる（1時間） 復習：「あたりまえの生活」の「あたりまえ」とは何か考える（1時間）		
第3回	施設養護の特性および実際1 社会的養護の内容 ①日常生活支援（演習） 日常生活のモチ意味、日常生活を支えるとは具体的に何をすることなのかを学ぶ。 B：少 E：あり F：あり 予習：日常生活を過ごすために、どのような知識や技能が必要か（生活能力）、児童の年齢に応じて具体的にまとめる（1時間） 復習：日常生活支援がなぜ必要日考える（1時間）		
第4回	施設擁護の特性および実際2 社会的養護の内容 ②心理的支援（演習） 社会的養護で行われる基本的な心理的紫衣bんを事例を通して学ぶ。 B：少 E：あり F：あり 予習：愛着障害、パーソナリティ障害について調べる（1時間） 復習：被虐児童の被害的世界観について考える（1時間）		
第5回	施設養護の特性および実際3 社会的養護の内容 ③自立支援（演習・課題シート1） 自立支援について事例を通して「自立」とは何かを学ぶ。 B：少 E：あり F：あり 予習：自立とは何か、社会福祉並びに児童家庭福祉の教科書を読んでまとめておく（1時間）		
第6回	個別支援計画の作成1 施設養護の生活特性および実際 ①乳児院等（演習・事例検討） 施設擁護の中で、乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設について、それぞれの施設の支援対象や特性を確認した上で、施設における援助内容について演習を通して学ぶ。 B：少 E：あり F：あり 予習：乳児院の法的根拠ならびにケアについて児童家庭福祉並びに社会的養護Ⅰの教科書を読み理解する（1時間）		
第7回	個別支援計画の作成2 講施設養護の生活特性および実際 ②障害児施設等（演習・事例検討） 児童心理治療施設や障害児施設の特性を確認した上で、施設における援助内容について演習を通して学ぶ。 B：少 E：あり F：あり 予習：法律で定義される障害の種類について離開する（1時間） 復習：障害児（者）のケアや社会参加について、どのような課題があるかまとめる（1時間）		
第8回	家庭用後の生活特性及びj実際 家庭養護の生活特性および実際（演習・事例検討） 家庭養護について確認し、一般家庭との違い、保育士に求められる役割、里親家庭の抱える課題について演習を通して学ぶ。 E：あり F：あり 予習：児童家庭福祉ならびに社会的養護Ⅰの教科書を参考に里親の種別を離開する（1時間） 復習：里親養育を推進するにあたってどのような社会的課題があるか考える）1時間）		
第9回	自アセスメントと個別自立支援計画の作成		

	アセスメントと個別支援計画の作成〈演習・事例検討〉 アセスメント（事前評価）とは何かを学び、演習を通して、個別支援計画、自立支援家一句について学ぶ。 B：少 E：あり F：あり 予習：第4回の演習を参考に施設擁護の下で生活する児童の特性について振り返る（1時間） 復習：教科書のコラムを参考に依存欲求の強い児童に対する支援を考える（1時間） 第10回 記録および自己評価 記録および自己評価〈演習〉 記録の意義と役割、専門職としての自己評価、部門の評価方法について学ぶ。 B：少 E：あり F：あり 予習：記録の意義についてまとめる（1時間） 復習：自己評価の際に客観性を保つには何が必要か考える（1時間） 第11回 社会的養護における保育の専門性に関わる知識・技術者とその実際 社会的養護における保育の専門性にかかわる知識・技術とその実践 〈演習・事例検討〉 B：少 E：あり F：あり 予習：保育所保育指針の「養護」に関わる部分を読み理解を深める（1時間） 復習：保育所保育しと施設保育士の専門性の共通点と違いについてまとめる（1時間） 第12回 記録と自己評価 社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践〈演習・事例検討・課題シート2〉 社会的養護における保育士の役割や位置づけを確認した上で、被虐待児童に対する対応について演習を通して学ぶ。 B：少 E：あり F：あり 予習：記録の意義についてまとめる（1時間） 復習：自己評価の際に客観性を保つには何が必要か考える（1時間） 第13回 ソーシャルワークに関する知識・技術とその応用 社会的養護におけるソーシャルワーク（知識・技術とその応用）〈演習・課題シート3〉 社会的養護の領域におけるソーシャルワークの知識や技術を演習を通して理解する。 B：少 E：あり F：あり 予習：ソーシャルワークのプロセスについて離開する（1時間） 復習：ソーシャルワークの原理やプロセスが、実際にどのように活用されるか考える（1時間） 第14回 社会的養護における家庭支援 社会的養護における家庭支援と社会的資源 〈演習〉 社会的養護の支援対象は児童だけではなく、保護者。家庭も含まれる事を確認した上で、演習を通して家庭支援のための前提である総合的なアセスメントについて学ぶ。 B：少 E：あり F：あり 予習：あなたがイメージする「幸せな子育て家庭」について文章__イラストなどでまとめる（1時間） 復習：家庭が抱える課題とどのような支援が必要かを考える（復習） 第15回 学に振り返り 今各自の到達度チェックと学修成果の確認
教育目標との関連	（要保護児童とその家族への支援を行う）施設の保育士の児童ケアにおける基本姿勢やそこで求められる倫理・資質の理解は、そのまま（施設・保育所等を問わず）保育士に広く求められる倫理・資質に直結するものと考えられる。授業や演習課題に主体的に取り組むことが、保育士としての「豊かな感性と愛の心」を育てることにつながる。
到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	1. 社会的養護の対象児童と子どもの権利擁護の目的、機能、役割について説明できる。 2. 施設の保育士が行う児童ケア（のあり方）を的確にとらえるために養護の基本原則に基づいた思考や判断ができる。 5. 施設の保育士に必要なケースカンファレンスの基本的なスキルとして他者の意見を尊重し協調することができる。
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	＜評価方法＞ 期末レポート 40% ワークシート・課題シート1～3 60% ワークシート：指定した主要な演習課題についての各自の考察 理解度確認テスト：各テーマ理解度の確認 また、授業に対する関わり方（積極性や協調性など）も総合的に評価する。 ＜評価基準＞ 別途、ルーブリックに従う。
教科書	新・基本保育シリーズ18「社会的養護Ⅱ」、相沢仁他編著、中央法規、2019年発行、2,000円
参考書	適宜、プリントを配布する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	・「社会的養護Ⅰ」の学習内容を復習・確認する。 ・新聞等の児童家庭問題に常に関心をもって受講すること。
履修上の注意、条件等	毎回の演習課題に主体的に取り組むこと
オフィスアワー	研究室にて基本的にはオフィスアワー受け付ける。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 子どもの食と栄養

授業コード：

英文科目名称： I n f a n t N o u r i s h m e n t

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期または後学期	2 年	2 単位	卒業選択、保育士必修
担当教員			
田中 芳子			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：無	
添付ファイル			
「子どもの食と栄養」ループブック.pdf			
「子どもの食と栄養」カリキュラムマップ.pdf			

講義概要	人は適切な食事により、健全な生活を営むことが出来る。小児期は、発育・発達という特性も加わるので、栄養摂取は特に重要である。更に小児期は食生活の基礎が作られる時期でもあり、この時期の食環境がその後の生涯の健康を大きく左右する。以上を理解し、子どもの成長に即して実践してゆく力を養う。 「遠隔授業（配信）」及び「対面授業」で行う。 他の科目との関連：「子どもの保健で学ぶ、乳汁栄養、離乳、幼児期の栄養をより実践的に学び、体験する。」		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回	子どもの健康と食生活の意義 食と栄養を学ぶ上で、『子ども』とはどのような存在か理解し、何を学ぶべきか確認する。 子どもの身体発育と栄養状態の把握を学ぶ。 復習：教科書P1～P25を読んでおくこと。 F:あり 食に関する器官の発育と発達 食に関する体の構造、消化・吸収のしくみを確認したうえで、子どもの食べる機能と消化吸収機能の発育・発達を理解する。 F:あり 栄養に関する基礎知識① 種類と働き 栄養素の種類と働きを理解する。（五大栄養・炭水化物・脂質） F:あり 栄養に関する基礎知識② 五大栄養素 栄養素の種類と働きを理解する。（たんぱく質・ビタミン・無機質） 復習：教科書P35～P49を読んでおくこと。 F:あり 栄養に関する基礎知識③ 食事摂取基準 日本人の食事摂取基準から必要な食事量を学ぶ。 F:あり 栄養に関する基礎知識④ 食事構成 食事構成に関する基礎知識を知り、運用できるようになる。 食事バランスガイド 復習：教科書のP50～P64を読んでおくこと。 F:あり 乳児期の食生活① 母乳栄養 乳汁栄養（母乳栄養）について理解する。 復習：教科書P65～P74を読んでおくこと。 F:あり 乳児期の食生活② 人工栄養 乳汁栄養（人工栄養）について理解する。 復習：教科書P74～P79を読んでおくこと。 F:あり 乳児期の食生活③ 実習① 調乳 調乳実習 正しく調乳出来るようになる。色々な殺菌法を学ぶ。 A:多 E:あり 乳児期の食生活④ 実習② 調乳 調乳実習 同上 配慮の必要な子どもの食生活① 疾病及び体調不良の子どもへの対応を理解する。障がいを持つ子どもの食生活を理解する。 復習：教科書P131～P154を読んでおくこと F:あり 配慮の必要な子どもの食生活② 食物アレルギー（アレルギーガイドライン）を理解し、その対応を学ぶ。 復習：教科書P142～P146を読んでおくこと F:あり 乳児期の食生活⑤ 離乳とは 離乳の意義とその必要性を理解する。 F:あり 乳児期の食生活⑥ 離乳の実際 離乳の進め方、調理の特徴等を理解する。 F:あり	

	第15回 乳児期の食生活⑦ 演習① ベビーフードの試食を通して、離乳食の味や形状を体験する。 F：あり 第16回 乳児期の食生活⑧ 演習② 野菜の切り方を通して、調理技術を学ぶ。 離乳食に欠かせない、野菜の加熱による変化を体験する。 F：あり 第17回 乳児期の食生活⑨ 演習③ 離乳食の基礎となる「おかゆ」を作れるようになる。 F：あり 第18回 乳児期の食生活⑩ 演習④ 大人の料理からの取り分けを通し、離乳食作りの要点を理解する。 F：あり 第19回 幼児期の食生活① 幼児期の栄養の特徴を理解する。 日本食への理解を深める。 復習：教科書P95～P108を読んでおくこと。 F：あり 第20回 幼児期の食生活② 幼児期の食事の留意点を考察する。 F：あり 第21回 幼児期の食生活③ 演習⑤ 間食 おやつ作りを通して、間食の意義と内容を考える。 F：あり 第22回 幼児期の食生活④ 演習⑥ 間食 同上 第23回 幼児期の食生活⑤ 実習③ だし 調理実習 「だし」の取り方、使い方を通して、和食の基本や調理技術を学ぶ。 A：多 E：あり 第24回 幼児期の食生活⑥ 実習④ だし 調理実習 同上 第25回 食育① 食育の必要性 現代の日本人が抱える食の問題を知り、食の在り方を考察する。 復習：教科書P109～P120を読んでおくこと。 第26回 食育② 演習⑦ 今まで学んだこと（栄養・発達・食育）を総括しながら、お弁当の内容を考える。 F：あり 第27回 食育③ 保育所での食育 なぜ今、食育が必要とされているか理解し、育てたい「食べる力」を考察する。家庭や児童福祉施設における食生活を通しての支援の仕方を考える。 復習：教科書P155～P161を読んでおくこと。 第28回 食育④ 演習⑧ ポスター作りを通して、「食を通して伝えたい事」、またその「伝え方」を考える。 F：あり 第29回 生涯発達と食生活 生涯を通して健康に生活するために必要なことを考える。 母体と胎児の関係を知る。 復習：教科書P121～P129を読んでおくこと。 F：あり 第30回 学習到達度の確認・解説 学習到達度の確認テストを実施する。その後設問について解説を行う。
教育目標との関連	子どもの食生活は大人の作り出す食環境の影響を強く受ける。子どもにとって望ましい食環境・食生活とはどのようなものか常に考え、実践・提供できる力を身につける。
到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	1. 健康な生活の基となる食に関する基礎的知識を理解し、子どもの発育・発達と関連付けて説明できる。 3. 発達段階に合わせた、正しい食事を選択、準備できる。 3. 子どもを取り巻く食の現状から、食育の必要性を理解し、日々の生活の中で「食」の大切さを伝えることができる。 1. 特別な配慮の必要な子どもの食に関わる対処法を理解、実践できる。 添付資料のカリキュラムマップを参照
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	試験 50%・第30回目の授業時間内に試験を実施し、授業の内容全般について理解度の評価を行う。 (試験の解説も同時時間内に行う。) 平常点評価 50%・随時、授業理解を補う作業課題を提出してもらい、参加姿勢を評価する。 ・調理実習時、服装（エプロン、三角巾、ハンドタオル、上履き）を評価の対象とする。 実習中の態度、協力度を評価する。 実習の内容のまとめ、感想等提出してもらい、参加姿勢を評価する。 ・提出課題のルーブリックは最初の授業で配布する。 成績評価は添付資料のルーブリックを参照
教科書	子どもの食生活 第4版 上田 玲子 編著 赤石 元子著 他 ななみ書房
参考書	授業中に、適宜、資料を配布する。

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	授業理解を補う作業課題（主に調べ学習）を行う。30分 常日頃、新聞やニュース等の食に関する記事に関心を持って、生活すること。
履修上の注意、条件等	・「子どもと食」に関して、学びたいという気持ち、態度があること。 ・調理実習時には、エプロン・三角巾・ハンドタオル・上履が必要。
オフィスアワー	質問等に関しては、googleclassroomの限定コメントにより受け付ける。
備考・メッセージ	・調理実習の都合により、授業の順番が変わることがある。 ・今年は遠隔授業のためアクティブラーニング度はこの通りではない。 ・第1回～第8回・第11回～第22回・第25回～第29回は遠隔授業（配信） - 第9回・10回・23回・24回・30回は対面授業とする。

講義科目名称： 自然遊びと生活環境保全Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	2年生	1単位	卒業選択、幼免選択、保育士必修
担当教員			
入江和夫 入江三津子 Won Jongbin			
授業形態：演習	担当形態：	実務経験：なし	
添付ファイル			
自然遊びと生活環境保全IIカリキュラムマップ.pdf			
自然遊びと生活環境保全IIループリック.pdf			

講義概要	短大付近を散策すれば、都会の車の騒音などは聞こえず、風による葉の重なりあう音がまるで海の波の音のように聞こえ、歩けば落ち葉の絨毯が感じられる自然環境が豊かな場所である。また、四季の変化を実感できる場所でもある。一方、短大から駅まではバスや乗用車がひんぱんに通る中、親子が幼稚園に通う姿や公園で遊ぶ姿が見られる生活環境もそこにある。保育者として、遊びの素晴らしさについて、また安全や健康を守る観点からの生活環境について、体験や実験を通して考えていくことは非常に重要である。 そこで、これらの学習を「資質・能力の三つの柱」及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の観点から捉え、幼稚園や保育園などの活動に役立てることができるように行う。 他の科目との関連：1年生前期の「自然遊びと生活環境保全I」の内容は春から夏の中の活動であるが、この科目は秋から冬の季節の活動で、1年間の季節の変化が感じられる内容になっている。また、1年前期「幼児と環境」の体験型の学習内容となっている。これら科目を土台にしながら専攻科「保育内容特論」では保育者の観点から環境構成や活動計画を立案できるようにしている。		
授業計画および学習形態	第1回	オリエンテーション及び「育みたい資質・能力」の観点から考えるおもちゃ遊び この授業全体について「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の観点からこの活動を考える意義を説明する・予習：シラバスを読んでおく。復習：「授業の振り返り」を classroom で提出 (約2時間) A：中 B：小 D：小 E：あり F：あり	
各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A：グループワーク B：ディスカッション C：フィールドワーク D：プレゼンテーション E：振り返り F：宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第2回	投げコマ遊び 正月などに行われている遊びの一つであるコマ回しを行い、10級から初段までの技の習得を目指す。予習：回し方の解説や技が紹介されているwebを読んでおく。復習：「授業の振り返り」を classroom で提出 (約2時間) A：中 D：中 E：あり F：あり	
	第3回	秋の自然散策 短大から里山までネイチャーゲームを行いながら散策する。予習：ネイチャーゲームの解説書を読んでおく。復習：「授業の振り返り」を classroom で提出 (約2時間) A：多 B：小 C：中 D：小 E：あり F：あり	
	第4回	どんぐりおもちゃ製作 短大には多くの種類のどんぐりがあり、それを集め、おもちゃを製作する。多くの。予習：解説書を読んでおく。復習：「絵日記」のメール提出 (約2時間) A：中 D：中 E：あり F：あり	
	第5回	安全に配慮した自然散歩コースづくり① 自然散策を行うための安全に配慮した整備を行う。予習：事前に配信するclassroom解説書を読んでおく。復習：「授業の振り返り」を classroom で提出。復習：「授業の振り返り」を classroom で提出。 (約2時間) A：中 C：中 E：あり F：あり	
	第6回	安全に配慮した自然散歩コースづくり② 自然散策を行うための安全に配慮した整備を行う。予習：事前に配信するclassroom解説書を読んでおく。復習：「授業の振り返り」を classroom で提出。復習：「授業の振り返り」を classroom で提出。 (約2時間) A：中 C：中 E：あり F：あり	
	第7回	ネイチャーゲーム① 手引書に従ってネイチャーゲーム「落ち葉の窓」などを実践し、保育の観点から意義を理解する。予習：事前に配信するclassroom解説書を読んでおく。復習：「授業の振り返り」を classroom で提出。 (約2時間) A：中 C：中 E：あり F：あり	
	第8回	ネイチャーゲーム② 手引書に従ってネイチャーゲーム「しぜんだいすきさがし」などを実践し、保育の観点から意義を理解する。予習：事前に配信するclassroom解説書を読んでおく。復習：「授業の振り返り」を classroom で提出。 (約2時間) A：中 C：中 E：あり F：あり	
	第9回	フリスビー遊び 古新聞紙を利用したフリスビーづくりとその遊びを行う。事前に配信するclassroom解説書を読んでおく。復習：「授業の振り返り」を classroom で提出。 (約2時間) A：中 C：中 E：あり F：あり	
	第10回	交通安全① 短大近くの小学校の通学路を歩き、危険だと感じられる箇所の写真を撮り、幼稚園などの安全教育として役立てる。事前に配信するclassroom解説書を読んでおく。復習：「授業の振り返り」を classroom で提出。 (約2時間) A：中 C：中 E：あり F：あり	
	第11回	交通安全② 短大近くの小学校の通学路を歩き、危険だと感じられる箇所の写真を撮り、幼稚園などの安全教育として役立てる。事前に配信するclassroom解説書を読んでおく。復習：「授業の振り返り」を classroom で提出。 (約2時間) A：中 C：中 E：あり F：あり	
	第12回	室内空気汚染① 室内の化学物質による健康被害の事例から対策を安全教育として役立てる。事前に配信するclassroom解説書を読んでおく。復習：「授業の振り返り」を classroom で提出。 (約2時間) A：中 B：小 D：中 E：あり F：あり	
	第13回	室内空気汚染②	

	室内の化学物質による健康被害の事例から対策を安全教育として役立てる。事前に配信するclassroom解説書を読んでおく。復習：「授業の振り返り」をclassroomで提出。（約2時間）A：中 B：小 D：中 E：あり F：あり 第14回 学習到達度確認テスト及び振り返り① この授業に関する学習成果を測る到達度テストを行い、授業全体のまとめを行う。予習：授業全体をまとめておく。復習：「授業の振り返り」をclassroomで提出。（約2時間）A：中 B：小 D：中 E：あり F：あり 第15回 振り返り② 「自然遊びと生活環境保全」の振り返り、テストのフィードバック、まとめをする。（約2時間）A：中 B：小 D：中 E：あり F：あり
教育目標との関連	自然体験や安全な生活環境に関する「知識・理解」並びに「表現力」を修得する。
到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	1 「季節の自然遊び」及び「子どもの生活環境保全」を保育に役立つ視点から関係づけることができる。 2 「季節の自然遊び」及び「子どもの生活環境保全」で得た知識・理解を基にどのような保育活動が適切なのかを工夫し、思考することができる。 3 秋から冬の自然の美しさや面白さの発見を通して生命の尊重の大切さを理解し、表現できる。 到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること。
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	・授業全般について、①期末試験では授業の内容全般についての理解度を評価する（85%）、classroomなどによる振り返り「感想及びわかったこと」提出（15%） 評価基準は添付資料のカリキュラムマップを参照すること。
教科書	保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説
参考書	授業中に適宜、資料を配布する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	各回の予習、復習は上記の通り
履修上の注意、条件等	classroomなどによる振り返りの「感想及びわかったこと」提出
オフィスアワー	研究室前に掲示
備考・メッセージ	保育者になる意識で授業に参加しましょう。

講義科目名称： 英語コミュニケーションI

授業コード：

英文科目名称： English Communication I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	1 年	1 単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
Mary Jones			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	
添付ファイル			
カリキュラムマップ ルーブリック評価 英語コミュニケーションI.pdf			

講義概要	このグローバルな社会では、英語が必要な場面があります。日本で働いても、英語が必要な時が来る可能性があります。2020東京オリンピックに向けて、簡単な日常英会話を身につけましょう。中学校の英文法を身に付ければ、日常英会話の9割ができます。この授業では、基本の英文法を復習しながら、英会話を練習します。ジョーンズは20年間英語を教える経験があります。保育園から小学校、大学生と社会人まで教えた経験から、コミュニケーションに自信が付くように授業を行います。		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回	Unit 1	It's Nice to Meet You Be動詞を使った英文を勉強しながら、英語で自己紹介できるようになります。 A:中 E:あり F:あり
	第2回	Unit 2	Take A Hike 一般動詞の現在形を使った英文を勉強しながら、自分の1日の行動を英語で説明できるようになります。 A:中 E:あり F:あり
	第3回	Unit 3	Don't Wear Your High Heels 代名詞を使った英文を勉強しながら、自分の家族や友人を紹介できるようになります。 A:中 E:あり F:あり
	第4回	Unit 4	There's Nothing in My Backpack 前置詞を使った英文を勉強しながら、自分の回りにあるものの位置関係を英語で説明できるようになります。 A:中 E:あり F:あり
	第5回	Unit 5	What a Small World! 英語の疑問文の使い方を勉強しながら、相手に英語で質問をして、必要な情報を聞き出せるようになります。 課題1 提出：自己紹介・日常生活について A:中 E:あり F:あり
	第6回	Unit 6	Let's Eat 現在進行形を使った英文を勉強しながら、自分が今やっていることを英語で説明できるようになります。 A:中 E:あり F:あり
	第7回	Unit 7	It's a Date 過去形を使った英文を勉強しながら、その日自分がしたことを英語で説明できるようになります。 A:中 E:あり F:あり
	第8回	Unit 8	I Have to Study 助動詞を使った英文を勉強しながら、自分ができる、やらなければならないことを英語で言えるようになります。 A:中 E:あり F:あり
	第9回	Unit 9	こども教育コース：What Do You Think of My Sketch? 疑問詞を使った英文を勉強しながら、場所や価格について英語で説明できるようになります。 国際こども教育コース：Ottawa ? The Capital 接続詞を使った英文を勉強しながら、長い文を英語で言えるようになります。 食べ物注文するときを使う表現を勉強します。

	第10回	A:中 E:あり F:あり Unit 10 Kanji is So Difficult 不定詞・動名詞を使った英文を勉強しながら、自分が好きなことや嫌いなことについて英語で説明できるようになります。 課題2提出: Last Weekend
	第11回	A:中 E:あり F:あり Unit 11 I' ll Make a Birthday Cake 未来形を使った英文を勉強しながら、これからの予定について英語で説明できるようになります。
	第12回	A:中 E:あり F:あり Unit 12 Saturday or Sunday? 接続詞を使った英文を勉強しながら、おすすめのお店について詳しく英語で説明できるようになります。
	第13回	A:中 E:あり F:あり Unit 13 I' m Not Good with Computers 現在完了形を使った英文を勉強しながら、自分の経験について英語で話せるようになります。
	第14回	A:中 E:あり F:あり Unit 14 Which is Better? 比較級・最上級を使った英文を勉強しながら、自分が好きな料理について、比較しながら英語で説明できるようになります。
	第15回	A:中 E:あり F:あり Unit 15 Surprise! 受動態を使った英文を勉強しながら、自分のお気に入りの本や音楽について英語で説明できるようになります。 課題3提出: Next Weekend 課題3提出: My Recommendation A:中 E:あり F:あり
教育目標との関連	早期英語教育が人気であり、外国人の子供が増えているという日本の状況で、外国人と簡単な日常英会話でコミュニケーション取れないといけない場面が多くなります。この授業ではその力をつけながら、基本の英文法を身につけます。	
到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	1. 英語でコミュニケーションをできる基本な表現や語彙を理解できる 2. 海外や異文化に対する興味や関心を高めることができる 3. 英語で自分のことを表現できる	
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	宿題 平常点評価 課題提出 単語テスト	20% 毎週短いライティングの宿題が出ます。 20% グループワークの貢献度・参加度を評価します。 30% ライティングの課題が3回です。 30% 毎週、単語テストがあります。
	なお、提出課題についてはルーブリックの表を別途配布し、各項目のパフォーマンス評価を行います。	
教科書	こども教育コース「English First Starter」 Robert Hickling & Misato Usukura著 金星堂出版	
参考書	「マーフィーのケンブリッジ英文法（初級編）」 Raymond Murphy 著 Cambridge University Press 出版	
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	毎週、前週の授業に出た英単語テストがあります。	
履修上の注意、条件等		
オフィスアワー	授業前後に教室で受け付ける。	
備考・メッセージ	英語が苦手も、やる気が大切です！積極的に参加しましょう！	

講義科目名称： 保育・教育方法技術論

授業コード：

英文科目名称： Child care and education process engineering theor

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	2 年	2 単位	卒業選択、幼免必修、保育士必修
担当教員			
富金原光秀			
授業形態：講義・演習	担当形態：単独	実務経験：あり	
添付ファイル			
カリキュラムマップ(保育・教育方法技術論).pdf			
保育・教育方法技術論ループブック.pdf			

講義概要	現代の幼児教育に必要なとなる保育・教育方法並びに技術の習得が喫緊の課題となる。 本授業では、まず西洋と日本の教育方法の歴史的変遷について理解し、その歴史的意義や基礎的知識を習得する。 次に、基本となる学習指導理論と基礎的技術を踏まえつつ、教育目標、内容、評価との関連性について理解を深める。 続いて保育・教育現場における授業（活動）設計の方法と情報機器及び教材や教具の効果的な活用方法について実際に指導計画を立案・発表する。 後半では、子どもの発達過程に基づいた幼児理解と指導や援助のあり方について見識を深めながら、世界の幼児また教育の現代的潮流、幼児教育と小学校以降の教育連携について考察し、今後の教育方法の課題と展望について検討する。 担当講師は保育所や幼稚園での製作活動や子育て支援事業におけるフィールドワークを行っている。その現場経験を交えて、保育現場での子どもや保護者に対する指導方法や援助方法について理解を深めていく。		
授業計画および学習形態	第1回	「西洋と日本における教育理論及び教育方法の歴史的展開」 現代の幼児教育に必要なとなる保育・教育方法並びに技術の習得が教職において喫緊の課題となる。初回の授業では、まず西洋・日本における教育方法の歴史的変遷について理解し、ヘルバルト・デューイ・スキナー・ブルーナーらによる系統的学習、問題解決的学習、発見的学習の指導形態と過程を理解する。また、フレーベル・モンテッソーリ・ボルノー・倉橋惣三など近代における幼児教育発展の歴史、保育・教育方法や技術についての学習指導理論や基礎的知識を習得する。 予習：教科書第1章を読んで、重要な事項について要点をまとめる。（約2時間） B：少	
各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第2回	「授業・保育を構成する単元設定、使用教材、授業（活動）の組み立て方」 授業を計画する際に、なにを、どのように、どのような手順で構成するのか、教育目標の設定から単元についての授業設計と、使用教材や教具、指導形態や指導過程にいたる学習指導について、授業を構成する要素や方法について理解する。 予習、復習：前回学んだ学習指導理論について要点をまとめる。授業計画の手順について教科書・資料を確認しておく。（約2時間） B：少	
	第3回	「学習指導・生徒（幼児）指導における基礎的技術と授業設計（話法・板書等）」 教職の資質と能力にかかわる授業の基礎的技術について、発問や指示の仕方、話法や板書を含む授業展開や指導方法の確認と、幼少期の活動内容や授業を適切に設計する方法について理解する。 予習、復習：一斉・グループ・個別指導の利点と問題点について教科書・資料等を確認し、重要な事項について要点をまとめる。改訂幼稚園教育要領の総則を読んでおく。（約2時間） B：少 E：あり	
	第4回	【振り返り①】第1回～第3回までの授業の振り返り、小テストを実施（重要な語句の説明、記述式問題等） 「幼稚園教育要領、学習指導要領における基本方針及び保育・教育方法」 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、学習指導要領から、保育・教育の基本事項について理解する。また、「生きる力」「主体的・対話的で深い学び」等、保・幼・小に共通する教育理念の確認、幼児の生活や遊びを通しての指導方法、環境を通して行う教育方法について理解を深める。 予習、復習：幼稚園教育要領、保育所保育指針の主な変更点について要点をまとめる。（約1時間） B：中	
	第5回	「幼少期の学習指導の形態と保育・教育方法（主体的・対話的な学習について）」 幼少期のさまざまな保育・教育形態の特徴を理解し、目的や状況に応じた保育形態の選択や、子どもたちの興味、関心、意欲を引き出すための保育・教育の方法・教材づくりについてグループワーク及びディスカッションを行う。また情報機器を効果的に活用した主体的・対話的な授業デザインの保育方法について、一例を示しながら理解を深める。 予習、復習：保育形態や方法の種類及びそれらの利点と問題点について要点をまとめる。（約1時間） A：中 B：少	
	第6回	「授業・保育評価の目的・役割・対象・方法（客観的基準・個別評価軸・評価の収集）」 授業・保育活動の何を、どう評価するのかについて、学習目標に応じた評価方法の種類と選択、評価・振り返りの際の記録の重要性や保存方法について理解を深める。また、指導過程の成果や授業設計についての省察・改善に向けた自己評価の目的・役割についてディスカッションを行い、保育の質の向上について考察する。 予習、復習：幼児教育の適切な評価のあり方について検討し、その理由を含めてまとめる。（約1時間） B：中 E：あり	
		【振り返り②】第4回～第6回までの授業の振り返り、小テストを実施（重要な語句の説明、記述式問題等）	

	式問題等) 第7回 「保育指導計画立案の指導目標及び作成手順（PDCA・PDSサイクルの実施）」 改訂幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、長期・短期指導計画及び指導案と作成上の基本的事項、留意事項を確認し、園児の理解にそった計画的な評価のあり方について理解する。また、PDCA・PDSの一連のサイクルについて言及し、保育目標、内容、評価との関連、指導と評価の一体化の重要性を理解する。 予習、復習：改訂幼稚園教育要領、保育所保育指針の保育指導計画の基本事項を読んでおく。保育目標、内容、評価との関連について要点をまとめる。（約2時間） B：少 第8回 「情報メディア・情報機器を効果的に活用した学習方法」 教育メディアの発達と技術の革新、情報メディアや情報機器の効果的活用について理解を深める。ICTを活用した情報機器の教材など、具体例を示しながら、情報メディアの選択や効果的な教材の活用についてグループワーク、ディスカッションを交え考察・検討する。 予習、復習：グループディスカッションで検討した事項の要点について各自まとめる。情報社会の問題点について考察する。（約1時間） A：中 B：少 第9回 「情報メディアの活用とメディアリテラシー（情報モラル教育・セキュリティ対策）」 情報社会における光と影、情報社会におけるリテラシー向上の視点、情報セキュリティ対策、ネット上のトラブル対策やいじめ対応を含む情報モラル教育について、昨今の社会的な事件や事例を踏まえながら、今後の情報教育の目標とメディアリテラシー教育の必要性について考察する。 予習、復習：ネットや新聞記事から、情報モラルに関する記事を探し、保存・保管しておく。（約1時間） A：中 B：少 E：あり 第10回 【振り返り③】第7回～第9回までの授業の振り返り小テストを実施（重要な語句の説明、記述式問題等） 「情報機器を効果的に活用した保育方法の考察と学習教材の作成」 ICT利用の方法と関連教材について概観し、情報機器を効果的に活用した保育方法を考案する。保育の部分活動を想定しながら、計画（Plan）・実施（Do）・評価（See）各3段階サイクルのICTの活用場面について、それぞれグループごとにディスカッションを行い、Web等からヒントを得ながら学習教材を作成する。 予習、復習：グループごとに考案した学習教材の保育活動を構想し、要点をまとめ提出する。（約1時間） A：中 B：少 D：中 第11回 「世界の保育方法とその潮流（インストラクショナルデザイン等による授業設計）」 テファリキ、レッジョエミリア、モンテッソーリ等世界の保育方法の特徴について概観する。また、行動主義や認知主義をはじめ、ヴィゴツキーの社会構成主義をICT教育に活用したCSCW、エンゲストロームの活動理論等、世界の潮流となる学習理論や手法を概観するとともに、システム工学の手法を取り入れたインストラクショナルデザインに基づく魅力ある授業設計や教材研究について、ガニエの9教授事象を交えながら分析する。 予習、復習：興味を示した世界の保育方法を1つ取り挙げ、ネットや資料等の情報を収集し、要点をまとめる。（約2時間） B：少 E：あり 第12回 【振り返り④】第10回～第12回までの授業の振り返り小テストを実施（重要な語句の説明、記述式問題等） 「子どもの発達過程から見る幼児教育の指導・援助方法（子ども理解・特別支援）」 子どもの発達過程を踏まえ、特別な配慮を必要とする園児への支援・援助方法、個別の教育及び保育支援計画の作成、保護者支援や保護者との連携など、子ども理解を深めるための保育者の基本姿勢を確認する。また、子どもをよりよく理解するためのインクルーシブ保育の意義や特別支援教育に関する支援の方法について理解を深める。 予習、復習：特別な配慮を必要とする園児への支援・援助方法について教科書・資料を読み直し要点をまとめる。（約1時間） 第13回 「幼児教育の現代的課題と小学校（就学後）教育の連携について」 子どもの健康及び安全対策、災害等危機管理対応策、子育て支援をはじめ多様な保育サービスやニーズの現状とその対応方法、特別支援教育や保・幼・小の連携、情報化や社会の国際化等々、今後、保育者が求められる資質や専門性について、グループワークやディスカッションを交えながら理解を深める。 予習、復習：幼児教育の現代的問題から一つ取り挙げ、ネットや新聞記事を調査し、問題点や改善点についてまとめる。（約1時間） A：中 B：少 E：あり 第14回 【振り返り⑤】第13回、第14回の授業の振り返り小テストを実施（重要な語句の説明、記述式問題等） 「授業総括と学習到達度の確認・各単元の解説」 授業総括となる学習到達度の確認を行う、また各単元の振り返りと解説、各自の到達度のチェックを行う。 実践力確認シートに記入する。授業の評価を行う。 B：少 E：あり
教育目標との関連	「保育・教育方法技術論」は保育活動における基礎的な学習理論、及び具体的な保育方法や技術についての内容とその教材研究や指導計画を学習する教科である。本科目を通じて、幼児期の発達段階を踏まえた保育の方法と技術、指導・援助の方法について探求する手がかりにしてほしい。保育者として自信をもって子どもとかわり、ともに成長していくことができるように、学生は本学の教育目標である幼児教育に関する専門的知識と技術を習得し、日本や世界の子どもたちの教育活動に広く関心・意欲をもって人間形成に貢献できる人格を備えることが求められる。 保育・教育の方法及び技術で示される教育目標は今後社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育てると同時に、人間性豊かで知性、感性、意志を備えた魅力ある保育者の資質と能力に関わる。

到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	1. 保育・教育の基本となる学習指導理論と基礎的技術を踏まえつつ教育目標、内容、評価との関連性について理解し、説明できる 3. 保育・教育現場における授業設計の方法と情報機器及び教材や教具の効果的な活用について論理的な理解に基づいて、指導案を提示できる。 5. 子どもの発達過程に基づいた幼児理解を深めながら、保育・教育方法や技術の現代的な課題や展望に向けて、自覚できている。 到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること。
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	定期試験 (40%) 14回目の授業時に、教科書・資料等を参考にして回答する理解度を確認（重要な語句の説明等） 振り返り (30%) ①②③④⑤小テストを合わせた評価 毎回の授業の中で振り返りを行う。ルーブリックの学修評価の活用 提出課題 (30%) 授業内で要点をまとめたレポート課題の提出 情報機器及び保育教材・教具を効果的に活用した課題・教材の提出 評価基準は添付資料のルーブリックを参照すること。
教科書	『新しい保育・幼児教育方法』 第4刷 広岡義之編著 ミネルヴァ書房 2013 ￥2,400
参考書	『幼稚園教育要領』 文部科学省 『保育所保育指針』 厚生労働省 『幼保連携授型認定こども園教育・保育要領』 内閣府 フレーベル館 2017 『授業設計マニュアルVer2～教師のためのインストラクショナルデザイン～』 稲垣忠・鈴木克明 北大路書房 2015 「必要に応じて資料・プリントを配布する」
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	各回の予習・復習は上記のとおりである。
履修上の注意、条件等	教職者をめざす学生として、自覚、自律のある態度をもって授業に取り組むこと。
オフィスアワー	大講義室及び遠隔授業についてはオンラインの限定コメントで質問・相談を受け付ける。
備考・メッセージ	様々な保育・教育方法を理解すること、それらを使い分ける事の大切さについて学習しましょう。 今年度は全14回遠隔授業（配信）を行う。各課題はグーグルフォーム及び画像（動画）をオンライン上で提出する。

講義科目名称： 保育・教職実践演習（幼）

授業コード：

英文科目名称： Practical Seminar for the Teaching Profession

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	2年	2単位	卒業選択、幼免必修、保育士必修
担当教員			
横溝一浩、入江和夫、山下晶子、中村麻衣子、尾近千鶴、大見由香、相澤京子、高畠扶貴、富金原光秀、松田こずえ			
授業形態：演習	担当形態：オムニバス		
添付ファイル			

講義概要	実習を含めた、これまでのすべての学修の成果について、保育専門職の視点で振り返りを行い、保育者に求められる資質について理解する。具体的には、履修カルテを用いて客観的に自己フィードバックを行い、これまでの学びを振り返りながら、グループ活動や現場の保育者の講話や指導を通して、保育者として必要な知識や技能を修得し実践力を高めていく。		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A: グループワーク B: ディスカッション C: フィールドワーク D: プレゼンテーション E: 振り返り F: 宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回	保育・教職実践演習のねらい（担当：横溝一浩・高畠扶貴） 演習の概要及びねらいについて理解する。 履修カルテの記入・分析を通して、自己課題を明らかにし、不足している知識・技能を補完していくために必要な学習に自ら取り組めるようにする。 予習・復習：シラバスを読み、概要を理解する。 B：中	
	第2回	保育現場におけるソーシャルワーク（担当：横溝一浩） 保育現場を取り巻く福祉的課題に焦点を当て、課題解決に向けて改めてソーシャルワークの技法を演習を通して確認する。また、コミュニケーション力は、個人の気質ではなく訓練によって習得するものである事についても確認し、今後の実践に活かせる力をつける。 A：中 B：中 D：中 E：あり	
	第3回	心理学から見た子ども理解・コミュニケーション力テスト（担当：中村麻衣子） 子どもを理解するためには、発達の道筋を知ることと、子どもを取り巻く社会文化的な側面を知ることが大切である。本講では、これまで学んだ生涯発達の理論を振り返りながら、現代の子どもを取り巻く環境的要因を踏まえ子ども理解を深める。さらに、最新の教育臨床心理学の知見を基に、保育・教育のありようを考える。 予習：ユニセフの「こどもの幸福度調査（2020年）」によれば、日本のこどもの精神的幸福度は38か国中37位であった。なぜだろうか？自分なりの意見を持って授業に臨むこと。 A：中 B：中 D：中 E：あり	
	第4回	子どもの健康を守るための保育（担当：尾近千鶴） 子どもの心と体の健康を守るために必要な保育を、保健の視点から理解する。まず、これまでの保健に関する授業・実習を振り返る。次に、昨今の感染症状況を踏まえ、国内外の情勢、社会文化的な側面、子どもの全面発達の側面から、子ども理解とより良い保育について、私達ができることを考察する。 予習：①ユニセフの「こどもの幸福度調査（2020年）」 日本のこどもの精神的幸福度は38か国中37位である。では、身体的健康（子どもの死亡率、過体重・肥満）は何位か？②感染症状況についての情報を収集しておくこと。自分の意見を持って授業に臨むこと。 A：中 B：中 D：中 E：あり	
	第5回	実習指導案に関する振り返りと保育内容「環境」教材（担当：入江和夫） （1）各自が立案した保育・教育実習指導案について、①子どもの実態②ねらい③活動④導入の内容を紹介するとともに、自分の感想及び園指導者からの助言についても紹介する。これらの情報を得ることで、今後、保育者としての資質・能力を高める材料として役立てる。（2）保育内容「環境」に関わる教材として、どのようなものが考えられるか意見を出し合う。 持参するもの：保育実習1と教育実習日誌及び指導案 予習：指導案の読み返し。 A：中 B：中 D：中 E：あり	
	第6回	保育教材としての絵本研究（担当：相澤京子） 保育所実習や教育実習での絵本体験を振り返りつつ、子どもの発達や保育者のねらいに沿った絵本の選択方法について、グループディスカッションなどを通して学ぶ。 予習：実習日誌を振り返り、自身や保育者が読み聞かせをした絵本をまとめておくこと。 復習：授業で取り上げた絵本を読んでみる。 A：中 D：中 E：あり	
	第7回	保育現場における現代的課題の検討（担当：横溝一浩・外部講師） 保育現場における今日的課題（保育課程の課題・保育者としての服務に関する課題、幼児理解に関する課題、家庭・地域に関する課題など）を取り上げグループ討議を行い、現場経験の豊富な保育者が指導助言を行う。 A：中 B：中 D：中 E：あり	
	第8回	～幼児の音楽活動、律動と表現活動～（担当：大見由香） 保育現場における「音」に関する事例を学び、実習で実際に経験した子どもの発達、配慮点や関わり方と照らし合わせてグループディスカッションを行い、発表する。 保育実習1と教育実習の日誌を持参すること。 予習：実習日誌を読み返し、音に関する活動や子どもの表現について振り返っておくこと。 A：中 B：中 D：中 E：あり	
	第9回	環境による保育～音楽あそびの事例～（担当：高畠扶貴） 幼児教育では、こども自らが自発的に能動的にはたらきかけが行われるような環境を構成することが求められる。環境すなわち間接的な刺激によって、どのように音楽活動を展開していくか実践を通して学ぶ。 予習：「幼児と表現」P. 39～42を熟読する。 A：多 C：多 E：あり	

	第10回 保育施設における子どもの安全に関するリスクマネジメント（担当：山下晶子） リスクマネジメントは、幼稚園、保育所、認定こども園にとって万が一の事故を未然に防ぐための大切なプロセスといえます。運営の中心の園長だけでなく、ベテランの主任の保育者から新人の保育者まで、園の職員全員が園児全員のこどもの命を守るという意識を持つことが大切なことです。日ごろからどのようなリスクマネジメントの取り組んでいるのか、また、マニュアルについて、また起こりうる事故防止、そして子どもの災害についての防災教育についてなど現場の事例等を用いて講義を行います。 A：中 B：中 D：中 E：あり 第11回 保育における多様性の尊重を学ぶ～海外の保育実践の視点から～（担当：松田こずえ） グローバル化する社会において、多様性の尊重や公平な意識を幼児が培うことの重要性が高まっている。保育において、どのようなアプローチをとることが望ましいかについて、海外の実践を例に学ぶ。 予習・復習：子どもをめぐるニュースや国際的なニュースなどに関心をもち、自分の考えをまとめておく。（約2時間） A：多 C：多 E：あり 第12回 プロジェクト・アプローチとクラス運営（担当：富金原光秀） 幼児教育は、保育者が子どもの発達過程を考慮し、計画を作成し実践することが主流となっている。アート教育を通して、子どもが自ら学べそうだと感じたところで発達が起こるとする。子どもの主体的な学びが叫ばれる中、子どもが学ぼうとするところに沿って保育をデザインし実践するプロジェクト・アプローチによる保育は、子どもの腹の底からの納得による学びとして有効であると考えられる。しかしその実践については、一般的に常に放任であるなど誤解も多く、また保育者主導となっても気づきにくいなど、未だ理論的に明確となっていないのが現状である。しかし、今後ますます生活の中で出会う、不思議さ、驚きに対して問い続け、思考すること、想像し創造することなどおもしろいと思う学びの構えの育成が重要となる。それらに対してプロジェクト・アプローチによる保育は有効であると確信している。この時間ではそれらの概要を解説する。 第13回 保育現場における課題解決に向けて地域の社会資源を学ぶ（担当：横溝一浩） 保育現場における今日的課題（保育課程の課題・保育者としての服務に関する課題、幼児理解に関する課題、家庭・地域に関する課題など）を取り上げ、その解決に向けての社会資源や地域ネットワークについて社会資源マップの作成を通して学ぶ。 A：中 B：中 D：中 E：あり 第14回 理想の保育者像についての討論（担当：高島扶貴） コミュニケーション力テストのフィードバックを行う。 理想の保育者像、理想の保育環境について各自でまとめるとともに、専門職としての自己課題を再設定する。 A：中 B：中 D：中 E：あり 第15回 総括、これまでの全体の振り返り、履修カルテの記入（担当：横溝一浩） 初回に立てた自己課題と、実際に行った学習方法についての振り返りを行う。さらに、履修カルテの見直しも行ったうえで、保育の専門職としての自己課題を再設定する。 D：多
教育目標との関連	実習をはじめとするこれまでの学びを振り返り、保育者の求められる資質能力について理解し、自己課題を設定する。 またグループ討議、グループワーク、模擬保育など現場を意識した学びを通し、保育者としての自覚と実践的な指導力を身につける。
到達目標 カリキュラムマップ	1. 子どもの発達状況に応じた適切な指導を行うことができるクラスの経営の基礎を習得する。 2 「幼稚園教育要領」に対応した教科や保育の的確な指導力・実践的なマネジメント力を身につける。 3. 現場における教員間の協調性、保護者・地域住民や地域の社会資源との連携の重要性を理解したうえで、対人関係を構築できる 4. 実際の教育現場で自身が教育活動を行うことを想定して課題に向き合い、成長し学び続ける保育者像を具体的に描けるようにする。 5. 教員に求められる資質・能力・技術に照合して、自己の課題を具体的に明確にして学び続けることができる
評価方法および評価基準	課題提出（50%）授業に臨む事前学習の状況・各回の授業で何を学びと与えられたテーマに対する考察、履修カルテなどを踏まえて総合的に評価する 発表（20%）保育者としてのプレゼンテーション能力（組み立て（論理性）、伝達力（ノンバーバルも含めて）など） 受講態度（30%）授業に対する積極性（積極的な傾聴態度も含む）、グループワークなどに対する貢献度（積極的な関わり）、保育者としての自己ならびに他者の評価能力など
教科書	なし
参考書	『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	各回の予習・復習は上記の通り
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	研究室及び実習センターで受け付ける。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 教育実習指導

授業コード：

英文科目名称： Instruction for Teaching Practices in Kindergarten

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	2 年	1 単位	幼免必修
担当教員			
高畠扶貴 富金原光秀			
授業形態：演習	担当形態：複数	実務経験：あり	
添付ファイル			
カリキュラムマップ教育実習指導 (1).xlsx			
ループリック教育実習指導 (2).xlsx			

講義概要	教育実習に向け、幼稚園教諭に求められている知識や姿勢を身につけていくために、自己課題を設定する。これまで学んできた理論や技術を教育実習でどのように活かしていくか具体的に考える。また教育実践力を身につけるために、指導案を作成し模擬保育を行う。指導案作成にあたっては教材研究の時間を十分にとり、その重要性について学ぶ。 他科目との関連：「保育実習指導Ⅰ（保）で、保育実習に向けた事前事後指導において学んだ心構えや、実践的な保育技能の修得の上に、さらに幼稚園教諭として望ましい教師像を形成できるようにする。」 授業担当者(高畠)は、公立保育所及び都内私立小学校において学級担任として18年間の実務経験がある。児童期まで視野に入れた発達の連続性及び幼保小連携について、具体的事例から理解を深める授業を行う。		
授業計画および学習形態	各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。		
	第1回	オリエンテーション 幼稚園教諭の仕事 教育実習の概要と、学内で定めた実習の履修基準について理解する。 幼稚園教諭の多様な役割について理解する。 課題：保育者に求められる資質についてレポート作成 予習：シラバスの全体をよく読み、教育実習指導の概要を理解する。（約1時間） B：少 F：あり	
	第2回	実習生としての心構え・実習生に求められるもの 教育実習の効果を高めるために、教育実習の内容を理解し、実習に向けての目的意識をもつ。また実習生としての責任と役割を自覚する。幼稚園教諭に求められる知識と態度について考え、現在の自分と比較することによって教育実習前の自己課題を明確化する。 課題：実習生として心構えについてレポート作成 予習・復習：守秘義務について理解をし、自らの個人情報も管理する。 実習生としての役割と責任について理解を深める。（約1時間） B：少 F：あり	
	第3回	幼児理解と記録 視聴覚教材を通し、幼児理解に視点を置き記録をとる方法を学ぶ。 課題：日誌 予習・復習：事前研修・保育実習Ⅰの実習日誌を読む。（幼児理解を中心として）（約2時間） B：少 F：あり	
	第4回	幼児理解と考察 視聴覚教材を通し、幼児理解に視点を置き記録をとる方法を学ぶ。 幼児理解に基づいた考察の書き方について理解する。 課題：日誌 予習・復習：事前研修・保育実習Ⅰの実習日誌を読む。（幼児理解を中心として）（約2時間） B：少 F：あり	
	第5回	遊びを通しての総合的な指導 既成の玩具では味わえない、幼児が考え気付き、探究心を沸かせる遊びについて考察し、教材研究の重要性について気付く。 遊びを通した総合的な指導法について考える。 課題：遊びの提案（プレゼンテーション） 予習・復習：遊びの素材を研究し、幼児の興味関心に即した遊びを考える。（約2時間） D：多 F：あり	
	第6回	遊びを通しての総合的な指導・教育実習前の自己課題の設定 既成の玩具では味わえない、幼児が考え気付き、探究心を沸かせる遊びについて考察し、教材研究の重要性について気付く。 さらに責任実習を想定し、改良を加える。 課題：遊びの提案（プレゼンテーション） 「実習の課題」を作成する。 予習・復習：教育実習前の自己課題について考える。（約2時間） D：多 F：あり	
	第7回	学内オリエンテーション 実習園のオリエンテーションについて 実習日誌について 実習に関する事務手続き 予習・復習：配布プリントを読み準備する。（約1時間） B：少	
	第8回	全日指導案の作成 幼稚園の一日の流れを想定し、責任実習に向けて全日指導案を作成する。 これまで学んだ理論と技術をどのように教育実習で活かせるか具体的に考える。 課題：全日指導案の作成 予習・復習：全日指導案の作成（4時間） B：少 F：あり	
	第9回	模擬保育に向けた指導計画の作成	

	教育実践力を身につけるために、教材研究後指導計画を作成する。 作成した指導計画に基づき、次回以降の授業で模擬保育を実施する。 予習・復習：指導案の作成（約2時間） A：多 F：あり 第10回 模擬保育1と振り返り グループごとに教育実習をイメージした模擬保育を行う。 またふりかえりでは、自らの模擬保育を評価する。 課題：活動案の提出 予習・復習：作成した指導案の修正と模擬保育の準備（約2時間） A：多 第11回 模擬保育2と振り返り 模擬保育1での反省点を活かし、幼児理解に基づいた模擬保育を行う。 また振り返りでは、自らの模擬保育を評価する。 課題：活動案の提出 予習・復習：指導案の修正と模擬保育の準備。（約2時間） A：多 第12回 模擬保育3と振り返り 模擬保育1及び2での反省を活かし、幼児理解に基づき適切な援助および環境構成を目的とした模擬保育を行う。 また振り返りでは、自らの模擬保育を評価する。 課題：活動案の提出 予習・復習：指導案の修正と模擬保育の準備。（約2時間） A：多 第13回 実習の振り返り（幼稚園実習における学びについてのディスカッション） 幼稚園実習における学びについて以下の観点からディスカッションをする。 ・園の特色・保育者の姿勢や助言から学んだこと・自分の保育観 予習・復習：実習日誌を読み実習の課題について考える。 B：多 第14回 実習の振り返りとまとめ（自己評価と課題設定） 実習を通した気付きや学びについてのプレゼンテーションを行う。 幼稚園教諭として必要な知識と態度を身につけるために、教育実習の自己評価と今後の学びについて課題を明確にする。 B：少 予習・復習：プレゼンテーションの準備と振り返り（約2時間） D：多
教育目標との関連	保育者として、理論に基づいた確かな知識を身につける。実技指導は、授業内で学んだものを模擬保育などの実践を通して保育技術修得を目指す。 また実習生としての立場を理解し謙虚にかつ前向きに参加し、愛情をもって人と関わることができるよう、日頃の立ち振る舞いから指導を行うことで、社会生活に必要な教養を身に付ける。
到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	1. 幼稚園の役割や機能を具体的に説明できる。 2. 保育を計画・実践・評価し、改善に必要な方法を判断することができる。 3. これまでに獲得した保育の知識と技術を適切に活用することができる。 4. 実習の目的・意義を理解し、自ら立てた実習課題に主体的に取り組む。 5. 実習生として保育者としてふさわしい人間性を身に付け、他者と協調することができる。
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	提出課題60% 指導案や授業内における課題の理解度で評価する。 受講態度40% 実習に必要な手続きが期限内に提出しているか評価する。 授業内でルーブリックを示し評価方法を解説する。
教科書	『幼稚園・保育所実習パーフェクトガイド』小櫃智子他 わかば社 1400円（税別）
参考書	『幼稚園教育要領』
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	各回、予習復習は上記の通り。
履修上の注意、条件等	教育実践力を身につけるために、指導案の作成と模擬保育を行う。
オフィスアワー	限定コメント及び対面授業の際に受け付ける。
備考・メッセージ	一部遠隔授業（配信）、主に対面授業で実施する。

講義科目名称： 保育実習指導 I（保）

授業コード：

英文科目名称： Practical Training Instruction I(Nursery School)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1 年	1 単位	保育士必修
担当教員			
山下晶子 松田こずえ			
授業形態：演習	担当形態：複数	実務経験：有	
添付ファイル			
保育実習指導Iループリック・カリキュラムマップ.pdf			

講義概要	本科目を通して学生は、保育実習の意義・目的及び内容を理解し、自らの課題を明確にする。また、実習に際しての留意事項（実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務）について理解し、実習生としての心構えを養う。さらに、実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容などを理解した上で、具体的な準備を進めてゆく。実習終了後には、事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。 他の科目との関連：本科目を通して、学生は保育実習 I（保育所）の事前準備や事後の振り返りをする。		
授業計画および学習形態	第1回	保育実習指導 I（保）の授業の概要について ・保育実習指導 I（保）の授業の概要について理解する。前期、後期の授業内容について理解する。見通しを持って学習・準備ができるようになる。 事前準備説明（事前準備プリント・手続きカード・身上書） 予習：保育実習指導 I（保）のシラバスをよく読んでおき、科目の全体像を把握しておくこと。（約1時間） D：中 F：あり	
各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第2回	保育所・幼稚園・認定こども園について ・現在、保育所に求められていることについて学ぶ。 ・夏季保育体験（半日）についての調査（用紙を）配付しその場で調べる。回収する B:中 E:あり F:あり	
	第3回	保育現場におけるマナーについて ・付属幼稚園保育体験授業の臨み方について ・保育現場でのマナーについて *配属調査のことを伝える。（地元へ帰省した際、保育園を調べておくことを伝える） B：少	
	第4回	事前オリエンテーション 子ども達への声掛けの仕方やコミュニケーションの取り方について学ぶ。 実習生としてふさわしい言葉遣いやマナー（身だしなみ・態度）について理解する。 *配属調査用紙の件を伝える。（実習の手引きをみること） A:少、B：少、F：あり	
	第5回	保育体験授業① クラスごとに付属幼稚園において朝の自由遊びを体験する。 予習：保育を志した理由について、自分自身の歩みを振り返っておくこと。 C:多 E:あり	
	第6回	振り返り 保育体験授業の振り返り B：少	
	第7回	保育所について 標準的な保育所における乳幼児の1日の流れについて学ぶ。 A：少、B：少	
	第8回	子どもとのかかわり方 子どもの発達の特徴とかかわり方、遊びについて C：多 E：あり	
	第9回	川崎市保育体験について① 1日の保育所体験の目的と体験の視点、記録について学ぶ。	
	第10回	川崎市保育体験について② 1日の保育所体験の目的と体験の視点、記録について学ぶ。 注意事項、マナーについて学ぶ。 D：中 E：あり	
	第11回	川崎市、町田市、相模原市での1日保育所体験 保育施設での保育所保育指針に合わせた保育内容の実習体験 A:多、B：多	
	第12回	言語表現を中心とした発表の企画・実践① 企画・実施 外部講師による発声、発音について、演技方についての講義 A:多、B：多	
	第13回	言語表現を中心とした発表の企画・実践② 企画・実施 発声、発音について、演技方について D:多	
	第14回	言語表現を中心とした発表の企画・実践③ 企画・実施	

	第15回	保育体験活動 半日体験を1回行う。
	第16回	施設実習体験発表 2年生から施設実習体験の話しを聞き、実習に対する理解を深める。 予習・復習：あらかじめ施設実習に質問したいことを考えたうえで参加すること。（約1時間）
	第17回	学内オリエンテーション① 保育実習Ⅰ（保）の概要と、学内で定められた履修基準について理解する。 保育実習Ⅰ（保）に臨むにあたっての心構えについて理解を深める。 B：中 予習・復習：「保育・教職の手引き」を読んでおくこと。（約1時間）
	第18回	実習日誌の記録方法① 観察記録の書き方について、メモの取り方やメモのまとめ方等具体的に学び、理解する。 自己紹介・手遊びの模擬保育を行う。 B：少、D：中 予習・復習：模擬保育の練習をしておくこと。（約1時間）
	第19回	実習日誌の記録方法② 環境構成について学び、園の概況や園内環境を記録の仕方について具体的に学ぶ。 自己紹介・手遊びの模擬保育を行う。 B：少、D：中 予習・復習：模擬保育の練習をしておくこと。（約1時間）
	第20回	事前研修オリエンテーション 観察中のマナーや言葉遣いについて具体的に学ぶ。 自己紹介・手遊びの模擬保育を行う。 B：少、D多 予習・復習：模擬保育の練習をしておくこと。（約1時間）
	第21回	事前研修① 附属幼稚園に事前研修に行き、朝の自由遊び、主活動、昼食の様子、昼食後の保育の様子について観察する。 予習・復習：園の方針、概況、日課等あらかじめ調べたことについて復習をしておく。（約1時間） C：多 F：あり
	第22回	事前研修② 事前研修の振り返りを行い、保育所実習に向けた課題を明確にする。 予習・復習：園の方針、概況、日課等あらかじめ調べたことについて復習をしておく。（約1時間） C：多 F：あり
	第23回	自己課題の設定① 実習の課題の立て方について学ぶ。 夏期課題（パネルシアター・手袋シアター等）を演じる際の指導案を作成する。 予習・復習：事前研修の日誌を読んで、実習に臨むにあたっての自己課題を考えておくこと。 B：少
	第24回	学内オリエンテーション② 実習園でのオリエンテーションの受け方について学ぶ。 模擬保育（自分が立案した部分指導案を使用して演じる） 予習・復習：模擬保育に必要な素材を用意し演じ方の練習をしておくこと。 D：中 F：あり
	第25回	実習日誌の記録方法③ 事前研修の日誌をもとに、日々の日誌の書き方について復習する。さらに、考察の書き方について理解を深める。 模擬保育（自分が立案した部分指導案を使用して演じる） 予習・復習：模擬保育に必要な素材を用意し演じ方の練習をしておくこと。 D：中 F：あり
	第26回	実習日誌の記録方法④ 映像資料や日誌の例などを用いて、日々の日誌の書き方について復習する。 模擬保育（自分が立案した部分指導案を使用して演じる） 予習・復習：模擬保育に必要な素材を用意し演じ方の練習をしておくこと。 D：中 F：あり
	第27回	自己課題の設定② 実習のねらいと実習レポートの書き方について学ぶ。 模擬保育（自分が立案した部分指導案を使用して演じる） 予習・復習：模擬保育に必要な素材を用意し演じ方の練習をしておくこと。 D：中 F：あり
	第28回	実習直前準備 実習日誌の事前記入欄について教員の指導を受ける。 予習・復習：各自で実習日誌の記入欄を完成させておく。（約3時間）
	第29回	学内オリエンテーション③ 実習前の心構えと諸注意事項について理解する。 予習・復習：実習日誌、実習の手引き、実習園の資料を読み直しておく。（約1時間）
	第30回	実習の振り返りと自己評価 実習を振り返り、これからの実習の自己課題を明確にする。 予習・復習：実習日誌、実習園の資料を読み直しておく。（約1時間） B：多
教育目標との関連	保育実習Ⅰ（保育所）に向けて行われる準備や振り返りを通して、学生は、社会生活に必要な教養や保育者としての確かな知識および実践的技能を身につけてゆく。豊かな感性と愛の心を持った保育者を目指して学生は、実習に向けての努力を日々重ねていくことが求められる。	

到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 3. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について理解し、実習に必要な保育技能を習得する。 4. 子どもの人権と最善の利益について考えて、一人ひとりの子どもに配慮する心を養う。 5. 実習を振り返り今後の課題や学習目標を明確にすることで、誠実に学ぶ態度を身に付ける。
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	提出課題 60% 受講態度 40%
教科書	『幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド』 小櫃智子他 わかば社 1400円（税別）
参考書	『幼稚園教育要領解説』 『保育所保育指針解説書』 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	各回の予習・復習は上記の通り。
履修上の注意、条件等	遠隔授業のため、アクティブラーニング度はこの通りではない。また、シラバスの変更あり。
オフィスアワー	時間及び場所は教務掲示板で確認すること。質問は、遠隔授業において、googleclassroomの限定コメントで受け付ける。
備考・メッセージ	前期10回、11回授業は、対面で実施。その他は、遠隔授業（配信）で実施する。 後期授業は、対面授業と遠隔授業の併用で行う。

講義科目名称： 保育実習指導Ⅰ（施）

授業コード：

英文科目名称： Practical Training InstructionⅠ（Welfare Facilit

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	2 年	1単位	保育士必修
担当教員			
横溝一浩 山下晶子 尾近千鶴			
授業形態：演習	担当形態：複数	実務経験：あり	
添付ファイル			
保育実習指導1施設m. pdf			
保育実習指導1施設. pdf			

講義概要	本科目は保育実習Ⅰ（施設）に向けた事前・事後指導である。事前指導では、施設の実習の意義・目的・内容を理解したうえで自らの課題を明確にする。さらに、実習施設の種別ごとに施設の養護内容に関する基礎理解と実習の計画・観察・記録の方法について学ぶ。事後指導においては、自らの実習を振り返り今後の課題と反省点を明らかにする。 他の科目との関連：保育実習Ⅰ（施）の事前準備や事後の振り返りをする。 【教員の実務経験】 横溝：家庭養護における実務経験から、要保護児童の背景や課題、NPO法人の活動（就労支援B）から、障害者の支援についての実践活動を教育に活かしたい。		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回 施設実習の意義と目的 保育士養成課程における施設実習の意義とその目的を理解する。施設や利用者に対する正しい理解と知識を養うために、どのような学びが必要になるのかディスカッションを通して問題意識を共有する。 予習：シラバスを読み、科目の全体像を把握しておくこと。また、「社会的養護」の復習をしておくこと。（約1時間） A：多 B：多 第2回 施設の機能と特徴 保育士は福祉の専門職であり、保育所を含めた福祉施設で働くための資格である。本学での保育実習Ⅰ（施設）の対象となる福祉施設の特徴とそれぞれの施設の機能について学ぶ。 予習：保育実習Ⅰ（施）春期課題（約1時間） B：少 E：あり 第3回 施設での実習内容 保育実習Ⅰ（施設）における実習の課題と観察するべきポイント、実習生に求められる心構え等を映像資料等を用いて理解する。 B：中 第4回 児童養護施設の日常 映像資料を用いて児童養護施設における児童の生活と職員との関係について理解する。 B：少 第5回 知的障害児施設の日常 映像資料を用いて知的障害児施設における利用児の生活と職員との関係について理解する。 B：中 第6回 配属施設について理解を深める 配属された施設の概要と実習内容について、過去の実習生の記録や様々な資料、webで公開されている情報などを参考に把握し話し合う。 B：中 第7回 講演① 障害者福祉施設で働く職員の講演を聞き、支援の心構えや施設職員の仕事の内容について深く理解する。 B：少 F：あり 第8回 施設実習における日誌の書き方について 施設実習における観察記録の書き方について例を用いて具体的に学ぶ。 B：中 第9回 講演② 実習施設の種別ごとに施設保育士の講演を聞き、施設保育士の仕事内容の理解を深める。 F：あり 第10回 講演の振り返り 講演②での講師の話を踏まえて、この実習を通しての学習の実習の課題を立てる。 A：少、B：少 第11回 実習日誌の準備 実習前に書くべき項目について書きあげる。 F：あり 予習：事前に実習日誌の書くべき項目について仕上げて置くこと。（約1時間） 第12回 実習日誌の準備 実習前に書くべき項目について書きあげる。 F：あり 予習：事前に実習日誌の書くべき項目について仕上げて置くこと。（約1時間） 第13回 直前ガイダンス 『実習の手引き』の「施設実習の心得」を中心に、実習中の心得や実習生としての態度を理解する。また、実習中の事務連絡の方法等も確認する。 B：少 予習：『実習の手引き』をよく読んでおくこと。（約1時間） 第14回 反省会① 実習施設の種別ごとに実習内容・感想・反省・課題を発表し、各学生の実験を共有することで各々の経験の理解を深める。		

	第15回 B：多 反省会② 実習施設の種別ごとに実習内容・感想・反省・課題を発表し、各学生の経験を共有することで 各々の経験の理解を深める。さらに、「振り返りシート」を用いて各々が実習の自己評価を記録 する。 B：多
教育目標との関連	保育所以外での福祉施設における実習への準備を通して、社会福祉の専門職としての知識や倫理を修得する。 また、福祉施設で求められる生活支援の技術を学ぶことで保育士としての能力を向上させ、社会において活躍 する可能性を広げることができる。
到達目標 カリキュ ラムマップ 1. 知 識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会 性	1. 保育実習Ⅰ（施設）の意義・目的や心構え、ならびに実習施設の特色及び役割を理解し的確に説明でき る。 2. 利用児（者）の理解に努め、それに基づいた基本的な判断ができる。 3. 要保護児童や利用児（者）に対して、その多様な背景や課題を理解した上で、共感的・受容的態度で関わ ることができる。 4. 事後指導を通して実習を客観的に振り返り、今後の課題が明確にした上で事後学習に積極的に取り組む事 ができる。 5. 保育者としての権利養護を理解し、利用児（者）に対して、その権利を尊重する事ができる。
評価方法および評 価基準 1. 試験等の評価方 法 2. ルーブリッ クによる評価基準	<評価方法> 課題提出 60% 与えられた課題の問いに対して適切な回答がなされているか、自分なりの考察ができてい るかで評価します。 受講態度 40% 提出物の提出状況、意欲的な取り組み、発言や発表時の態度を総合的に判断して評価しま す。 <評価基準> 別途ルーブリックに従う
教科書	保育士をめざす人のための施設実習ガイド、河合高鋭他編著、みらい、2020年発行 2,100円
参考書	『保育所保育指針』
準備学習（予習・ 復習等）の具体的 内容および必要な 時間	予習および復習のための参考図書、課題などは必要に応じて授業時に指示する。
履修上の注意、条 件等	保育実習指導Ⅰ（保）をあわせて履修しなくてはならない。
オフィスアワー	時間及び場所は教務掲示板を参照のこと。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 保育実習Ⅰ（保育所）

授業コード：

英文科目名称： Practical Training 1 (Nursery School)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	1 年	2 単位	保育士必修
担当教員			
山下晶子 松田こずえ			
授業形態：実習	担当形態：複数	実務経験：有	
添付ファイル			
保育実習Ⅰ（保育所） ルーブリック・カリキュラムマップ.pdf			

講義概要	本科目は保育所における実習である。実習を通して以下の5つの到達目標を達成することを目指す。 1. 保育所の役割や機能を具体的に理解し、説明できる。 2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者の支援について学び、基本的なものを説明できる。 4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価などについて具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に説明できる。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	1. 保育所の役割と機能 (1) 保育所の生活と一日の流れ (2) 保育所保育指針の理解と保育の展開 2. 子ども理解 (1) 子どもの観察とその記録による理解 (2) 子どもの発達過程の理解 (3) 子どもへの援助やかかわり 3. 保育内容・保育環境 (1) 保育の計画に基づく保育内容 (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容 (3) 子どもの生活や遊びと保育環境 (4) 子どもの健康と安全 4. 保育の計画、観察、記録 (1) 保育課程と指導計画の理解と活用 (2) 記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理 (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携 (3) 保育士の役割と職業倫理 以上の内容について、約11日間の実習を行う。教員が訪問指導を行い、スーパービジョンを実施する。
教育目標との関連	保育所での実習を通して、本学の目標である。幼児の心身の発達についての広範な知識と豊かな保育技術を習得する。また、保育現場で実習をすることにより、社会生活に必要な教養を身につける。実習体験を経て、保育者への適性を見直すことにより、自己理解を深める。
到達目標 カリキュラムマップ	1. 知 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性 1. 保育所の役割や機能を具体的に理解し、説明できる。 2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者の支援について学び、基本的なものを説明できる。 4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価などについて具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に説明できる。
評価方法および評価基準	原則として以下の基準に従う。 実習園が与えた評価 40% 実習日誌などの評価 60% ※ 委細については、保育・教職実習の手引きを参照すること
教科書	なし
参考書	『保育所保育指針解説書』
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	保育実習指導Ⅰ（保）の授業内容の復習をしておくこと。実習について省察をすること。

履修上の注意、条件等	本科目を履修するにあたっては、あわせて保育実習指導Ⅰ（保）を履修しなければならない。 本科目を修得できない場合は、保育実習指導Ⅰも修得できない。
オフィスアワー	時間及び場所は、教室掲示板で確認すること。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 保育実習Ⅰ（施設）

授業コード：

英文科目名称： Nursery Practical TrainingⅠ（Welfare Facilities）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	2年	2単位	保育士必修
担当教員			
横溝一浩 山下晶子 尾近千鶴			
授業形態：実習	担当形態：複数	実務経験：	
添付ファイル			
保育実習1施設 ルーブリック.pdf			
保育実習1施設map.pdf			

講義概要	厚生労働省「指定保育士養成施設の指定基準について」で定められた保育所以外の福祉施設における実習を通して、福祉施設の役割や機能を理解するとともに、利用児・者の理解を深める。また、施設保育士の業務内容や職業倫理、他職員との連携や生活環境の整備について実践を通して学ぶ。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの割合を明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	以下の内容について、約11日間の実習を行う。教員が訪問指導を行い、スーパービジョンを実施する。 - 施設の役割と機能 - 施設の生活と一日の流れ - 施設の機能と役割 - 利用児・者の理解 - 利用児・者の観察とその記録 - 個々の状態に応じた支援や関わり - 養護内容・生活環境 - 計画に基づく活動や支援 - 利用児・者の心身状態に応じた対応 - 利用児・者の活動と生活環境 - 健康管理、安全対策の理解 - 計画と記録 - 支援計画の理解と活用 - 記録に基づく省察・自己評価 - 専門職としての保育士の役割と倫理 - 保育士の業務 - 職員間の役割分担や連携 - 保育士の役割と職業倫理
教育目標との関連	保育士資格は保育所を含めた社会福祉施設で働くための資格である。保育所以外の福祉施設での実習を通して保育者としての実践的な技能や倫理を身に着けることができる。また、施設の利用児・者の生活支援を通して豊かな感性と規則正しい生活習慣を身に着けることができる。
到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	- 施設保育士として必要な福祉施設の社会的役割について説明することができる。 - 利用児（者）の理解に努め、それに基づいた基本的な判断ができる。 - 要保護児童や利用児（者）に対して、その多様な背景や課題を理解した上で、共感的・受容的態度で関わる事ができる。 - 反省会や総括を通して実習を客観的に振り返り、今後の課題を明確にした上で事後学習に積極的に取り組む事ができる。 - ケアの基本となる積極的な傾聴をとることができる。
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	原則として以下の基準で評価を行う。 実習機関の評価 40% 実習日誌などの評価 60% ※委細については、保育・教職の手引きならびにルーブリックを参照すること。
教科書	なし
参考書	授業時に指示する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	「保育実習指導Ⅰ（施）」の授業および「社会的養護」・「障害児保育」の授業を復習しておくこと。
履修上の注意、条件等	本科目を履修するにあたっては、保育実習指導Ⅰ（施）をあわせて履修しなければならない。本科目を修得できない場合は、保育実習指導Ⅰ（施）も修得できない。

オフィスアワー	実習中の質問等は実習センターで受け付ける。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 英語コミュニケーションⅡ

授業コード：

英文科目名称： English CommunicationⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	1年	1 単位	卒業必修 幼免必修 保育士必修
担当教員			
Mary Jones			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	
添付ファイル			
カリキュラムマップ ルーブリック評価 英語コミュニケーションII.pdf			

講義概要	このグローバルな社会では、英語が必要な場面があります。日本で働いても、英語が必要な時が来る可能性あります。2020オリンピックに向けて、簡単な日常英会話を身につけましょう。 この授業では英語コミュニケーションIで勉強した文法の基本にして、保育園で使える英語を勉強します。毎週、テーマ別に表現と語彙を勉強して、練習します。 ジョーンズは20年間英語を教える経験があります。保育園から小学校、大学生と社会人まで教えた経験から、コミュニケーションに自信が付くように授業を行います		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A: グループワーク B: ディスカッション C: フィールドワーク D: プレゼンテーション E: 振り返り F: 宿題 ②【多】 【中】 【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回 Please Speak More Slowly 英語でコミュニケーションをするときの基本表現を勉強します。保育園での基本語彙を勉強します。 A: 中 E: あり F: あり 第2回 Unit 1: Hi, I'm Yuri Tanaka 挨拶・自己紹介で使う表現を勉強します。英語で自己紹介できるようになります。人に何かを頼む表現を勉強します。 A: 中 E: あり F: あり 第3回 Unit 2: Where is the Multi-purpose Room? 位置を伝える表現を勉強しながら、英語で簡単に園内の案内できるようになります。道案内に使う英語も勉強します。 A: 中 E: あり F: あり 第4回 Unit 3: Good Morning. How Are You Today? 登園時の簡単な会話を勉強します。体調を聞く・答えるを英語でできるようになります。自分の持ち物について英語で説明できるようになります。 A: 中 E: あり F: あり 第5回 Unit 4: What Color Do You Like? 工作時間の会話を勉強しながら、好き嫌いを英語で聞けるようになります。工作道具を英語で説明できるようになります。 A: 中 E: あり F: あり 第6回 Unit 5: There's a Ladybug on the Leaf 場所を表す表現を勉強しながら、自分の回りにあるものを英語で説明できるようになります。園外散歩での会話で使う表現を勉強します。 課題1 提出: Daily Life at a Nursery School A: 中 E: あり F: あり 第7回 Unit 6: It's Time to Play Outside 命令文を勉強しながら、外で遊ぶときの簡単な会話をできるようになります。園庭にあるものを表す語彙を勉強します。 A: 中 E: あり F: あり 第8回 Unit 7: She Is Allergic to Eggs 食材の語彙を勉強しながら、自分の食に関する好き嫌いを英語で説明できるようになります。手洗いや歯磨きのとき使う表現を勉強します。 A: 中 E: あり F: あり 第9回 Unit 8: You Should Go to the Bathroom お昼寝時間の会話を勉強しながら、英語で児童にしなければならないこと・する必要があることを言えるようになります。英語のジェスチャーを勉強します。 A: 中 E: あり F: あり 第10回 Unit 9: We Made Masks Today 降園時の会話を勉強しながら、英語で1日の活動や様子を説明できるようになります。気持ちや表情を表す表現を勉強します。 A: 中 E: あり F: あり 第11回 Unit 10: If It Rains, What Happens? 仮定の表現を勉強しながら、園の行事予定を英語で説明できるようになります。体操で使う表現を勉強します。 課題2 提出: Today at Nursery School A: 中 E: あり F: あり 第12回 Unit 11: What Shall We Do Today?		

	第13回 第14回 第15回 Shall I/we…?とWill you…?の表現を勉強しながら、英語で他の保育士と簡単な打ち合わせをできるようにになります。時間を表す表現を勉強します。 A:中 E:あり F:あり Unit 12: I Feel Feverish 病気やけがのときに使う表現を勉強しながら、体調不良の児童と会話をできるようにになります。医療品と体の部分の語彙を勉強します。 A:中 E:あり F:あり Unit 13: This is Yuri from Cosmos Day Care Center 電話対応で使う表現を勉強しながら、簡単な電話を英語でできるようにになります。伝言で使う表現を勉強します。 A:中 E:あり F:あり Unit 14: Thank You Very Much for Everything お別れのときに使う会話を勉強しながら、お礼を英語で言えるようになります。音楽の活動に使う表現を勉強します。 課題3 提出: Teacher and child conversation A:中												
教育目標との関連	初期英語教育が人気であり、外国人の子供が増えているという日本の状況で、外国人と簡単な日常英会話でコミュニケーション取れないといけない場面が多くなります。この授業ではその力をつけながら、保育園で使える表現と語彙を勉強します。												
到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	1. 教育・保育現場で使う英語の表現が理解できる 3. 保育に関する基本的な英語の語彙を正しく使うことができる 2. 異文化理解を深めることができる												
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	<table><tr><td>宿題</td><td>20%</td><td>毎週短いライティングの宿題が出ます。</td></tr><tr><td>平常点評価</td><td>20%</td><td>グループワークの貢献度・参加度を評価します。</td></tr><tr><td>課題提出</td><td>30%</td><td>ライティングの課題が3回です。</td></tr><tr><td>単語テスト</td><td>30%</td><td>毎週、単語テストがあります。</td></tr></table> なお、提出課題についてはルーブリックの表を別途配布し、各項目のパフォーマンス評価を行います。	宿題	20%	毎週短いライティングの宿題が出ます。	平常点評価	20%	グループワークの貢献度・参加度を評価します。	課題提出	30%	ライティングの課題が3回です。	単語テスト	30%	毎週、単語テストがあります。
宿題	20%	毎週短いライティングの宿題が出ます。											
平常点評価	20%	グループワークの貢献度・参加度を評価します。											
課題提出	30%	ライティングの課題が3回です。											
単語テスト	30%	毎週、単語テストがあります。											
教科書	「Happy English for Childcare」 土屋 麻衣子 編 金星堂												
参考書	「マーフィーのケンブリッジ英文法（初級編）」 Raymond Murphy 著 Cambridge University Press 出版												
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	毎週は先週の授業に出た英単語テストがあります。												
履修上の注意、条件等													
オフィスアワー	授業前後に教室で受け付ける。												
備考・メッセージ	英語が苦手も、やる気が大切です！積極的に参加しましょう！												

講義科目名称： 保育実習指導Ⅱ

授業コード：

英文科目名称： Instruction for Practical Training Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	2 年	1 単位	保育士必修
担当教員			
富金原光秀 高島扶貴			
授業形態：演習	担当形態：複数	実務経験：あり	
添付ファイル			
カリキュラムマップ（保育実習指導Ⅱ）.pdf			
保育実習指導Ⅱループリック.pdf			

講義概要	これまでの実習における学びを踏まえ、保育実習Ⅱに向けての保育実習の意義・目的・内容を理解し、自己課題を明らかにする。 こども理解に基づいた指導計画を立案し、模擬保育を通して実践する力・省察する力を養う。 また事後指導では、総括・評価を行い、今後の保育活動に活かせるよう、自己課題を明確にする。 他教科との関連：保育実習指導Ⅰ（保）・教育実習指導及び保育実習指導Ⅰ・教育実習において学んだ保育者としての心構えや保育技術の習得の上に、望ましい保育者像を追求する。 授業担当者(高島)は、公立保育所及び都内私立小学校において学級担任として18年間の実務経験がある。児童期まで視野に入れた発達連続性及び幼保小連携について、具体的事例から理解を深める授業を行う。 授業担当者(富金原)は、保育所や幼稚園での造形活動等フィールドワーク及び子育て支援事業を行っている。 その現場経験を交えて、保育現場における実習の心構えについて理解を深めていく		
授業計画および学習形態	各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。		
第1回	オリエンテーション 保育士の仕事と役割 学内オリエンテーション①「実習参加に向けての準備」 これまでの実習を振り返り、実習生としての心構え・実習生に求められるものについて考える。 視聴覚教材『保育士・幼稚園教諭になるために 第2巻 保育士の仕事と役割』を見て、保育者に求められる資質について考える。 これまでの実習及び、学びを振り返り、実習の課題について考え、目的意識をもって実習に参加できるよう課題を設定する。 課題：保育所の機能を踏まえ、保育者に求められる資質についてレポートを作成 E：有 F：有		
第2回	こども理解と日誌の書き方① こども理解に基づいた日誌の書き方を学ぶ。(乳児のエピソード記録) 視聴覚教材『乳幼児を理解するための保育の観察と記録』 - 0歳：すきなあそび 1歳：外あそび - を見て、エピソード記録にまとめる。 課題：日誌(エピソード記録) B：多 F：有		
第3回	乳児の指導計画 0・1・2歳児指導計画の立案の仕方について学ぶ。生活場面における個別配慮事項について理解する。 視聴覚教材で2歳児の発達についての理解を深める。 課題：乳児の指導案の作成 H：有 F：有		
第4回	こども理解と日誌の書き方② こども理解に基づいた日誌の書き方を学ぶ。(幼児のエピソード記録) 視聴覚教材『主体的学び・対話的学び・深い学びへのアプローチ 第4巻』 - 5歳児編 後編 けんか仲間直り - 課題：日誌 (エピソード記録) B：多 F：有		
第5回	乳幼児の活動提案 0・1・2・3・4・5歳児の発達に基づいた活動の提案(製作)を行う。活動内容が発達を踏まえたものであるか、またこどもたちが工夫を加えることができる発展性のある教材となっているか意見交換をし検討する。 課題：活動の提案(プレゼンテーション) D：多 F：有		
第6回	乳幼児の活動提案② 実習の課題 0・1・2・3・4・5歳児の活動提案(製作) 続き 責任実習を想定し、改良を加える。 B：多 F：有 課題：「実習の課題」		
第7回	学内オリエンテーション 学内オリエンテーション② 実習前の心構えと諸注意について		
第8回	全日指導案の作成 第5・6回でプレゼンした遊びを主活動とした活動提案型の全日指導案を作成する。 課題：全日指導案の作成 A：多 F：有		

	第9回 模擬保育の準備 乳児グループ、幼児グループに分かれて、模擬保育に向けた準備をする。 A：多 F：有 第10回 模擬保育と振り返り1 グループごとに、保育実習Ⅱをイメージした模擬保育を行う。 また振り返りでは、自らの模擬保育を評価する。 課題：部分指導案の提出 A：多 F：有 第11回 模擬保育と振り返り1 日誌点検 グループごとに、保育実習Ⅱをイメージした模擬保育を行う。 また振り返りでは、自らの模擬保育を評価する。 実習に向け、日誌の点検を行う。 課題：部分指導案の提出 A：多 F：有 第12回 模擬保育と振り返り2 模擬保育1での反省を活かし、幼児理解に基づいた模擬保育を行う。 また振り返りでは、自らの模擬保育を評価する。 課題：部分指導案の提出 A：多 F：有 第13回 保育実習Ⅱにおける学びについてディスカッション 保育実習Ⅱにおける学びについてディスカッションを以下の観点で行う。 ・園の特徴 ・保育者の姿勢や助言から学んだこと ・困ったことへの対応 ・これまでの実習と比較して成長したところ ・自分の保育観 B：多 第14回 実習の振り返りとまとめ（学生によるプレゼンテーション及び自己評価と課題設定） 保育実習Ⅱにおける学びや自身への気づきについてプレゼンテーションを行う 保育士として必要な知識と態度を身につけるために、保育実習Ⅱの自己評価と今後の学びについて課題を明確にする。 B：少 D：有 E：有
教育目標との関連	保育者として、理論に基づいた確かな保育技術を身につける。また実習生としての立場を理解し、謙虚にかつ前向きに参加し、愛情をもって人と関わることができるよう、日頃の立ち振る舞いから指導を行う。社会生活に必要な教養を身につける。
到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	1. 保育実習Ⅱの意義、目的、心構え、法令上の事項について理解できる。 子どもの発達、子ども理解につとめるとともに、保護者対応や支援の意義を理解できる。 2. 保育内容を観察・計画・実践・評価し、目標の達成に向けた改善及び方法について思考・判断することができる。 3. 実習指導案、日誌、自己の課題等について規定及び文章作法に基づいてまとめることができる。 4. 保育実習を振り返り、自身の良かった点や今後の課題について分析・自己評価することができる。 5. 実習生として保育者としてふさわしい人間性を身につけ、他者と協調することができる。 到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること。
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	提出課題60% 指導案や授業内における課題の理解度で評価する。 受講態度40% 実習に必要な手続きが期限内に提出しているか評価する。 授業内でルーブリックを示し評価方法を解説する。 評価基準は添付資料のルーブリックを参照すること。
教科書	『幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド』小櫃智子他 わかば社 1400円（税別）
参考書	『保育所保育指針』
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	各回、予習復習は上記の通り。
履修上の注意、条件等	保育実践力を身につけるために、指導案の作成と模擬保育を行う。
オフィスアワー	時間及び場所は教務掲示板で確認すること。（大講義室及びオンラインのコメントにて対応）
備考・メッセージ	学ぶ者の姿を見て子どもたちは学びます。良く生きようとする者の姿を見て子どもたちは良く生きようとしません。保育者として、学びよく生きるとは何かについて常に問題意識を持ち、授業に臨んでほしいと思います。

講義科目名称： 保育実習指導Ⅲ

授業コード：

英文科目名称： Instruction for Practical Training Ⅲ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	2年	1単位	保育士選択必修
担当教員			
横溝一浩			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	
添付ファイル			
保育実習指導Ⅲルブリック、カリキュラムマップ横溝.pdf			

講義概要	保育実習Ⅰ（保育所実習・施設実習）を履修した後、さらに専門的に施設の利用児・者を理解し、施設保育士の職務内容や役割、各施設における生活と養護機能について学ぶことを目的とする。事前学習においては、関係図書などを自発的に調べ、各自の実習の課題・目標などを明確に持つ。事後学習では、実習内容を振り返り、施設保育士の専門性について理解を深める。 【教員の実務経験】 横溝：家庭養護における実務経験（里親経験）から、要保護児童の自立支援、養子縁組里親の支援NPO法人における活動から障害児（者）の支援についての具体的方法を教育に活かしたい。		
授業計画および学習形態	第1回	オリエンテーション 保育実習Ⅲの全体像を掴み、その意義と目的を理解する。 予習：シラバスを読んで、の全体像を把握し施設実習のイメージを持っておくこと。（約1時間） B中	
各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第2回	実習施設の研究① 過去の実習生が作成した実習施設ファイルを用いて各自の実習施設について理解し、まとめる。 予習：養護施設や障害児・者施設についてワークシートを用いて事前学習する。（約1時間） B少 C中 E有 F有	
	第3回	実習施設の研究② 前回の授業でまとめた各自の実習施設について発表し情報を共有する。 予習：各自の実習施設の概要や特徴についてまとめる。（約2時間） B少 D多 E有 F有	
	第4回	講演 施設職員から現場の話を伺う。 予習：前回の授業で作成した各自の資料を再読する。（約1時間） B少 E有	
	第5回	施設職員の役割① 施設において利用児・者を支援する専門職の職種と役割について調査し、レポートにまとめる。 予習：児童福祉の分野の専門職についてワークシートを作成して整理する。（約1時間） B少 C多 F有	
	第6回	施設職員の役割② 前回の授業でまとめた施設の専門職について発表し情報を共有する。 予習：各自で専門職についてまとめる。（約1時間） B少 D多	
	第7回	利用児・者の権利 利用児・者を対象とした権利の説明シートを作成する過程を通して「子どもの最善の利益」について学ぶ。 予習：ワークシートを使い子どもの権利条約について簡潔に整理する。（約1時間） B少 D多 E有 F有	
	第8回	利用児・者の理解 愛着障害や発達障害など利用児・者の課題についてディスカッションを通して理解する。 予習：アタッチメントについてワークシートを利用しながら整理する。（約1時間） B多 F有	
	第9回	利用児・者の自立支援 利用児・者の自立支援とは何か事例を通して理解する。 予習：ディスカッションに必要な事例検討シートを熟読する。（約1時間） B多 E有 F有	
	第10回	施設実習における観察と記録 施設における観察の視点と記録方法について動画を通して理解する。 予習：実習日誌の内容を確認しておく。（約1時間） B中 E有	
	第11回	自己課題の探求 これまでの事前学習を通して自己の課題を明確にし、実習の課題としてまとめた上で発表する。 予習：ワークシートを用いて、自己課題を整理し実習課題を設定する。（約1時間） B中 D中 E有	
	第12回	実習直前ガイダンス 施設実習における心得や態度、また実習中の事務連絡等の方法なども理解する。 予習：本学の「施設実習の心得」を再読しポイントを整理しておく。（約1時間） B少 E有	
	第13回	実習の事後報告・反省会の準備 実習を振り返り、報告・反省会に向けての準備を行う。 予習：実習記録などを再読し、ポイントをまとめておく。（約1時間） C中 E有 F有	

	第14回 実習の事後報告・反省会 種別ごとに実習内容・感想・反省課題などを各自が発表する。 予習：授業前に評価表面接を実施、自己の課題について明確にする。（約1時間） B中 D多 E有 F有 第15回 実習総括 これまでの実習を振り返り、各自が保育士としての課題を明確し、発表する。 予習：授業前に評価表面接を実施、自己の課題について明確にする。（約1時間） B中 D多 E有 F有
教育目標との関連	施設実習に向けての準備を通して、施設保育士としての確かな知識を修得する。施設実習に必要な生活支援技術を学ぶことにより、自己覚知（自己を知り）し、多様な価値観を受容し、保育者としての実践的な技能を身につけることになる。
到達目標 カリキュラムマップ	施設実習Ⅲにおける到達目標は以下の通りである。
1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	1. 各施設の目的や機能、それぞれの専門職の役割について理解し説明できる。 2. 施設保育士の倫理を理解した上で、社会的養護や療育の現場における適切な判断ができる。 3. 実習に必要な生活支援技術や療育の基礎を理解し、実践の場で使うことができる。 4. 施設保育士（専門職）として客観的に自己評価をする態度を身に付け、自らの専門性の向上をさせることに取り組むことができる。 5. 実習施設における利用児（者）の背景や人権、プライバシーの保護と守秘義務について理解し、配慮する事ができる。
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	提出課題（所定の手続きを含む）：60% 受講態度：40% 積極的傾聴態度、授業内容の記録、教員の質問・問いかけに対し真剣に考えているか等を評価します。
教科書	育士をめざす人のための施設実習ガイド、河合高鋭他編著、みらい、2020年発行 2,100円 ※保育実習指導Ⅰ（施設）と同じ教科書を使用します
参考書	『10改訂・ポケット版 子どもの権利ノート― 国連の第1回・第2回・第3回「勧告」掲載 ―』、子どもの権利・教育・文化 全国センター
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	保育実習指導Ⅰ（施設）と保育実習Ⅰ（施設）の内容を振り返っておくこと。また、前提となる知識として社会福祉、児童家庭福祉、社会的養護、相談援助、社会的養護内容、障害児保育をベースに授業を展開するので、これらの科目のテキストや資料を再読すること。
履修上の注意、条件等	保育実習Ⅰ（保育所・施設）を修了していること。
オフィスアワー	時間及び、場所は教務掲示板で確認すること。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 保育実習Ⅱ

授業コード：

英文科目名称： Nursery Practical TrainingⅡ（Nursery School）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	2 年	2 単位	保育士選択必修
担当教員			
富金原光秀 高島扶貴			
授業形態：実習	担当形態：複数	実務経験：あり	
添付ファイル			
カリキュラムマップ（保育実習Ⅱ）.pdf			
保育実習Ⅱループリック.pdf			

講義概要	本科目は保育所における実習である。 各保育所での指導を受け、保育観察・保育参加・責任実習などを行い、乳幼児理解をはじめ、実習記録の取り方、保育指導案の作成など保育の実際を学ぶことにより、使命感や責任感を持って教育実践できる能力を身につけることを目的とする。また事前に立てた個々の実習課題を追究する。保育所実習においては子どもの命を預かり、かけがえのない日々を過ごしていることを十分認識し、常に学ぶ姿勢を持ち、体調に留意しながら実習に臨む必要がある。 授業担当者(高島)は公立保育所及び都内私立小学校において、学級担任として18年間の実務経験がある。 授業担当者(富金原)は、保育所や幼稚園での造形活動等フィールドワーク及び子育て支援事業を行っている。その現場経験を交えて、保育現場における実習の心構えについて理解を深めていく
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	以下の内容について、約11日間の実習を行う。教員が訪問指導を行いスーパービジョンを実施する。 1. 保育所の役割や機能の具体的展開 (1) 養護と保育が一体となって行われる保育 (2) 保育所の社会的役割と責任 2. 観察に基づく保育理解 (1) 子どもの心身の状態や活動の観察 (2) 保育士等の動きや実践の観察 (3) 保育所の生活の流れや展開の把握 3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 (1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通じて総合的に行う保育の理解 (2) 入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援 (3) 地域社会との連携 4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 (1) 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価とカリキュラムマネジメントの理解 (2) 作成した指導計画に基づく保育実践と評価 5. 保育士の業務と職業倫理 (1) 多様な保育の展開と保育士の業務 (2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理 6. 自己課題の明確化
教育目標との関連	保育実習を通して学生は、本学の目標である幼児の心身の発達について広範な知識と豊かな保育技術を習得する。また、保育現場という社会で実習をすることにより、社会生活に必要な教養を身に付けることができる。さらに、自分の体調を管理しながら乳幼児と共に過ごすことにより、豊かな感性と愛の心を育む。
到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	1. 保育実習Ⅱの意義、目的、心構え、法令上の事項について理解できる。 子どもの発達、子ども理解につとめるとともに、保護者対応や支援の意義を理解できる 2. 保育内容を観察・計画・実践・評価し、目標の達成に向けた改善及び方法について思考・判断することができる。 3. 実習指導案、日誌、自己の課題等について規定及び文章作法に基づいてまとめることができる。 4. 保育実習を振り返り、自身の良かった点や今後の課題について分析・自己評価することができる。 5. 実習生として保育者としてふさわしい人間性を身につけ、他者と協調することができる。 到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること。
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ループリックによる評価基準	原則として以下の基準で評価を行う。 実習先が与えた評価 40% 実習日誌などの評価 60% 授業内でループリックを示し評価方法を解説する。 また保育・教職の手引きを参照すること。 評価基準は添付資料のループリックを参照すること。
教科書	なし

参考書	『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	保育実習Ⅰの指導内容、さらには保育実習指導Ⅱの授業内容を復習しておくこと。
履修上の注意、条件等	保育実習Ⅰ（保育所および施設）を修了し、かつ保育実習指導Ⅱを履修しなければならない。本科目を修得できない場合は、保育実習指導Ⅱも修得できない。
オフィスアワー	実習中の質問等は実習センターで受け付ける。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 保育実習Ⅲ

授業コード：

英文科目名称： Nursery Practical Training Ⅲ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	2 年	2 単位	保育士選択必修
担当教員			
横溝一浩			
授業形態：実習	担当形態：複数	実務経験：	
添付ファイル			
保育実習Ⅲ カリキュラムマップ、ループリック横溝 2nd. pdf			

講義概要	「保育実習Ⅰ（施設）」を踏まえ、施設における家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに保育実践力をより確かなものにする。それにあたっては、福祉施設の役割や機能について実践を通して様々な支援、すなわち個別支援計画の作成と実践、子どもの家族への支援と対応等を実践と結びつけて習得する。さらに、専門職としての施設保育士の役割と職業倫理を学び、保育をめぐるの自己の課題を明確にする。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	以下の内容について、約11日間の実習を行う。教員が訪問指導を行い。スーパービジョンを実施する。 1. 児童福祉施設等（保育所以外）の養護全般に参加し、養護技術を習得する。 (1) 施設の養護活動に参加し養護技術を習得する。 (2) 保育士の職務を理解し、日々の生活を通してその役割を習得。 2. 施設における支援の実践 (1) 子ども（利用者）に共感し、受容する態度を身につける。 (2) 子ども（利用者）の個人差に応じた対応方法を身につける。 (3) 子ども（利用者）の発達の違いに応じた養護の方法を学ぶ。 (4) 生活環境にともなう、子ども（利用者）のニーズを理解する。 (5) 自立支援計画を立案し、指導担当職員のもとで実践する。 (6) 家族とのコミュニケーションの方法を具体的な事例を通して学ぶ。 (7) 多様な専門職との連携の仕方や地域社会との連携について、支援と対応を具体的に学ぶ。 3. 保育士の多様な業務と職業倫理について学ぶ。 5. 自己の課題を明確化する。 (1) 施設保育士に必要な資質や養護技術について理解する。 (2) 施設実習を総括し、実習を通して得た問題や課題を確認する。 (3) 必要な今後の課題を確認する。 (4) 課題を実現させていく具体的な方法を考える。
教育目標との関連	施設における実習を通して、そこで生活する児童・利用者を受容し、共感する態度を養う。個人差や生活環境に伴う子どもや利用者のニーズを把握し、理解を深め、子どもや利用者、また家族への支援と対応を学ぶ。さらに社会的スキルを身につけ、他の専門職と円滑なコミュニケーションができる基礎的な力を養う。
到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	2. 子どもの個人差、子どもの個別ニーズを理解した上で、支援計画などを考えることができる。 3. 施設保育士の倫理を理解した上で、社会的養護や療育の現場における適切な判断ができる。
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ループリックによる評価基準	原則として以下の基準で評価を行う。 実習機関の評価 40% 実習日誌などの評価：60% ※なお、評価の委細については「実習の手引き」とループリックを参照すること。
教科書	適宜プリントを配布する
参考書	『10改訂・ポケット版 子どもの権利ノート― 国連の第1回・第2回・第3回「勧告」掲載 ―』、子どもの権利・教育・文化 全国センター
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	保育実習指導Ⅰ（施設）と保育実習Ⅰ（施設）の内容を振り返っておくこと。また、前提となる知識として社会福祉、児童家庭福祉、社会的養護、相談援助、社会的養護内容、障害児保育をベースに授業を展開するので、これらの科目のテキストや資料を再読すること。
履修上の注意、条	保育実習Ⅰ（保育所・施設）を修了していること。

件等	
オフィスアワー	実習中の質問等は、実習センターで受け付ける。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 保育英語I

授業コード：

英文科目名称： English for Nursery Schools I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	1年	1 単位	選択
担当教員			
Mary Jones			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	
添付ファイル			
カリキュラムマップ ルーブリック評価 保育英語I.pdf			

講義概要	In this current global society, the number of non-Japanese speaking children is increasing. With English as the global common language, there is a great need for teachers who can talk with the parents of these students. We will study the English needed to express your learning from other courses, such as nutrition, health and Japanese culture. In this course, we will study the basic English needed to work in an English-speaking nursery school or kindergarten. In each class, we will focus on one topic and learn the English needed not just within the nursery school, but also to talk to parents about their children's day. Mary Jones has 20 years of experience teaching English in Japan from nursery schools to adults in business situations. Her focus in teaching is growing students communication skills through communicative activities that will increase the students' confidence.		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】 【中】 【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回	Children's Garden In this class, we will study English used to introduce yourself and give basic information. A:中 B:少 E: あり F:あり	
	第2回	Study/Homework time: Approximately 2 hours. The First Day of the Internship In this class, we will study places in the school and things that are used in a nursery school. A:中 B:少 E: あり F:あり	
	第3回	Study/Homework time: Approximately 2 hours Out We Go! In this class, we will study the English used when taking the students for a walk and talking about places around the nursery school. A:中 B:少 E: あり F:あり	
	第4回	Study/Homework time: Approximately 2 hours Splash, Splash In this class, we will learn the English used when children are playing in the pool, including common pool play things. A:中 B:少 E: あり F:あり	
	第5回	Study/Homework time: Approximately 2 hours Pancake Day In this class, we will learn the English used when cooking with children and talking about food. A:中 B:少 E: あり F:あり	
	第6回	Study/Homework time: Approximately 2 hours Read Me, Tell Me Stories In this class, we will learn the English used during story time with a focus on talking about stories after listening to them. A:中 B:少 E: あり F:あり	
	第7回	Study/Homework time: Approximately 2 hours Activities with Watermelons In the class, we will learn the English used when doing arts and crafts with children. We will also study the English used when talking about Japanese holidays and events. A:中 B:少 E: あり F:あり	

	第8回 Study/Homework time: Approximately 2 hours Happy Birthday! In this class, we will learn the English used during birthday parties and other celebrations. A;中 B:少 E: あり F:あり 第9回 Study/Homework time: Approximately 2 hours Children at Play In this class, we will learn the English used when playing with children, including common games and toys. A;中 B:少 E: あり F:あり 第10回 Study/Homework time: Approximately 2 hours Baby News In the class, we will learn the English used when taking of infants including talking about their development. A;中 B:少 E: あり F:あり 第11回 Study/Homework time: Approximately 2 hours The Tooth Fairy In the class, we will learn how to talk about health and sickness in English, including dental care. A;中 B:少 E: あり F:あり 第12回 Study/Homework time: Approximately 2 hours The Green-Eyed Witch In this class, we will learn the English needed to talk about plays and other presentations children give. We will also discuss common plays and themes used in these presentation. A;中 B:少 E: あり F:あり 第13回 Study/Homework time: Approximately 2 hours Review We will prepare for review for the final exam. We will also decide pairs and themes for the final presentations. A多 B:少 E: あり F:あり 第14回 Study/Homework time: Approximately 2 hours Final Exam Students will take a final exam covering this course. There also will be time for practice and preparation for the final presentations. B:少 E: あり F:あり 第15回 Study/Homework time: Approximately 1 hour Presentations Final exams will be returned and discussed. Each group will also give their presentation. F:あり
教育目標との関連	In this course, students will learn the importance of English in modern society and be able to use it to communicate with parents and coworkers in the future. They will have the basic English needed to communicate with children and parents about life in a nursery school and be a vital member of the staff.
到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	3. Students will be able to express themselves using basic English and communicate in an early childhood education situation. 2. Students will have a better understanding of the differences between Japan and other cultures. 1. Students will gain the vocabulary needed to work with children.
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	Final Exam 30% Presentations 30% Vocabulary Tests 20% Homework 20%

	There will be multiple sort writing assignments which will be graded using a rubric. The presentations will also be graded a rubric.
教科書	「Children's Garden」 赤松 直子著 成美堂 出版 2018年
参考書	None.
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	There will be a vocabulary test every week, so please study the previous week's vocabulary.
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	I will take questions before and after each class.
備考・メッセージ	

講義科目名称： 保育英語Ⅱ

授業コード：

英文科目名称： English for Nursery Schools II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	2年専攻科	1 単位	2年 専攻科 選択
担当教員			
Mary Jones			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	
添付ファイル			
カリキュラムマップ ルーブリック評価 保育英語II. pdf			

講義概要	In this current global society, the number of non-Japanese speaking children is increasing. With English as the global common language, there is a great need for teachers who can talk with the parents of these students. We will study the English needed to express your learning from other courses, such nutrition, health and Japanese culture. In this course, we will study the English needed to work in an English-speaking nursery school or kindergarten as an assistant teacher. In each class, we will focus on one topic and learn the English needed not just within the nursery school, but also to talk to parents about their children's day. This class will be conducted entirely in English. Mary Jones has 20 years of experience teaching English in Japan from nursery schools to adults in business situations. Her focus in teaching is growing students communication skills through communicative activities that will increase the students' confidence.		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回	Looking for a Good Preschool Asking for Directions to the Preschool Getting Information In this class, we will study telephone English and how to take a phone message. And also questions used when signing up for a nursery school. A:中 B:少 E: あり F:あり	
	第2回	Study/Homework time: Approximately 2 hours. Starting Preschool A snowy day First Day of School In this class, we will study greetings and questions used on the first day of nursery school. We will also learn how to write a questionnaire about the family and make a daily schedule for a nursery school. A:中 B:少 E: あり F:あり	
	第3回	Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Going to Preschool Going to school on a rainy day Going to school on a hot day In this class, we will study the English used when talking about the weather. We will also learn about the passive voice and how it is used in written announcements or letters. A:中 B:少 E: あり F:あり	
	第4回	Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Playing Inside Making Decorations for Children's day Kamishibai In this class, we will learn the English used when talking about Children's Day events and customs. A:中 B:少 E: あり F:あり	
	第5回	Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Playing Inside 2 Dancing In this class, we will learn the English used when talking about dancing or rhythm. We	

		will also learn how to explain Japanese radio exercise. A:中 B:少 E: あり F:あり Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Playing Inside 3 Drawing and Painting Folding Origami Paper In this class, we will learn the English used when talking about arts and crafts. We will also begin preparations for the arts and crafts presentations. A:中 B:少 E: あり F:あり
	第6回	
	第7回	Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Presentations – Arts and Crafts In this class, students will give their arts and crafts presentations. A:中 E: あり F:あり
	第8回	Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Eating Lunch Getting ready for lunch Second helping and cleaning time In the class, we will learn the English used during lunch or talking about meals. We will also learn how to create a menu in English. A:中 B:少 E: あり F:あり
	第9回	Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Snack Time Snack time In this class, we will learn the English used during snack time. We will learn how to write a personal letter or notice to a parent. A:中 B:少 E: あり F:あり
	第10回	Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Playing Outside Playing Tag Playing Jump Rope In this class, we will learn the English used when playing outside. We will learn how to explain common outdoor games. A:中 B:少 E: あり F:あり
	第11回	Study/ Homework Time: Approximately 2 hours School Trip Preparing for the school trip Going on a school trip In the class, we will learn the English used in planning and executing a school trip. We will also learn how to write a letter telling parents about the trip. A:中 B:少 E: あり F:あり
	第12回	Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Sickness Getting a stomachache Getting a fever In the class, we will learn how to talk about health and sickness in English, including calling parents to inform them. A:中 B:少 E: あり F:あり
	第13回	Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Getting Hurt Falling down and getting hurt

	In this class, we will learn the English needed to talk about injuries, including how to describe pain. A:中 B:少 E: あり F:あり 第14回 Study/ Homework Time: Approximately 2 hours Presentations - Preperation We will prepare for the group presentations. Each pair of students will choose one theme of this course and prepare a presentation for the next class. A:多い E: あり F:あり 第15回 Study/ Homework Time: Approximately 1 hour Presentations & Review Each group of students will give their presentations. We will also review and look back over the course. A:多い C:あり D: あり F:あり
教育目標との関連	In this course, students will learn the importance of English in modern society and be able to use it to communicate with parents and coworkers in the future. They will have the basic English needed to communicate with children and parents about life in a nursery school and be a vital member of the staff.
到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	3. Students will acquire the basic English skills needed to work as an assistant teacher. 2. Students will acquire greater understanding of cultural differences. 3. Students will be able to communicate effectively in a teaching situation.
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	Writing assignments 40% Presentations 40% Vocabulary Tests 20%
教科書	「幼保英検2級テキスト」 幼児教育・保育英語検定協会 著 株式会社ブックフォレ 出版 2019年
参考書	None
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	There will be a vocabulary test every week, so please study the previous week's vocabulary.
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	I will take questions before and after each class.
備考・メッセージ	

講義科目名称： 国際こども教育概論

授業コード：

英文科目名称： Introduction to Global Early Childhood Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	1年専攻科	2 単位	1年 専攻科 選択
担当教員			
松田 こずえ			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	
添付ファイル			
「国際こども教育概論」カリキュラムマップ(到達目標) .pdf		「国際こども教育概論」カリキュラムマップ (到達目標)	
「国際こども教育概論」ルーブリック.pdf		「国際こども教育概論」ルーブリック	

講義概要	国際的な保育を学ぶ上での基礎となる事柄をさまざまな角度から取り上げ、内容の理解を促す授業を展開する。海外における保育の潮流、研究の動向、子どもの権利の尊重、多文化共生社会における多様性の尊重等について、受講生が主体的に学び、保育実践に活かすことのできる知識と方法を授業を通して獲得できるようにする。担当教員は私立、及び公立幼稚園での10年の教員経験、また2年の海外在住経験を持つ。これらの実務経験を活かし、国際的な保育を多様な方法により受講生同士が学び合える場とする。		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A: グループワーク B: ディスカッション C: フィールドワーク D: プレゼンテーション E: 振り返り F: 宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回	イントロダクション：本授業の概要と目的を理解する ・本授業の説明（目的、ワークシート、課題、評価について） ・担当教員の紹介 ※個人課題①「世界の子どもの暮らしを知る」についてのガイダンスと例示 予習：シラバスを読み、本授業の概要と目的を知る（30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（30分） A：少 B：多 E：あり F：あり	
	第2回	諸外国における幼児教育への注目（1）OECDの国際調査報告 ・国際調査報告Starting Strong「人生の始まりを力強く」シリーズⅠ～Ⅴの概要について学ぶ 予習：配布された資料を読み、自分の感想と意見をまとめておく（30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（30分） 個人課題①に用いる書籍を選び、分析の視点を見つめる（30分） A：中 B：多 E：あり F：あり	
	第3回	諸外国における幼児教育への注目（2）国際条約「子どもの権利条約」 ・国際条約「子どもの権利条約」の概要と内容を理解し、子どもの権利への考え方、平等主義、民主主義との関わりを学ぶ 予習：配布された資料を読み、自分の感想と意見をまとめておく（30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（30分） 個人課題①に用いる書籍を選び、紹介の内容を検討する（30分） A：中 B：多 E：あり F：あり	
	第4回	子どもを取り巻く国際情勢 ・UNESCO、UNICEFの活動について理解し、児童労働、貧困、ジェンダー、グローバル化と地域格差について関心を深める 予習：配布された資料を読み、自分の感想と意見をまとめておく（30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（30分） 個人課題①に用いる書籍を選び、紹介の準備をする（1時間） A：中 B：多 E：あり F：あり	
	第5回	世界の子どもの暮らし（個人課題①） ・「世界の子どもの暮らしに関心を持とう」の課題の発表と共有 ・ビブリオバトル（ゲーム形式の書籍紹介）の方式を用い、準備してきた本や絵本を用いてグループで学び合う 予習：事前に配布されたワークシートへの記入と持参、及び発表準備、発表書籍の持参（1時間） 復習：自分の発表への振り返り、他の人の発表について関心を持ったことを調べる（30分） A：中 D：多 E：あり F：あり	
	第6回	SDGsとESD（1）「持続可能な開発」 ・「持続可能な開発」の概念の生まれた歴史的背景を知る ・SDGs（持続可能な開発目標）の概要について理解し、自らの生活との関係について考える ※グループ課題②「世界の文化」オリジナルカルタのガイダンスと例示 予習：配布された資料を読み、自分の感想と意見をまとめておく（30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（30分） グループ課題②製作に向けての資料をインターネットや書籍を通じて収集する（30分）	

	第7回	A：中 B：多 E：あり F：あり SDGsとESD（2）「持続可能な開発のための教育」 ・ESD（持続可能な開発のための教育）の概要について理解し、環境と子どもに関する国際的潮流を知る ・ESDの考え方が世界に広がっている理由についての考えを深める 予習：配布された資料を読み、自分の感想と意見をまとめておく（30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（30分） グループ課題②製作に向けての資料をインターネットや書籍を通じて収集する（30分）
	第8回	A：中 B：多 E：あり F：あり SDGsとESD（3）「持続可能な開発のための教育」の実践 ・フィールドワークを行い、ESDの実践的活用を実際に学ぶ ・ESDの概念を保育に活かすための方法を考える 予習：配布された資料を読み、自分の感想と意見をまとめておく（30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（30分） グループ課題②製作に向けて題材を決める（30分）
	第9回	A：中 C：多 E：あり F：あり 国際的視点から見る保育者の専門性 ・保育者の専門性に関するOECD調査報告を用い、保育者の専門性についての理解を深める ・男性保育者と、保育者のジェンダーバランスが世界で注目されている理由について考える 予習：配布された資料を読み、自分の感想と意見をまとめておく（30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（30分） グループ課題②製作に向けて、各自分担して準備を完成させる（1時間）
	第10回	A：中 B：多 E：あり F：あり 世界の文化（民族と宗教）（グループ課題②） ・「世界の文化」オリジナルカルタの発表と共有を通し、文化、民族、宗教への理解を深める ・まずは多様な文化・民族・宗教について知り、保育実践における配慮について考える素地を養う ・世界の文化の共通点と相違点について、オリジナルのカルタづくりで学び、グループで学び合う 予習：グループごとにオリジナルカルタを準備し持参、事前に配布されたワークシートへの記入と持参（1時間） 復習：自分の課題への振り返り、他の人の関心を自らの関心につなげ、学びを広げる（30分）
	第11回	A：中 D：多 E：あり F：あり 幼児教育をめぐる国際機関の働き ・OMEPなどの国際機関の働きや貢献について学び、国際的な研究の結果から日本への示唆を得る ※個人課題③「私にとっての国際的な保育」新聞づくりのガイダンスと例示 予習：配布された資料を読み、自分の感想と意見をまとめておく（30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（30分） 個人課題③「私にとっての国際的な保育」新聞のテーマを書籍やインターネットで調べる（30分）
	第12回	A：中 B：多 E：あり F：あり 多文化共生（1）多文化共生保育とは何か ・多文化共生教育・保育の概要についての理解を深める ・多文化主義と同化主義、多様性の尊重について、実例から考える ・アンコンシャスバイアス（無意識の偏見）について学ぶ 予習：配布された資料を読み、自分の感想と意見をまとめておく（30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（30分） 個人課題③「私にとっての国際的な保育」新聞の題材を書籍やインターネットで収集する（30分）
	第13回	A：中 B：多 E：あり F：あり 多文化共生（2）多文化共生保育の実践 ・多文化共生保育における子どもの言語や文化の問題への理解を深める ・多文化な背景を持つ保護者への共感と連携、及び配慮について、実例から考える 予習：配布された資料を読み、自分の感想と意見をまとめておく（30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（30分） 個人課題③「私にとっての国際的な保育」新聞を完成させる（1時間30分）

	第14回 授業の総括 (1) 個人テーマによる国際的な保育のプレゼンテーション (個人課題③) ・「私にとっての国際的な保育」新聞：世界の保育、幼児教育への関心 (歴史、保育内容、保育制度、カリキュラム等) を新聞の形式にまとめ、発表・共有する ・個人的な関心を、魅力的に人に伝える方法を学ぶ 予習：発表する新聞を準備し持参、事前に配布されたワークシートへの記入と持参 (1時間30分) 復習：自分の発表について振り返り、他の人の関心を自らの関心につなげ、学びを広げる (30分) A：中 D：多 E：あり F：あり 第15回 授業の総括 (2) 授業全体を通して学んだことと今後の課題 ・本授業を通して学んだことを振り返り、今後の多文化共生保育に向けた展望、国際的な保育を学ぶ意味について考察を深める 予習：第1～14回までの各自のワークシートや配布資料を整理し、自分の感想と意見をまとめておく (1時間) 復習：授業で取り組んだ内容の全体を振り返り、関心を持ったことを調べる (30分) A：中 B：多 E：あり F：あり
教育目標との関連	国際こども教育学科で学ぶ意義を意識し、世界に視野を向ける。高い専門性を備えた保育者になり、自らのやりがいを感じると同時に、社会や地域に貢献できる力を身につける
到達目標 カリキュラムマップ	※添付資料のカリキュラムマップ(到達目標)を参照
1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	1. 国際化が進む世界における幼児教育の概要と状況を理解し、説明することができる 3. 多文化共生保育について理解し、その方法や内容について論じ合うことができる 5. 保育における子どもの権利や多様性の尊重について考え、実践の方法を知ることができる
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	1. 提出課題、毎回の授業の中で取り組むワークシートの内容、発言による授業への貢献、参加の姿勢もルーブリック評価の対象とする 2. 成績評価は添付資料のルーブリックを参照 ※欠席等の取扱いについては、『履修要項』に準ずる
教科書	教科書：授業中に適宜指示し、必要に応じてプリントを配布する
参考書	OECD編著；星美和子・首藤美香子・大和洋子・一見真理子訳 (2011) 『OECD保育白書―人生の始まりこそ力強く：乳幼児期の教育とケア (ECEC) の国際比較』明石書店 泉千勢・一見真理子・汐見稔幸編著 (2008) 『世界の幼児教育・保育改革と学力』明石書店 小玉亮子編 (2020) 『幼児教育』ミネルヴァ書房 咲間まり子編 (2014) 『多文化保育・教育論』みらい
準備学習 (予習・復習等) の具体的な内容および必要な時間	上記に記載の通りとする
履修上の注意、条件等	事情により初回授業に欠席する場合には、あらかじめ連絡する 好奇心を持ち、主体性を持って授業や課題に積極的に取り組むことが望まれる 各回のワークシートを整理するファイル (A4サイズ30枚程度 2穴リングタイプまたはレバータイプいずれも可) を準備する 尚、シラバスの内容は、履修学生のスケジュールや理解等により変更の可能性がある
オフィスアワー	研究室で受け付ける 時間は研究室に掲示する
備考・メッセージ	グローバル化する日本において、国際的な視野で保育を捉える視点が今後ますます重要性を増していくことでしょう。これからの日本の未来を生きる子どもたちのために、私達ができることを一緒に考えていきましょう。

講義科目名称： 比較乳幼児教育論

授業コード：

英文科目名称： Comparative Early Childhood Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	2年専攻科	2単位	2年 専攻科 選択
担当教員			
松田 こそえ			
授業形態：演習	担当形態：単独	実務経験：あり	
添付ファイル			
「比較乳幼児教育論」カリキュラムマップ(到達目標) .pdf		「比較乳幼児教育論」カリキュラムマップ (到達目標)	
「比較乳幼児教育論」ループリック .pdf		「比較乳幼児教育論」ループリック	

講義概要	多様化する社会において、次世代の保育を担う保育者には国際的な視点を身につけることが求められている。国際化とは、相手の立場を認め尊重することであり、互いの違いを知り理解しようとする姿勢が重要である。本演習では、異なった歴史、文化、社会の背景をもとに展開してきた世界各国の保育について多様な角度から着目し、多様な価値観、または共通する子ども観についての考えを深める。 演習担当教員は私立幼稚園、及び公立幼稚園での十年間の教員経験、また二年間のアメリカ在住経験を持つ。これらの実務経験を活かし、世界の絵本、遊び、保育形態、保育制度への理解を通じ、様々な文化や考え方に触れるだけでなく、保育者として子どもたちへ国際化教育を行う際の具体的な方法についても学ぶ演習授業を行う。		
授業計画および学習形態	第1回	イントロダクションー比較乳幼児研究の意義 ・本授業説明（目的、ワークシート、課題、評価について） ・担当教員紹介 ※①個人課題「翻訳絵本をジェンダーやダイバーシティの視点から考える」についてのガイダンスと例示 予習：シラバスを読み、本演習の内容と意義を理解する（約30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（約30分） A：少 B：多 E：あり F：あり	
各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A: グループワーク B: ディスカッション C: フィールドワーク D: プレゼンテーション E: 振り返り F: 宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第2回	北欧の保育①ノルウェーー平等の概念に基づいた保育実践 ・ノルウェーの保育のカリキュラムや実践から、幼児期からの積極的な平等教育の内容について学ぶ。 予習：配布された資料を読み、感想を言えるように、自分の考えをまとめておく（約30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（約30分） ①個人課題に使用する翻訳絵本を選び、分析の視点を見つける（30分） A：中 B：多 E：あり F：あり	
	第3回	北欧の保育②スウェーデンー保育における民主主義 ・スウェーデンの保育のカリキュラムや実践から、保育と民主主義の概念との関わりについて学ぶ 予習：配布された資料を読み、感想を言えるように自分の考えをまとめておく。（約30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（約30分） ①個人課題に使用する翻訳絵本と、分析の視点の紹介の準備をする（1時間） A：中 B：多 E：あり F：あり	
	第4回	多様な保育①モンテッソーリー保育と教具 ・モンテッソーリーの保育の歴史と概要を学び、保育における個性の尊重や、保育と道具（教具）との関係について知る。モンテッソーリーの保育実践を素材を使って演習し、その意義や子どもへの言葉かけにおける配慮について学ぶ 予習：配布された資料を読み、感想を言えるように自分の考えをまとめておく（約30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（約30分） ①個人課題に使用する翻訳絵本と、分析の視点の紹介の準備をする（1時間） A：中 B：多 E：あり F：あり	
	第5回	翻訳絵本から学ぼう（個人プレゼンテーション、共有）ー多様性を伝える保育 ・①個人課題「翻訳絵本をジェンダーやダイバーシティの視点から考える」発表と共有 ・翻訳絵本と分析の視点について紹介する。意見を共有し、多様な視点と、子どもへの影響について考える 予習：①個人課題に使用する翻訳絵本と、分析の視点の紹介のワークシートを持参する（1時間） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（約30分） B：中 D：多 E：あり F：あり	
	第6回	多様な保育②シュタイナーー保育と音楽 ・シュタイナーの保育の概要を学び、保育と音楽の関係について学ぶ ・楽器を用いたシュタイナーの保育の音楽やリズムの演習を通し、その意義や、音や保育環境が	

		与える子どもへの影響を考える ※②グループ課題「世界の遊び歌を通して、世界の子どもの共通点を考える」のガイダンスと例示 予習：配布された資料を読み、感想を言えるように自分の考えをまとめておく（約30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（約30分） ②グループ課題発表に向けての資料をインターネットや書籍を通じて収集する A：中 B：多 D：小 E：あり F：あり
第7回		ヨーロッパの保育①森の幼稚園—環境教育と地域 ・デンマークやドイツ等で取り入れられている森の幼稚園の保育や、その取り組みについて学び、保育理念と実践との関係を知る ・自然環境の中で保育することの意味について考える ・②グループ課題に関して持参した資料をもとに担当を確認し、発表の準備をする 予習：配布された資料を読み、感想を言えるように自分の考えをまとめておく（約30分） ②グループ課題についての資料を準備し、持参する（30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（約30分） A：中 B：多 C：中 E：あり F：あり
第8回		アジア・オセアニアの保育①韓国—国際調査からの知見 ・韓国では、保育への関心の高まりからさまざまな保育改革が実施されている。保育制度や保育改革と、保育の「質」との関係を知る。国際調査の結果を用い、各国の子育て事情や保育について調べる方法を知る。 ・②グループ課題の発表の準備をする 予習：配布された資料を読み、感想を言えるように自分の考えをまとめておく（約30分） ②グループ課題についての資料を持参し、担当する内容について準備を進める（約30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（約30分） ②グループ課題発表の準備をすすめる（30分） A：少 B：多 D：少 E：あり F：あり
第9回		世界の遊び歌を通して、世界の子どもの共通点を考える—保育における普遍性 ・世界の遊び歌をグループで演習し、国や文化が異なっても子どもたちが好むものに普遍的なものがあることを知る ・グループワークを通じ、学び合うことの意義について考察を深める 予習：②グループ課題の発表に向けての準備を行い、ワークシートを持参する（約30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（約30分） A：中 B：中 D：多 E：あり F：あり
第10回		ヨーロッパの保育②イギリス—保育と安全性との関わり ・イギリスでは、保護者が保育施設を選択するための園の評価結果がインターネットにより公開されている。特に、保育環境の安全性に着目し、保育と安全性との関わりについて考察する ・演習を通して、安全に保育を行うための工夫や注意点について考える ※③個人課題「世界の中の日本」の説明と例示 予習：配布された資料を読み、感想を言えるように自分の考えをまとめておく（約30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（約30分） A：中 B：多 D：少 E：あり F：あり
第11回		アジア・オセアニアの保育②中国—保育とIT ・中国の保育の内容や地域性のある実施状況を理解する ・保育におけるITの利用や就学に向けた教育について考察する 予習：配布された資料を読み、感想を言えるように自分の考えをまとめておく（約30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（約30分） ③個人課題についてのリサーチを始める（30分） A：少 B：多 C：少 E：あり F：あり
第12回		アジア・オセアニアの保育③ニュージーランド—保育とカリキュラム/ドキュメンテーション ・ニュージーランドにおいて改訂されたナショナルカリキュラム（ティファリキ）に注目し、カリキュラムの内容を実践に結びつけるプロセスを理解する ・ドキュメンテーションに込められた意図を理解する 予習：配布された資料を読み、感想を言えるように自分の考えをまとめておく（約30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（約30分） ③個人課題の準備を行う（約30分） A：中 B：多 D：少

	E：あり F：あり 第13回 保育と歴史①レッジョ・エミリアー保育と社会との関わり ・レッジョ・エミリアの保育の概要と歴史を知り、主に社会との結びつきの観点から、文脈依存的な保育について考える 予習：配布された資料を読み、感想を言えるように自分の考えをまとめておく（約30分） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、関心を持ったことを調べる（約30分） ③個人課題への準備を行う（約1時間） A：中 B：多 D：少 E：あり F：あり 第14回 世界の中の日本から発信しよう／授業全体の総括（1）ー日本からの発信 ・③個人課題「世界の中の日本」を発表し、お互いに意見を交換し、学びを共有する ・日本の保育や文化について改めて考え、日本の保育や文化を世界に発信できるようにする ・今学期の授業を通しての学びの振り返りを行う 予習：③個人課題の発表の準備を行い、ワークシートを持参する（1時間） 復習：授業中に取り組んだ内容を振り返り、授業全体の振り返りを行う（約30分） A：少 B：中 D：多 E：あり F：あり 第15回 保育と歴史②アメリカ／授業全体の総括（2）ー保護者との関わり ・アメリカの保育を中心に歴史的背景を踏まえて多様性についての理解を深める ・主に保護者との連携に着目して保育を考える ・今学期の学びを振り返り、今後の課題を明らかにする 予習：配布された資料を読み、感想を言えるように自分の考えをまとめておく（約30分） 復習：授業全体を総括して振り返りを行い、今後の課題を明らかにする（約30分） A：少 B：多 D：少 E：あり
教育目標との関連	世界の子どもを取り巻く状況や保育についての理解を深め、国際的な視野を持つと同時に、子どもたちに幼児期からの平等の意識を育む国際化教育の方法を知ること为目标とする
到達目標 カリキュラムマップ	※添付資料のカリキュラムマップ(到達目標)を参照
1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	1. 国際的な保育を学ぶ意味について理解し、世界の保育を比較乳幼児研究の観点から説明することができる 4. 平等や子どもの権利、多様性について理解し、保育実践に活かす具体的方法を主体的に考えることができる 5. 多文化共生社会における保育者の役割について理解し、子どもや保護者に対しての配慮を学ぶことができる
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	1. 提出課題、毎回の授業の中で取り組むワークシートの内容、発言による授業への貢献、参加の姿勢をルーブリックによる評価基準に照らし評価する 2. 成績評価は添付資料のルーブリックを参照 * 欠席等の取扱いについては、『履修要項』に準ずる
教科書	授業中に適宜指示し、必要に応じてプリントを配布する
参考書	授業中に、適宜資料を配布する 泉千勢編（2017）『なぜ世界の幼児教育・保育を学ぶのかー子どもの豊かな育ちを保障するためにー』ミネルヴァ書房 OECD編著；星美和子・首藤美香子・大和洋子・一見真理子訳（2011）『OECD保育白書ー人生の始まりこそ力強く：乳幼児期の教育とケア（ECEC）の国際比較』明石書店
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	各回の予習復習は、上記の通りである
履修上の注意、条件等	事情により初回授業に欠席する場合には、あらかじめ連絡する 好奇心を持ち、主体性を持って授業や課題に積極的に取り組むことが望まれる 各回のワークシートを整理するファイル（A4サイズ30枚程度 2穴リングタイプまたはレバータイプいずれも可）を準備する 尚、シラバスの内容は、履修学生のスケジュールや理解等により変更の可能性がある
オフィスアワー	授業の前後、及び研究室で質問を受け付ける 時間は研究室に掲示する
備考・メッセージ	自ら積極的に好奇心を持って学ぼうとする保育者は、子どもに良い影響を与え、自ら積極的に学ぶ姿勢を持つ子どもを育てることにつながります。共に楽しく学び合い、新しい知識を得ることに喜びを感じましょう。

講義科目名称： 乳幼児と脳科学

授業コード：

英文科目名称： Developmental brain science for early childhood

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	2年 専攻科	2単位	2年 専攻科 選択
担当教員			
佐治量哉			
授業形態：講義	担当形態：単独		実務経験：無し
添付ファイル			
乳幼児と脳科学2020ループブック.pdf			
乳幼児と脳科学カリキュラムマップ.pdf			

講義概要	近年、子どもの発達に関する学術的・社会的関心は高まっている。とりわけ脳科学を標榜する書籍は数多く書店に並んでいる。しかしながら、それらの中には科学的根拠のない情報も多く、保育者として信頼できる情報と信頼できない情報を判断することが必須となっている。 この講義では、子どもの発育（成長と発達）や凸凹をとらえる視点として、最新の発達科学や脳科学研究の有用性を示すとともに、その限界もまた示す。15回の講義では、乳幼児期の脳の発達、睡眠、知覚、言語、運動、記憶、情動について取り上げ、発達に関わる諸問題（遺伝・環境、発達障害、学習障害など）についても議論する。第14回目には、学習到達度の確認テストを実施する。 他の科目との関連：「保育の心理学I」「子どもの保健I」で習得する項目を、発達科学・脳科学研究の視点からさらに掘り下げて学び、保育士として必要なスキルのさらなる向上を目指す。また心理学特論と共に学ぶことで、人間の理解はさらに深まることが期待される。 乳幼児の発達科学研究・脳科学研究に従事してきた経験に基づき、最新の知見を保育現場にどのように活かすべきなのか、活かすことができるのかを授業の中で述べていく。		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの割合を明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A: グループワーク B: ディスカッション C: フィールドワーク D: プレゼンテーション E: 振り返り F: 宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回	イントロダクション 近年の技術革新によって、生きている意識のある人間の脳内の活動をリアルタイムに可視化することができるようになってきた。このような脳科学研究は、乳幼児の心の理解にどのように役立つのか？限界はあるのか？脳科学を標榜する育児本や教育法は枚挙にいとまがない。しかし科学的根拠がない誤った知識が独り歩きしている実情もある。この講義では、現在の脳科学研究が人間を理解するために欠かせないものであることを学ぶ。 予習：あなたが脳科学研究に期待することを、その理由を含めて説明できるようにまとめておく。（2時間）	
	第2回	D：少、F：あり 胎児期から乳幼児期の脳の発達 人の場合、産まれたばかりの赤ちゃんの頭部に脳があることは周知の事実である。それでは脳はいつ形成されるのか？この問いに答えるために、この授業では脳の成り立ちについて、母親の胎内から乳幼児期までの期間を中心に学ぶ。 予習：哺乳類、爬虫類、両生類、鳥類、魚類の生き物には脳はあるでしょうか？昆虫、イカ、タコ、クラゲには脳はあるでしょうか？脳がある具体的な生き物を10以上答えられるように調べておく。（2時間）	
	第3回	D：少、E：あり、F：あり 胎児期から乳幼児期の脳の発達に関わる諸問題 喫煙や飲酒と胎児の発育の関係や虐待など胎児期から乳児期における脳発達に影響を及ぼす諸問題について学ぶ。 予習：妊娠中の喫煙や飲酒の是非について、保護者から聞かれた時、保育士のあなたならどのように答えるか、自分の意見をまとめておく。（2時間） 【振り返り】前回の授業内容に関する小テストを実施する。	
	第4回	B：少、E：あり、F：あり 乳幼児の睡眠 眠ること（睡眠）は、乳幼児期の脳のみならず心や身体の発達にとっても欠かせません。この授業では、乳幼児期の眠りの特徴について学ぶと共に、眠りが脳の働きによってコントロールされていることを学ぶ。 予習：赤ちゃんは一日何時間眠っているのか？具体的に答えられるように調べておく。（2時間） 【振り返り】前回の授業内容に関する小テストを実施する。	
	第5回	D：少、E：あり、F：あり 乳幼児の睡眠に関わる諸問題：午睡、夜泣き 乳幼児期には眠りが大切であると思えば思うほど、眠りに関する諸問題が顕在化してくる。たとえば、午睡は何時間とすべきなのか、夜泣きにはどのように対応すべきなのかなど、保育園でよく直面する眠りに関する諸問題について考察する。 予習：午睡の時間に「眠れない」子どもに対して、自分が保育士であつたらどのように対応するか、自分の意見をまとめておく。（2時間）	

	【振り返り】前回の授業内容に関する小テストを実施する。
第6回	B：少、E：あり、F：あり 乳幼児の認知（視覚認知能力を中心に） 脳の視覚野は最も研究の進んだ領域であり、乳幼児の視覚認知能力に関する知見も急速に拡大してきている。特に視覚野は、最も発達が早い領域の一つで生後8カ月程度で、必要な脳内ネットワークの選別が行われると考えられています。この講義では、乳幼児の視覚認知能力を中心に、脳内の神経細胞ネットワークの成熟と視覚機能の発達との関連性について学ぶ。 予習：赤ちゃんの認知能力に性差はあると思いますか？「ある」という場合には、どのような能力で性差があるのか自分の意見をまとめておく。（2時間）
第7回	【振り返り】前回の授業内容に関する小テストを実施する。 D：少、E：あり、F：あり 乳幼児の言語 人間の言語能力は生後36カ月の間に、音声、語彙、文法の獲得とめざましい発達変化を遂げる。その後も徐々に発達は続けるが、最も急激な言語発達が観察されるのが乳幼児期である。この講義では、言語の一次的機能に焦点を当てて言語知覚と言語発話の2つの側面から、特に生後1年の言語獲得過程について学ぶ。 予習：日本人の子どもが0歳から英語学習を始めることの是非について、保護者から聞かれた時、保育士のあなたならどのように答えるか、自分の意見をまとめておく。（2時間）
第8回	【振り返り】前回の授業内容に関する小テストを実施する。 B：少、E：あり、F：あり 乳幼児の運動（手指の微細運動能力を中心に） 乳幼児の運動能力の発達には順序性があります。粗大運動（立位・歩行）や微細運動（つかみ方）能力のマイルストーンを学びながら、乳幼児の運動能力を支える脳と身体の発達について学ぶ。 予習：様々な家庭用のトレーニング用の箸が市販されています。あなたはトレーニング用箸の使用を肯定しますか？否定しますか？それとも条件付きで肯定しますか？自分の意見をまとめておく。（2時間）
第9回	【振り返り】前回の授業内容に関する小テストを実施する。 D：少、E：あり、F：あり 乳幼児の記憶 記憶は私たちの日常生活の中心をなすものである。生まれたばかりの赤ちゃんに記憶はあるのでしょうか？この講義では、生後1カ月の乳児であっても潜在記憶が存在することや、生後8－10ヶ月頃に顕在記憶技能が顕著に向上することなど乳児の記憶研究の知見を学ぶ。 予習：「顕在記憶」と「潜在記憶」について簡潔に説明できるように調べておく。（2時間）
第10回	【振り返り】前回の授業内容に関する小テストを実施する。 B：少、E：あり、F：あり 乳幼児の情動 表情は人間だけが持つ感情表現の一つである。基本6感情と言われる「喜び、悲しみ、怒り、嫌悪、恐怖、驚き」は、文化を超え、全人類に共通に存在する表情である。さらに生後1週間の乳児であっても母親を識別するという新生児の顔選好性はよく知られていることから、人間にとって表情認識は大変に重要なコミュニケーションツールであることが分かる。この講義では、乳幼児の表情認知能力がどのように発達していくのか、表情認識に関わる脳の神経基盤について学ぶ。 予習：「新生児微笑」について簡潔に説明できるように調べておく。（2時間）
第11回	【振り返り】前回の授業内容に関する小テストを実施する。 D：少、E：あり、F：あり 乳幼児の発達に関する諸問題：遺伝と環境 子どもの発達において、親（家庭）の役割は絶対的に重要である。しかし、成育環境や個性を調べて分かることは、遺伝子は環境に寄って、環境は遺伝子によって繋がっているという点である。つまり遺伝 or 環境という捉えかたではなく、遺伝 and 環境という考え方で子どもの発達をとらえる必要があると思われる。この講義では、一卵性双生児の研究などを紹介しながら、人間の心理的・行動的気質形成に及ぼす、遺伝の影響と環境のかかわりについて学ぶ。 予習：自分が「親から遺伝している」と思うことを行動面と心理面に分けてまとめておく。（2時間）
第12回	【振り返り】前回の授業内容に関する小テストを実施する。 B：少、E：あり、F：あり 乳幼児の発達に関する諸問題：発達障害（1）ASD 自閉症スペクトラム障害は、社会性及び対人コミュニケーションの困難さ、過度に強いこだわりや常同行動によって定義される発達障害である。この講義では、自閉症スペクトラムの中心的な問題であると考えられる非定形な自己について解説する。また自己と心の理論の問題に関する脳科学研究を紹介しながら、ASD児に見られる心の理論の不全の原因について学ぶ。 予習：「自閉的な行動」について簡潔に説明できるように調べておく。（2時間）

	【振り返り】前回の授業内容に関する小テストを実施する。 第13回 B：少、E：あり、F：あり 乳幼児の発達に関する諸問題：発達障害（2）ADHD&LD 注意欠陥多動性障害は、一般社会のみならず教育・保育に関わる専門家の中でもまだ十分に認知されているとは言えない。その理由の一つに、ADHDの行動特徴は正常行動からの質的な逸脱がなく、ややあいまいな基準で診断されていることも考えられる。この講義では、最近のADHDの遺伝学的な研究、脳科学的知見、二次障害の有病率の高さ、薬物治療の状況などについて学ぶ。 学習障害の概念は教育現場の立場と医療診断の立場では差異がある。学習障害とは、その概念にまだ曖昧さを含んだ概念である。この講義では、現在学習障害の中で最も研究が進んでいるディスレクシア（Dyslexia）の基本病態や脳科学研究の状況について学ぶ。 予習：「ADHDの特徴的行動」と「読むことが苦手」な子どもに対して、保育士としてどのような対応を取ることができるか。自分の意見をまとめておく。（2時間） 【振り返り】前回の授業内容に関する小テストを実施する。 第14回 B：少、E：あり、F：あり まとめ：テスト 1～14回目までの授業について総括を行い、授業中に学習到達度の確認テストを実施する。 第15回 テストの振り返り 第14回で実施したテストの振り返りを行い、講義内容の理解度・学習到達度を確かめる。到達度が低い項目に関しては、復習用プリントを用いて事後学習する。 F：あり
教育目標との関連	子どもの発育を「大人中心主義」の「経験側」で見極めることは危険である。この科目では、子どもの発育（成長・発達）を捉える新しい視点として、発達科学研究や脳科学研究を紹介していく。人間（特に乳幼児）理解のための高い意欲関心を有し、そのための新しい知識、思考、判断を修得することに熱意があることが望まれる。
到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	DP1：乳幼児の基礎的な発育を発達科学や脳科学的知見と関連付けて説明することができる。 DP2：乳幼児の発育の凸凹に対して、科学的な知見に基づいた工夫や歩み寄りの筋道を立てることができる。
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	1. 期末試験：80% 2. ルーブリック評価：20%（予習課題のプレゼンテーション、ディスカッション、振り返り）
教科書	授業中に随時紹介する
参考書	乳幼児の発達と保育（秋田喜代美監修、朝倉書店）など
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	各回の予習、復習は上記の通りである。
履修上の注意、条件等	
オフィスアワー	講義資料・プリントはGoogle driveを利用してダウンロード可能にします。各自、必要に応じてダウンロードすること。また、講義の内容に関する質問は、質問専用ページを開設（URLは授業中に指示します）するので利用してください。
備考・メッセージ	

講義科目名称： 教育と経営

授業コード：

英文科目名称： Business Management in Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	専攻科	2	選択
担当教員			
永井秀哉			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	
添付ファイル			
永井ルーブリック・カリキュラムマップ.pdf			

講義概要	専攻科の多くの科目では、「幼児教育の専門家」になるための知識と実践的スキルを学んでいるが、卒業後皆さんは、必ず幼稚園などの組織（企業）で働くことになり、そこでは子どもたちに向かうだけでなく、仲間や上司や保護者との関係など、「組織の中での人間の行動パターン」や、「組織（会社や教育機関）を維持発展させる経営の仕組み」の理解が必要となります。また教育効果を上げるために「組織全体の目的：ミッション」を園長や経営者や先輩・同僚・後輩と共有したり、特に現場から「より保育の効果の上がるチームワーク」の提案をすることも大切です。その時に皆さんは、チームを支える一員（フォロワー）であると共に、時にチームを引っ張る役割（リーダー）も同時に担うこととなります。この講義ではそうした組織や経営の側面から「国際こども教育」とはどういうものかを、国内外の保育施設の事例のケーススタディを含めて実践的に考え学びます。なお本講義は、担当教員の企業経営の実務経験に基づく実践教育でもあります。		
授業計画および学習形態	オリエンテーション・イントロダクション（講義概要と講義計画） 学びの目的と学び方の確認。シラバス内容をクラス全体で確認し、本科目全体のあり方、意義や目標を理解する。なおゼミ形式の講義の特色として原典購読を重視する。 予習：シラバスを読んでおく。 復習：自己省察 （約2時間） A：中 B：中 E：あり F：あり 第2回 「企業・組織（保育園・幼稚園など）とはどういうものか？」（企業組織論入門） 「企業・組織とはどういうものか？」考えてみよう。 ・まずは一つの国の経済の仕組みの基礎を理解しよう（家計と企業と政府の関係） ・「資本主義」という仕組みについて基本的な理解を得よう（「貨幣・利潤と価値・便益」の創造プロセス） ・幼稚園・保育園も企業組織の一つとして、国の政治と経済（「資本主義経済」）の枠組みに含まれる。 ・会社（民間企業）・組織（幼稚園・保育園・病院・NPOを含む）の組織体制がどうなっているのかについて学ぶ （課題）「幼稚園・保育園を企業組織という視点から考えてみよう」 予習：指定文献を読む。復習：自己省察（約2時間） A中 B中 Eあり Fあり 第3回 「企業・組織はどのように運営（経営）・管理されているのか？」（経営管理論入門） 「ヒト・モノ・カネ+情報」で「製品商品やサービス」を販売（提供）して対価を得るという「企業（組織）」の基本的仕組みを理解しよう。 ・「どうしても「効率」よく仕事ができ、利益を上げることができるか？」 ・「6つの職能とは？」?技術（生産）、営業（販売サービス）、保全、財務・会計、管理 ・「管理の能力とは」?管理・予測・組織設計・命令・調整・統制 （課題）「幼稚園・保育園がどのように運営されているか、それを動かしている機能・職能・能力という視点から考えてみよう」 予習：指定文献を読む。復習：自己省察（約2時間） A中 B中 Eあり Fあり 第4回 「組織の中の人間行動（Organizational Behavior(OB)）」の基礎理解（入門編） 「幼稚園・保育園・こども園などで働くということ、組織の中で人が共同して働くとはどういうことか」という観点から考えてみよう？」 ・たえず良い業績をあげる人にはどんな特徴があるか ー「コンピテンシー」とは何なのか?人から成り立つシステムを理解するために ・ひとはどうして働くのか、どうして頑張る気になるのか ー「モチベーション」とは何なのか?仕事に打ち込む「元気の素」を探る ・ひとはどういうキャリア（人生行路）を歩むのが良いか ー「キャリア・デザイン」とは何なのか?あなたの人生設計と人生の幸福とは （課題）「上記の問いかけについて各自考え、それをグループで語り、発表しよう」 予習：指定文献を読む。復習：自己省察（約2時間） A多 B多 D多 Eあり Fあり 第5回 《ケーススタディー1》国際子ども教育の実践例を見る 国内のインターナショナルスクール（プリスクール）や、国際子ども教育課程（英語イマージョン教育など）を持つ施設を見学し、保育・教育の現場の活動を多角的に考察する。 予習：指定文献を読む。 復習：自己省察 （約2時間） A：中 B：中 C：多 E：あり F：あり 第6回 《ケーススタディー2》海外の保育園の実践について考える カナダ、ニュージーランド、イタリア（レッチョ・エミリア）などの海外の保育園・幼稚園を事例として、保育・教育機関の組織体制及びその活動、またその構成員等について、講義概要に示す夫々の社会経済的側面から、多角的に考察する。 予習：指定文献を読む。 復習：自己省察 （約2時間）		

第7回	A：中 B：中 E：あり F：あり 《ワークショップ》「どうしたらより創造的に組織（チーム）で働けるか？」（創造的思考法ゲーム；「6色の考える帽子」） 創造的思考法によって〈チーム・ダイナミックス〉を実現するための練習をゲーム形式で行う ・大切なのはチーム・メンバーの相互理解?それぞれの思考法の違いを確認すること?仕事（課題）に向かうスタイル（発想法）の違いを知る ・それが組織をスムーズに機能させるのに有効な手法であり、多くの企業で活用されている ◎「6色の考える帽子」；デボノ博士の創造的思考におけるタイプ別分類法；《ワーク》6つの思考スタイルで仕事を考える ・その実践からどんな創造的思考（アイディア）が生まれるかを実感！ ・まず自分の「思考のタイプ」を考えてみる?自分の流れで考えてみる ・その他の「色の帽子（思考のタイプ）」をかぶって考える?試行と気づき ・他のメンバーの「思考のタイプ?そこから生まれるアイディア！」を聴く ・いろいろな色の協奏を感じ発見する?「チーム・ダイナミックス」の試行 予習：指導文献を読む。 復習：自己省察 （約2時間） A：多 B：多 D：多 E：あり F：あり
第8回	《ケーススタディー3》 幼稚園・保育園や大学の経営職階の人々へのインタビュー 幼稚園・保育園や大学、そして高校・大学を擁する「学園」の経営幹部の方々へのインタビューと座談会 ・「教育と経営」のテーマで語り・考え・学ぶ 予習：観察プロトコルの完成。 復習：自己省察 （約2時間） C：多 E：あり F：あり
第9回	《仮想アクション・リサーチ（1）》 自分の保育園（等）の経営のビジョンづくり」（「SWOT分析」で考える実践） 【1】 ビジョンに盛り込まれるべき7つの要素 ① ミッション（使命・存在意義）、②重点（努力）事項、③行動規範、④組織構造、⑤運営のしくみ、⑥リーダー行動、⑦能力・資源の開発 【2】 自園のおかれた状況の把握と共有化 …SWOT分析による自園のプラス・マイナス要因の理解と特色づくりの取り組み ・内外環境のSWOT分析；外部環境①Opportunity（機会）、②Threat（脅威）、内部環境③Strength（強み）、④Weakness（弱み）、 ・「外部環境要因の把握・解釈シート」「内部環境要因の把握・解釈シート」 ・「自園の内部と内外環境の分析と方策の検討」～この講義の最後に再検討する ・「自園の特色づくりと問題解決策の検討」～講義最終の成果レポートへの導入 予習：指定文献を読む。 復習：自己省察 （約2時間） A：多 B：多 D：多 E：あり F：あり
第10回	「変革するグローバル時代におけるリーダーシップとは？」（1）；「成果と評価の問題—成果につながる仕組みはどのようにつくればいいのか」 成果を意識した組織行動；成果を意識することの本当の意味は？ 1）「目標設定理論」；高い成果と努力を生み出す目標設定のあり方（その条件） ・目標の…①困難性、②具体性、③受容性、④達成度評価と満足度、に十分配慮する必要がある ・人事評価と効果的な評価のフィードバックの方法の大切さ ・「プロジェクトX」に見るリーダー像についてみると目標の③受容性以外は全て理論からハズれている…なぜ？ 2）モチベーションの「夢」理論 ・「まず夢を抱く」、「夢を共有する」、「逆境を克服する」、「初志（夢）を持続する」ことの大切さ 予習：指定文献を読む。 復習：自己省察 （約2時間） A：中 B：中 E：あり F：あり
第11回	「変革するグローバル時代におけるリーダーシップとは？」（2）；「リーダーとマネジャー、リーダーとフォロワーについて考える」 【1】 リーダー（指導者）とマネジャー（管理者）は違う！ ・リーダーはビジョンを描き変化をもたらし、マネジャーは目標を設定し現状を維持する ・リーダーは長期的展望からリスクを取り、マネジャーは短期的視点からリスクを制御 ・リーダーは自分らしく個人的に成長し、マネジャーは模倣し既存のスキルに頼る ・リーダーは人間関係を築きあげて見守り、マネジャーはシステムを整備し指導する、等 【2】 むしろ最悪なリーダー像のイメージから考えてみよう！ ・言うことや指示がコロコロ変わる ・強いものには弱く、弱いものには強い ・大事な局面で責任逃れをする ・感情的で気分屋 ・失敗を部下のせいにする ・上司自身が仕事ができない ・部下の手柄を持っていく ・部下の指導をしない ・決断力がない ・無責任 予習：指定文献を読む。 復習：自己省察 （約2時間） A：多 B：多 D：多 E：あり F：あり
第12回	《仮想アクション・リサーチ（2）》 「みんなが理想とする幼児教育環境・施設」の設計プロジェクト 「自分の保育園（等）の経営のビジョンづくり」（「SWOT分析」で考える実践）」や、教員及びクラスメートのガイダンスと助言に基づき、現時点までの各研究成果をグループで再考察し、深め、一つのプレゼンテーションとして発表できるレベルまで内容、質を究める。 この「設計プロジェクト」に自分がかかわるか？ ・「リーダーシップとフォロワーシップ」とは何かを学び、自分の役割について考えてみよう ・「チームを支える一員（フォロワー）」であると共に、時に「チームを引っ張る役割（リーダー）」でもあり得る、「自分なりの『スタイル』」について考えてみよう

	予習：リサーチ報告ドラフト作成。 復習：自己省察 （約2時間） A：多 B：多 E：あり F：あり 第13回 《仮想アクション・リサーチ（3）》「ヒト・モノ・カネのマネジメント（経営）」の視点から、サステナブルな（維持可能で発展する）企業・組織（幼稚園・保育園）のイメージをまとめてみよう。 ・「仮想アクション・リサーチ・プロジェクト」の見直し検証として、この学びを活かす。 ・「企業経営戦略、特に財務管理戦略（会計学）」からのアプローチ～現場の教員・職員たちの「小さなコスト意識」が大切！その全体の経営状態への波及を考えてみる 予習：指定文献を読む。 復習：自己省察 （約2時間） A：多 B：多 E：あり F：あり 第14回 《仮想アクション・リサーチ（4）》「マーケティングのマネジメント（経営）」の視点から、コンペティティブ（競争力のある）企業・組織（幼稚園・保育園）のイメージをまとめて直してみよう。 ・自園の魅力の整理・強化戦略と市場におけるポジショニングの把握（プロダクト・アウトとマーケット・イン） ・改めて「ミッションと経営理念」に立ち返り、それを「自園の魅力（訴求力）」につなげる「商品・サービス設計」を考えてみよう。「ブランド戦略」も重要。 予習：指定文献を読む。 復習：自己省察 （約2時間） A：多 B：多 E：あり F：あり 第15回 《仮想アクション・リサーチ（5）》プレゼンテーションと共有と考察（ペーパー・プレゼンテーションとポスター・セッション） 「みんなが理想とする幼児教育環境・施設」の設計プロジェクト。独自のテーマにおける仮想アクション・リサーチの探究成果物の発表、共有と考察。 予習：指定文献を読む。 復習：自己省察 （約2時間） D：多 E：あり F：あり
教育目標との関連	教育者としての実践力の定義は子ども達との関わりに限られることでないのは、家族・社会に係る科目でも明確であり、そこには保護者や実体的及び概念的な社会的制度との関わりが必須である。本科目では、教育活動とその社会的関わりを見てゆくことで、教育活動の運営者として、多角的な視点から諸問題等に実際に対処できる能力、及び国際及び地域社会貢献者としての教育者に求められる施設経営能力の開拓の基礎を育むものである。
到達目標 カリキュラムマップ	1. 世界のこどもの育ちに関する専門知識と理解に基づき、望ましい幼児教育保育環境を構想することができる。 2. 幼児教育保育に関わる、経済社会と組織（企業）の仕組みを多角的に思考し、柔軟に判断できる。 3. 望ましい幼児教育保育環境の運営（経営）について、修得技能（知識）を活かしつつ論じ合うことができる。 4. 幼児教育保育環境に興味・関心を持ち、その運営（経営）を広い視野から、主体的に考え探究することができる。 5. 組織における多様な人間行動や、異なる価値観を尊重し受け入れることができ、社会に貢献することができる。 到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること。
評価方法および評価基準	1) 講義・ワークの積極的参加と自ら考えた研究成果の発表を重視する。 講義の積極的参加（30%）、ワークのプレゼンテーション（40%）、小論文（20%）、フィールドワーク参加（10%） 2) 「アクティブ・ラーニング」を重視し、その過程と成果を「ルーブリック」によって評価する。
教科書	授業中に指示します。 購入するものではありません。
参考書	随時指示します。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	各回の予習・復習に関してはシラバス内に指定通り。その他、学期を通し、各自、授業内容及び自己省察を継続的に行い、課題に備えること。
履修上の注意、条件等	特になし。
オフィスアワー	授業の前後に個別に永井教授にアポイントメントを求めること。
備考・メッセージ	自ら「卒業後は何をしたいのか」、そのためには「何を学びたいのか」を見つけ、取り組もうとする意欲を持って授業に参加してほしい。授業内容などで枠組みや制限はあるが、その中で、学生として自分のやりたいことを教員とともに考えていく態度を持って取り組んでほしい。

講義科目名称： 体育理論

授業コード：

英文科目名称： Theory of Physical Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	1 年	1 単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
二階堂 あき子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：有	
添付ファイル			
カリキュラムマップ体育理論校 2. pdf			
ループリック体育理論校 2. pdf			

講義概要	「体育」は「体」を「育てる」と書きますが、どういう事なのかを年間を通して考えていく。実技と理論を通しながら、各自の体育に関する考えを整理し実践して、その過程を記録する。体育実技と合わせて、1年間の各自が体育課題の設定を行い、それをどのように解決したか、達成したのか、もしくはしなかったのかを記録をもとに考える。 体育理論では、自らの課題を実技で試した結果から、各自が施行錯誤し調査し考察を重ねて、経験からどのような成果や発見があり、さまざまな体育理論と関連があったのかをまとめて、プレゼンテーション作成をする。 各自の成果発表を比較検討することで、深い理解につなげる。 体調管理や睡眠指導経験に基づき、記録を科学的に読み解く方法の体得を目指す。 当該科目は、「体育実技」と関連が深く、また、「幼児と健康」や「幼児と表現」分野、そしてプレゼンテーションのための「幼児教育と情報機器演習Ⅰ及びⅡ」とも関連する。 遠隔授業（配信）で行う。		
授業計画および学習形態	各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A: グループワーク B: ディスカッション C: フィールドワーク D: プレゼンテーション E: 振り返り F: 宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。		
教育目標との関連	自分自身の健康課題を考えることで、個人の課題から心身を含めた体育知識の理解を深め、実践できることを目標とする。		
到達目標 カリキュラムマップ	1. 心と体の健康や体力に関する知識を理解して、理解したことを共有することができる。 2. 心身に関する課題を判断して、目的をもって自らの健康に関する目標を設定できる。 3. 自身の心身を管理していくための知識や方法を探索して実践し、説明できる。 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性		

評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	最終課題 50 % 授業内で示した基本知識の理解を評価する。 課題提出、授業内発表及び態度 50 % 課題に取り組む積極的な姿勢と、どれだけ深く取り組めたかを評価する。 *欠席等の取り扱いは、『履修要項』に準ずる。
教科書	https://nikaidou2020.blogspot.com/ に授業スライドを提示することで、教科書の代わりとする。 グーグルクラスルーム内にて課題ドキュメントを配布する。
参考書	『幼児体育』第5版 理論と実践 日本幼児体育学会編 大学教育出版社
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	授業内容を、予習30分程度、復習30分程度してくること。指示されたプリントやサイトは必ず読んでくること。
履修上の注意、条件等	個人課題の発表が評価の主な対象になります。
オフィスアワー	質問等に関しては、googleclassroomの限定コメントにより受け付ける
備考・メッセージ	積極的に発表することが、求められます。モダンダンス、ジャズダンス、舞踊創作の指導者として、35年以上の経験があり、また、親子体操・ダンス、キッズヨガ、障碍児のエアロビクスやダンスなども、都内の各地域の特殊学校等で担当していた。現在はバレエスタジオや地域のサークル活動にて、ダンス創作法やストレッチ方法などを指導中。 遠隔授業（配信）もしくは遠隔授業（ZOOM同時双方向）を8回予定

講義科目名称： 保育とアート

授業コード：

英文科目名称： Early Childhood Care and Art

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	専攻科	1単位	専攻科選択
担当教員			
富金原 光秀			
授業形態：講義・演習	担当形態：単独	実務経験：あり	
添付ファイル			
カリキュラムマップ（保育とアート）.pdf			
保育とアートルーブリック.pdf			

講義概要	保育におけるアートの意義と役割、その表現手段や活動方法について探求・考察・演習を行う。 保育という日常の営みのなかに生成する子どもの表現力について事例などを参考に理解を深めるとともに、実際に表現手段や手だてへのアプローチの仕方、さらにはアートプロジェクトを考案し、創作発表及び検証していく。 子どもたちにとって心をひらいたアート体験は、発達や人間形成において密接な関係にある。人や物を対象に感覚を十分に発揮し、想像や創意工夫することで自己の感性や創造力、しいては表現する力を獲得していく。子どもたちが「アッ」と驚くような意外性のある材料や用具を整え、それら素材を組み合わせたアート環境、すなわち新たな価値の創造が、子どもの興味・関心を引き出すとともに、学びに向かっていく力となる生きた活動を保障する。 担当講師は保育所や幼稚園での製作活動や子育て支援事業におけるフィールドワークを行っている。それら現場経験を交えて保育においてアートが幼児期の発達（いのちの働き）にもたらす役割について実践的に考察・検証する。		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回	芸術と教育 ・芸術と人間形成（保育・教育哲学）について、子どもの発達とアートの関係について熟議を行う。	
	第2回	・芸術と保育について ・芸術とコミュニケーション ・アートの現代的意義と課題 A. グループワーク 【多】 B. ディスカッション F. 課題 表現者として育つ ・幼少期の発達にかかわるインプット、プロセス、アウトプットについて体系的に考察する。	
	第3回	・観察と鑑賞 ・想像、創造について ・表現者として育つ A. グループワーク 【多】 B. ディスカッション F. 宿題 粘土とアート ・粘土を題材とした保育のアートプロジェクトを構想する。	
	第4回	A. グループワーク B. フィールドワーク C. プレゼンテーション F. 宿題 色とアート ・色の芸術性、科学性を理解し、色を前面に保育活動を構想、デザインする ・子どもの自由な表現を色のみで引き出す。	
	第5回	A. グループワーク B. ディスカッション 【多】 C. プレゼンテーション D. 宿題 カタチとアート ・えがく活動をデザインして、アートプロジェクトとして構想する。 ・カタチを見つける。（様々な形から、紙版画製作につなげる）	
	第6回	A. グループワーク B. ディスカッション D. 宿題 えがくアート ・えがく活動をデザインして、アートプロジェクトについて模擬体験を行う。 ・指でえがく（澱粉糊に絵の具を混ぜた遊びからの発展） ・物語と絵（お話の世界を絵に表現する） A. グループワーク B. プレゼンテーション	

	第7回	C. 振り返り 音とアート ・自然の音や生活音を中心に音をデザインし、リズム表現や造形表現に組み込む。 A. グループワーク 【多】 B. フィールドワーク C. プレゼンテーション D. 振り返り
	第8回	文字とアート ・手紙、絵文字、書写によるアート体験を構想し、保育活動にデザインする A. グループワーク 【多】 B. プレゼンテーション C. 振り返り D. 宿題
	第9回	ICTとアート ・ICTを活用したアートの提案と実践。 ・ICTで子どもの保育・教育を考察する。（教材研究及び提示） A. ディスカッション B. フィールドワーク 【多】 C. プレゼンテーション D. 宿題
	第10回	環境とアート ・アースワーク、ランドスケープデザイン、インスタレーションアートについて実際に遊具やオブジェを企画・デザインする。 A. グループワーク 【多】 B. プレゼンテーション C. 振り返り
	第11回	世界の芸術教育 ・レッジョエミリア、フレーベル、モンテッソーリ、シュタイナー等の芸術教育を考察、体験する。 A. グループワーク 【多】 B. ディスカッション C. プレゼンテーション
	第12回	アートプロジェクトと地域連携 ・アートプロジェクトを通して、学校や地域との連携、町の特色に寄与するための熟議や施策を検討する。 A. グループワーク B. ディスカッション 【多】 D. プレゼンテーション E. 振り返り
	第13回	卒業制作Ⅰ ・アートの現代的意義や課題を踏まえ、想いをカタチにする総合的な創作活動を行う。 A. グループワーク B. ディスカッション 【多】 C. フィールドワーク 【多】 D. プレゼンテーション E. 宿題
	第14回	卒業制作Ⅱ ・アートの現代的意義や課題を踏まえ、想いをカタチにする総合的な創作活動を行う。 A. プレゼンテーション E. 振り返り 【多】
	教育目標との関連	保育とアートの関係は、事物を観察し、身体で触れ、驚きや不思議に思い、試行錯誤の中で自ら探求し、想像・創造、表現すること、また他者と意見を交わし学び合うことで知識や知恵を身につける。それらを通した一連の活動のなかで。学びに向かう力、豊かな人生を生きる力を育む。保育におけるアートの役割と意義を理解するとともに表現力を養うことは、子ども期のみならず、生涯を通じて人の発達・成長に大きくかかわる。幼少期における発達とアートの相関関係を理解し保育の実践力を養う。 保育とアート活動を通して、学校や地域との連携や協働、町の特色に寄与するための熟議や施策を検討する。
	到達目標 カリキュラムマップ	1. 国際的な保育・教育の動向を踏まえ、幼少期における表現の発達過程と感性・創造力との相互関連性について理解できる。 3. 保育活動や社会活動をアートプロジェクトとして思考・構想し、保育計画を立案・実践・報告できる。 5. 保育における表現の手段と発達過程について探求と対話を重ね、保育・教育者として子どもたちとともに学び、育つ意義や態度を自覚できる。 到達目標は添付資料のカリキュラムマップを参照すること。
	知識・理解	
	1. 知	
	2. 思考・判断	
	3. 技能・表現	
	4. 関心・意欲	
	5. 人間性・社会性	

評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	試験 50% ルーブリック評価・学修ポートフォリオ課題 30% 受講態度 20% 評価基準は添付資料のルーブリックを参照すること。
教科書	槇英子著『保育をひらく造形表現』2018 萌文書林 ￥2,300
参考書	磯部錦司・福田泰雅著『保育の中のアート』小学館
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	各時間の内容について自分なりに想像し、考えをまとめておく。
履修上の注意、条件等	教職者をめざす学生として、自覚、自律ある態度をもって授業に取り組むこと。
オフィスアワー	大講義室及び遠隔授業についてはオンラインのコメントで質問・相談を受け付ける。（研究室に時間帯を掲示）
備考・メッセージ	子どもたちが五感を統合して世界を認識するように、アートを総合的に広げていく活動を行います。それは造形、音楽、自然環境、ICT、言葉等を手段として、生活や遊びの中にとりこんでいくプロジェクトとなります。私たち一人ひとりがもつ創造性を発見するとともに皆さん自ら表現者になってほしいと思います。今年度は第1回～3回、第5回、10回で遠隔授業（配信）を行い第4回、6回はZOOM授業、8～9回、11回～14回は対面授業を行う。製作についてはポートフォリオを利用、作品は画像をオンライン上で提出。

講義科目名称： こどもと国際貢献

授業コード：

英文科目名称： Contribution to Young Children and World

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後学期	専攻科	2単位	専攻科 必修
担当教員			
金田利子			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	
添付ファイル			
子どもと国際貢献カリキュラムマップ.pdf			
子どもと国際貢献ループリック.pdf			

講義概要	子どもは、人類の未来である。子ども時代からの国際的交流は、世界平和の礎となり子どもの国際貢献を意味する。今年は、子どもの権利条約の国連における採択から31年、日本批准から26年となるが、子どもの生存と発達はまだ保障されているとはいえない。それどころか、一方では飢餓や戦時下の中で苦しい生活を余儀なくされる子どもが多く、また一方では児童虐待が増加するなど、一層子どもたちが生きにくい社会になってきている。ここでは、子どもの権利条約の視点から国際的視野で持続可能な社会のありようを考えていく（子どもとESD）。 「子どもと国際貢献」の学びの応用として、外国籍の子どもの保育をインクルーシブな関係になるようにしていくコーディネーターになり得る力も養っていききたい。 以下の授業内容は、参加者の意見と討論により適宜変わることがある。		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A: グループワーク B: ディスカッション C: フィールドワーク D: プレゼンテーション E: 振り返り F: 宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回	イントロダクション：国際貢献とは？子どもと国際貢献の視点 ・国際貢献とは？子どもを取り巻く世界から考える ・子どもの位置：①子ども自身の国際貢献と、②子どもを育てる大人の側の貢献 ・授業の内容説明・担当教員と参加学生の相互紹介 B 多 世界の子どもの現状と国際貢献—世界の子どもの今— ・世界の子どもを取り巻く世界情勢について理解を深める ・その中での子どもの実態を探る—光と影 ・国際貢献の取り組みの事例 A, B 多 世界の子どもの現状と国際貢献—日本の子どもの今— ・日本の子どもを取り巻く日本の情勢について理解を深める。 ・新聞記事文献等からワークショップを試みる ・年間に適宜入れるフィールドワークを計画する。 A, B 多 子どもの国際貢献とESD（外国籍の子どもの保育を考える中で） ・ESD(Education for Sustainable Development)とは？ ・ESDと国際貢献をつなぐOMEP（世界幼児教育・保育機構） A, B 多 子ども自身の国際貢献 ・幼児期からの多文化理解教育 ・子ども自身が次世代に継続（持続）する存在であること ・子どもの心に平和のタネを A, B 多 子どもの関わる保育者・養育者の国際貢献：①ESDとSDと子どもの権利条約 ・ESDと子どもの権利条約の理解 ・上記両者の関連の理解 A, B 多 子どもの関わる保育者・養育者の国際貢献：保育者・保育学生にできること ・OMEPにおける子どもの権利条約の絵本作りとその効果 ・上記のテーマで討論する—子どもに自身の権利を知らせるための参加者による教材づくり A, B 多 子どもの関わるNGO/NPOの酷使貢献の国際貢献：①OMEP ・OMEPのこれまでの取り組み—7つのR ・World OMEP のESDに関する取り組みと日本の取り組み 世代間交流における子どもの意味 A, B 多 子どもの関わる保育者・養育者の国際貢献：Save the children Japan ・活動についての聞き取り ・自身の理解を冊子のまとめる A, B C 多 子どもの関わる保育者・養育者の国際貢献：ユネスコ・ユニセフ 子どもの関わる保育者・養育者の国際貢献：ユネスコ・ユニセフ 子どもの関わる保育者・養育者の国際貢献：IPA(国際遊び協会) 子どもの関わる保育者・養育者の国際貢献：IPA(国際遊び協会) 外国籍の子どもの保育と日本の貢献 ・文献に学ぶ ・実態の把握 A, B 多 子どもと国際貢献のまとめ—これまでの学びから ・これまでの振り返りからの整理—子ども自身の国際貢献	

	・保育者及び社会的機関の取り組み A、B 多 第14回 子どもの国際貢献のまとめ—改めて子どもの権利条約との関係から ・子どもの権利条約に当たって考える。 ・報告してあつて考えをまとめる。 A、B 多 第15回 学びの振り返りと今後の展望 ・これまでのまとめを整理しプレゼンテーションをする。 ・学ぶ前と今を比較し自己評価をする。 B、D、E、多
教育目標との関連	子どもも国際貢献の担い手であると認識して、受講者が国際貢献者であるという当事者意識を高めること、そして保育現場における国際貢献の働きについての考え、実践する力を身につける。
到達目標 カリキュラムマップ	1. 子どもを取り巻く事象について地域・社会・世界視座から捉え、理解し説明できる。 2. 子どもの理解者・探究者・代弁者として、国際貢献のあり方について専門家意識を蓄え、考えることができる。 5. 保育の専門家として歩むための学びであるとしての意識を持ち、他者と学び合うことを理解し、協調できる。
評価方法および評価基準	授業態度・参加状況・提出課題とプレゼンテーションを総合的に評価。 授業態度・参加・課題への取り組み 30% 提出課題・個人プロジェクトとプレゼンテーション 70% *欠席等の取扱いについては、『履修要項』に準ずる
教科書	授業にて提示・紹介します。（OMEP・ユネスコ・ユニセフ・全国私立保育園連盟等の発刊図書を授業で購入することもある。）
参考書	五島敦子・関口知子編著『未来をつくる教育ESD』明石書店、2010年、2,160（税込） 萩原元昭著『多文化保育論』学文社、2008年、1,200（税別）
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	毎授業の課題について文献等を探索・探究する姿勢で読み、問題意識・課題を持って授業に臨むこと。授業後は振り返りを行い、不明な用語・内容について理解しておくよう努めること。
履修上の注意、条件等	・授業を構成する当事者として臨みましょう。 ・携帯電話等の教室内における使用を控えましょう。 ・シラバスの内容は、履修学生の理解等により変更も有ります。
オフィスアワー	講師滞在時間内
備考・メッセージ	・受講生のスケジュールやフィールドワークにより、授業のスケジュールが変更する可能性があります。 ・子ども・保育について知りたい、分かち合いたいとの思いで履修しましょう。

講義科目名称： 言語教育と幼児教育

授業コード：

英文科目名称： Additional Language Education and ECE

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	専攻科	2単位	専攻科
担当教員			
長谷山 康一			
授業形態：講義	担当形態：単独	実務経験：あり	
添付ファイル			
言語教育と幼児教育カリキュラムマップ.pdf			
言語教育と幼児教育ルーブリック.pdf			

講義概要	国際こども教育の現場では、学び手のこども達にとっても、教え手の教育者にとっても非母国語の教育的性質の重要性は、昨今の国際幼児教育の場でも国内外で共に顕著であることは否めない。本科目では特に、この言語教育を幼児教育における資源として捉える視点を持つものとする。イマージョン教育など、昨今耳にする機会の増えた概念などに事例を通して触れ、検討することで、言語教育と幼児教育の関係性および意味を考えるとともに、その可能性や問題点について考える。先行して履修している「保育内容」系の科目等での学びを幼児教育に係る考察要素の一部土台とする。 他の科目との関連：国際こども教育概論で一定に位置付けられた言語教育と幼児教育の共存性とその特徴を考察する。他の英語系科目での学びも、その言語的基礎知識として基となる		
授業計画および学習形態	1	イントロダクション	
各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。	2	シラバス内容をクラス全体で確認し、本科目全体のあり方、意義や目標を理解する。 予習：シラバスを読んでおく。 復習：自己省察 (約2時間) A：中 B：中 E：あり F：あり 言語教育概論 国内外の言語教育、特に付加言語としての英語の指導方法論と実践例を通じて、言語教育の昨今の基礎を理解する。 予習：指定文献を読む。 復習：自己省察 (約2時間) A：中 B：中 E：あり F：あり こども英語教授法 - 理論 前回授業を、「こども」と「英語」という視点で掘り下げる。英語コミュニケーションⅡなどで扱われる「言語としての英語」とリンクして、言語というものの自体に焦点を当てる一方で、幼児期を中心に発達心理、教育心理、認知科学などの分野から基礎的な概念や理論を借りて、考察をする。 予習：指定文献を読む。 復習：自己省察 (約2時間) A：中 B：中 E：あり F：あり こども英語教授法 - 実践 前授業内容に基づき、昨今のこども英語教授法の実践方法について、事例を通し、理解し、その応用性、有効性などを検討する。 予習：指定文献を読む。 復習：自己省察 (約2時間) A：中 B：中 E：あり F：あり 近代の国際教育と語学教育の位置付け 1 (国内インターナショナルスクール・こども英会話事業の事例から) 国内のインターナショナルスクール等による国際教育活動における言語教育の位置付け、意味について考察する。 観察プロトコルについて。 予習：指定文献を読む。 復習：自己省察 (約2時間) A：中 B：中 E：あり F：あり 近代の国際教育と語学教育の位置付け 2 (IB/Oxfam/Australia) 国際教育の国際的機関による教育活動における言語教育の位置付け、意味について考察し、国内での国際教育活動と比較検討する。 予習：指定文献を読む。 復習：自己省察 (約2時間) A：中 B：中 E：あり F：あり フィールド・ワーク 1 カナダ・日本語イマージョンクラスを観察。 予習：観察プロトコルの完成。 復習：自己省察 (約2時間) C：多 E：あり F：あり 言語教育と幼児教育の関係 1 (言葉・表現)	
①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。	3		
A: グループワーク	4		
B: ディスカッション	5		
C: フィールドワーク	6		
D: プレゼンテーション	7		
E: 振り返り	8		
F: 宿題			
②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。			
多：45分以上			
中：15分～44分			
少：15分未満			
Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。			

	幼児教育の中でも「言葉」と「表現」という側面に焦点を当て、国際こども教育という枠組みの中で、言語教育のあり方、意味、教育資源としての価値を考える。 予習：指定文献を読む。 復習：自己省察 （約2時間） A：中 B：中 E：あり F：あり 言語教育と幼児教育の関係2（造形・音楽） 幼児教育の中でも「造形」と「音楽」という側面に焦点を当て、国際こども教育という枠組みの中で、言語教育のあり方、意味、教育資源としての価値を考える。 予習：指定文献を読む。 復習：自己省察 （約2時間） A：中 B：中 E：あり F：あり 言語教育と幼児教育の関係3（環境） 幼児教育の中でも「環境」という側面に焦点を当て、国際こども教育という枠組みの中で、言語教育のあり方、意味、教育資源としての価値を考える。 予習：指定文献を読む。 復習：自己省察 （約2時間） A：中 B：中 E：あり F：あり プレゼンテーションの意義とあり方（準備） プレゼンテーション課題の提出に向け、プレゼンテーションの基礎、各種手法を学ぶ他、国際教育との関わりを検討する。 予習：観察準備。 復習：自己省察 （約2時間） A：多 B：中 E：あり F：あり フィールド・ワーク2 初期観察における考察及びその後の授業での学びを前提知識として、他の施設を観察。 予習：観察プロトコル改訂版の完成。 復習：自己省察 （約2時間） C：多 E：あり F：あり Mini Project：テーマの模索 フィールドワークやこれまでの授業内容から個別のミニ研究・発表プロポーザルを作成。グループやクラス全体での共有と検討し、各自（グループまたは個人）のテーマの意味付け視点及び視野を探し求め、決定する。 予習：プロポーザル作成。 復習：自己省察 （約2時間） A：多 B：中 E：あり F：あり Mini Project：テーマの探求 前回の授業で得たテーマの基盤的内容を教員のガイダンスに基づき、深め、一つのプレゼンテーションとして発表できるレベルまで内容、質を究める。 予習：原稿作成。 復習：自己省察 （約2時間） A：多 B：中 E：あり F：あり プレゼンテーションと共有と考察（ペーパー・プレゼンテーション/ラウンド・テーブル/ポスター・セッション） 独自のテーマにおける探究成果物の発表、共有と考察。 予習：指定文献を読む。 復習：自己省察 （約2時間） D：多 E：あり F：あり
教育目標との関連	保育現場等での円滑な国際レベルでの他言語コミュニケーション能力の必要性や有用性に関わるステークホルダーは、こども達に限らず、教員、職員、保護者など多岐にわたる。本科目では教育・保育資源としての言語教育の理論と実践への検討を通して、先述の各ステークホルダーの視点から言語教育と幼児教育について考察し、さらにはそれらを包括的に検討する。
到達目標 カリキュラムマップ	1 本科目では教育や保育現場で有用な関連知識および考察力を身につけ、独自の環境への応用ができる。 2 言語を教育の対象および手段の両側面での意味付け及び融合性の検討に有用な理論や概念、及びそれらを事例における各側面に結びつけることができる。 5 教育者としての外国語運用力自体と教育資源としての言語の扱いにおいて自己能力と社会の観点から個々の考えを構築できる。
評価方法および評価基準	準 学習ノート 20% 授業毎に自己省察を行い、各授業における学習への理解度や内在的積極性を評価します。 プレゼンテーション（グループ・個人） 30% 各自に設定した関連テーマにおいて学びを深めた度合いを評価します。 小論文 30% ドラフト及び最終版の提出を持って学習理解度と積極性を評価します。 フィールド・ワーク 20% 実践現場を観察し、報告する。講義での学びとの関連した思考力を評価する。
教科書	授業中に指示します。 購入するものではありません。

参考書	無
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	各回の予習・復習に関してはシラバス内に指定通り。その他、学期を通し、各自、授業内容及び自己省察を継続的に行い、試験や課題に備えること。
履修上の注意、条件等	特になし。
オフィスアワー	毎週、授業前後に設定する。
備考・メッセージ	自ら「卒業後は何をしたいのか」、そのためには「何を学びたいのか」を見つけ、取り組もうとする意欲を持って授業に参加してほしい。授業内容などで枠組みや制限はあるが、その中で、学生として自分のやりたいことを教員とともに考えていく態度を持って取り組んでほしい。

講義科目名称： 保育内容特論

授業コード：

英文科目名称： Practical Approach to Contents of Childcare

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	専攻科	1単位	専攻科 選択
担当教員			
入江和夫 福地昭輝			
授業形態：演習	担当形態：オムニバス	実務経験：あり	
添付ファイル			
カリキュラムマップ 保育内容特論. pdf			
ルーブリック 保育内容特論. xlsx			

講義概要	こどもはあそびがすべてである。五感を駆使して事物現象を探り、そして自らのものにする能力は、持って生まれた人間として環境に生きるための術である。五感を研ぎ澄ますにはどうすれば良いのか。そこに環境の構成と体験をしやすい状況を作り、自らの好奇心を揺さぶらせる仕掛けが必要である。こどもは楽しみながら一人で、やがて友達と一緒に遊ぶ快感を共有しながら、あそびを作り出し成長する。創造性の原点となる幼児期を逃してはならない。会話や表現も活発になり、気づきや新たな疑問が生まれ、探索行動は深まる。生きている自然は、子どもにとって学びの原点であり、保育者はどんなことに興味を持ち、そこで起こす様々な行動を注視するかの能力が問われる。短大に附属する認定こども園行事などに参加することで学びの場を持ち、本学が有する自然をフィールドとした活動を元に、その能力の形成の基礎的思考方を学ぶ。理論を検証するために、事例を実際に保育者自身が体験したり実際の保育活動の観察や時には海外研修の成果を活かした記録と実習体験を比較検討しながら大切な要素を取り出し類別して、方法を身につけるため演習形態をとり、課題研究的に行う。		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの度合いを明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回	大学キャンパスフィールドワーク その1 ①フィールド調査とマップ作り キャンパスの平面図を作成し、キャンパス内でどのような自然物（樹木や草花）が存在するの か。 二人一組でエリア別に30分間調査する。 簡単な絵図にする。写真を撮って貼り付けてもよい。 A&多	
	第2回	大学キャンパスフィールドワーク その2 ②幼児の行動 活動内容と言葉 幼児は、キャンパスを遊び場と考えてどのような行動に出るか。 興味を持つのはどのようなことか。 どのような言葉を発するか。 などを想像して書きだす。色別ポストイットを使う。行動 黄 興味 青 ことば 赤 カードの内容を関連付けする。 A:中 E:中	
	第3回	第3回 第4回にも 同様の学習方法を用いる 環境構成 保育活動の場としての環境の望ましい姿を考える その1 自然を生かしのびのびと保育のできる環境についての実際の保育園を見学し、その設計の基本的な理念と活動の実際を学ぶ。多摩地区の保育園の実地見学 ①環境の成り立ちの記録を写真とスケッチで記録する A&多	
	第4回	環境構成 保育活動の場としての環境の望ましい姿を考える その2 メモや記録をもとにして、環境構成について自分だったらこのような工夫をしてみたいなど自由に出し合い、互いのアイデアから望ましい環境をデザインする B:多	
	第5回	幼児の気づきのとらえかた あそびの中に入り、どのような遊びとそこに生まれることばや行動に着目する。 あそびの種類（運動 ごっこ ものづくりなど）ごとに、要素をひろいだす。 C:多	
	第6回	保育活動の構成（指導案作成と教材研究の方法） 指導案作成 ①指導案作成に当たり、取り上げる活動に関する教育要領を分析し、目標設定を行う。 ②活動場所と教材などの選定を行い、およその時間配分を考えて、導入 展開 まとめを構成する。 ③活動支援の方法を検討する。 教材研究 ①素材に当たる材料 用いる道具の選定 ②製作物を予備的に作成しながら、幼児の場合に技能やつくる時間などの推定を行う。	
	第7回	体験活動における幼児の活動の特性 その1 附属園行事として「親子のつどい広場（月1回の土曜日）」年間8回のうち、4回に参加して、体験活動や製作中の活動の幼児の様子を観察して特に幼児の技能や製作過程つぶやきなど保護者の様子を含め記録する C:多	
	第8回	体験活動における幼児の活動の特性 その2 幼児は自然環境をどのようにとらえるか モノづくりの過程での技や表現の仕方はどうか 幼児が興味を持つ内容に着目して観察する。 作品に寄せた子供の心をくみ取り、集約して傾向をとらえる 自然物を利用したおもちゃや遊び道具、飾りなどの製作物について種類別に分担して観察記録する。	
	第9回	わが国の体験活動の活発な取り組み事例と討議 その1 対象としての自然のとらえかたと幼児の活動を結び付けて事例を考察する。 DVDによる事例をもとに、その特徴を見極めて背景となっている教育の考え方を探る	

	視点 ①森や林 川や池 山や丘などを環境にして、環境を形作る構成する自然物（樹木や落ち葉 木の実 石 土など）と成り立つ環境を要素的にとらえる ②草はら 砂場 林などのなかで幼児はどのような遊びをするか ③自然豊かな環境の中での幼児の遊びから、幼児は何を獲得し成長するか 指導要録には、幼児のどのような能力が獲得されているかについてその評価を示すことである。その表現について検討する。 第10回 わが国の体験活動の活発な取り組み事例と討議 その2 五感（幼児の生まれながらに持っている感覚センサー）について、ディスカッションする。 第11回 諸外国の体験活動の活発な取り組み事例と討議 その1 DVDによる事例をもとに、その特徴を見極めて背景となっている教育の考え方を探る 視点 その国の風土（気候 民族的な特徴をふまえて） ①森や林 川や池 山や丘などを環境にして、環境を形作る構成する自然物（樹木や落ち葉 木の実 石 土など）と成り立つ 環境を要素的にとらえる ②草はら 砂場 林などのなかで幼児はどのような遊びをするか ③自然豊かな環境の中での幼児の遊びから、幼児は何を獲得し成長するか 第12回 諸外国の体験活動の活発な取り組み事例と討議 その2 レイチェル・カーソン著「センス オブ ワンダー」を読んで、幼児からセンサーがどのように発達していくのか ディスカッションする B:多 第13回 課題のまとめ 報告書作成 これまでの学習内容を振り返り、課題に取り組んだ成果の報告について、レポートの書き方及びプレゼンテーション報告の方法を示す。 発表に関する構想を示して個別に助言する。 E:あり 第14回 発表および今後の課題研究 その1 一人15分のプレゼンテーションをもとに各自の発表内容について フリーにディスカッションしながら成果と課題を確認する B:多 第15回 発表および今後の課題研究 その2 課題について 今後どのようにアプローチして教材や活動の開発を進めるかを考察する B:中
教育目標との関連	こどもの遊びを通しての指導、働きかけの意味を学び、理解を深める。更にはこどもの発達段階に応じた指導計画を立案し実践する力を身につける。 あそびに含まれる保育5領域の内容を常に意識し、関連を図りながら、幼児ひとり一人の発達に応じた支援の能力を習得する。 同時に学習成果の把握の仕方を学び、指導要録に反映できるように文章表現能力も培う。
到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	1. 幼児のあそびの姿から、心・技・体の萌芽を見つけて、それらがどのように発達をしていくか。教育の基礎理論に基づき知識を体系的に自分自身の学びの学習成果として理解して、更に向上しよう学びを深める自己目標を設定することができる。 2. 幼児のあそびの姿から、その活動の原点となる子どもの好奇心・疑問・興味・関心などに注意し、こどもの絵画表現などの情報をもらさずとらえて、的確な支援やことばかけができるよう、学習成果を実践現場の事象から判断・分類し、保育や子育て支援に活かすことができる。 3. あそび活動やものづくりの支援やモデルを示すとき、自らの体験で感じたり考えたりしたことを幼児に分かりやすく、かみくだいて説明できるなど、実習や演習科目の保育技術の実践経験を振り返り、保育内容から自分の得意分野などの技能を自覚し、保育現場での表現方法として活かすことができる。 4. 日ごろから幼児のあそびや好奇心や興味ある活動に関心を寄せ、指導法や教材の開発を進んですることができ、保育現場が抱える保護者対応や幼児の健康保持や安全などの問題意識・グローバル社会の保育事例などを問題意識として関心を持ち、解決を共に図る意欲を高めることができる。 5. 学習内容をふりかえり課題設定を行い、その解決に向けた取り組み方、および、学んだことをまとめ発表でき、保育現場で教員として常に責任感を持ち、深い愛情と共感性を備えて、チーム保育者として行動できる。
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	評価方法 活動の取り組み度チェックリストをもとに、態度を評定する。各回の内容と到達目標のマトリックスをもとにした学習成果チェックを実施する。情報収集能力 まとめて整理する能力 成果を示す表現力などを5段階評定する。課題発表時の発表内容と説明の仕方（プレゼンテーション能力）を評定する。これらの評定や発言内容、学習態度などを含めて総合評価する。 評価基準 第1～12回提出物ワークシートを評価する 60% 第13～14回の評価点 20% 第15回 評価点 20%
教科書	自然観察入門 日本自然保護協会 （短大で貸与）
参考書	文部科学省 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園保育要領 厚生労働省 保育所保育指針 保育内容「環境」「表現」「言葉」「人間関係」「健康」で使用した教科書 レイチェル カーソン著 上遠 恵子訳 「センス オブ ワンダー」 新潮社
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	
履修上の注意、条件等	5月16日（土）又は23日（土）春の自然活動 10月24日（土）秋の自然活動 1月16日（土）昔あそび 幼稚園 2月6日（土）冬の自然活動に参加すること 4回は、シラバスで示す関連したテーマの授業に振り替えとなる。
オフィスアワー	入江 福地 それぞれの研究室に掲示する

備考・メッセージ	授業形態：大学キャンパスフィールドワークFW①キャンパスの林の中に入る。および、畑仕事ができるよう長袖の服装と帽子を着用のこと 長靴や軍手などは短大で用意する あそびのすがたと園の環境構成に関連するフィールドワークFW② 近隣保育園の見学を計画中 訪問にふさわしい服装で
----------	--

講義科目名称： 体育実技

授業コード：

英文科目名称： Activities in Physical Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1 年	1 単位	卒業必修、幼免必修、保育士必修
担当教員			
二階堂 あき子			
授業形態：実技	担当形態：単独	実務経験：有	
添付ファイル			
ループリック体育実技校2. pdf			
カリキュラムマップ体育実技 校 2. pdf			

講義概要	「体育」は「体」を「育てる」と書きますが、どういう事なのかを、実技と理論を通して、各自の考えを実践する。 体育理論と合わせて1年間の各自の課題設定を行い、それを実践し成果を得る。 実技では、各自の体育関連する課題を見出し解決するために、試行錯誤することで、どのような方法が適切なのかを考え、目標に到達する過程に適合するように記録することを理解する。 レクリエーション等のゲームを発案し、それを元に他者の発表から学ぶ。 基礎体力などは、毎回、準備運動や整理運動などを基礎から体験することで、「各自が考える体育」を考察する。 体形や体調管理についての指導経験をもとに、様々なトレーニング方法も紹介する。 当該科目は、特に「体育理論」と「幼児と健康」、そして「幼児と表現」や「子どもの保健」と関連が深く、また、実習科目に関しても、当該科目で培おうとする肉体的・精神的体力が必要であるため、全般的に関連を持つ科目である。 前期は遠隔授業（配信）で行う、それ以降、可能であれば、面接授業を行う。 100分授業×21回授業		
授業計画および学習形態	第1回	オリエンテーション 授業の進め方や評価方法について説明する。課題設定と振り返りシートを作成する。 各自の健康や体力等に関する課題を考える。 F：有	
各回の授業内におけるアクティブラーニングの割合を明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第2回	身体について考える② 目標設定と方法 自分の体を認識するために、様々なワークを行い、各自の課題設定を決定する。（身体測定や体力測定を含む） 課題と年間予定を考える。体力の分類 記録方法 座位ウォームアップと解説① E：有 F：有	
	第3回	身体について考える① 体育と人間力 自分の体と向き合って、目標を達成するための方法を考える。 人間力とは 体力を考える 用語説明（体脂肪、BMI）目標設定のアンケート 座位ウォームアップについてアンケート E：有 F：有	
	第4回	健康行動に関する質問と書き方 ウォームアップと縄跳びについて どのように健康を保持できるのか、その前に現在の自己イメージと理想及び現実のデータを比較する 座位ウォームアップと解説② 縄跳び（前跳び） E：有 F：有	
	第5回	公衆衛生と体育 防衛対策ミッション 体育科目の特性において、三密を避けられない事を認識し、各自の環境において、どのような対策をしているかをREPORTする。自主トレーニングのすすめ C:中 D:多 E:有 F:有	
	第6回	保育者に必要な体力について 防衛対策ミッションの解説 公衆衛生と体育の解説 防衛対策ミッションの講評 数値化の為の記録シートの書き方を確認 縄跳び：駆け足跳び E：有 F：有	
	第7回	体育の環境整備 及び 運動方法① 幼児期運動指針について 保育者のなりやすい疾病 体育実技の服装TP0 運動方法①縄跳びの運動消費カロリーについて METsとは 縄跳び（片足跳び） E：有 F：有	
	第8回	体育のアクティブラーニングを考える① 授業回数7回までの整理 幼児期運動指針② 運動のトレーニングの量について考える 縄跳び（後ろ跳び） E：有 F：有	
	第9回	体育のアクティブラーニングを考える② 運動方法② 運動プログラムの手順① 「WANT TO」か「HAVE TO」かを考える 縄跳び（あや跳び） E：有 F：有	
	第10回	体育のアクティブラーニングを実践する③ 幼児期運動指針のポイント 遊びと運動 基礎代謝と消費カロリーを知り計算する 縄跳び（交差跳び） E：有 F：有	

	第11回 体育のアクティブラーニングを实践する④ 日常の基本的な動きと運動 体内組織を考える 体育のアクティブラーニングのまとめ 縄跳び（二重跳び） 縄跳びのコツのまとめ① B:小 E:有 F:有 第12回 運動方法③ 運動プログラム作成の手順② 必要なエネルギー量について考える 縄跳びの講評② 備品の扱い方と説明 縄跳びのコツまとめ② E:有 F:有 第13回 運動方法④ 運動プログラム作成の手順③ 子どもに活かす保育者の体育経験 運動ルーティンと消費カロリーの確認 ストレッチとは 抗重力筋について E:有 F:有 第14回 運動方法⑤ ストレッチングと筋力トレーニングについて ストレッチング解説及び講評 筋力トレーニングの意味 ダメージのないスクワット E:有 F:有 第15回 運動方法⑥ 身体エクササイズ基礎 筋力トレーニング（無酸素運動）とダンス（有酸素運動） 15回までの記録シートの確認 筋力トレーニング（背筋、腹筋） 有酸素運動（エアロビクスやダンス）について 疲労と回復について E:有 F:有 第16回 身体エクササイズ① チームビルディング（有酸素運動・無酸素運動） 対面授業によるチームビルディングにおける競争と協力 有酸素運動と無酸素運動（筋力トレーニング）について 負荷と強度を考える ダンスステップの紹介 能力アップと運動の関係 最終課題説明① A:中 B:中 E:有 F:有 第17回 身体エクササイズ②（基本運動） 基本運動を学ぶ。基本運動とステップの実技テストの説明 対面授業の解説① 周辺視と歩運動（前後左右） D:中 E:小 F:有 第18回 身体エクササイズ③（自由表現運動） 対面授業の解説②基本運動から表現運動など、各自の自由な動きの編み出し方法を学ぶ 基本運動とステップの実技テスト② ツーステップ D:中 E:有 F:有 第19回 身体表現① 対面授業の解説③ リズムとステップ：スキップ 身体表現の導入として、動きの成り立ちと分解を学ぶ 基本運動テスト②スキップ D:中 E:有 F:有 第20回 身体表現② 実習をめざして① 身体表現の発展方法とシーケンス作成方法を学ぶ リズムダンスや体操のカテゴライズ、及び身体表現のパターン認識と構造を理解して創作できる 基本運動テスト③ツーステップホップ D:中 E:有 F:有 第21回 身体表現③ と まとめ 実習をめざして② 身体表現のまとめ及び発表と評価方法を学ぶ 各グループ活動のまとめ、各自の身体記録データ及び運動記録の整理 D:中 E:有 F:有
教育目標との関連	自分自身の健康課題を考えることで、個人の課題から心身を含めた体育技能を高め、実践できることを目標とする。 スポーツや身体ワークを行うことで、仲間づくりやコミュニケーションの重要性を理解できる。
到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	1. 心と体の健康や体力に関する技能を高める知識を学ぶことができる。 2. 心身に関する課題を思考して、目的をもって自らの運動に関する目標を設定できる。 3. 自身の心身を管理していくための知識や方法を探索して実践できる。 4. スポーツや身体ワークを、意欲をもって自ら企画し参加できる。 5. スポーツ活動や健康課題を通じて、仲間づくりの重要性を理解できる。
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	実技テスト 50 % 面接及び、動画投稿による最初の段階と最後の段階での達成度を評価する。はじめから達成した場合は上位の実技で判断する。 授業態度 10 % 取り組む意欲、積極性を評価する 提出課題 40 % 内容は課題を的確に捉え、量は指定された量とすることを評価する。 *欠席等の取り扱いは、『履修要項』に準ずる。 また、体育実技は科目の特性から、「見学」に関しては、教員の判断により、遅刻と同等の判断をする場合がある。
教科書	https://nikaidou2020.blogspot.com/ に授業スライドを提示することで、教科書の代わりとする。 グーグルクラスルーム内、及び、上記ブロガー記事より、資料及び課題ドキュメントを配布する。
参考書	『幼児体育』第5版 理論と実践 日本幼児体育学会編 大学教育出版社
準備学習（予習・復習等）の具体的	授業内容を、予習30分程度、復習30分程度して整理しておく。指示された実技課題の自主練習をしておく。 授業中にプリント配布予定。

内容および必要な時間	
履修上の注意、条件等	運動に相応しい服装（体操服・体育室専用の靴下・アクセサリ不可・髪はきちんとまとめる）
オフィスアワー	面接授業の前後にて質問等を受け付ける。質問等に関しては、googleclassroomの限定コメントにより受け付ける
備考・メッセージ	自発的に参加することで、学べる授業展開をするので、積極性を心がけること。 モダンダンス、ジャズダンス、舞踊創作の指導者として、35年以上の経験があり、また、親子体操・ダンス、キッズヨガ、障碍児のエアロビクスやダンスなども、都内の各地域の特殊学校等で担当していた。現在はバレエスタジオや地域のサークル活動にて、ダンス創作法やストレッチ方法などを指導中。また、親子ヨガやキッズボディーコーディネーション資格の講師も勤める。 1回目から15回目は遠隔授業（配信）7月7日、7月15日 短大にてサポート日として対面サポートを行う。 今年は遠隔授業のためアクティブラーニング度はこの通りではない。

授業コード：

期講期間	配当年	单位数	科目必選区分
後学期	1年2年	3	選択
担当教員			
大見由香			
受業形態：演習	担当形態：複数	実務経験：	
添付ファイル			
毎外FW2CMR. pdf			

- 225 -

	・ 渡航時や滞在国の安全対策について理解し、演習を行う。 ・ しおりの最終確認を行う。 予習： （1時間） 復習：安全研修で学んだ留意点について振り返る。 A：多 E：多 F：中 第11回 海外フィールドワーク ニュージーランドティマル市にて研修 ・ 英語学習・保育施設視察・フィールドトリップ・ホームステイ 第12回 事後学習 海外フィールドワークIIでの学びの振り返りと今後の展望 ・ 海外フィールドワークを振り返り、プレゼンテーションを行う ・ 今後の学びへの課題を口頭で発表し、履修者間で分かち合う。 ・ 海外での安全について確認する。 予習：ふりかえりのプレゼンテーション（パワーポイントの作成）を準備する （2時間） 復習：学生個人の課題について認識する （1時間） A：中、B：中、C：該当なし、D：多、E：あり、F：あり
教育目標との関連	国際こども教育学科の学生としての自覚を高めると同時に、グローバルな視座で身の回りの事象を捉え、一人ひとりの子どもの最善の利益を保障する保育実践者としての知識・スキル・態度を養うことにつなげる。
到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	1. 国際的な社会環境における教育と他の人間的営みに関する体験を通じて、専門職としての高度な教育力の基礎知識の習得、ならびに実践力の基礎となる知識を修得する。 2. 異国での生活と学習体験を通し、多文化や多様な社会及び人間の営みに対し、柔軟かつ理論的な視点を持つことができる。 3. 専門職として必要な説明や日本の紹介など、コミュニケーション能力を試行錯誤しながら体得し、表現できるようになる。 4. 実際に海外のこども教育に触れる体験を通じて、世界のこどもの育ちやこども教育の発展に関心を持ち、自らのテーマを見出して取り組むことができる。 5. 海外での学びや生活を通して異文化に直接触れる事により、ダイバーシティを尊重できるようになる。
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	・ 授業への参加・貢献（海外フィールドワーク実習を含む） 60% ・ プレゼンテーション 40%
教科書	授業にてプリントを配布する。
参考書	使用しない。
準備学習（予習・復習等）の具体的内容および必要な時間	学期を通し、各自、授業内容及び自己省察を継続的に行い、課題に備えること。
履修上の注意、条件等	特になし。事前面談を行う。
オフィスアワー	研究室のドアに掲示する
備考・メッセージ	世界中の子ども、生活・文化との出会いと驚き、発見を大切にするように。「何故？何だろう？知り合い？」という好奇心を持って履修者、教員と共に学び成長したい、との心持ちで受講されたい。

講義科目名称： 演習ゼミ（入江和夫）

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	専攻科	2単位	専攻科 必修
担当教員			
入江 和夫			
授業形態：演習	担当形態：	実務経験：あり	
添付ファイル			

講義概要	本演習では、専攻科学生が幼児教育・保育に関わる研究テーマを探索しながら、新たな知見を得ることを目的とし、国際的視野から課題解決力を身に付けた保育者を目指す。		
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの割合を明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】【中】【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	第1回	導入 シラバス内容に沿った研究手法を理解する。「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説」（以下、解説書）に照らし合わせて、この授業の意義を理解する。 予習：シラバスを読んでおく。 復習：振り返り（2時間） C中 D小 Eあり Fあり	
	第2回	幼児教育・保育に関わる課題とは何か① このタイトルをキーワードとして、どのような課題があるのかを文部科学省が公表している資料を収集し、内容をまとめる。予習：資料を読んでおく。 復習：まとめる（2時間） C中 D小 Eあり Fあり	
	第3回	幼児教育・保育に関わる課題とは何か② このタイトルをキーワードとして、どのような課題があるのかを厚生労働省が公表している資料を収集し、内容をまとめる。予習：資料を読んでおく。 復習：まとめる（2時間） C中 D小 Eあり Fあり	
	第4回	幼児教育・保育に関わる課題とは何か③ このタイトルをキーワードとして、どのような課題があるのかを内閣府・文部科学省・厚生労働省が公表している「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」に関わる資料を収集し、まとめる。予習：資料を読んでおく。 復習：まとめる（2時間） C中 D小 Eあり Fあり	
	第5回	幼児教育・保育に関わる課題とは何か④ 乳幼児を抱える保護者や地域における「幼児教育・保育に関わる課題とは何か」を新聞記事データベースを使って情報を収集する。予習：資料を読んでおく。 復習：まとめる（2時間） C中 D小 Eあり Fあり	
	第6回	課題の整理 ①～④別に、情報をまとめ、どのような特徴があるか明らかにする。予習：資料を読んでおく。 復習：まとめる（2時間） C中 D小 Eあり Fあり	
	第7回	保護者を対象にした意識調査の作成①（原案） 上述の①～④の課題に関して「調べたい内容を決める」「調べたい内容の仮説を考える」予習：課題を考えておく。 復習：まとめる（2時間） C中 D小 Eあり Fあり	
	第8回	保護者を対象にした意識調査作成②（プリテスト） 意識調査の原案について、プリテストを行い、質問内容の妥当性をチェックする。予習：調査内容を考えておく。 復習：まとめる（2時間） C中 D小 Eあり Fあり	
	第9回	アンケート実施、回収、集計 実施、回収したアンケートについて集計作業を行う。予習：集計を進めておく。 復習：まとめる（2時間） C中 D小 Eあり Fあり	
	第10回	統計的分析方法① 記述統計、度数分布を理解する。予習：統計に関する資料を読んでおく。 復習：まとめる（2時間） C中 D小 Eあり Fあり	
	第11回	統計的分析方法② カイ自乗検定、t検定などを理解する。予習：統計に関する資料を読んでおく。 復習：まとめる（2時間） C中 D小 Eあり Fあり	
	第12回	統計的分析方法③ アンケート結果を統計的手法で分析する。予習：統計に関する資料を読んでおく。 復習：まとめる（2時間） C中 D小 Eあり Fあり	
	第13回	分析結果及び考察① 分析した結果及び考察をPowerPointでまとめる。予習：まとめを進めておく。 復習：まとめる（2時間） C中 D小 Eあり Fあり	
	第14回	分析結果及び考察② PowerPointでまとめから、今後の保育者とはどうあるべきを考察していく。予習：考察を進めておく。 復習：まとめる（2時間） C中 D小 Eあり Fあり	
	第15回	まとめ 「はじめに」「方法」「結果と考察」「まとめ」の体裁を整え、発表する。予習：発表を練習しておく。 復習：まとめる（2時間） C中 D小 Eあり Fあり	
教育目標との関連	幼児教育・保育に関わる課題を調査し、明らかにするとともにその課題に対して保育者はどのような意識をもっているのか明らかにすることで、これからの幼児教育のあり方を考察する。		
到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断	1 幼児教育・保育に関わる課題を理解することができる。 2 その課題を保護者はどう捉えているのかを考え、判断するためのアンケートを作成できる。 3 アンケート項目に関して統計的分析の手法を用いて、わかりやすい発表に整えようとする態度を持ちながら、プレゼンテーションできる。		

3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ルーブリックによる評価基準	毎回の演習への準備、参加、振り返り 60% プレゼンテーションの準備、発表 40% *欠席などの扱いについては、「履修要項」に準ずる。
教科書	授業にて紹介する
参考書	授業にて紹介する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容および必要な時間	自ら選んだ研究テーマであることを意識しながら主体的に取り組むこと。
履修上の注意、条件等	毎回の授業が円滑に進むように準備する
オフィスアワー	研究室前に掲示
備考・メッセージ	意欲的に

講義科目名称： 教育実習

授業コード：

英文科目名称： Teaching Practices in Kindergarten

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前学期	2 年	4 単位	幼免必修
担当教員			
高畠扶貴 柴田啓一 富金原光秀			
授業形態：実習	担当形態：複数	実務経験：あり	
添付ファイル			
カリキュラムマップ教育実習.xlsx			
ループリック教育実習 (2).xlsx			

講義概要	各幼稚園での指導を受け、保育観察・保育参加・責任実習などを行い、幼児理解をはじめ、実習記録の取り方、保育指導案の作成及び実践など、保育の実際を学ぶことにより、使命感や責任感を持って教育実践できる能力を身につけることを目的とする。また事前に立てた個々の実習課題を追究する。幼稚園では子どもの命を預かり、かけがえのない日々を過ごしていることを十分認識し、常に学ぶ姿勢を持ち、体調に留意しながら実習に臨む必要がある。 授業担当者(高畠)は、公立保育所及び都内私立小学校において学級担任として18年間の実務経験がある。
授業計画および学習形態 各回の授業内におけるアクティブラーニングの割合を明記します。 ①アルファベットのA～Fは以下の学修形態を示しています。 A:グループワーク B:ディスカッション C:フィールドワーク D:プレゼンテーション E:振り返り F:宿題 ②【多】 【中】 【少】は授業時間内におけるアクティブラーニングが占める割合を示しています。 多：45分以上 中：15分～44分 少：15分未満 Eの振り返りとFの宿題は該当する場合に【あり】と表記されます。	幼稚園の機能と役割 1. 実習園の概要を知る 2. 幼稚園の1日の流れを把握する 3. 保育室の環境構成について理解する 4. 園と家庭・地域・小学校との連携の意義と方法について理解する 幼児理解と援助方法 1. 幼児の遊びに参加し、こどもの実態について理解する 2. 遊びや生活における発達段階の違いを理解する 3. 配属クラスの特徴及び個々のこどもの特徴について理解する 4. 保育における保育者の援助の在り方を理解する 5. 特別な配慮を必要とする子どもへの関わり方について理解をする 保育計画の作成・実践・記録・評価 1. 実習記録の取り方、省察について学ぶ 2. 月案・週案を参考に、こどもの実態に応じた指導計画を作成する 3. 指導計画の立案、保育実践、評価、改善を通してカリキュラムマネジメントについて理解する。 幼稚園教諭の役割と職業倫理 1. 幼稚園教諭の職務内容を理解する 2. 教員間の役割分担や連携について理解する 3. 幼稚園教諭の職業倫理を学ぶ ※以上の内容について、3週間の実習を行う。教員が巡回指導を行い、スーパービジョンを実施する。
教育目標との関連	幼稚園での実習を通して、幼児と愛情を持って接するなかで、幼児の心身の発達についての具体的な知識と確かな保育技術を修得する。また、保育現場に自ら身を置くことにより、社会生活に必要な教養を身につける。実習体験は、保育者としての使命感や倫理観を養うとともに、保育者への適性を見直すこととなり、自己理解を深めることに繋がる。
到達目標 カリキュラムマップ 1. 知識・理解 2. 思考・判断 3. 技能・表現 4. 関心・意欲 5. 人間性・社会性	1. 実習園の特色及び、幼稚園の役割や機能を具体的に説明できる。 2. 幼児理解に基づいた保育を計画・実践・評価し、改善に必要な方法を判断することができる。 3. これまでに獲得した保育の知識と技能を保育現場において適切に活用することができる。 4. 幼稚園教諭の職務や専門性を理解し、自ら立てた実習課題に主体的に取り組む。 5. 幼稚園において教職員と協働し、深い愛情をもって子どもたちに接することができる。
評価方法および評価基準 1. 試験等の評価方法 2. ループリックによる評価基準	原則として以下の基準で評価を行う。 実習園が与えた評価 40% 実習日誌など 60% 授業内でループリックを示し評価方法を解説する。 ※委細については、保育・教職の手引きを参照すること。
教科書	なし
参考書	『幼稚園教育要領解説』
準備学習（予習・復習等）の具体的	教育実習指導の授業内容の復習をしておくこと。実習について省察をすること。

内容および必要な時間	
履修上の注意、条件等	本実習科目を履修するにあたっては、合わせて教育実習指導を履修しなければならない。 本科目を修得できない場合は、教育実習指導も修得できない。
オフィスアワー	実習中の質問は実習センターで受け付ける。
備考・メッセージ	